

本庄市埋蔵文化財調査報告第5集 3分冊

埼玉県本庄市

# 社具路遺跡発掘調査報告書

— 県道本庄・鬼石線道路改良事業に伴う発掘調査報告Ⅲ —

本文編

本庄市教育委員会

# 序

埼玉県からの委託事業として実施した県道本庄・鬼石線道路改良事業に伴う発掘調査及び整理は、昭和55年から実に7ケ年に及び、本報告書の刊行をもって全事業を終了することになりました。

昭和61年には、発掘調査区域であった社具路・夏目・二本松の諸遺跡部分の工事が完成し、現在供用されている状況をみますと感無量のものがあります。私自身、これらの発掘調査に移植ゴテを持って参加したことがあるということだけでなく、交通緩和の目的の裏に現在では目に触れることのない努力がはらわれたからです。3冊の調査報告書や多くの調査資料、出土遺物は残りますが、これらを今後、最大限有効に活用しなければならないと考えます。

折りしも生涯学習がさげばれ、本庄市もその推進モデル市町村として多くの施策が実施されています。しかし改めて機会を設定するまでもなく発掘調査現場に於ける職員と作業員という枠を超えた組織は、考古学という学問にたずさわった地域の方々、多くの人と出会うことのできた職員と、これこそが真の生涯学習の場でもあったと考えます。

最後に当事業のため御配慮いただいた埼玉県土木部道路建設課、いろいろと御指導いただいた埼玉県教育局指導部文化財保護課の皆様方、御協力いただいた地元の方々、直接本書刊行の作業に当られた関根典子・井上富美子の諸氏はじめ埋蔵文化財センターの皆様にご心から御礼申し上げます。

昭和62年3月10日

本庄市教育委員会

教育長 坂本敬信

## 例 言

- 1 本報告書は、埼玉県の委託を受けて、本庄市教育委員会が調査主体となって昭和55・56年度に実施した県道本庄・鬼石線道路改良事業に伴う発掘調査報告書の第3分冊である。
- 2 本報告書は昭和60・61年度の2ケ年にわたって整理を実施したもので、既刊の『二本松遺跡発掘調査報告書』『夏目遺跡発掘調査報告書』の3分冊が揃って一冊の報告書の体裁をとるよう編集してある。従って調査のまとめである結語は本書に掲載した。
- 3 出土品の整理、実測、図版の作成や遺物の観察は長谷川の指示に従い井上・関根が中心となって本庄市埋蔵文化財センター諸氏が行った。
- 4 本書の執筆は下記の分担で行ない、結語はそれぞれ文末に記した。

4号土壇関係	石橋桂一
中世土壇墓関係	平田重之
遺物の観察表	井上・佐藤・関根

特に記さない部分の執筆と総括は長谷川が行なった。

- 5 本書の編集は佐藤・井上・関根の補佐を得た。
- 6 整理、報告書の作成にあたって、次の方々からの御指導をいただいた。(敬称略、順不同)

三上元一	外尾常人	鈴木徳雄	田村 誠	岡本幸男	丸山 修	小野英彦
栗原文蔵	恋河内昭彦	塩野 博	早川智明	横川好富	小川良祐	菅谷浩之
福島典敏	水島治平	柴崎起三雄	高橋一彦	高田儀三郎	梅沢太久夫	佐藤忠雄
坂野和信	金子真土	宮崎朝雄	増田逸朗	石岡憲雄	坂本和俊	高橋好信
井上高明	駒宮史朗	柿沼幹夫	中島利治	小久保徹	大沢常夫	山崎 武

- 7 本書に使用した実測図及び観察表は次の凡例による。

- 1) 遺構・遺物の縮尺は次のとおりである。

住居址	60分の1	溝	150分の1	遺物	4分の1
-----	-------	---	--------	----	------

これらについてはスケールは付きなかった。例外の場合のみ標記している。また遺構平面図は原則として天が座標北で、例外のみ方位を付している。

- 2) 遺構実測図の斜線は遺構の基盤であるローム層、網目は焼土を表現している。中世土壇墓等の黒丸は銅銭を示している。
- 3) 遺物実測図の中心線の一点破線は適宜回転して実測したもの、口径の一点破線は口径円周が以下以下の遺物である。従って相方が一点破線の遺物は参考程度に掲げたものである。
- 4) 遺物実測図の器壁に直交するヒゲはヨコナデの範囲を示し、方向の判明する場合→印で示した。遺物の断面の網目は須恵器を表現している。
- 5) 4号土壇の出土遺物は一部山川守男氏の原因及び観察を使用した。
- 6) 遺物の観察は、1 量量、2 胎土、3 成形、4 整形、5 形態、6 焼成、7 色調、8 使用痕、9 出土状況、10 接合関係、11 備考の順に記述、それぞれ頭文字で略した。

- 1、単位はcm、( )は推定である。
  - 2、「黒色粒子」「黒色微石」は角閃石と考えられる。「褐鉄粒」とは径1～4mmの褐鉄鉱様の粒子で、取り出して磁石をあてると付着するもの。「練込み」とは、練りが不十分で異質の粘土が流水状となったもので人意的でないと考えられるが、明瞭な場合に表記した。
  - 3、土器が製作されたと考えられる順に記述した。「上がり底」とは、製作時に土器自体を回転するとできる、一見上げ底風の底で、「弧状ヘラ」とは製作時に使用されたとみられるヘラで、明瞭にその痕跡が認められる(圧痕等)場合に用いた。
  - 4、用語の使用については、各種報告書で一般的に使用されている語句を踏襲した。
  - 5、遺物の実測図で表現しにくい部分のみ記述した。
  - 6、良、善、悪で表現した。但し現状観察である。
  - 7、特に基準は設けずに記述したが、大きな不統一は無い。
  - 8、放棄後の風化等の痕跡も記述した。
  - 9、本報告書では遺構実測図との関係は概略を記すのみにとどめた。
  - 10、広範に分散したもののみ概略を記述した。
  - 11、土中のゆがみや、風化等の不可抗力による復原の不出来は「復原不良」と記した。
- 8 住居地番号のうち60号・67号住居地は空番である。
- 9 編集の都合上、遺物の観察表及び出土遺物の実測図は一括してまとめ、さらに「本文編」「図版編」に2分割した。
- 10 本書に使用した遺構実測図、写真、出土遺物は本庄市埋蔵文化財センターに保管している。
- 11 文化庁長官に提出した「埋蔵文化財発掘通知」及び文化庁受理番号等は下記のとおりである。

遺跡名	所在地	面積	通知番号	文化庁受理番号	備考
本庄93号	本庄市大字西富田 字西裏 645番他	9000㎡	本教社発第 197号 昭55・8・1	55委保記第33—1788号 昭和55年11月14日	社具路遺跡
本庄91号	本庄市大字西富田 字新田東 354番他	6000㎡	本教社発第 109号 昭56・5・6	56委保記第2—1363号 昭和56年7月7日	社具路遺跡 夏目遺跡

なお『埼玉県遺跡地図・地名表』(埼玉県教育委員会、昭50)による周知の遺跡とは若干の相違があり、本庄91号遺跡は夏目遺跡と2分割した。

- 12 本書第1図に使用した地形図は国土地理院発行(昭和58年1月30日)の1:50000『高崎』の一部を複製した。また第2図に使用した地形図は本庄市役所発行の1:2500『都市計画図「北泉」』『市街地』の一部を複製したものである。
- 13 整理及び本報告書作成の組織は下記のとおりである。

昭和60年度		昭和61年度	
主体者	本庄市教育委員会	主体者	本庄市教育委員会
教育長	坂本敬信	教育長	坂本敬信
社会教育課		社会教育課	



	課長	戸塚克男		課長	荒井正夫
	指導主事	矢崎昭夫		課長補佐兼文	
	課長補佐兼文			化財保護係長	小林弘子
	化財保護係長	長谷川道夫		社会教育係	斉藤みゆき (庶務)
	社会教育係長	小林弘子 (庶務)		文化財保護係	長谷川勇
	文化財保護係	長谷川勇			増田一裕
		増田一裕			中田啓一
		中田啓一	担当者		長谷川勇
担当者		長谷川勇			石橋桂一
		石橋桂一	担当者補助		高橋今日子
担当者補助		高橋今日子			井上富美子
		井上富美子			佐藤好司
作業従事		関根典子	作業従事		関根典子
		久保田かづ子			久保田かづ子
		津久井八重子			津久井八重子
		大谷八重子			大谷八重子
		渡辺宜子			渡辺宜子
					石橋貴子

## 目次

序

例言

目次

### V 社具跡遺跡

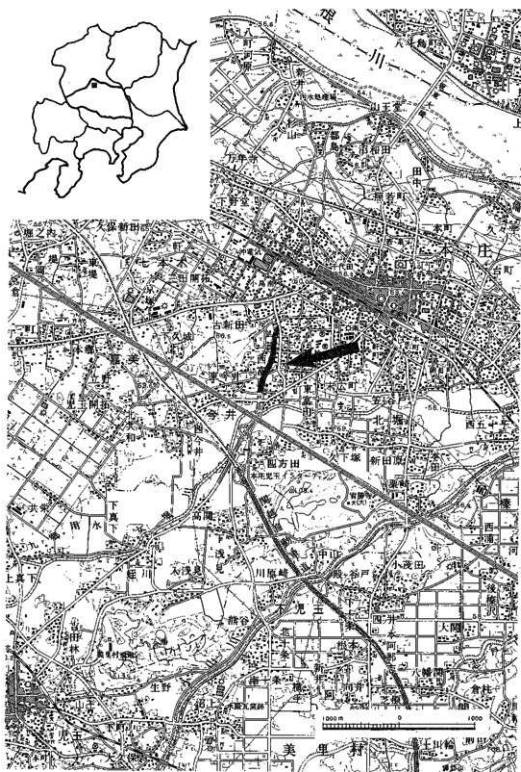
1	遺跡の概要	3
2	遺構	4
3	遺物	37
4	小结	155

VI	結語	156
----	----	-----

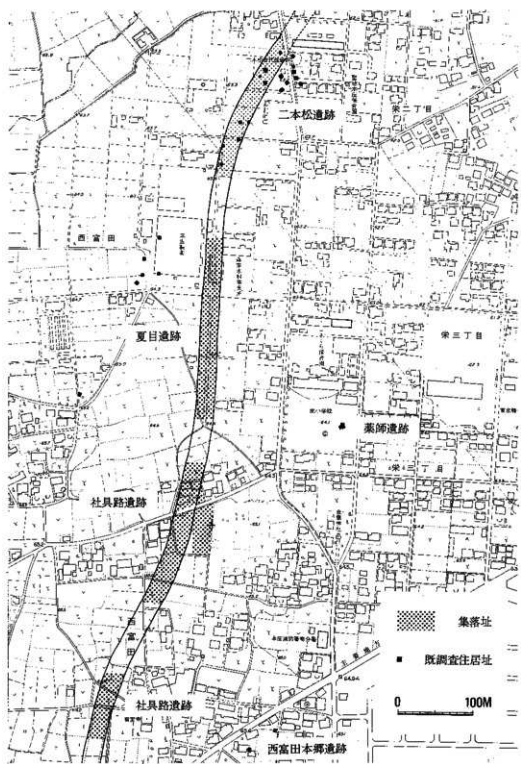
## 挿図目次

第1図	遺跡の位置図1	1
第2図	遺跡の位置図2	2
第3図	社具跡遺跡全測図	別図

# 社具路遺跡



第1図 遺跡の位置図1



第2図 遺跡の位置図2

## V 社具路遺跡

### 1 遺跡の概要

社具路遺跡は本庄市西富田字西裏（しゃくじ）から字社具路、字新田東にかかる地域に所在している。字西裏の調査地点から200m東には本郷遺跡が存在し、昭和33年3月、住居址1軒、その後さらに1軒が確認されその概要と出土遺物についての報告が『本庄市史 資料編』に収録されている。

『埼玉県遺跡地図・地名表』では本庄91・93号遺跡として分布範囲が示されていたが、調査の結果では91号遺跡は夏目遺跡と、また93号遺跡は社具路遺跡の北部及び南部の集落と、それぞれ2分割すべき遺跡である。本庄台地も末端に近づくにつれて、起伏は少ないが、一時的な降雨に際して野水の流下する幾筋もの微低地が形成され、それらが北東方向へ、あるものは河川を形成して浸蝕と堆積をくりかえす例もみられる。91号遺跡は両遺跡の間に河川跡を、そして93号遺跡は中近世の溝や土壇、墓壇は確認できるものの古墳時代～奈良時代にかけての遺構の存在しない地域がみられる。約400mにわたって社具路遺跡として今回報告する範囲は91号遺跡の一部と93号遺跡であるが、この遺跡も2分割すべきものである。93号遺跡を分割する微低地を境界として南部集落は15号溝を南限とし、以南は女堀川流域の水田地帯となり、9軒の住居址と土壇、溝が検出された古墳時代前期の集落で本郷遺跡と一体化する。この集落遺構は複合関係もなく散在し、ほぼ4号溝を北限とし、住居址や覆土にS字状口縁台付甕の破片も多く見られる。東方にひろがる遺跡と考えられる。

微低地北部の集落は、ほぼ13号溝を南限として夏目遺跡とは河川跡を挟んで対峙する古墳時代中期から奈良時代に中心を置くものである。74軒の住居址と22基の中世土壇墓が検出され、昭和59、60年度に実施された86号遺跡、および薬師遺跡（『本庄市史 資料編』）と一体化する。この集落は重複関係も複雑で、当事業に関連した社具路遺跡Ⅱ発掘調査によっても、同様な密集した状況が確認され、86号遺跡、薬師遺跡を含めた広い分布をもっていたと考えられる。今回の調査区域の大半は関東ローム層を基盤とした微高地上に立地するが、北端の68号住居址は河川の浸蝕により壁の一部を失い、46号住居址、49号住居址付近、及び社具路遺跡Ⅱのその南半区域は粘質をもったローム層基盤と粘質の強い表土に覆われ、微高地上とは言え氾濫を受けたことがうかがえる。

このように本来なら2遺跡に分割すべき性質をもっているが、調査前の発掘調査通知や、調査中の遺構の扱い方、そして現地調査終了から今日に至るまでの間に公表された資料もあるので、後日の混乱を避ける意味で、あえて社具路遺跡として一括して扱い南部集落と北部集落とに分けたのみであることを明記しておきたい。

なお当事業によって検出された4集落、すなわち社具路遺跡南部集落は五領期～和泉期前半に、社具路遺跡北部集落は和泉期後半～真間期に、夏目遺跡は和泉期後半～真間期に、二本松遺跡は和泉期にと、それぞれ中心をおいているが、時期により濃疎の差があり、集落構成や立地など微妙な差もっている。ただ今回の調査が4遺跡を縦断する形のトレンチ状の調査であったため、今後の調査によって明確にされなければならない。

## 2 遺構

### 1号住居址 (第1図)

西側と南側は調査区域外で東コーナーと東壁の大半と、南壁が検出されたにすぎない住居址である。東壁約7m、南壁5mであり、壁高は20cm前後残存している。カマド、柱穴、壁周溝、貯蔵穴は認められず出土物も完存するものはなく、甕、高坏、埴程度である。中程を東西に1号溝によって切られている。

### 2号住居址 (第2図)

西側は調査区域外となる住居址で東壁の全てと南壁が確認されたにすぎない。東壁は5・2m、南壁は5m確認できる。壁高は17cm程度残存している。柱穴状のピットは東コーナ寄り、直径40cm、深さ47cm、北コーナー寄り、直径45cm、深さ30cmの2ヶ所に認められるが位置はおかしい。17cmほどの深さの土壌も確認できる。出土遺物は土器片のみであるが、器台が検出されている。

### 3号住居址 (第3図)

東西5・1m、南北5・3mの正方形に近い形態を示す住居址である。壁高は20cm前後残存する。カマドが東壁に構築されたようであるが、皿状にくぼむ焼土が認められたのみで、それ以外の構築の確認はできなかった。柱穴状のピットは北東に1ヶ所、直径30cm、深さ35cmである。壁周溝、貯蔵穴は認められない。出土遺物はカマド内から甕2個体が検出されたが胴部のみで実測には耐えないものであり、奥まって坏1個体の他、南東コーナーに寄って埴や坏、甕の底部がみられる。

カマドの北側に若干の掘り込みと人骨が検出されたが後世の擾乱である。

### 4号住居址 (第4図)

東西6・6m、南北6・6mの正方形のプランを示し、壁高は15cm前後である。柱穴は壁コーナー対角線に乗って直径30～40cm、深さ60～75cm、4ヶ所に認められる。貯蔵穴は南西コーナーに接して直径1m、深さ50cmの円形の掘り方のものが認められる。壁からなだらかに傾斜する焼土が6ヶ所に認められるが遺構に結びつかない。中央南西寄り、東壁の土壌は後世の擾乱である。

出土遺物は貯蔵穴の他、住居址内に分散、個体ごとに、ほぼまとまって検出されている。甕、高坏、台付埴、埴、埴など16個体ほどである。

### 5号住居址 (第5図)

東側は調査区域外にあり、北は市道にかかるため全体の4/5ほどを調査したにすぎない。市道をへだてた北側に、わずかに壁が検出され、南北8・8mの規模が推定できる。壁高は5～10cmと浅く、そのうえ南北に溝、東西に長い土坑2ヶ所が切っており破損が著しい。カマド、柱穴、貯蔵穴などは不明、幅8cm前後の浅い壁周溝がまわる。出土遺物は北壁に接して器台の脚部、鉢、甕底部の他は破

片のみである。

### 6号住居址（第6図）

5号住居址の南にコーナーの一部が認められたにすぎない住居址で、5cm前後の壁高を測るのみで詳細は不明。遺物も認められない。

### 7号住居址（第6図）

当遺跡の南部集落の北端に位置し、2号溝と複合している。東西4m、南北2・4～2・5mの長方形プランである。断面観察によっても新旧関係はつかめず、溝と同時期と考えられたことから、溝にかかわる施設の可能性があり、土器片の出土状況などから住居址として扱っている。

### 8号住居址（第7図）

南東コーナーの一部が調査区域外に入る住居址で、中央部分で東西6・9m、南北7mの正方形を示しているが、壁平面は丸みをもっている。壁高は15cm前後と浅く、床面は部分的に礫層に達している。中央から南西寄りに東西80cm、南北1mの焼土が認められ、5～8cmのくぼみが確認できたことから炉址と考えられたが、礫層を掘り下げているため不明確である。この中心部分から二次的な熱を受けた棒状土製品が検出されている。柱穴は対角線から若干外れるものもあるが、直径50cm前後、深さ60cm前後のものが4ヶ所に認められる。北西コーナーに接して直径60cm、深さ50cm程度のピットが認められ、床面レベルと同レベルにS字状口縁台付甕が1個体分押しつぶされた状態で検出された。これが貯蔵穴であろうか。また貯蔵穴状のピットは南西コーナー寄りに確認できる。直径90cm、深さ30cm、北と東へなだらかに立ちあがる不整形である。西壁、南壁は後世の土壌によって切られている。出土遺物は甕や棒状土製品の他に、大きく開く埴が西壁南寄りから、中央東寄りから小型甕が検出された程度である。

### 9号住居址（第8図）

東西6・3m、南北6・5mの正方形に近い形態を示す住居址で、壁高は25～30cm残存している。北壁は床面と同レベルまで後世の土壌によって切られている他は良好に残存した住居址である。柱穴はほぼ壁コーナー対角線上に乗って4ヶ所に認められる。直径は40cm、北西柱穴は60cmと少々大きい。深さは4ヶ所とも60～70cmとほぼ一定している。壁周溝は20～40cmと広く、深さは10cm内外で北壁を除きめぐっている。貯蔵穴は南西コーナーに寄って確認されている。

出土遺物は住居址内部に個体ごとにあるまとまりをもって散在している。これらの出土レベルは一部を除き中心部から壁方向へ高さを増してゆく傾向がある。遺物実測図を掲げた土器は甕18、台付甕1、高坏28、埴5、坏1、手捏2、埴29、器台1と多量であるが、この他に実測困難な遺物も多数みられる。高坏脚部23、坏部5、埴6、甕4などで総個体数は120個体分を越えている。またS字状口縁台付甕の台部や口縁部、胴部破片10片がほかの土器と同様な在り方で検出されている。

### 10号住居址 (第9図)

社具路遺跡の二つの集落のうちでは、北部集落に近いとはいえ、南端の11号住居址から16m離れた住居址で、他の住居址の在り方とは相違点が多い。13号溝が北部集落の南限とすれば、溝以北の居住地域は乾燥したローム層基盤の微高地であり、溝以南から南部集落北端の7号住居址付近までの約130mは粘質の強い土質に覆われた微低地で、古くから野水の流路として知られた部分である。

東西は3・4m、南北3・2mの正方形に近い形態を示し、壁高は7~11cmと残存状況は良くない。更に住居址中央を2・5×2・5m、深さ40cmほどの不整形土坑が切っている。

カマドは東壁に構築され、1・4mと長い。煙道は壁外に長く延びている。柱穴、壁周溝、貯蔵穴等は検出されなかった。

出土遺物は右軸上に土器破片がみられる程度で図示できるものは無く、薄く削られた口縁部破片から真間期と考えられる。

### 11号住居址 (第10図)

社具路遺跡で密集した2つの集落のうち、北群の最南端に位置し、北側を13号溝に切られ、12号住居址とも複合関係をもつ。南西コーナーのごく一部も市道にかかるため調査ができなかった住居址である。東西は7・1m、柱穴の状況から正方形に近い形態であったと考えられ、壁高は26~30cmほど残存している。

カマドは13号溝、12号住居址によって失われた北壁に構築されたものであろう。直径15~50cm、深さは床面から29~55cmの柱穴が4ヶ所認められる。壁コーナーの対角線からは多少外れて存在し、北寄りには12号住居址の柱穴が2ヶ所認められている。この他南壁寄りに直径20~30cmの、深さは床面から12~18cmの柱穴状ピットが認められるが、柱穴とは考えにくい。壁周溝は残存した住居址部分では全て確認できるが、貯蔵穴は認められない。

出土遺物は、住居址の規模と壁高の残存の割には少なく、5個体の土器が検出されているにすぎない。なお13号溝、12号住居址との新旧関係は、調査段階で、両住居址とも溝より古いことが判明したのみであったが、11号住居址→12号住居址→13号溝の順に築かれたと考えられる。13号溝からも須恵器や土師器、土製支脚が検出され遺物もほぼ同時期の範疇に入ることが考えられ、3つの遺構の時間的幅は短いものであったことがうかがえる。

### 12号住居址 (第11図)

南壁は11号住居址を切り、また、13号溝に切られた住居址で東西6・6m、11号住居址の東壁に残る壁の状況から南北6・3mの正方形に近い形態をもっている。壁高は41~46cmである。

カマドは東壁に構築され、軸線はやや北に寄り、カマド手前に焼土が広く分布する。煙道は壁外に延びないようであり、カマド内からは土器片が検出される程度である。柱穴は13号溝以北に2ヶ所認められる他に、南、すなわち11号住居址内にも2ヶ所認められるが、対角線からは大きく外れる。貯蔵穴については確認できなかった。幅20~30cm、深さ6~11cmの壁周溝が認められる。



北東コーナー付近より土器片が、まとまって検出されているが、このなかの甕の破片は、カマドやその他離れた場所から検出された破片と接合されている。

### 13号住居址 (第12図)

中央部分の東西5・5m、南北5・7mの住居址であるが、東壁の長さが西壁に較べて15cmほど長い台形を呈し、壁高は40～45cmと良好に残存している。13号溝に近接してはいるものの複合関係は無く、カマドと南東コーナーの間から住居址中央にかけて、確認面よりの深さ50cmの近世溝が切っている。

カマドは東壁の南寄りに構築され、一部近世溝によって右袖の一部を破損されているが、良好に残存し、煙道は壁外に延びないようである。床面より深さ60～68cm、直径15cm程度の柱穴が3ヶ所認められる。南東の柱穴は明確ではないが、近世溝のなかに確認できるビットが相当するものと考えられる。これは貯蔵穴とも考えられるが、深さは他の柱穴と同様65cmであり、壁コーナーの対角線上に乗っており柱穴の可能性が高い。壁周溝は、カマドと南東コーナー付近を除き、幅10～20cm、深さ5～6cmで一周している。南東コーナーのビットが柱穴とすれば貯蔵穴は認められない。

出土遺物はカマド周辺や、住居址北東寄りに多く発見されている。甕は18個体検出されているが住居址内各所に破片が分散している傾向がある。またこの住居址のカマド構築土のなかから、滑石製白玉が左右両袖、それぞれ2個ずつ検出されている。

### 14号住居址 (第13図)

東西4m、南北3・6mの正方形に近い長方形の住居址で、東壁と北壁の大半が15号住居址と複合関係にある。しかし15号住居址床面より東壁で12～14cm、北壁の西寄りで28cmと深く、複合しない部分での壁高は床面まで55～60cmと良好に残存している。

カマドは西壁に構築されているが、住居址覆土が粘質をもっていたため、構築土との判別が難しく、結果的に袖は削除してしまった。壁から約50cm離れて直径25cmの煙出しが認められている。カマド内部から3個体の坏が検出され、煙出し付近で煙道は急に立あがる状況を示していることなど考え合わせると袖は以外に短いものと考えられる。柱穴や貯蔵穴は認められないが、壁周溝はカマド部分を除いて一周する。幅は15～30cm、深さは床面から4～7cmである。住居址中央部に深さ30cmの不整形ビットが認められる。

重複関係にある15号住居址のカマド西側部分を中心に堅い三和土が全域に広がり、当住居址の壁によって切られていることから、15号住居址の方が古いことが判明する。

出土遺物は壁高残存の割りに、甕などの大きなものに完形品は無く、坏は25個体検出されているものの完形品は5個体と少なく、その他は1/2～3/4程度の残存である。完形品の坏のうち2個体は、底部外面に螺旋状の胎土シワと、底につまみ状のものを残している。これは底部外面のケズリ工程を省略したまま焼成したものと考えられる。またこの2個体とも口縁部にヒビ割れがみられ、底部のつまみ状の厚さによる歪によって生じたものであろう。

### 15号住居址 (第13図)

東西4・8m、南北5・1m、壁が少々張る正方形に近い長方形の住居址である。耕作土の除去にあたって遺構確認面に神経質になりすぎたため、かえって表土除去が不足し、表面からの確認ができず、14号住居址検出作業中、その東壁に寸断された三和土がみられたことにより確認できた住居址である。従って14号住居址側から床面を追って検出したものである。確認面から床面までの深さは35～40cmで、14号住居址より20cmほど浅い。

カマドは東壁に構築され、煙道は若干壁外に出ようである。火床には支脚としての小さな礎が設置されているのみで他に遺物の検出はない。なお両袖ともロームを掘り残して築かれたものである。北東コーナーに接して直径35×45cm、深さ床面から12cmのビットが検出されているが、柱穴であるのか不明である。カマド右側の2段に掘り込みをもつ90×100cm、深さ床面より45cmのビットが貯蔵穴に相当すると考えられる。壁周溝は幅10～20cm、深さ3～6cmでカマドを除き一周するようであるが、西壁は14号住居址によって切られ存在しない。三和土は中央部が特に堅くしまり壁周辺部を除き、ほぼ住居址全域に認められる。

出土遺物は破片のみで非常に少なく、カマド袖裾から環が検出されているのみである。

### 16号住居址 (第14図)

住居址の西側が調査区域外にあり、全体の3/5を調査した。壁コーナーをほぼ東西南北に向け、南東壁が4mと計測できるにすぎない住居址で、壁高は26～34cmである。

カマドあるいは柱穴と考えられるビットは認められないが、壁周溝は調査部分で幅10～20cm、深さは床面から10～14cmで全て認められている。北東壁、南東壁に接して各々2ヶ所づつ、中央部に1ヶ所、合計5ヶ所のビットが認められる。南東壁に接する2ヶ所のビットは45cm、57cmと深い、他のものは10～33cmと浅く、深いビットのうちの一つが貯蔵穴に相当すると考えられるが詳細は不詳である。

出土遺物は、個体ごとにまとまり住居址内に散在して検出されている。

### 17号住居址 (第14図)

東西3・8m、南北2・8～3mと多少ゆがんだ長方形を呈する住居址である。壁高は33～38cm残存しているが、立ちあがりはなだらかである。

カマドは明確ではないが、東壁外へ奥行、幅とも70cmの掘り込みがみられ、中心と考えられる位置に小さな礎が数個設置されている。カマドの底は確認面から30cmの深さにあり住居址床面から、若干高く、奥に向かって浅くなり、内部から台付甕の台部分が検出されている。床面は三和土が形成され柱穴、壁周溝、貯蔵穴などは認められない。

### 18号住居址 (第15図)

東西4・9m、南北4・8m、ほぼ正方形を示し、壁高は30～40cm残存している。

カマドは東壁に構築され、煙道は壁外には延びないようで、幅は比較的狭い。内部からは甕3個体

と埴や坏が検出されている。柱穴は北東を除いて3ヶ所に認められ、直径24～34cm、深さは床面から15～30cmである。壁周溝は認められないが、南東コーナーに接して直径70cm、深さ45cmの整った円形の貯蔵穴が確認できる。住居址内の西側に直径約1mの土壇が2ヶ所認められるが、この住居址北側に存在する6ヶ所の土壇と同規模、同様な掘り方をもつことから一連の後世擾乱であったと考えられる。

出土遺物はカマド内部、貯蔵穴内部及びそれらの周辺と住居址中央部に密集している。その数50個体余と多いが、カマドや貯蔵穴付近の遺物を除くと出土するレベルが、中央から四方に向けて浅くなる傾向があり、住居が廃棄されある程度埋没した段階で混入したものと考えられる。住居址中央部の土器群は14個体の甕と甗1個体を確認することができ、それらの土器と住居址のあちこちに分散する土器片とが接合されるという状況を示している。

### 19号住居址 (第16図)

東西4・8m、南北5mの正方形に近い住居址で壁高は35cm前後残存している。北壁に接して直径80×90cm、深さ50cmの土壇がみられるが壁を破損していない。近世の擾乱である。

カマドは北壁ほぼ中央に構築され、煙道は壁外に延びない状態を示し、またこのカマドは15号住居址同様、住居構築時、堅穴部分掘削にローム層を掘り残して築いたものである。カマド火床には細長い礎が置かれ支脚の役割りをはたしていたものと考えられる。柱穴は直径30cm前後、深さは床面から44～58cmほど掘り下げられ、壁コーナーの対角線にほぼ乗って4ヶ所に認められる。壁周溝はカマドから北西コーナーにかけての部分を除き、幅20cm前後、深さ4～11cmでめぐる。カマドと北東コーナーの間に直径80cm、深さ60cmの不整形の貯蔵穴が認められ、内部から甕1個体が検出されている。

出土遺物はカマド内部に鉢、手前に甕、甗がまとまって検出され、また須恵器提瓶が住居址内部に散乱した状況で検出されている。

### 20号住居址 (第17図)

東側のほうが調査区域外にあり、不明確であるが東西4・2m、西壁が3・2mと計測できる。東壁は幾分長くなる可能性があり、台形を示す住居址と考えられる。壁高は20cm前後と浅く、カマド、貯蔵穴、壁周溝は検出されなかった。東壁側にカマド等が構築されたものであろう。柱穴は直径20cm、深さ20～40cmの小さめなものが3ヶ所に認められる。

出土遺物は、北東コーナー付近から坏1個体が発見されたのみである。

### 21号住居址 (第17図)

東西4・2m、南北4・2mの正方形を示しているが、壁および各コーナーは多少不整で、壁高は21～32cmほど残存している。

カマドは東壁に構築され、内部から甕2個体を検出する。そのうちの1個体の下から胴部下手な欠いた甕が検出され、支脚として利用されていたものと考えられる。焼土はカマド手前から袖の両脇に

広く分布して確認される。北東コーナーに寄って直径20cm、深さ床面から23cmのピットが検出されているがこれが柱穴であろう。南東部分では認められず、住居址西側では、それぞれコーナー寄りを直径1・2m、深さ16～29cmの土坑が存在しているために失なわれているものと考えられる。この土坑は23号住居址、18号住居址のなかや、これらの住居址の間に所在する土坑と規模や掘り方が近似しており、近世の擾乱と考えられる。南東コーナーに接して70×80cm、深さ60cmの貯蔵穴が認められ、内部から甕が検出されている。壁周溝は確認できない。

出土遺物は、カマド内の他に右袖外側にまとまって検出され、カマドを囲むように坏が認められる。南東コーナーと貯蔵穴の間から短頸壺（土師質）が検出されている。

## 22号住居址（第18図）

東西4・2m、南北4・4mの正方形に近い形態を示すが、壁コーナーは丸みをもち、壁高は27～39cm残存している。東壁は23号住居址と複合関係にあり、切られている。

カマドは西側に構築され、規模は比較的小さく、内部から甕1個体が検出されている。西壁寄りに検出されたピットのうちに柱穴に相当するものがあると考えられる。貯蔵穴に接して2ヶ所、北西コーナー寄り1ヶ所であるが、東壁寄りには検出されていない。北東の柱穴は後世の擾乱による土坑によって失われた可能性があり、南東のピットでは少々大きすぎる感がある。いずれも壁コーナーの対角線上には乗らない。壁周溝は認められず、カマドの南、南東コーナーに接して70×80cm、深さ床面より50cmほどの方形を意識した2段掘りの貯蔵穴が認められ、内部から甕が検出されている。なお床面は三和土が形成されている。

出土遺物はカマド周辺に比較的多く、また住居址北寄りでも発見されている。

## 23号住居址（第18図）

西側は22号住居址と複合関係にあり、南東コーナー付近を近世と考えられる土坑に切られているため規模を明確に把握できない住居址である。壁高は残存する部分のみ限り30cm程度で、22号住居址床面より10cmほど浅い。

カマドは東壁に構築され、カマド自体が全体に壁外に延びている。柱穴、壁周溝、貯蔵穴等は検出できず、不明である。22号住居址を切って構築されている。

出土遺物はカマド内部から甕、北壁に接して甕が、それぞれ破片程度で検出されたにすぎない。

## 24号住居址（第18・19図）

東西3m、南北3・8mの隅丸方形の南北に長い住居址で、壁高は47～55cmと比較的良好に残存している。

カマドは東壁の南寄りに良好に残り、幅は1mと広いが奥行きは壁から内側に60cmと短く、壁から40cm離れて直径25cmの煙出しが存在している。このカマドの煙道部分は、あらかじめ広く掘り下げたうえで改めて構築土をつめて煙道を構成し、それと同時に袖も積みあげている。袖のなかには左右とも角閃石安山岩礫（20×20cm～25×50cm）を2個づつ埋め込んでいる。埋め込みにあ

たつては2個を組みあげたり、石材そのものに加工を加えることは行っていない。住居長軸に沿って中央部に直径20cm、深さ30cm、20×28cm、深さ44cmの柱状伏ビットが2ヶ所に認められ、2本柱であったと考えられる。壁周溝、貯蔵穴は確認できない。

出土物は壁高とカマドの残存が良好な割りには少なく、土器片が散在する程度、西壁中央部から鉄製刀子が検出されている。

### 25号住居址 (第19図)

東西、南北とも3mの正方形の住居址で、当集落のなかでも小規模な部類に属している。壁高は40～48cmと深く残っているが、西壁などではなだらかに立ちあがる。

カマドは東壁に構築されているが、袖状のものは確認できず、煙道部分が残存し、壁外に延びている。柱穴、貯蔵穴は存在せず幅10～20cm、深さは床面から5～7cmの壁周溝が、カマド部分を除いて一周する。

出土物はカマド内部から坏1個体の他破片、住居址内からは、ほぼ全域に、まばらに破片が散在している。その破片のうちから甕が1個体復原されている。

### 26号住居址 (第20図)

東西3・8m、南北は3・1～3・4mの台形を示し、壁高は32～39cmと比較的良好に残存している。中央部を東西に走る14号溝によって切られているが、溝の方が浅い。更に溝の南側は2ヶ所の土壇によって切られているため、カマドも攪乱を受けている。かろうじて残る焼土の分布範囲から、カマドは東壁に構築されたことが判明するのみで、火床と考えられる部分から甕が検出されている。

柱穴は南西コーナー寄りの土壇によって失なわれたものの他は3ヶ所に認められている。北壁側の2ヶ所は15cm、20cmの直径をもち、深さは2ヶ所とも床面から25cm掘り下げられている。南東の柱穴は、深さ26cmで直径は30cmと他のものより大きい。壁コーナー対角線上にほぼ乗っている。これらの位置関係からみると北東コーナーの東部分は掘りすぎた可能性もある。幅10～20cm、深さ5～7cmの壁周溝がカマド付近を除いて一周しているが貯蔵穴は認められない。

出土物は南壁の東寄りに坏や須恵器坏、住居址中央南西寄りに砥石などが検出されている。

### 27号住居址 (第20図)

西側ほどが調査区域外で、更に東西を幅1・5mの14号溝によって切られた住居址で南北4m、壁高は31～37cmと残存状況は良好である。

カマドは東壁に構築され、内部に甕2個体が直列して検出されている。柱穴、壁周溝は認められないが、南東コーナーに接して45×50cm、深さ床面から61cmの楕円形の貯蔵穴が検出されている。この他調査区境界に接して深さ26cm、直径50cmのビットがみられるが性格は不明である。

出土物は貯蔵穴とその西側から甕2個体、その西寄りに小型甕と甕が接して検出されている。この他南壁の西寄りから甕と坏、カマド左手に坏などもみられる。

## 28号住居址 (第21図)

東西、南北とも4・6mの正方形を示し、壁高を26～37cm残存する住居址である。北壁の殆どが、29号住居址と複合関係にある。

カマドは東壁に構築され、煙道は壁外には延びないようで、軸は比較的長く1m程である。カマド内に土器はみられず、カマド周囲には焼土が分布している。柱穴は南東を除いて3ヶ所に認められている。しかし直径20～25cm、深さは床面から8～24cmとまちまちで掘り方も一様ではなく、その位置も住居址プランがしっかりしている割には不整で対角線上にも乗らない。壁周溝は認められないが、南東コーナーに寄って50×70cm、深さ43～57cmの楕円形の貯蔵穴が存在している。

出土遺物はカマドの南側、北西柱穴周辺に土器片が分布するが完存する遺物は少ない。またこの住居址から検出された甕と、34号住居址の北東コーナー付近で検出された甕とが接合するという事実がみられる。

## 29号住居址 (第21図)

南壁は28号住居址、北西部分は30号住居址と複合関係にあり、さらに北東コーナーは土壇によって切られている。東西、南北とも3・2mの正方形を呈すると考えられる。壁高は25～37cmで28号住居址よりは多少深いようである。

カマド、柱穴、壁周溝、貯蔵穴などは確認できず床面も特に軟弱であった。

出土遺物も須恵器坏や坏片が少量見られるにすぎない。

## 30号住居址 (第21図)

南東の殆どが29号住居址と複合する住居址で、東西、南北2・5mの正方形を呈すると考えられる。壁高は30～34cmで29号住居址床面とは同一平面にある。カマド、柱穴など一切認められず、壁の立ちあがり確認できたのみである。出土遺物も小さな土器片のみで図示できるものはない。

## 31号住居址 (第22図)

東西、南北とも5・8mの正方形の住居址で、壁高は21～34cm残存している。北西コーナー付近は32号住居址によって切られている。東西に市道が通っていたことから当初は2軒の住居址として扱っていたため一貫した土層セクション等作成に手落がある。住居址中央を東西に14号溝が切っているが床面と溝底は、ほぼ同レベルである。

カマドは東壁に構築され、長さ1・3m、幅80cmと細長く、煙道は壁外に延びない構造である。カマド内部から甕が2個体直列する状態で検出され、奥まった甕の下から逆位に設置された高坏が、また左軸の内部から高坏と坏が確認できる。柱穴は東北寄りに直径35cm、深さ45cm、南西寄りに直径30cm、深さ53cmの2ヶ所の他に32号住居址の南壁から壁周溝にかかるビットが当住居址の柱穴であると考えられる。直径35cm、深さ37cmで、その西側に存在するビットでは西に寄りすぎるようである。壁周溝は若干深く掘られた32号住居址床面によって失われた部分、南東コーナー

から南壁中央部の焼土付近までを除いて幅15cm、深さ6～9cmで確認できる。また南東コーナーに接して80×90cm、深さ64cmの円形に近い、大きな貯蔵穴もみられる。

出土遺物はカマド右袖手前から甕、袖の裾から小型甕、貯蔵穴内からは完形の坏7個体、そのうちの4個体は縦に重ねられた状態で検出されている。この他に鉢や高坏もみられる。北東柱穴付近から甕2個体、甕、南西柱穴付近から高坏も検出され総数は20個体を越える。

なお南壁中央部の焼土は遺構に直接結びつかない。

### 32号住居址 (第23図)

南東は31号住居址を切って、西側の約1/2は33号住居址を切って構築された住居址で、当初市道が走り1/2程度検出していたにすぎなかったが、後に完掘し得たものである。東西3・8m、南北4mの正方形に近い平面プランを呈し、カマドの残存状況からみると33号住居址より新しい。

カマドは西壁に築かれ、袖は比較的短かめであるが煙道は壁外に延びないようである。カマド内部から坏2個体が検出されている。後日このカマド構築土を撤去したところ、直下から60×80cmの貯蔵穴状ピットが確認されたが、33号住居址に伴う貯蔵穴であると考えられる。柱穴状のピットは南壁東寄りを31号住居址に伴うとしても5ヶ所に認められる。ほぼ中央のピットは直径25cm、深さ42cmで最も深い。他の4ヶ所は不整であるが30～40cmの直径と18～33cmの深さをもっており、掘り方などは柱穴とみて差し支えないものであり、中央と壁コーナーと南壁に接しての在り方は、他の住居との上屋構造の違いを意味するものであろうか。あるいは確認こそできなかったが、南東コーナーにも同じように存在したものであろうか。

出土遺物は大きなものは少なく、南壁東寄りや西壁に近く坏や高坏が5個体検出されているにすぎない。なお31号住居址床面よりは若干深く、33号住居址床面からは15cmほど深い。

### 33号住居址 (第23図)

東壁側1/2ほどを32号住居址によって切られ、東壁を全て失なった住居址で南北は4・6～4・8mである。北壁東端カーブの状況と、33号住居址カマド下の貯蔵穴状のピットを当住居址のものと考え推定すると東西は4・6mのほぼ正方形に近い形態を示していたものであろう。壁高は22～27cm残存している。

カマドは東壁に構築されていたようであるが32号住居址によって15cmほど深く床面を掘り下げられているため痕跡もみられない。柱穴らしきピットは認められないが、検出された部分では幅20cm、深さ2～6cmの壁周溝がみられる。

出土遺物は個体ごとにまとまって16個体検出されているが、甕の約半数は住居址内に散在した破片で接合されたものである。

### 34号住居址 (第24図)

東西5・7m、南北5・6mの正方形に近い形態を示し、壁高は33～43cm残存する住居址である。南壁に2ヶ所の近世以降の土壇が認められる。

カマドは北壁に構築され、煙道は壁外に延びる状況を示し、内部から甕が、その下に礎が設置されていることから支脚として使用されたものであろう。柱穴は壁コーナー対角線に乗って径20～30cm、深さ36～60cmのものが4ヶ所認められる。カマドからは離れているが、北東コーナー寄りに直径70cm、深さ約60cmの貯蔵穴も認められ、カマド部分を除き壁周溝がめぐっている。幅は15～30cm、深さ7cm前後である。南壁に2ヶ所の袋状土坑が認められるが、18号住居址周辺の土坑群と同規模、同様な掘り方であるため近年の擾乱であろう。底は住居址床面とほぼ同レベルで壁周溝まで破損はしていない。

出土遺物は約30個体検出され、住居址全域に、個体ごとにまとまったものが多い。なお北東コーナーから検出された甕の破片は28号住居址の土器と接合された。

### 35号住居址 (第25図)

東西、南北とも4・4mの正方形を示すが、東壁は南北の両端コーナー付近での東西が4・2mと多少外側に弧を描くような形態をもっている。壁高は北壁で33cm、東壁で39cm、南に向って深い状況を示している。

カマドは北壁に構築され、幅60cm、長さ70cmと規模は小さく、焼土が周辺に広く分布している。柱穴は住居址規模の割には中央に寄り、柱間が狭く、形や掘り方にも統一性がない。しかし床面より34～38cmとほぼ一定して掘り下げられ、対角線上に位置している。壁周溝は認められないが、カマド右手に60×70cm、深さ63cmの貯蔵穴が検出されている。東壁北寄りに焼土を含む高まりが2ヶ所、南東コーナー付近、南壁東寄りなどにも同様なものが認められるが、遺構には結びつかない。特に東壁の2ヶ所はカマドの両袖の痕跡とも見えるが、明確にできなかった。

出土遺物は住居址の南壁西寄りから環、北東柱穴からカマドにかけて甕が検出されている。甕については住居址内に分散したものが接合される例が目立っている。

### 36号住居址 (第25図)

北壁と西壁が3m、東壁が3・2m、南壁が3・5mの台形を示す住居址で、壁高は28～32cmと比較的良好に残存している。カマド、壁周溝、柱穴は認められない。南西コーナー寄りに40×50cm、深さ10cmのピットが認められるが、貯蔵穴とは考えにくい。

出土遺物は、北壁と南壁に接して6個体の土器や須恵器が出土したにすぎない。

### 37号住居址 (第26図)

確認面検出時に円形の黒色土の範囲が認められ、検出の結果不整形な住居址となったものである。南面の壁コーナー部分のみ直角になるが、それ以外では隅丸である。北東コーナーは38号住居址と複合関係にあり、壁高は37～45cm、比較的良好に残存し、38号住居址より床面は10cm程度深く、38号住居址に切られている。

カマドは東壁に構築されているが残存状況は良好ではなく、柱穴、壁周溝、貯蔵穴は検出されていない。



出土遺物は住居址中央部から環が検出されているにすぎない。

### 38号住居址（第26図）

南西コーナー部分は37号住居址と複合関係にあり、東西3・7m、南北3・3mの規模をもつ住居址で、壁高は27～33cm残存している。

カマドは東壁南寄りに検出されている。袖は短かく壁内に50cm程度延びるが、煙道は壁外に1・2m程度延びている。柱穴、壁周溝、貯蔵穴は認められない。

出土遺物はカマド内部から甕と、住居址内から甕の破片が検出されているにすぎない。

### 39号住居址（第27図）

東西3m、南北2・7mの長方形の住居址で、今回調査対象となった住居址では最も小さな規模である。壁高は30～33cmで、比較的良好に残存し、北西コーナー部分では40号住居址と複合関係にある。調査時点では当住居址が古いと考えられたが、40号住居址を切って構築されている。

カマドは東壁に構築され、住居址規模に比較して大きめで、袖の長さ90cm、煙道は80cmほど壁外に延びている。柱穴、壁周溝は認められず、カマドの下から南東コーナーにかけて70×95cm、深さ22cmのピットが検出されているが、貯蔵穴に相当するものと考えられる。しかし貯蔵穴とカマドは同時に存在したのではなく、貯蔵穴を埋めた後にカマドを構築したものである。

出土遺物は大型土器は少なく、高環1個体、環6個体のみで、その他カマドやその周辺から甕の破片が検出される程度で、中央西寄りから出土した環には墨書が残されている。

### 40号住居址（第27図）

東西4・5m、南北4・8mの正方形に近い形態の住居址であるが、各壁は、わずかに弧を描き、壁高は27～31cmとほぼ直立している。南壁の東寄りには39号住居址によって切られ、南東コーナー付近は近年のマンホールによって破損されている。住居址全体の残存は比較的良好である。

カマドは東壁に構築され、煙道が壁外に延びない構造で、前面に焼土が分布している。カマド内部から環と甕、右袖手前から甕が検出され、カマド中心部に礎が設置されている。支脚であろう。柱穴は住居址の北東寄り、南東寄り、南西寄りの3ヶ所に検出され、対角線からは、かなり外れるものの、直径25～30cm、深さは床面から21～23cmとほぼ一定している。壁周溝はカマド部分、北東と西北コーナー付近を除いて幅10～20cm、深さ5～10cmでほぼ全周するようである。貯蔵穴は南東コーナーに存在したと考えられるが、攪乱によって不明である。南東コーナー、北東柱穴の西側、西北コーナー付近に多少の高まりが確認できるが、遺構には結びつかなかった。しかし西北コーナー付近のものは甕が検出され、周囲に焼土と炭化材の分布がみられることから、カマドに類する施設が存在したものであろうか。

出土遺物は、カマド内部の他に西北コーナーの焼土内から甕2個体、その他高環や環が散見される程度である。

#### 4 1号住居址 (第28図)

調査当初は西半分が市道下にあり、後日市道部分を削除して調査し得た住居址であるが、なお北西コーナーは民地に入るため調査できなかった。東西4・8m、南北5mのほぼ正方形の形態を示している。壁高は14～17cmと浅いが、遺物の残存状況は良好で完形品も多い。

カマドは東壁の南寄りに構築され、長さ80cmと小さめである。壁高の残りが少ないとは言え、煙道は壁外に余り延びないようである。柱穴、壁周溝は認められないが、南東コーナーに接して上端の掘り方が隅丸三角形、下端は70×90cm、深さは約40cmの楕円形の貯蔵穴が認められる。床面は軟弱で、住居址内での凸凹が目立っている。南西コーナーに寄って0・8～1・1×1・8mの土塊状の落ち込みが確認されたが、当住居址に伴うものとは考えられない。

出土遺物はカマドの中心部から逆位の高環と、甕、左袖の上から塊、カマド手前から住居址中央部にかけて甕や環、カマド左手前からも甕が検出されている。特に貯蔵穴上からは多くの土器が検出されている。甕2、瓶2、高環8、塊5、環2の19個体が集中し、特に高環や塊、環は重なるように接して検出されている。西壁の中央部から住居主軸にほぼ一致した方向に炭化材が検出されている。

#### 4 2号住居址 (第29図)

東西の長さは南壁寄りで4・6m、北壁寄りで4・4m、南北は東壁寄りで3・8m、西壁寄りで3mと台形を示す住居址である。北東コーナーから北壁のほぼは45号住居址と複合関係にある。壁高は38～43cmと良好に残存している。

カマドは東壁に構築されているが、袖の先端に芯として使用された甕の位置からみると、ほとんど袖はもたないようである。そのかわり煙道は壁外に約1m程延びている。両袖の甕の中心から中心は80cmと広く英口部も広いものと考えられ、両土器の間に20×25cmの礎を設置している。支脚の役割りをはたしていたものと考えられる。カマド手前から南西コーナーにかけて不整形な土塊状の掘り込みが確認できるが、深さは床面から15cmほどで後世の擾乱と考えられる。柱穴は認められないが、南東コーナー付近とカマド部分を除き壁周溝が一周する。幅は広い部分で30cm、狭い部分で15cm、深さは床面から7～8cmである。

出土遺物はカマド手前から甕が検出された他、南壁周溝上から環が、所謂「編み物石」などと検出された程度である。また北壁東寄りからは鉄製品2、住居址中央部の東寄りから砥石が検出された。

なお45号住居址との新旧関係は、当住居址の方が新しい。

#### 4 3号住居址 (第30図)

東壁の大半が住居放棄後、壁外が60cmほど大きく崩れたような状態で検出されたもので、東西の推定長は4・6m、南北も4・6mの正方形プランをもつものと考えられる。壁高は42～48cmと深く残存している。

カマドは西壁に構築され、火床から煙道に向かって急に幅が狭くなる状況を示し、煙道は壁外に延びないようである。柱穴は南東寄りのものを除き、ほぼ壁コーナーの対角線上に位置し、直径25～3

0cm、深さは床面から40～52cmを測ることができる。壁周溝は認められないが、カマド左手に55×60cm、深さ53cmの貯蔵穴が認められる。カマド右手にもピットが認められるが、8cmと浅く不整形であり、貯蔵穴とは考えられない。

出土遺物はカマド内部からは皆無であり、また住居址内からも壁高の残存の割には少なく、甕、鉢、環が認められる。いずれも残存率は悪い。

#### 44号住居址 (第31図)

東側がほどが調査区域外にあったが隣地々主の好意により完掘し得た住居址で、各コーナーを、ほぼ東西南北に向けた住居址である。北東壁と南西壁の間は北寄りで5・1m、南寄りで5・5m、北西壁と南東壁の間は、東寄りで4・8m、西寄りで5mの台形を呈している。壁高は36～41cmで比較的良好に残っている。

カマドは南西壁の南寄りに構築され、両軸端は1m前後で広がりが長さは90cmと短く煙道は壁外に延びないようである。焼土はカマド手前に広く分布している。カマドを中心として以南と以北では壁が若干食い違っている。カマド内部から甕1個体と焚口手前から瓦ほど残る甕1個体が検出された。柱穴、壁周溝は認められないが、貯蔵穴はカマド左手に確認できる。直径約80cmのほぼ円形、床面から67cm掘り下げられ深い。

出土遺物はカマド内部出土の他、貯蔵穴のカマド寄りから甕、甎、環が検出され、その他住居址内に分散して甕、甎、鉢、高環、埴、環などもみられる。

#### 45号住居址 (第29図)

南壁の一部を42号住居址によって切られ、北西コーナー部分は62号住居址と複合関係をもつ住居址であるが、東壁上端の大半を掘りすぎたものである。これを修正すると東西の南壁寄り5・15m、北壁寄り4・8m、南北は5・1mの台形を示し、壁高は15～22cm前後である。

カマドは北壁に構築され、煙道は壁外に延びない構造を示している。幅、長さとも約1m、周囲に焼土の分布がみられる。カマド内部では奥に甕、手前には甎が残され、甕の下には支脚として設置されたと考えられる細長い礎が立てられている。柱穴は4ヶ所に認められるが南西の柱穴は20cmの深さで、他の3ヶ所の33～34cmに比べて浅い。直径は25～30cmにほぼ一定し、北西の柱穴以外は住居址対角線に乗っている。壁周溝はカマド部分を除き一周し、幅20～30cm、深さは床面より7～10cmと深い。カマドと北東コーナーの間に、0・8×1mの長楕円の掘り方の中に、更に40×60cmの楕円形の2段掘り込みの貯蔵穴が認められる。床面から68cm下げられて深い。

出土遺物は、カマド内部出土の土器を除き、貯蔵穴北側から甎、左手カマドとの間に鉢や環が、カマド手前や住居址中央の南寄りに環が検出されている。

#### 46号住居址 (第32図)

47号住居址と複合関係にあり、北へ次々と3軒、計4軒の複合する住居址である。加えて、この付近は覆土が強い粘質をもっており検出と新旧関係の把握に苦慮した住居址である。南東部分は調査

区域外にあり、カマド部分のみ隣地へ掘り拡げることができた。床面は47号住居址と同レベルであり、壁高も変りなく、東壁、南壁なども一線上に並列するようで、平面プランを明確にしない。東西はカマド付近で6・6m、南北は46号～48号住居址を通したセクションベルトによって確認された壁の一部によって4・4m程度であると考えられる。しかし南西コーナー付近は不自然である。壁高は南壁付近で42～45cm、北寄りに比べて若干深いようである。

カマドは東壁に構築され、右袖が外側へ反れるような形態であるが、カマド内部の土器の出土状況からみると検出に問題がありそうで、粘質土に惑わされたとも考えられる。いずれにしてもカマドは長さ1・5m、煙道は壁外には延びないようである。柱穴、壁周溝は認められないが、カマド右手に70×110cm、深さ18cm、不整楕円形の土坑が検出され、これが貯蔵穴に相当するものと考えられる。住居址中央西寄りに直径1m、深さ17cmの土坑が検出され、内部から須恵器が確認できるが住居址に伴うものではない。

出土遺物はカマド内部から甕の破片と環、貯蔵穴と東壁の間に甕、貯蔵穴内から環2個体、カマド手前から住居址中央にかけて甕、甕、環が検出されている。

なお複合関係にある47号住居址とは、当住居址の方が新しい。

#### 47号住居址 (第32図)

南側の約半を46号住居址に、北壁の一部を48号住居址に切られた住居址で、東西は5・4m、南北は不明である。壁高は30～32cmと浅いが住居全体の残存状況は良好である。46号住居址覆土より粘質は弱い。

カマドは北壁に構築され、幅80cm、長さ110cm、残存状況は良好で手前に焼土が分布する。煙道は壁外に延びない形態で、カマド内部から甕、その下から高環が検出されている。柱穴、壁周溝は検出されなかったが、カマド左手、北壁から40cmほど離れて直径80cm、深さ床面から67cmの円形貯蔵穴が確認できる。

出土遺物はカマド周辺に集中し、右手に環、手前に大型甕5個体、左手には甕7個体、甕1個体、環1個体が、それぞれ個体ごとにまとまりをもって検出されている。カマド左袖に接した甕は口縁部のみであるが、器台として転用されたものと考えられる。この他に西壁寄りに環と小型甕が各1個体検出されている。

#### 48号住居址 (第33図)

北西コーナー部分は52号住居址に切れ、南西コーナーの一部は47号住居址を切って構築された住居址で、東西3・7m、南北4mの小さな規模の部類に属す。

カマドは東壁に幅、奥行とも90cmの規模に構築され、前面から左手にかけて焼土が分布する。カマド内部から土器片が検出される程度である。壁高の残存は少なく、カマドの残りも悪いが、煙道は壁外に延びないようである。壁周溝は検出されなかったが、南東コーナー寄り、北東コーナー寄りと52号住居址のなかの3ヶ所のピットが柱穴であると考えられる。直径35～50cm、推定される北西コーナーとの対角線上に乗っている。南東コーナー寄りの柱穴は柱穴としては大きめで貯蔵穴の可

能性もあるが詳細は不明である。

出土遺物は住居中央に寄って甕、甔、坏などが、南西コーナーに甕1個体が検出されている。

#### 49号住居址 (第34図)

北側が道路になっているため調査ができなかった住居址であるが、境界ぎりぎりまで掘進めたことにより、規模はほぼ把握することができる。東西7・4m、南北は西壁および北西コーナーの状況から、7mと推定できる。カマドの状況からみても北へ10～20cm程で北壁に至るものと考えられることができる。当遺跡では比較的大規模な住居址である。住居址を埋めた覆土は粘質が強く乾燥すると堅くなり検出に要した労は多かったものの、床面やカマドは確認し易かった、壁高は西側で25cm、東側で16cmである。

カマドは北壁に構築し、幅1・2m、長さも1・2m程度と推定される。規模に比べて火床は奥まっておらず、袖の手前裾から40cmでカマドの中心となり、煙道も壁外には延びないようである。カマドの中心と考えられる場所に小型甕が逆位に設置されている。柱穴は北東寄り直径20cm、北西寄り直径25cm、南西寄り40×55cmのピットが相当し、南東寄りは50×90cmの土壇の中に確認できる直径20cmのピットが柱穴と考えられる。4ヶ所とも壁コーナーの対角線に乗っているが、それぞれの柱間は、大きな規模の住居址にしては広いようである。壁周溝は幅10～30cm、深さ6cm前後で検出部分では全て認められる。カマドと北西コーナーの間の1×2mの不整形円形の掘り込みのなかに、更に60×80cm、80×100cmの二つの土壇が認められるが、貯蔵穴であろう。

出土遺物は住居址内に、ほぼくまなく分散し甕23個体、坏17個体始め甔、鉢、埴など50個体を越える他、土製支脚もみられる。

#### 50号住居址 (第35図)

北側は調査区域外にあたり、西側は51号住居址の東壁とカマドの基部を切って構築された住居址で、東西は5～5・2mを測定できる。柱穴の状況から北壁は近いものと考えられるが、形態は台形を呈するものであろう。壁高は20cm前後である。

カマドは東壁に構築され、長さ1m、両裾から手前にかけて広く焼土が分布し、煙道は壁外に延びないようである。カマドの中心部から上半を欠いた甕の他、坏が検出されている。柱穴は直径20～30cm、床面からの深さ16～38cmのものが4ヶ所で検出され、西寄りの2ヶ所は16cm、18cmと浅い。壁周溝は認められないが、カマドと南東コーナーの間に80×90cm、深さ76cmの掘り込みがみられ、これが貯蔵穴であろう。

出土遺物はカマド左袖裾から鉢、右袖裾から甔、貯蔵穴内から坏、北西柱穴付近から甕破片が検出されている。

#### 51号住居址 (第35図)

50号住居址の西に並列し、北側は市道によって調査区域外にある。東壁とカマドの基部を50号住居址に切られ、南西コーナー部分を53号住居址に切られた住居址で規模は確定できないが、東西及

び南北は4・2m程度と推測できる。50号住居址より2～5cm浅く、53号住居址より7cm浅く、壁高は24cm程度である。

カマドは東壁に構築され、その基部を50号住居址によって破損されているが煙道は壁外に延びないようで、カマド奥に逆位に設置された高坏が検出されている。柱穴は南西寄り、北東寄りの2ヶ所に認められ、直径20～25cm、22～33cmの深さをもっている。この他に貯蔵穴西側に20×30cm、深さ18cmのピットが認められるが、予測される壁コーナーの対角線から大きく外れている。柱穴になるとは考えにくい。南東コーナーに接して直径90cm、76cmの深さの土壇状の掘り込みが貯蔵穴であろう。壁周溝は認められない。

出土遺物は貯蔵穴西寄りから甕と高坏、坏が検出されている程度の少ないものである。

### 52号住居址 (第33図)

48号住居址と複合関係にある住居址で、壁コーナーは東西南北に位置する。北東壁3・6m、南西壁4・2m、南東壁7・7m、北西壁7・6mと異様に細長い住居址で壁高も浅い。

カマドは北東壁に構築され、幅80cm、長さも80cm、煙道は壁外に延びないようである。柱穴は南西壁寄りに2ヶ所、カマド手前右寄りに1ヶ所の3ヶ所に所在するピットが相当するものと考えられる。北西寄り柱穴は確認することができなかった。中央右寄りのピットは48号住居址の柱穴と考えられる。カマド右手に、カマドからコーナーに接した広い掘り込みがみられるが、その掘り方のなかに30×40cmのピットが確認できる。これが貯蔵穴に相当するものであろう。壁周溝は認められない。なおこの住居址は炭化物、炭化材が覆土中に、しかもほぼ全面に厚く残っていたが、図示できる程の規則性やまとまりはなかった。また南西寄り柱穴と壁の間には焼土が認められているが、遺構には結びつかない。

出土遺物は貯蔵穴周辺にのみ分布し、甕の破片や坏が検出され、それ以外では破片すらみることができなかった。

48号住居址との新旧関係は調査中に確定できなかった。整理の段階で遺物の検討を行なった結果時間的には大差が無いものの、複合部分から検出された坏の胎土や製作技術、土器のもつ個性から、48号住居址を切って当住居址が構築されたと考えられる。

### 53号住居址 (第36図)

北東コーナー付近は51号住居址を切り、西側の大半は54号住居址に切られた住居址であるが、西側では床面が4cmほど深いため壁周溝まで破損されず、大まかな規模が判明する。東西、南北とも5mの正方形であったと推測することが可能で、壁高は27～39cmである。

カマドは東壁に構築され、煙道は壁外に延びない形態を示し、焼土がカマド周辺に分布している。カマド内部からは甕2個体が並列して検出され、そのうちの向って左手の甕の下から逆位の台付甕が認められている。柱穴状のピットは南西寄り、北西寄りに各1ヶ所、北東寄りに2ヶ所、直径25～40cm、深さ9～19cmのものが4ヶ所検出されているが規則性はないようで、南東寄りでは確認できなかった。壁周溝は幅20cm、深さ3～7cm、カマド部分を除いて一周する。カマドと南東コーナ

一の間の直径70cmの不整形形の掘り込みが貯蔵穴であり、内部から甕、甔、環などが検出されている。なお当住居址は54号住居址に切られている。

出土遺物は南壁中央から東寄りに甕や高環など総数は30個体を越えるものの54号住居址との出土関係に多少の混乱はあると考えられる。

### 54号住居址 (第36図)

53号住居址を切って構築された住居址で、カマドは全て53号住居址のなかに所在する。当初複合関係を的確に把握できないまま検出作業に入ってしまったため54号住居址の東壁の確認はできず、また出土遺物の帰属についても多少の問題が残ると推察される。南北は3・2mであるが、東西はカマドの状況から4・8m前後、長方形を呈すると推定される。壁高は24cm程度残存し、南西コーナーの一部分は55号住居址と複合関係にあり、床面を若干浅く切っている。

カマドは東壁に構築され、幅は1・2mと住居址規模に比べて広く北寄りにかけて広く焼土が分布する。柱穴、壁周溝は検出できなかったが、北西コーナーに接して直径90cm、深さ40cmの土坑が検出されている。貯蔵穴のようであるが、カマドとの位置関係を見ると必ずしも貯蔵穴とは、言い難いものがある。

出土遺物はカマド内部と周辺に主として分布し、甕や環が検出されているが、この他貯蔵穴様土坑の東側から紡錘車が発見されている。

### 55号住居址 (第37図)

北東コーナーは54号住居址、北西コーナーを中心とした列ほど56号住居址と複合する住居址で3住居址間では、54号→55号→56号の順に少しずつ深くなる。残存する壁から東西5・7m、南北5・8mのほぼ正方形プランをもち、壁高は31～33cmである。

カマドを東壁の南寄りに構築し、基部は1・3×2・1mの長方形土坑によって破損されているが、長さ1・3m、幅1mが計測され、煙道は壁外に延びない。焼土は周囲に広く分布している。カマド内部から甕と高環が1個体ずつ検出されている。柱穴は北東寄りに直径30cm、深さ40cm、南西寄りに直径28cm、深さ39cmの2ヶ所が認められ、この他56号住居址のなかに確認できる直径25cm、深さ15cmのピットが推定できる北西壁コーナーの対角線上に乗っており、当住居址に伴うものと考えられる。壁周溝は15～30cm、深さ4～5cm、カマド部分と複合部分を除いて確認できる。貯蔵穴は南東コーナーから西寄りに直径80cm、深さ67cmの不整形な掘り方をもつピットが相当するものと考えられる。

出土遺物は南東コーナーに接して甕2個体と、南壁中央部に甕や環の破片が認められる。なお複合関係は56号住居址に切られている。

### 56号住居址 (第37図)

南東コーナーを中心に東壁の大半と南壁の列ほど55号住居址を切って構築され、西壁が外方向に大きく外れる状況を示す不明朗な住居址である。このあたりは近時まで家屋が存在していたために掘

瓦とも考えられる。この部分を削除して考えるならば、東西は南壁部分で4・6m、南北は中心部分で4・8m、台形を示す形態であろう。住居中央部を幅1m、深さ15cmの浅い溝が南北に切っているが、住居南部、南壁上には確認はできない。

カマドは東壁に構築され、幅90cm、長さ120cm、袖は壁内に50cm残存し、煙道部分は壁外に長く延びる。焼土はカマド前面に広く分布している。カマド内部からの遺物の検出はない。55号住居に伴うと考えられる柱穴を除くと直径25～30cm、深さ13～39cmのビットが3ヶ所に認められる。北東寄りの3ヶ所並列するビットは、まんなかのものが柱穴に相当すると考えられ、その他は位置的に不自然である。壁周溝は認められないが直径105cm、深さ68cmのしっかりした円形貯蔵穴が南東コーナーに接して存在する。

出土遺物は完存する土器は少なく、甕、高環、環が散在している程度である。

### 57・58号住居址(第38・39・40・41図)

両住居址は東壁と南壁の大半を共有し、北壁及び西壁をそれぞれ1m前後延長した状況を示している。当初は、たまたまうまく一致した複合関係かとも考えられたが、検出の結果当初57号住居址を構築し、後に拡張して床面を貼って58号住居址を築いたことが判明した。その拡張は上屋をもったままの拡張であるのか、堅穴の掘り方のみ再利用したものか不明である。

57号住居址は東西7・4m、南北7・3m、ほぼ正方形の住居址で確認面より36cmの壁高をもっている。ただしこの住居址は遺物やビットの状況から2回の生活面が確認できるのである。最下面と、その上面は南壁付近で5cm程度の差であるが、二面に分けて述べる。まず下面の住居の柱穴は壁コーナーの対角線に乗って4ヶ所に認められる他、4ヶ所に確認できる。この4つの柱穴は上面の柱穴とも一致しているが北西コーナー寄り、南西寄り柱穴の間、北東柱穴の東側の近い方のビットは下面に伴うものである。2つ並んだ離れたビットは58号住居址からのものである。貯蔵穴状の土壇も、東寄りのものと西側の2つ接したうちの東側のものが下面に伴い、西側のものは上面に伴う。共に貯蔵穴でないかと考えられる。壁周溝は認められない。出土遺物も破片のみである。

57号住居址上面は4つの主柱穴と北壁西寄りに1・3mの径をもつ不整形の貯蔵穴が認められており柱穴に囲まれた内側は三和土である。柱穴の深さは60cm程度である。出土遺物も土器片がみられるが、図示し得るものはない。

58号住居址は東西8・6m、南北8・4mの正方形に近い形態を示している。壁高は拡張された部分で20cm前後、壁を共有する東壁で25cm前後であり、57号住居址に貼り床した部分は多少深いようで、57号住居址壁部分は小さな壁状、または急斜面を示している。

カマドは北壁に構築し幅80cm、長さ110cm、両袖は高さは少ないが、平面プランは良好に残り煙道は壁外には延びない。両袖先端は甕を芯材として使用し、左袖裾から前面にかけて焼土が分布する。カマド前面に小型甕と高環をすえている。そしてカマドの中心部分に焼土に埋まった甕がみられる。柱穴状のビットは北東、南東、北西寄りの3ヶ所、直径25～30cm、深さ35～40cmに認められる。位置的には多少ずれるが57号住居址の柱穴位置と大差はない。貯蔵穴はカマド西寄りに認められる不整形ビットが相当するものと考えられる。壁周溝は拡張部分のみ幅15～20cm、深さ7



～8cm認められ、一周していたものであろう。

出土遺物はカマド周辺に密集し、特に環の検出が多かった。カマド左袖端から貯蔵穴にかけて甕や小型甕や環、カマド東側や前面に環、貯蔵穴南側から13個体の環が並べられたように検出されている。更にその南側で3個体、南壁に接して3個体、合計28個体である。そのうち4個体は口縁部が内側に屈曲し接合部に綾をもつ、所謂「横做環」である。なお貯蔵穴南から検出された環は器表が著しく風化したものが多い。

### 59号住居址 (第38図)

57号、58号住居址を切って構築された住居址であるが、57号、58号住居址を先に検出した結果、カマドが見い出され、確認することのできたもので、従って両住居址と複合する部分の壁については不明である。完存するのは西側ろほどと、カマドのみである。南北の壁は3・8mを測り、東西は4・5m程度と推定できる。壁高は西側部分で20cm前後であるが、58号住居址より5cm程度浅く、57号住居址より18cm程度浅い。

カマドは東壁に構築され幅1m前後、長さも1・2m程度と推定され、住居址規模からみると大きい。煙道は壁外には延びない。柱穴は西壁寄りに2ヶ所、直径30cm、深さ18cm、24cmでカマド西寄りのピットも当住居址の柱穴と考えられる。壁周溝、貯蔵穴は認められない。

出土遺物はカマド内部から破片が検出された程度で、図化不能である。

### 61号住居址 (第41図)

15号住居址と同様、耕作土除去が不足して、表面からの確認が難しく、16号住居址検出中に壁外から須恵器環が確認されたことによって始めて注意された住居址である。東西3・1m、南北2・8mの不整形を示している。壁高は15～18cmの浅い残存である。カマド、柱穴、壁周溝は認められない。柱穴状のピットは南西コーナー寄りに直径25cm、深さ26cm1ヶ所が認められるが、位置的に不相当である。その他直径70cm、深さ10cmの土壇、南東コーナーに接して40×55cmのピットが認められ、内部から環2個体が検出されていることから貯蔵穴であると考えられる。

出土遺物は貯蔵穴内部以外では検出できず東壁から10cm離れて甕が検出されている。この土器は接合できない4個体分で、この住居址に伴うものと考えられる。

なお16号住居址との複合関係は、この住居址の方が新しい。

### 62号住居址 (第42図)

当初カマド部分と東壁の一部が確認できたのみで、加えて45号住居址と複合関係にあり、調査区拡張によって更に63号住居址との複合関係も確認された住居址である。さらに近年まで宅地であったことなど明確にしない部分が多い。南北は5m、東西は不明である。壁高は25cm程認められるが一様でなく、床面も確定しがたい。カマドは東壁に築かれたようであるが不明瞭である。柱穴状ピットは2ヶ所に直径30cm、20cm、深さは28cm、19cmを測る。62号住居址の範囲とした中に焼土が広く分布する部分が3ヶ所認められる。カマド西寄り、中央部と調査区北西であるが、北西の

焼土は袖状の高まりをもっているが、カマドであることの確認はできなかった。壁周溝、貯蔵穴は無い。出土遺物も破片が検出された程度である。出土遺物でみる限り、当住居址出土とした完形環及び複合関係にある63号住居址出土としたほぼ完形の環は、他の土器とかなりの年代差が看取されることから複合関係は更に複雑であったと考えられる。

### 63号住居址 (第42図)

62号住居址と複合し、更に時期を離れて複合するような可能性がある住居址で、近年のマンホールも切っている。従って住居址の規模を測定できるものではなく不明瞭である。カマドとカマドの構築された東壁は比較的良好に残存するが、南壁は攪乱も多く明確ではない。カマドは幅90cm、長さ70cm程度で煙道は壁外に延びない。柱穴状のピットは2ヶ所、壁周溝、貯蔵穴は確認できない。なお壁高は10cm内外である。

出土遺物はカマド前面に完形環、左袖の北寄りに甔と環がみられる程度で、他は破片のみである。当住居址出土として扱った環と、62号住居址出土として扱った環とは年代差がないものの、両住居址出土の他の土器との差がみられるため、更に複合していた可能性がある。

### 64号住居址 (第43図)

北側の瓦程が調査区域外にあり、しかも調査当初から検出部分全てが検出されたわけではなく、後に市道を撤去して西側の大半を検出するという経過であったため明確さを欠いている住居址である。東西は5・9mであるが柱穴の検出も確認できなかったため南北の規模は不明である。壁高は20～27cm前後が残存している。

カマドは東壁に構築され幅70cm、長さ60cmの規模をもち煙道は壁外に延びない様子を実測図では示しているが、カマドの検出法に過りがあったと考えられる。壁周溝も25～50cmと広すぎるようであり、深さは5～10cmを測っている。柱穴は認められず、貯蔵穴状のピットも認められない。南壁に接してピットが3つ並列し、中央のピットの周囲には3～4cmの土手状の高まりが確認できる。

壁との関連から住居址との同時性も考えられるが、遺物の検出は不明である。

出土遺物は床面から多少上ったものばかりで、甔、高環の部分破片がみられるのみで貧弱である。

### 65号住居址 (第43図)

調査終了間近になって市道を撤去した際に検出された住居址であり、半分程は調査区域外にあたる。東壁の長さは3・8m、南壁は3m程度検出したのみで壁高は20～25cm前後。カマドは東壁に構築しているが不明瞭である。壁周溝は幅30cm、深さ10cm前後で部分的に認められる。貯蔵穴や柱穴状のピットは不詳、内部に掘り方状の落ちこみが確認され、その底がほぼ平坦であることなどから調査当時67号住居址との2軒の複合として取り扱っていたものである。

出土遺物は掘り方状のなかからのみ認められ、それ以外では破片のみである。甔3個体、台付甔1個体、環3個体で完存するのは環1個体のみである。

### 66号住居址 (第44図)

調査終了間際に、区域外となっていた市道を撤去して検出された住居址であるが、全体的にみて良好に残存していた住居址である。東西は4m、南北は3mの東西に細長い長方形を示し、壁コーナーが丸みをもち、壁高は25cm前後でなだらかに立ちあがる。

カマドを東壁に構築し幅75cm、長さは80cmと比較的小規模で、左右の袖の長さは異っている。カマド内部には甕を2個体直列して置き、奥寄りの甕の下からは高坏が検出され、煙道は壁外に延びないようである。柱穴は認めることができなかったが幅20～30cm、深さ3～5cmの壁周溝が、カマド部分を除き一周する。貯蔵穴はカマドと南東コーナーの間に、東壁からわずか40cmほどの平坦部分をもって存在している。50×70cm、深さ17cmほどの小規模な楕円形のものである。

出土遺物は貯蔵穴東側の平坦部から埴や坏、貯蔵穴上から甕2個体、カマド手前から甕、住居址中央南寄りから甕2個体などほぼ個体別に検出され、総数は15個体を数える。

なお、この住居址は火災にあったようで、住居址中央部、北壁、西壁などで焼土が確認できる他多くの炭化材も検出されている。大きなまとまりとしては南西コーナーから、また北西コーナーから住居址中央部に倒れ込んだような状況で、北壁東寄りからも中央部方向に向いた炭化材、その他あちこちに短い炭化材や炭化物が検出されている。

### 68号住居址 (第44図)

社員跡遺跡の2つの集落のうちの北群の北端に位置する住居址で、北に所在する河川跡によって約1/2がなだらかに流失している。南壁の長さは4.6mであるが南東コーナー、南西コーナーは大きな丸みをもっている。南東コーナーはほぼ直角となるが、南西コーナーは20度程度広がり菱形を呈するものであろうか。柱穴も両コーナーの対角線に乗っている。壁高は南壁で15cm程度である。

カマドは東壁南寄りに構築されたようであるが、焼土が分布することから推測できるのみで何の痕跡もみられず、流失したものである。柱穴は直径25～28cm、深さが45cm前後のビットが4ヶ所に認められるが、この4ヶ所が相当するものと考えられる。この4本の位置は住居址の平面プランと一致するように多少菱形を示している。壁周溝は15～20cmの幅と5～6cmの深さをもって確認できる。貯蔵穴は南東コーナーに接し直径90cm、深さ52cmのしっかりした掘り方をもって存在する。出土遺物は坏と甕の破片が検出された程度である。

### 69号住居址 (第45図)

西側の瓦ほどが調査区域外にあり、東壁のみ明確に確認することができた。東壁は3.8m、壁高は南壁で24cm、北壁寄りで21cm、現地表も北に向ってなだらかに傾斜する。

カマドは幅110cm、奥行は100cm、比較的大きいが煙道は壁外には延びないようである。柱穴は確認できないが、カマド部分を除き幅15～20cm、深さ4cm程度に壁周溝が検出されている。貯蔵穴は南東コーナー寄りに直径50cm、深さ67cmの小さいがしっかりした掘り込みをもって検出されている。

出土遺物はカマド周辺と南壁周溝上から高坏2個体が検出されている。

### 70号住居址（第45図）

東西、南北とも5・5・1mの規模であるが、北コーナーと南コーナーの間が、東西のコーナーの間隔より60cmほど短かく菱形状を呈する。壁高は21～33cm前後であるが、カマドや遺構、遺物の残存は良好である。

カマドは南西壁に構築され、幅、奥行とも80cm前後、煙道は壁外に延びないようである。カマド内部からの遺物の出土はない。柱穴は各コーナー寄りに4ヶ所認められるが、柱間は比較的長く、コーナーに寄りすぎる感もある。しかも壁の平面プランとほぼ一致し、南北間が東西間より心々で20cmほど短かく菱形状を呈している。直径は20～30cm、深さは53～61cmと深くほぼ壁コーナーの対角線に乗っている。壁周溝は20～30cm、深さは6～7cmと一定し、カマド部分を除いて一周、貯蔵穴状のピットはカマドの左右に2ヶ所認められる。南コーナーとカマドの間のピットは50×75cmの長楕円形で、深さ52cm、カマド右手のピットは深さ36、48、53cmのピットが上端で重複して存在している。この他にカマド左手に小ピットが確認できるが貯蔵穴状の設備とは考えられない。

出土遺物はほぼ住居址内全域に分布して甕5個体、高坏1個体、坏6個体が検出されているが、甕と坏のなかには、互に離れて出土して接合した例が目立つ。

### 71号住居址（第46図）

壁コーナーがほぼ東西南北に位置する住居址で北東壁は大部分72号住居址によって切られている。壁高は北寄りで11cm、南寄りで22cm前後、72号住居址より17～23cm浅い。南西壁は4・7m、南東壁は東端の屈曲具合からコーナーになると考えられ、おおよそ4・7mを測り、正方形を示すものであろう。カマド、壁周溝、貯蔵穴等は確認できなかったが、柱穴状のピットは13ヶ所も認められる。直径は20cmから50cm前後、深さは5～20cm前後の浅いもの9ヶ所、31cm～52cmの深いもの4ヶ所であるが、住居址の平面プランからみても規則性はなく、詳細は不明である。中央南東寄り、ピットに接したロームの高まりが認められるが、高さ3～7cm、性格は不詳である。

出土遺物はピット内から土器片1点と南西壁の南寄りから、所謂「編物石」5点が検出されたのみである。

### 72号住居址（第47図）

西側の壁寄りは71号住居址を切って構築された住居址で、東西7・4m、南北5・6～6mの長方形のプランをもっている。東、西、南の各壁はほぼ直線的であるが、北壁は屈曲が目立っている。東壁からカマド部分にかけて中世以降の溝が走っている。深さ8cm前後で遺構に直接損傷はない。壁高は北寄りで河川の流失によるものが16cmと浅く、南寄りでは25cm前後である。最近まで住宅であったため住居址内には近年のゴミ穴が4ヶ所掘られている。

カマドは東壁に構築され、幅1m、長さは1・2m程で煙道は壁外に延びないようである。カマド

内部、及び周辺から遺物の出土は無いに等しい。柱穴、壁周溝、貯蔵穴などは検出できなかった。

出土遺物は大型の土器は少なく、甕はあってもかろうじて実測できる小型の土器4個体、小型甕1個体の完形品の他は、完形環と破損する環などである。またこの住居内からは土製支脚3個体分も検出されている。

### 73号住居址 (第48図)

東西4・6m、南北4・6m、非常に良く整った正方形を呈する住居址で、壁高は北壁寄りで25cm前後、南壁寄りでは40cm近い。確認面及び地表が北に向って傾斜し河川跡に入ることによって高低差が生じたものであろう。

カマドは幅1m、長さは右袖で1・2mの規模で左袖は多少短かい。主軸は若干東に振れるようであり、煙道は壁外に余り延びない。カマド内部から遺物の出土は無い。柱穴は模範的とも言える程正確に壁コーナー対角線に乗って4ヶ所認められる。直径30~40cm、深さは44~55cmと細く、深くしっかりした柱穴である。壁周溝は15cmの幅でカマド部分を除いて一周し、深さ4~5cmである。貯蔵穴はカマドの東寄りに、袖裾に接し55×70cmの楕円形、深さは55cmで存在する。この他、住居址内に5ヶ所のピットが検出されている。20~30cmの不整形形で深いもので31cm、浅いもので10cm前後である。

出土遺物は北西柱穴の東側から胴部下半を欠く甕、南壁西寄りから完形鉢、貯蔵穴周辺から環、北東柱穴東側から手捏などが検出され、その他は住居址内に破片が散在するにすぎない。

なお南東コーナーは礫と露盤を配した中世墓塚25号、北壁西寄りには皿状土坑(中世と考えられる)によって切られている。

### 74号住居址 (第49図)

壁コーナーを東西南北にもち、北東壁と南西壁間5・1m、北西壁と南東壁4・9m、ほぼ正方形に近い平面形態を示す。壁高は7~25cm前後と乱れており、床面はほぼ平坦であるが、近年まで住宅が建っていたために部分的に攪乱された結果である。南西壁南寄りには83号住居址北東コーナーと複合関係にある。調査中の観察では83号住居址を切って構築されたと考えられた。

カマドは東壁南寄りに構築され幅1m前後、長さは90cm程度である。内部中央部から胴部下半のみの甕と前後に環部を欠損する高環が直列して存在する。手前の高環は二次的熱を強く受けて器表風化が著しく支脚として使用されたと考えられる。柱穴はほぼ対角線に乗って4ヶ所認められ、直径30~40cm、深さは51~56cmとほぼ一定している。この他中央北寄りに直径45cm、18cmの深さをもつ柱穴状ピットがみられる。壁周溝は確認できないが東コーナーに接して60×80cm、深さ25cmの浅い楕円形のピットが貯蔵穴と考えられ、内部から高環環縁部が検出されている。

出土遺物は貯蔵穴とカマドの間に底部を欠く甕や環、南東壁沿いに環が検出された程度で少ない。

### 75号住居址 (第50図)

東西5m、南北5・1m、正方形に近い形態を示す住居址で壁高は15cm前後が残存している。東

壁から南壁にかけては79号住居址と複合関係にあり、その住居址床面より7~10cmほど深い。北西コーナー部分の中世の土壌墓によって切られている。

カマドは北壁の東寄りに構築され幅1m、長さ1・2m程度であるが、カマド以東と以西では壁の喰い違いがみられる。さらにカマドの袖の長さも右袖が70cmと短く、袖の東側から前面にかけて6cm前後の高まりが確認できる。カマド中央部から支脚に転用したと考えられる塊が検出され、煙道は壁外に延びないようである。柱穴、壁周溝は認められないが、北東コーナーに接して50×60cm深さ62cmの円形貯蔵穴が認められる。カマド左手前に床面から5cm程度浮いた状態で板状の炭化材が認められ、長さ65cm、幅15cm前後である。

出土遺物は貯蔵穴周辺に密集し甕2個体、塊の底を焼成前に穿孔し、転用したと考えられる超小型甕、坏5個体、鉢3個体など11個体にのぼる。貯蔵穴にかかる甕は肩部以上の土器であるが、口縁部内側と肩部破損部分先端に擦痕が認められ、器台として使用されたと考えられる。住居址北西寄りに破片の分布がみえるが、復原不可能な土器である。南西コーナーに寄って丁寧にはラミガキされた短頸甕もみえる。

### 76号住居址 (第51図)

壁コーナーをほぼ東西南北におく住居址で、北東壁南半と、南壁の大半は78号住居址と複合関係にある。北東壁、南西壁間は3・8m、北西壁、南東壁間は4・2mであり、南北に菱形を呈するような形態で壁高は20cm前後、カマドは北東壁に構築されたと考えられるが明確にしない。ハの字状に開く高まりが袖とも考えられるが、検出方法に失敗したものであろうか。柱穴は東西南北の壁コーナーに寄って4ヶ所認められる。直径35~40cm、深さ40cm前後と一定しているが、住居址平面と一致して南北に菱形となる。南東壁のピットは78号住居址の柱穴、北東壁に接したピットは直径35cm、深さ55cmほどで柱穴状であるが不詳。壁周溝は幅15~30cm、深さ5~8cm、貯蔵穴は認められない。東コーナーは正方形に16cm程掘り下げられているが性格不明。南壁コーナー寄り柱穴の周囲の土壌状の掘り込みは遺物こそ検出されなかったが中世土壌墓に関連あると考えられる。平面プランと柱穴以外は不明瞭な住居址である。

出土遺物は完形の坏1個体が西コーナーに接して出土したほか破片程度である。坏破片のなかで口縁部が発泡したものが見受けられる。

### 77号住居址 (第52図)

東西5・3m、南北はカマドや中世の土壌墓によって切られているため明確ではないが、5・3mの正方形を呈すると推定される。住居址中央から北西コーナーにかけて3基の中世土壌墓が直列の状態で並ぶ。壁高は18~24cmと浅い。

カマドは北壁に構築され幅は1・1m、長さは80cm程であり、煙道は壁外に延びないようである。カマド内部の中心と考えられる位置から逆位の高坏が検出され、その奥に甕の口縁部破片もみえる。柱穴は直径45cm前後、深さ55~64cmのピットが3ヶ所で確認できる。北西寄りの柱穴は土壌墓によって破損されたのか、あるいは土壌墓の東のピットが相当するのかわからない。土壌墓は床面か

らの掘り込みが5.5cmで多少浅い。東のピットは深さ5.9cmであるが直径6.0cmと大きく、他の3ヶ所が壁コーナー対角線に乗るが、大きく外れることになり貯蔵穴である可能性が強く、柱穴は壁コーナーに寄り柱間は長い。壁周溝は1.5～2.5cm、深さ4～7cm、カマド部分を除いて一周するようである。この他東壁寄り中央部に直径4.0cm、深さ6.6cmのピットや焼土が堆積した高まりが4ヶ所に確認できる。高さは6～8cm前後であり、共に性格不明である。なお住居中央部分の床は三和土である。

出土物はカマド以外では皆無に等しく坏片がみられる程度である。また覆土中から繊維を含む縄文土器片、かわらけ片が検出されている。

### 78号住居址 (第53図)

北西は76号住居址、南西は80号住居址、西は79号住居址と複合関係にあり、80号住居址に接した南部あるいは東壁南端部は中世土壇墓が切っけている。東西は、わずかに残る壁から5・6mと計測され、南北は5・7mの正方形に近い形態であったと考えられる。壁高は1.5～2.0cmと浅い。

カマドは北壁に構築され幅9.0cm、長さ9.0cm、煙道は壁外に延びないようである。カマド内からは破片が検出された程度である。柱穴状のピットはカマド南に1ヶ所、76号住居址南壁と80号住居址北コーナー寄りの壁にみられる2ヶ所も当住居址のものと考えられる。南東寄りのものについては不明である。壁周溝は幅2.0cm、深さ5～1.0cmで存在し、貯蔵穴はカマドと北東コーナーの間に認められ直径6.5cm、深さ5.5cm、しっかりした掘り方をもっている。

出土物は貯蔵穴周辺に集中し特に壁との間に壜7個体分と多い。北東柱穴寄りから坏1個体の他南壁寄りから若干の坏がみられる。

### 79号住居址 (第50図)

北西壁の大半が75号住居址に切られ、南東部は80号住居址と複合関係にある。北東壁と南西壁の間が6・6mと計測できる程度で壁高は1.5cm残るのみである。75号住居址より8cm程浅く、80号住居址よりも2.0cm程度浅い。カマド、貯蔵穴は認められない。柱穴状ピットは直径5.0cm、深さ6.0cmのもの1ヶ所、壁周溝は幅1.5～2.0cm、深さ3～6cmを確認できる。また80×11.0cmの土壇は中世土壇墓である。出土物はみられない。

### 80号住居址 (第54図)

壁コーナーを東西南北におき北西は79号住居址を切り南東部は81号住居址と複合関係にある。北東壁と南西壁の間は6・7m、北西壁と南東壁間も6・7mと計測される正方形を呈し、壁高は1.5～2.0cm前後である。

カマドは北東壁に構築され幅1・3m、長さは1・5mほどあり、煙道は壁外に延びないようである。カマド内から遺物の検出はみられなかった。柱穴は北壁コーナー寄りを除いて対角線上に乗って3ヶ所に認められる。直径3.0cm前後、深さは5.0cm前後である。壁周溝は幅1.5～2.0cm、深さ2～5cmと浅く、カマド部分を除いてほぼ一周する。貯蔵穴は認められない。東コーナー寄りの土壇は

礎の出土状況や人骨の検出から中世土壇墓と考えられる。

出土遺物は東柱穴の北と南から甕1個体ずつ、東コーナー寄り、西柱穴上及びその東寄りからも甕が検出されている。坏は西コーナー寄りに多く、それらに混り須恵器高坏脚もみられ、住居中央の北壁寄りに土製支脚も確認されている。

## 81号住居址 (第55図)

壁コーナーをほぼ東西南北におき、北東壁と南西壁の間6・8m、北西壁と南東壁の間も6・8m前後と推定される正方形を呈する住居址である。壁高は10～20cm前後であるが、西コーナー付近に寄ると不明瞭となる程浅い。

カマドは南西壁南寄りに構築され、幅90cm、長さ110cm程で、煙道は壁外に延びないようである。カマド内部では、中心部分に小型の甕を逆位に設置、支脚として、その上に長胴甕を置いたままの状態がみられる。この他、内部に坏を入れた甕、甕の底部や坏が検出されている。柱穴状のピットは6ヶ所に確認できるが、多少のバラつきはみられるものの各コーナーに接した4ヶ所が主柱穴であろう。東と西のピットは直径60cmと70cmと大きい深さは47cmと68cmと深い。北のピットは直径20cmと小さいが65cmと深い。南のピットは貯蔵穴状土壇のなかにあるが床面からは36cm程掘り下げられている。この他のピットは比較的浅い。4ヶ所のピットが主柱穴とすると柱間は長い。壁周溝は東側に幅10～20cm、深さ5～12cm、貯蔵穴状の土壇は南コーナーに接している。

出土遺物はカマドや貯蔵穴の所在する南に寄り、カマド左手から肩部以下を欠く甕2個体、高坏坏縁部、焼成後甕に転用した小型壺を乗せたままの甕などがみられる。その他甕や坏がみられる。この住居址からは4個体分の肩部以下を欠く甕の口縁部を検出しているが、3個体までが口縁部内側に明瞭な擦痕をもち器台として転用されていたものである。

## 82号住居址 (第56図)

壁コーナーをほぼ東西南北におく住居址で北東壁と南西壁間は中央部で5m、北西壁と南東壁間は同じく中央部で4・9m、ほぼ正方形に近い形態であるが、壁の中央部はわずかに張り出している。壁高は16～28cm程度残存している。

カマドは北西壁に構築され、幅1m、長さは90cm程度で、煙道は壁外に延びないようである。カマド内部からは高坏、甕、坏などが検出されている。柱穴状のピットは6ヶ所に認められ、東コーナー寄りから30×40cm、深さ49cm、直径50cm、深さ51cmの2ヶ所が認められる。東寄りのピットでは壁に寄りすぎると考えられるが、北壁も同じように接して存在する。直径35cm、深さ24cmと浅い。またカマド左袖下からも直径30cm、深さ23cmのピットが確認されている。南コーナー、西コーナー寄りのピットは、ともに直径30cm、深さは42cm、55cmと深く柱穴と考えて差し支えないが、他の4ヶ所については深さも一様でなく不明である。壁周溝は15～25cm、深さ5～9cm、カマド部分を除き一周する。貯蔵穴はカマド東寄りに85×90cm、深さ60cm程、方形を意識した2段掘り下げの状態検出されている。

出土遺物はカマド右袖上に甕、カマド左袖に接して甕や坏、貯蔵穴周辺に坏や高坏、甕などが見ら



れる。また貯蔵穴の中心に肩部以下を欠いた甕とその上に乗った甕が検出されている。甕の頸部内面と、甕下半に擦痕が認められ、その部分が一致することから甕破損後器台として転用したものである。南西壁寄りから鉄線や環も検出されている。

### 83号住居址 (第48・49図)

74号住居址と北東コーナー部分が複合する住居址である。中央部の東西、南北が4・1mの正方形を示す形態である。壁高は21～28cm、なだらかに立上るが比較的良好に残存し、コーナーも丸味は少ない。

カマドは東壁に構築され、幅1m、長さは90cm、煙道は壁外に延びないようである。直径20～25cm、深さ50～60cmの柱穴が4ヶ所に認められる。ただし壁コーナーの対角線から、東寄り2ヶ所の柱穴は外れて存在している。壁周溝は20～30cmの幅と5～8cmの深さをもち、カマド部分を除いて一周している。貯蔵穴は南東コーナーに寄り、直径70cm、深さ68cm、しっかりした掘り方をもって検出されている。

出土遺物はカマド左袖に接して甕、貯蔵穴と壁コーナーの間から甕、小型甕、高坏、カマド左袖下と貯蔵穴付近出土で接合できる甕、北西柱穴付近から坏等、比較的小さい。

### 84号住居址 (第57図)

南半分程を調査区域外にもつ住居址で東西8・7mを測ることのできる、今回調査の遺構のなかでは大形に属する。平面プランはしっかりしていること、柱穴も明確であることなどから正方形を示すものと考えられる。壁高は30～45cm残存し良好である。

カマドは北壁に構築し幅1・3m、長さは1・1mと大きく、煙道は壁外に若干延びるようである。(本実測図は掘り過ぎた状態のままである。)このカマドの西に袖を欠失した煙道状の焼土が確認できたが、このカマドを取り壊した後に検出されたカマドを構築したものと考えられる。カマド内部からは甕が検出されている。柱穴は北東、北西の2ヶ所に検出され直径25cmと30cm、深さは55cm前後、壁周溝は幅20～30cm、深さ4～8cm、カマド部分を除いて確認できる。貯蔵穴はカマドの西、旧カマドの手前に80×120cm、深さ60cmの楕円形、その西に80×100cm、深さ12cm程の長方形に近いものの2ヶ所が確認できる。新カマドに伴う貯蔵穴は旧カマド手前のものと考えられる。

出土遺物のうち坏など小さな遺物はそれぞれ、あるまとまりをもって検出されているが、4個体分の甕はカマドを中心に西寄りへ分散したもの、また東寄りへ、また北壁全般に分散したものが接合されている。

### 85号住居址 (第57図)

66号住居址の西側で、道路工事のため掘削したところ境界ギリギリの断面に住居址が検出され、カマドの基部と貯蔵穴の断面実測と遺物の取りあげを行った。貯蔵穴の中に甕2個体、鉢2個体、甕、坏各1個体の6個体分であった。住居址の規模など判明しないが、住居址として扱った。

## 溝

当遺跡では10数条の溝が検出されているが、長い土壇と考えられるようなものも多い。全てを報告することには、紙数を要するので、ある程度時期の判明するもの、遺物を判うものを中心に述べることにする。

### 1号～4号溝 (第58図)

1号溝は1号住居址を切った近世の溝で西から東に走る。幅80～120cm、深さは西側で地表から80cm前後である。2号溝、3号溝は、共に西から東に併行して走り西端では接続するような形を示しているが、接続部分は3号溝から2号溝の方へ流れるように掘り下げられている。7号住居址の西2mの付近では2号溝の幅145cm、深さ50cm、北側に浅い溝を持つ、3号溝は、このあたりでは浅く狭くなり幅50cm、深さ20cmとなる。出土遺物は、2号溝と3号溝の接続する付近に多く特に3号溝からは、高坏、埴、埴など5個体が検出されている。但し溝底から若干上位である。

### 13号溝 (第59図)

二つの集落のうち北部集落の南限を走る溝で、これより南は粘質を含む地盤及び表土層に覆われ、所謂「野水の流路」に当たっている。溝以北は通常のローム台地を形成している。11号・12号住居址を切っており、幅2・5m、深さ60cm程で底幅は広い。溝の最下層は小豆大～ピンポン玉大の砂礫を多く含んでおり、西約200mに湧出する久城水排水のため、微高地縁辺に開削したと考えられる。鬼高期及び真間期の土器を出土している。

### 14号溝 (第59図)

ほぼ東西に走る溝で27号・26号・31号・28号住居址を切っている。しかし浅いため各住居址の床面を破損するまでには至っていない。幅1・3～1・5m、深さは27号住居址東で35cm、26号住居址東でも35cm、31号住居址東で27cm前後、底に薄い砂層を堆積させている。

### 15号溝 (第59図)

南部集落の南限に位置する溝で、以南は、兎玉町から続く九郷水系の水田地帯であったと考えられる地域で、現状では明確にし得なかったが、地盤層や覆土に強い粘質がみられる。調査前に既に幅1m、深さ30cmの溝が観察されていた。調査区境界の西側断面では2本が確認できる他に1m程離れて新しい溝も確認される。この溝は断面図実測位置以東の平面にはあらわれない。この他に北西から屈曲して入る溝も認められるが、同時期でないかと考えられる。溝底は2本となるが、微高地と水田地帯を区画するという用途は同じ性格上であり、時期的前後の差はあっても1本と見なしたい。

方向はほぼ座標に乗っており、条里にかかわる溝なのか、あるいは微高地上に営まれた五領期～和泉期の集落に伴うものか定かではない。

## 土壇

### 1号土壇 (第60図)

南部集落の3号住居址北西コーナーから西1・2mに位置する小さな土壇である。45×65cmの長方形を意識した楕円形で深さは確認面から35cm前後である。覆土上面には焼土が認められ、土壇

西寄りから土壌の西肩にかけて分布する。覆土にも炭化物や焼土粒が確認され、内部から高環、埴各1個体が設置されたような状態で検出されている。高環の下からは長さ12cm、太さ8cmの棒状礫が、ほぼ土底に接して存在する。

#### 4号土壇(第60・61図)

この土壇は長さ3・35m、短径2・54mで、平面プランは舟形を示し、深さは0・8m、北西側はゆるやかな傾斜で落ち込むが、南東側は急な傾斜をもつ。北側の壁の傾斜は急で、南側は多少ゆるやかである。底はほぼ平坦で舟底状を示している。土壇内の土層は6層に分けられ、断面観察によると長時間の埋没ではなく、一時期に埋められたものと考えられる。遺物はすべて1層より出土していることから、この土壇が2層まで埋められた上に、土器が据え置かれ、何等かの事由により、土壇内部に落ち込んだものと考えたい。

出土遺物は、S字状口縁台付甕、単口縁台付甕、甕、有段口縁壺、器台、大型埴、高環、埴であり、個体数は43を数える。S字状口縁台付甕は、頸部内側にハケ目のあるものから、肩部ヨコハケが消滅し、口縁内部の段が不明瞭になるものまで、時期的には2～3期に区分されているものが一括して検出され、器台はすべて受部に孔があり、脚部に3ヶ所穿孔するなど共通した要素をもつが、それらとセットになると考えられる小型丸底埴は全く検出されていない。

#### 12号土壇(第60図)

長さ5・3m、東端幅0・7m、西方で1・1mの幅をもち、深さ最大25cmの細長い土壇である。出土遺物は西寄りに器台と円礫がみられる。

#### 15号土壇(第60図)

東西2・1m、南北1・7mの長方形に近い形態である。深さ50cmで東側と南北側の東寄り、急に立ちあがるが、西側は浅い段を有している。出土遺物は覆土中から手捏が検出された。

### 河川跡(第62図)

夏目遺跡とを区画する河川で、大きく蛇行する部分を検出した。主流部は北端にあり幅は20m前後である。調査区北東の高まり以南は大きく屈曲し、一点破線は礫や砂層の分布を平面的に表現したものである。蛇行した部分の浅い場所から真間期の甕や須恵器環が検出されていることから、そのころには埋没し主流部のみ流路が存在していたと考えられる。北岸に接して1ヶ所、南岸に2ヶ所の井戸が、南岸では溝が幾筋も見られる。これらの溝のなかで中世瓦が検出されていることから、土塚墓と共に中世に築かれたものであろう。

### 土器焼成址(第63図)

重機による耕土削除中、焼土が確認されたことによりその部分を掘り残し、後日検出したものである。実測図では90×130cm平面の不整楕円、高さ20cmほどの高まりとして表現されているが、住居址の検出面で表土除去を行なったため、この遺構はもっと上層で確認すべきであった。

40×60cmの楕円形の掘り込みがみられ、深さは15cm程度である。内部には軟らかい焼土がつまっており、堅い焼土面はみられなかった。内部の焼土中に土器片がみられたことから焼成址と推定

するものである。

## 中世土壌墓等

社具路遺跡では土壌墓や火葬土壌が25基検出されている。いずれも北部集落に接しており、集落南側の微低地に人骨と馬骨を伴う土壌各1基、火葬土壌1基の計3基である。集落北側の河川跡に接した22基は古墳時代集落を切って存在している。この22基の土壌墓は遺構確認作業当初から存在が確認されたわけではないので、検出に多少の問題を残している。

河川跡に接した溝内から中世瓦の破片が検出されていたことから注意はしていたものの、結果的には住居址の検出に伴い人骨片や銅銭がみられたことから中世土壌墓として確認されたものである。遺物を全く伴わない土壌もあるが、掘り方の状況から中世土壌墓として扱った。

### 1号土壌 (第64図)

北部集落の南に位置し、長軸1・3m、短軸1・1mの東西に長い不整な長方形をなす。掘り方は浅く約20cmを測り、頭部を西に向けた状態の馬骨が出土している。覆土は粘質土である。馬骨以外の遺物は確認できず、馬の埋葬施設と考えられる。

### 2号土壌 (第64図)

1号土壌の西北に位置し、直径約90cmの円形プランをもつ。1号土壌に較べて約50cmと深く、人骨1体分が検出されている。人骨は頭部方向を東にとり、体向きを北にするが、屈膝姿勢をとって、頭骨は<sup>2</sup>北首西顔、をなしている。また両膝を頭につけていたものと推定される。土壌内の覆土は1号土壌と同様な粘質土であり、銅銭9枚(天聖元宝ほか)が副葬されている。

### 火葬土壌 (第64図)

北部集落の南、粘質をもつ微低地に所在する10号住居址の南東12m程の位置に所在する。長辺約120cm、短辺約70cmの長方形で、残存する壁高は約40cmを測る。壁は全面にわたって堅く焼けており、床面や覆土中から焼骨片と焼土集中範囲が確認されている。確認が深いため、実測図では壁外が盛り上って表現されているが、本来は当現地表面からの掘り込みのみであったと考えられる。

### 21号土壌 (第65図)

77号住居址の北、河川跡に接した、ゆるい弧を描く溝の中に位置する。三角形に近い平面をもち、長径約120cm、短径90cm、深さは溝底面から約40cm、溝に切られている。集石を有し、露盤や瓦を混入し、他に鉄釘もみられる。

### 22号土壌 (第66図)

21号土壌の西、同土壌を切る溝の北岸に位置するが大半分を切られている。平面は長径約150cm、短径120cm、溝上場より約60cmの深さをもった不整楕円形を示し、集石を伴っている。集石の内部から軒平瓦、九瓦、砥石などの他人骨片が確認され、鉄釘も多量に検出されている。

### 23号土壌 (第66図)

22号土壌を切った溝に切られ、20・40号土壌の西に位置する。平面形は崩れた隅丸方形を呈し、長軸約120cm、短軸約90cm、深さ約60cmを測る。出土遺物は皆無である。

### 24号土壌 (第68図)

77号住居地の北西を切った土壇で長軸約140cm、短軸約60cm、住居地床面を約50cm掘り込んでいる。崩れた隅丸長方形をなし、壁面を一部切るため60cm以上の深さがあったものと考えられる。出土遺物は北側壁際に鉄製品、中央部北寄りに鉄釘と銅銭3枚（開元通宝、洪武通宝、他不明）が検出されている。

#### 25号土壇（第67図）

73号住居地の南東コーナーを切り込んで築かれた土壇で、長軸約100cm、短軸約70cm、隅丸長方形の平面をもつ。深さ40cm、壇内北半に集石をもち、遺物は集石の一部として転用された瓦と露盤があるが全て破片である。

#### 26号土壇（第68図）

77号住居地の南に位置し、長径約90cm、短径約70cm、の楕円形を示す。深さは約30cmを測り、東側に20cm程度深いピットをもっている。出土遺物は皆無である。

#### 27号土壇（第68図）

77号住居地の南西寄りに位置し、38号土壇の北にあたる。長径約130cm、短径約100cmの楕円形を示し、20cmの深さを測る。人骨片は2ヶ所に確認できたが、歯の部分は北西部に多い。他に出土遺物はみられない。

#### 28号土壇（第68図）

78号住居地の東、37号土壇の北に位置する。長径約150cm、短径約90cmの楕円形を示し、深さ20cmを測る。東側は幅約20cm、高さ10cm程度のテラス状となる。中央北寄りで人骨片と歯が確認できる。

#### 29号土壇（第69図）

77号住居地の西に位置し、長軸約190cm、短軸約80cmの不整な長方形を示し、深さ約10cmの規模である。中央から南にかけてさらに10cm程深くなる部分をもち、南側に約30cm、約40cmの深さをもつピットがみられる。

#### 30号土壇（第69図）

77号住居地の中央、北寄りに位置する。住居地床面を長軸約120cm、短軸約70cm、深さ約10cm掘り込んで構築している。北西部と南東部の2ヶ所に人骨片が確認され、その他西側中央部からは完形のかわれかけ、中央南寄りから銅銭6枚（永楽通宝、元祐通宝、皇宋通宝2枚、不明2枚）が検出されている。

#### 31号土壇（第69図）

77号住居地の中央、30号土壇の南に位置する。長径約90cm、短径約50cm、深さ5cm程度確認できる。出土遺物はないが、壇内に若干の集石がみられる。

#### 32号土壇（第69図）

33号土壇の東に位置し、38号土壇と切り合っている。直径180cmの不整円形の平面をもち、深さ約20cmを測る。南側にテラスをもつが比高は少なく不明瞭な部分が多い。出土遺物はなく、38号土壇とも前後関係は不明である。

#### 33号土壇（第70図）

78号住居址の南東部を切って構築され、長径約110cm、短径約70cmの楕円形、深さは約20cmを測る。埴内北側から銅銭数枚が検出されている。

#### 34号土壇(第70図)

78号住居址の南部に位置し、住居址床面を長径約120cm、短径約70cm、深さ約20cm掘り込んでいる。平面は楕円形である。銅銭3枚(永楽通宝、元宝通宝)が検出されている。

#### 35号土壇(第70図)

75号住居址の東、79号住居址を切って長径約110cm、短径約80cm、深さ約10cmの規模で楕円形に掘り込んでいる。銅銭2枚を検出した。

#### 36号土壇(第70図)

80号住居址の東隅に位置し、長軸約80cm、短軸約50cm、深さ約60cmの長方形に掘り込んでいる。埴内にわずかな集石がみられ、人骨片も2ヶ所に確認できる。また埴外に瓦破片や人骨片が確認できることから図示、計測した規模よりも実際は大きかったと考えられる。

#### 37号土壇(第70図)

78号住居址の東、28号土壇の南に位置する。長径約120cm、短径約80cm、深さ約20cmの楕円形を示す。出土遺物はない。

#### 38号土壇(第69図)

27号土壇の南に位置し、32号土壇と切り合う。直径約180cm、深さ約10cmの不整形円形、床に深さ10cm程度の小ピットを数個もつ。遺物の出土はない。

#### 39号土壇(第70図)

75号住居址の西北隅を切り、長径約100cm、短径約80cmの不整形楕円形を示す。深さ約30cmを測り、人骨片が確認され、他に銅銭数枚(皇宋通宝他)の出土がみられる。

#### 40号土壇(第66図)

22号土壇の南に位置し、溝に切られている。長径約115cm、短径約80cmの不整形楕円の平面をなすようであるが、南北で土壇が重複している可能性がある。また東側の立ちあがりの下から人骨を納めた蔵骨器が検出され深い位置でもあり、その出土状態から別個の遺構が存在したとも考えられる。出土遺物は図示した浅い部分で人骨片と播り鉢片、22号土壇との間に平瓦片がある。

#### 41号土壇(第67図)

22号土壇の北に位置し、長径約130cm、短径約100cmの円形を示している。集石を伴い、それらに混って軒丸瓦や平瓦などが検出されている。

#### 42号土壇(第67図)

41号土壇の東に位置し、若干崩れた長方形を示し長辺約100cm、短辺約60cm、深さ30cmを測る。遺物の出土はみられなかった。

## 3 出土遺物

社具路遺跡1号住居址出土遺物(第71図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(17.5)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(内面接合痕部分的に明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面炭素付着 色・橙褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
高環	2	口径 20.0 器高 16.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と環底部 環底部と環縁部接合 整・外面 脚部ヘラケズリ 内面 脚部螺旋状ナデ 環底部ナデ 環縁部内外面ヨコナデ 形・裾部及び環縁部大きく歪む 焼・著 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
甕	3	口径(12.6)	胎・角閃石 石英 成・頸部接合(接合痕明瞭) 整・外面 胴部ナデ 内面 胴部ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
埴	4	口径(12.0)	胎・白色粒子 角閃石 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラミガキ 内面 胴部ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
埴	5	口径(15.5) 器高 7.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ナデ 内外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・口縁部極痕有り 残・ $\frac{1}{2}$

社具路遺跡2号住居址出土遺物(第71図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
器台	6	器受部口径 8.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と器受部接合 整・外面 脚部及び器受部ヘラミガキ 内面 脚部ハケ調整 器受部ナデ 形・脚部孔は3ヶ所 焼・著 色・赤褐色 使・口唇部小さな欠損多 残・脚部上半 器受部 $\frac{1}{2}$

社具路遺跡3号住居址出土遺物(第71図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
台付 甕	7	台径 7.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と胴部接合 整・外面 脚部ナデ後ハケ調整 内面 脚部ナデ 焼・著 脚部一部炭素付着 色・橙褐色 残・脚部
甕	8		胎・白色粒子 角閃石 成・底部と胴部接合 整・胴部内外面ヘラケズリ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部下半 $\frac{1}{2}$
環	9	口径(13.1)	胎・角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ

坏	10	口径(13.6) 器高 4.5	内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・底部口縁部欠 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・底部 口縁部一部
坏	11	口径 12.7 器高 4.6	胎・白色粒子 角閃石 石英 雲母末 成・底部と口縁部接合 整・外面底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・欠
埴	12	口径 13.3 器高 6.1	胎・石英 細砂 整・胴部内外面ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・欠
坏	13	口径 12.6 器高 6.0	胎・角閃石 石英 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・外面 底部炭化物附着 残・口縁部欠損
坏	14	口径(13.0) 器高 4.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・口縁部欠

社具路遺跡4号住居址出土遺物(第71・72図)

器種	番号	法量 (cm)	特徴
甗?	15	口径 24.6	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 胎土細 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・内外面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 外面胴部ミガキ痕有り 焼・著 外面胴部及び口縁部に炭素附着 色・橙褐色 残・胴部上半
甗	16	口径 18.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 砂粒 小石 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(横位) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・淡橙褐色 残・胴部一部 口縁部
高坏	17	口径 24.4 口径 20.8 器高 17.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 微砂粒 緻密 成・裾部と脚部 脚部と坏底部(楯状粘土で接合) 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部及び坏縁部暗文状ミガキ 内面 脚部絞り痕 坏縁部井ゲタ様暗文状ミガキ 口唇部一周するように暗文状ミガキ 裾部及び坏底部内外面ヨコナデ 焼・良色・赤褐色 残・ほぼ完形
台付埴	18	口径 15.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と底部 底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ナデ 内面 胴部ヘラケズリ 内外面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・著 外面胴部及び口縁部炭素附着 色・橙褐色 残・脚部欠損
高坏	19	口径 18.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・内外面 坏底部ナデ 坏縁部ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・内外面坏底部及び坏縁部環状に炭化物附着 内面風化剝離 残・坏底部 坏縁部



高坏	2 0	口径 17.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合(接合前ハケ調整) 整・外面 坏底部ハケ調整 坏縁部ナテ後ハケ調整 内面 坏底部部分的にハケ調整 坏縁部ハケ調整 焼・普色・橙褐色 残・坏底部 坏縁部 $\frac{1}{2}$
高坏	2 1	口径 18.9 器高 16.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部ナテ 内面 脚部紋り及びびナテ 内外面 裾部ヨコナテ 坏底部ナテ 坏縁部ヨコナテ 焼・普色・橙褐色 使・内面坏底部及び坏縁部風化剝離 残・裾部 $\frac{1}{2}$ 欠損
高坏	2 2	口径 17.6 器高 15.4	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・裾部と脚部(脚部粘土帯積み上げ) 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・裾部及び脚部ヨコナテ後ヘラミガキ 坏底部ナテ 内面 裾部ヨコナテ 脚部ナテ 坏底部ナテ後暗文 坏縁部内外面ヨコナテ後暗文 焼・普 外面裾部及び坏縁部一部炭素付着色・橙褐色 残・ほぼ完形
高坏	2 3	口径(21.4)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 坏底部ナテ 坏縁部ヨコナテ 内面 坏底部及び坏縁部ナテ後暗文 焼・普色・橙褐色 使・二次的熱による風化著しい 残・坏底部 坏縁部 $\frac{1}{2}$
埴	2 4	口径(15.2)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ハケ調整 内面 胴部ナテ 口縁部内外面ヨコナテ後暗文 焼・普色・赤褐色 残・胴部及び口縁部一部
埴	2 5		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部ヘラ切り 底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナテ 口縁部ナテ 内面 胴部ナテ(ヘラオサエ有り) 口縁部ヨコナテ(ヘラオサエ有り) 焼・普色・橙褐色 使・強い二次的熱により胴部ヒビ割れ 残・口唇部欠損
埴	2 6	口径(12.5) 器高( 5.9)	胎・白色粒子 褐鉄粒 焼・悪色・灰褐色 使・外面強い二次的熱による発泡 内面風化剝離著しい 残・ $\frac{1}{2}$
埴	2 7	口径( 9.8) 器高( 8.3)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部上がり底 底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナテ 内面 底部ヘラオサエ有り 胴部ナテ 口縁部内外面ヨコナテ 焼・普色・黒褐色~橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
埴	2 8	口径 11.2 器高 11.3	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・胴部上半と下半 頸部接合 整・外面 胴部下位ナテ後部分的にハケ調整 中位ナテ 上位ナテ後ハケ調整その後 頸部ヨコナテ 内面 胴部ナテ 口縁部内外面ヨコナテ 焼・普 外面胴部一部炭素付着色・褐色 残・ $\frac{1}{2}$
埴	2 9		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ後ナテ 胴部上半ナテ 内面 胴部ナテ 焼・良色・橙褐色 使・外面より1.7×0.3cmの刺痕 残・胴部 $\frac{1}{2}$

社具路遺跡5号住居址出土遺物(第72図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	30		胎・角閃石 褐鉄粒 石英 0.1~0.2cm 砂粒	成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・普 色・灰褐色 出・床直 接・第3号住居と接合 残・底部 胴部一部
器台	31	底径 18.6	胎・砂粒多 微砂粒 雲母か?	整・外面 脚部クテハケメ 裾部ヨコナデ後ヘラミガキ 内面 脚部ヨコハケメ 裾部ヨコナデ 形・裾端部反りあがる 脚孔9ヶ所 焼・良(堅緻) 色・赤褐色 残・裾部 脚部
鉢	32	口径 12.3 器高 5.3	胎・褐鉄粒 細砂	整・外面 底部ヘラケズリ 胴部内外面ヘラミガキ 形・器形重む 焼・普 外面一部炭素付着 色・赤褐色 残・片

社具路遺跡7号住居址出土遺物(第72図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	33		胎・角閃石 褐鉄粒	成・底部と胴部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部風化不明瞭 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 胴部ナデ 焼・普 色・橙褐色 残・底部

社具路遺跡8号住居址出土遺物(第72図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
台付 甕	34	口径(14.2) 器高 32.6	胎・精	整・外面 台部下部ナデ 上部ハケ調整 胴部ハケ調整 口縁部ヨコナデ 内面 台部下部指頭による押え 中部ナデ 上部ヘラ調整 底部ヘラ調整痕 胴部ナデ 形・口縁部はS字状やや立ち上がりぎみに外へ開く 胴部上半に最大径をもつ無花果形 台部は直線的にハの字に開く 台部端部は折り返し 焼・良 色・黄褐色 使・胴部外面に煤付着 残・胴部片及び口縁部欠損
甕	35	口径 8.9 器高 12.7	胎・角閃石 褐鉄粒 砂粒多	成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・内外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・ややあまい 色・暗褐色 残・胴部片及び口縁部欠損
埴	36	口径 17.3 器高 5.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 微砂 緻密	成・底部僅かに上がり底 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ミガキ 内面 胴部ミガキ 口縁部ミガキ(ミガキの前に指頭圧痕) 形・頸部の棱は丸棒工具で細かくナデつけることによって作り出す(仕上りはミガキ風) 焼・普 色・赤褐色(口縁部黒褐色) 残・ほぼ完形

社具路遺跡9号住居址出土遺物(第73~78図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	1	口径 16.8 器高 33.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英	成・底部と胴部下半 下半と上半(接合部分で分離) 胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部下半ヘラケズリ後ナデ 上半ナデ 口縁部ヨコナデ

甕	2	口径 17.2 器高 27.1	内面 胴部下半ヘラナデ 上半ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ (ヘラオサエ有り) 焼・著 外面胴部炭素付着 色・上半 暗褐色 下半 赤褐色 使・上半風化著しく下半とは別個体と間違いやすい 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 欠胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ナデ後ヘラミガキ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部最大径部分環状に炭化物付着 残・ほぼ完形
甕	3	口径(16.8) 器高 24.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底面上がり底 底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部下位ナデ 中位及び上位ハケ調整 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・暗赤褐色 使・外面底部及び胴部と内面胴部環状に炭化物付着 残・ほぼ完形
甕	4	口径 17.8 器高 24.6	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ナデ後ヘラ調整 (ヘラ調整前のななめの丸棒状調整痕残る) 口縁部ヨコナデ (ヘラオサエ有り) 内面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形
甕	5	口径 17.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・内外面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 使・外面胴部及び口縁部炭化物付着 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部
甕	6	口径(16.4)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・内外面 胴部ハケ調整 口縁部ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	7	口径 17.2 最大径18.6	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・内外面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・著 色・暗褐色 使・外面胴部及び口縁部炭化物付着 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 及び底部欠損
甕	8	口径 17.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 頸部外面折り返り状 整・外面 胴部ナデ後ハケ調整 内面 胴部ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ (ヘラオサエ有り) 焼・著 口縁部内外面炭素付着 色・暗褐色 使・外面胴部炭化物付着 一部風化剝離 残・底部欠損
甕	9	口径 18.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ナデ 内面 胴部ナデ (弧状ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 使・外面胴部及び口縁部炭化物付着 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 欠損
甕	10	口径 14.6 器高 21.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部下半 下半と上半 (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・内外面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 形・器形歪む 焼・著 色・暗褐色 使・内外面炭素付着 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損
甕	11	口径 13.3 器高 19.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部下半ナデ 上半粗いハケ調整 内面

甕	1 2	口径(13.8)	底部ナデ 胴部ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・暗褐色 使・外面全体的に煤付着 内面口縁部及び胴部一部に炭化物付着 外面胴部部分的に剝離 残・胴部及び口縁部一部欠損 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部上半粘土帯積み上げ 頸部接合 口縁部二段積み上げ 整・外面 胴部ミガキ状ヘラケズリ 内面 胴部ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・暗褐色 使・外面胴部炭化物付着 残・胴部上半
甕	1 3	口径 14.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 胴部上半粘土帯積み上げ 整・外面 胴部ナデ 内面 胴部上半ナデ 下半ヘラケズリ 頸部内外面指頸圧痕 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・胴部外面一部炭素付着 残・胴部及び口縁部
甕	1 4	口径 14.6 器高(15.9)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 胴部 中位弧状ヘラナデ 上位ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・赤褐色 使・外面胴部に炭化物付着 残・胴部 口縁部
甕	1 5	口径 12.5 最大径13.3	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ナデ 内面 胴部ヘラケズリ 頸部指頸圧痕 口縁部内外面ヨコナデ 焼・外面胴部及び口縁部内外面炭素付着色・暗褐色 使・外面胴部煤付着 外面胴部及び口縁部一部剝離 残・胴部下半欠損
甕	1 6	口径 15.3	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・内外面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 形・外面頸部棒状工具による横引き 焼・著 内外面炭素付着 色・暗褐色 残・胴部上半
甕	1 7	底径 7.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・底部と胴部下位 下位と中位接合 整・胴部内外面ヘラケズリ後ナデ 焼・著 外面胴部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部下位
甕	1 8	底径 8.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部剝離 胴部ナデ 焼・著色・橙褐色 残・底部 胴部一部
台付甕	1 9	台径(11.9)	胎・白色粒子 黑色粒子 石英 成・台部と底部接合 整・内外面 台部ナデ 焼・著色・暗灰褐色 残・台部
高坏	2 0	口径 22.0 器高 19.2	胎・白色粒子 角閃石 石英 胎土精 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 裾部ヨコナデ後暗文状ヘラミガキ 脚部ヘラケズリ後ナデ 内面 裾部ヨコナデ 脚部ナデ 坏部内外面ヨコナデ 後暗文状ヘラミガキ 形・器形歪む 焼・良色・赤褐色 残・裾部欠損 備・脚部上部に点列刺突 坏部に外側から突痕貫通(0.9×1.5cm)

高坏	2 1	口径(19.7) 器高(15.9)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・裾部と脚部(脚部巻き上げ) 脚部と 坏部臍状粘土接合 整・外面 脚部ヘラケズリ後ミガキ 坏底部ヘラケズ リ 内面 脚部ヘラ整形 坏底部ヘラミガキ 内外面 裾部ヨコナデ 坏 縁部ヨコナデ(外面暗文状波状ヘラミガキ) 形・器形歪む 焼・良 色 ・橙褐色 残・裾部及び坏縁部欠損
高坏	2 2	器高 16.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部(脚部巻き上げ) 脚部と坏底部(臍状粘土) 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部ヘラケ ズリ後ナデ 坏底部ナデ 内面 脚部ナデ 坏底部風化不明瞭 内外面 裾部及び口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・外面裾部一部炭素付 着 残・坏縁部欠損
高坏	2 3	口径 17.0 器高 15.6	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部(臍状粘土) 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部ナデ(ヘラケズリ痕有り) 坏底部 ナデ 内面 脚部 巻き上げ後ナデ 内外面 裾部及び口縁部ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・内面底部剝離(二次的熱か?) 残・裾部及び 坏縁部一部欠損
高坏	2 4	口径 16.8 器高 15.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部( 臍状粘土) 坏底部と坏縁部接合 脚部粘土帯巻き上げ 整・外面 坏底 部ナデ 内面 坏底部剝離 内外面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ後ナ デ 坏縁部ヨコナデ 形・作り粗雑 器形歪む 焼・善 色・赤褐色 残 ・裾部及び坏縁部一部欠損
高坏	2 5	器高 13.3	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部(臍状粘土 ) 坏底部と坏縁部接合 脚部粘土帯巻き上げ 接地部分粘土クズ付着 整・外面 脚部ヘラケズリ 内面 脚部ナデ 内外面 裾部ヨコナデ 坏 底部ナデ(内面ヘラオサエ有り) 坏縁部ヨコナデ(内面ヘラオサエ有り ) 形・器形大きく歪む 焼・良 色・黄褐色 残・坏縁部欠損
高坏	2 6	口径(20.6)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部( 臍状粘土) 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部ヘラケズリ後ヘラミガ キ 内面 脚部紋り痕 内外面 裾部及び坏縁部ヨコナデ(坏縁部外面ヘ ラ引き) 焼・良 色・橙褐色 使・坏部内面風化 残・裾部欠損
高坏	2 7	口径 21.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と 坏縁部接合 整・外面 脚部ヨコナデ 坏底部ナデ 内面 脚部下半ナデ 上半紋り痕 内外面 裾部及び坏縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使 ・坏部内面剝離 残・裾部欠損
高坏	2 8	口径 18.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部ヘラミガキ 坏底部ナデ 坏縁部ヨコナデ 内面 脚部ヘ ラケズリ 坏底部及び坏縁部風化不明瞭 焼・善 色・橙褐色 使・坏部

高坏	2 9	口径 17.3	内面風化 残・脚部下半以下欠損 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部ヘラミガキ 坏底部ヘラケズリ後ナ デ 内面 脚部ヘラケズリ 内外面 裾部及び口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・坏部内面風化著しい 残・裾部欠損
高坏	3 0	口径 22.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・坏底部と坏縁部接合（接合部 分で分離） 整・坏縁部内外面ヨコナデ後暗文 焼・著 坏縁部内外面炭 素付着 色・橙褐色 残・坏縁部
高坏	3 1	口径(20.5)	胎・白色粒子 角閃石 石英 胎土精 成・坏底部と坏縁部接合 接合部 分で分離 整・坏縁部内外面ヨコナデ後暗文状波形ヘラミガキ 稜は丁寧 なヨコナデ 口唇部切り離しのままの状態 焼・良 堅緻 色・赤褐色 残・口縁部ㄥ
高坏	3 2	口径 21.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と坏底部騎状粘土で接合 坏底部と坏縁部接合 整・外面 坏底部ナデ後暗文状ヘラミガキ 内面 坏底部ナデ 坏縁部内外面ヨコナデ後暗文状ヘラミガキ 焼・良 外面坏 縁部一部炭素付着 色・赤褐色 残・坏底部 坏縁部
高坏	3 3	口径 19.9	胎・白色粒子 角閃石多 褐鉄粒 砂粒 成・坏底部と坏縁部接合 脚部 と坏底部騎状粘土で接合 整・内外面 坏底部ナデ 坏縁部ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 残・坏底部 坏縁部
高坏	3 4	口径 21.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・脚部と坏部騎状粘土で接合 整・外面 坏底部ヘラケズリ後ナデ 内面 坏底部ナデ 坏縁部内外面ヨコナデ後暗 文状ヘラナデ 焼・良 色・赤褐色 使・外面炭素付着 残・坏部ㄥ
高坏	3 5	口径 20.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・坏底部と坏縁部接合 整・外 面 坏底部ナデ 内面 坏底部ヘラナデ 坏縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内面坏縁部一部炭素付着 残・坏部 39と接合
高坏	3 6	口径 17.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・脚部と坏底部騎状粘土で接合 整・外 面 坏底部剝離 坏縁部ヨコナデ後暗文状ヘラミガキ 内面 坏底部ナデ 坏縁部ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・坏部
高坏	3 7	口径(19.8)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 整・内外面 坏底部ナデ 坏縁部ヨコナデ 形・器形歪む 焼・著 色・橙褐色 残・坏部ㄥ
高坏	3 8	裾径(15.6)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部接合 脚部粘土帯 巻き上げか？ 整・外面 裾部及び脚部暗文状ヘラミガキ 内面 裾部ヨ コナデ 脚部紋り痕有り 焼・良 色・赤褐色 残・裾部ㄥ 脚部
高坏	3 9	裾径 14.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 接合 整・外面 脚部ナデ 内面 脚部ナデ（紋り痕有り） 裾部内外面 ヨコナデ 焼・ 著 色・橙褐色 残・裾部 脚部 35と接合

高坏	4 0	裾径 13.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部接合 整・外面 脚部ナデ 内面 脚部紋り後ナデ 整形後脚部と坏部接合部分外面に粘土 貼付ヲ周 焼・著 色・橙褐色 残・裾部 脚部
高坏	4 1	裾径(13.8)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部接合 脚部粘土紐 巻き上げ 整・外面 脚部ヘラケズリ後ナデ 内面 脚部上半紋り痕 下 半ナデ 裾部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 残・裾部 脚部
高坏	4 2	裾径 11.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部接合 整・外面 脚部ナデ 内面 脚部ヘラケズリ後ナデ 裾部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・裾部 脚部
高坏	4 3	裾径 13.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部接合 脚部粘土巻 き上げ 整・外面 脚部ナデ 内面 脚部紋り痕 裾部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・裾部ヲ 脚部
高坏	4 4	裾径 11.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部接合 脚部粘土紐 巻き上げ 裾下面粘土クズ付着 整・外面 脚部ヘラケズリ後ナデか? 内面 脚部ナデ 裾部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・坏部欠
高坏	4 5	裾径 14.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部接合 整・外面 脚部ナデ 内面 脚部紋り後ナデ 裾部内外面ヨコナデ 焼・良 内面裾 部一部炭素付着 色・橙褐色 使・脚部大きく剝離 残・裾部 脚部
高坏	4 6		胎・白色粒子 角閃石 石英 成・脚部と坏底部駢状粘土で接合 脚部粘 土帯巻き上げ 整・外面 脚部ヘラケズリ後ナデ 内面 脚部紋り痕 坏 底部内外面ナデ 焼・著 色・橙褐色 残・脚部 坏底部ヲ
高坏	4 7		胎・白色粒子 褐鉄粒 微砂 緻密 成・脚部と坏底部接合 整・外面 脚部ミガキ 脚部と坏底部接合部ナデ 坏底部ミガキ 内面 脚部横位の ハケ後ナデ 形・焼成前に脚部に穿孔三ヶ所 焼・良 色・赤褐色 残・ 脚部一部 坏底部
器台	4 8	口径 7.8	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と受部接合 整・脚部内面ヘラケズ リ及びハケ調整他はナデ後丁寧なヘラミガキ 形・径 1.3cmの穿孔三ヶ所 中央に径 1.0cmの孔を穿つ 焼・著 色・赤褐色 残・脚部一部 受部ヲ
堝	4 9	口径 14.4 器高 6.1	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 底ヘラケ ズリ 胴部ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部先端内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・口縁部一部欠損 備・内面胴部紐痕
堝	5 0	口径 10.7 器高 7.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整 ・外面 底部ヘラケズリ 胴部ナデ 内面 胴部下半ナデ 上半ヘラケズ リ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内面炭素付着 色・暗褐色 使・外 面炭化物付着 残・底部ヲ 胴部ヲ 口縁部
堝	5 1	口径 9.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接

塊	5 2	器高 7.6 口径 13.1	合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 頸部ハケ状工具痕 内面 胴部ナデ(下半指ナデ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・橙褐色 使・外面胴部炭化物付着 残・口縁部欠損
		器高 5.3	胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・器形歪む 焼・蒼 外面胴部一部 炭素付着 色・橙褐色 使・内面底部剝離 残・口縁部一部欠損
塊	5 3	口径 11.5 短径 10.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部と口縁部接合 整・内外面 胴 部ナデ 口縁部ヨコナデ 形・器形歪む 焼・蒼 内面胴部一部炭素付着 色・赤褐色 残・底部欠損
	5 4	口径 13.9 器高 4.7	胎・白色粒子 角閃石 石英 胎土細 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部ナデ後暗文 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・赤褐色 残・ほぼ完形
手捏	5 5	口径 6.2 器高 4.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・手捏ね 整・外面 底ヘラケ ズリ 胴部内外面ナデ 焼・蒼 内外面炭素付着 色・橙褐色 残・口縁 部欠損
	5 6	口径( 5.7) 器高 4.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・手捏ね 整・外面 底部及び胴部下 半ヘラケズリ 胴部上半ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 外面底部 炭素付着 色・橙褐色 使・内面一部剝離 口唇部打ち欠きか? 残・口 唇部大部分欠損
埴	5 7	口径 16.0 器高 16.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部(接合痕明瞭) 頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 底部弧状ヘ ラケズリ 胴部ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ後暗文 焼・蒼 内外 面胴部炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形
	5 8	口径 12.7 器高 15.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 細砂 成・頸部接合(口縁部二段積み上 げ) 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部剝離不明瞭 口縁部内外面ミズビキヨコナデ(外面一部暗文) 焼・蒼 色・明褐色 使・胴部内面剝離 残・ほぼ完形
埴	5 9	口径 14.0 器高 15.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 接合 痕明瞭 整・外面 底部及び胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部 ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ後暗文 焼・蒼 色・橙褐色 残・ほぼ 完形(口縁部一部欠損)
	6 0	口径 12.0 器高 14.9	胎・角閃石 褐鉄粒 細砂多 成・頸部接合 胴部粘土帯積み上げ 整・ 外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部ヘラケズリ 口縁部内 外面ヨコナデ 焼・蒼 色・橙褐色 使・胴部内面を除き風化剝離著しい 残・ほぼ完形(胴部及び口縁部一部欠損)
埴	6 1	口径 9.9	胎・白色粒子 角閃石 石英 胎土精 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接



		器高 12.2	合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ後丁寧なナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ミズビキ 焼・普 色・暗褐色 残・ほぼ完形(口縁部欠損)
埴	6 2	口径 11.3 器高 10.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ後ヘラミガキ 焼・普 内外面胴部下半環状に炭素付着 色・赤褐色 使・口縁部外面に斜めの細い創傷が集まって幅0.3cm長さ5cmの傷となる 残・ほぼ完形(口縁部一部欠損)
埴	6 3	口径 10.4 器高 11.0	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ後暗文 焼・普 外面炭素付着 色・橙褐色 使・内面底部剝離 残・欠
埴	6 4	口径 12.5	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・内外面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ(ヘラオサエ有り) 焼・普 色・橙褐色 残・底部欠損
埴	6 5		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 胴部内外面ナデ 焼・普 外面底部一部及び胴部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部及び口縁部欠損
埴	6 6	口径 8.3 器高 9.7	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・暗灰褐色 使・二次的熱受けて風化 残・口縁部欠損
埴	6 7	器高( 9.4)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 外面炭素付着 色・橙褐色 残・胴部下半欠損 口縁部欠損
埴	6 8	口径 9.8 器高 9.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 接合面細かいハケ状工具によって整える 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・器形歪む 焼・普 色・橙褐色 残・ほぼ完形
埴	6 9	口径( 9.3) 器高 10.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部剝離不明瞭 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部は非常に薄い 焼・普 外面一部炭素付着 色・赤褐色 残・口縁部欠損
埴	7 0	口径 9.1 器高 9.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 外面胴部及び内面口縁部炭素付着 残・ほぼ完形(口縁部一部欠損)

罎	7 1	口径 9.7 器高 9.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 作り雑 整・外面 胴部ヘラケズリ及びナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内 外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・赤褐色 残・口縁部 欠損
罎	7 2	口径(10.6) 器高( 9.0)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケ ズリ 上半ナデ 内面 胴部指ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色 ・橙褐色 残・縦に欠
罎	7 3	口径 8.9 器高 8.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部下 半ヘラケズリ 上半ヘラミガキ状 内面 胴部ナデ(弧状ヘラ痕有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・口縁部欠損
罎	7 4	口径 8.2 器高 8.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘ ラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面胴部 及び口縁部炭素付着 色・橙褐色 残・完形
罎	7 5	口径 9.0 器高 8.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部上がり底 底部と胴部 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ナデ 内面 胴部ナデ(指ナ デ)口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ほぼ完形
罎	7 6	口径 9.5 器高 8.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 底部及び胴部下 半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 良 色・明褐色 残・ほぼ完形
罎	7 7	口径( 9.2) 器高 8.4	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 内面接合痕明瞭 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(指頭痕有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 残・縦に欠
罎	7 8	口径 8.8 器高 7.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 接合痕明瞭 整・ 外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 口 縁部内外面ヨコナデ(ヘラ痕) 焼・著 色・赤褐色 残・口縁部欠損
罎	7 9	口径( 8.1) 器高 8.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部下半指ナデ 胴部上半ナデ 口縁部内外面ヨコナデ(内面弧状ヘラ調整か) 焼・著 色・橙褐色 残・欠
罎	8 0	口径 7.9 器高 7.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 内面 接合痕明瞭 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ナデ 内面 底部指ナデ 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・胴部偏平 手捏風 焼・著 色・ 橙褐色 残・ほぼ完形(口唇部欠損)
罎	8 1	器高 8.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部下 半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部指ナデ(弧状ヘラ整形) 口縁部内 外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部欠 口縁部一部

増	8 2	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 胴部ヘラケズリ 肩部ヨコナデ 内面 胴部指ナデ 焼・著 外面炭素付着 色・橙褐色 残・胴部
増	8 3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部指ナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$
増	8 4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合(内面接合痕明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部ヘ ラナデ 胴部ナデ 焼・著 外面縦半分炭素付着 色・暗褐色 残・口縁 部欠損
増	8 5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 手抱風 整・胴部 内外面ヘラナデ(ヘラ痕有り) 内面 底部指頸調整 口縁部ハケ調整か ? 焼・著 色・橙褐色 残・口縁部欠損

社具路遺跡1 | 1号住居址出土遺物(第79図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(18.4) 器高 33.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 0.1~0.3cm大小石 石英 成・底部と 胴部下半 胴部下半と上半 頸部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 接合部分ヘラケズリ 口縁部内外面ヨ コナデ 形・器形大きく歪む 焼・著 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
甕	2	口径 17.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 頸部にヘラ調整有り 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨ コナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$
坏	3	口径(13.6)	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケ ズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使 ・風化著しい 残・ $\frac{1}{2}$
高坏	4	裾径 11.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・坏底部と口縁部接合 整・外面 裾部 及び脚部ヘラケズリ後ヨコナデ 内面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ 焼・著 色・橙褐色 残・裾部 脚部
高坏	5	裾径 10.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部接 合 整・外面 脚部ヘラケズリ 内面 脚部ヘラケズリ 裾部内外面ヨコ ナデ 焼・著 色・橙褐色 使・風化著しい 残・裾部 $\frac{1}{2}$ 脚部

社具路遺跡1 | 2号住居址出土遺物(第79・80図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	6	口径(16.7)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 小石 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨ コナデ 焼・著 色・赤褐色 使・一部焼土付着 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$

壺	7	器高 12.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 口縁部二段積み上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 使・底部摩耗 残・ $\frac{1}{2}$
壺	8	口径(14.8) 器高(13.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 内面黒色 使・内面炭化物付着 残・ $\frac{1}{2}$
壺	9	口径 22.3 器高 32.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下位と中位 胴部中位と上位 頸部接合か？ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 使・外面 胴部及び口縁部炭化物付着 内面 風化剝離部分的多 残・ほぼ完形
壺	10	口径(17.6) 器高 26.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部下半 胴部下半と上半（胴部粘土帯積み上げ） 頸部接合（口縁部三段積み上げ） 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラ調整多） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・黒褐色 灰褐色 赤褐色 使・胴部内外面炭化物付着 残・底部 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部
壺	11	口径 15.2 器高(30.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 小石 石英 成・底部上がり底 底部と胴部下位 胴部下位と中位 胴部中位と上位（胴部粘土帯積み上げ） 頸部接合（口縁部二段積み上げ） 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ（ヘラオサエ有り） 焼・善 胴部内外面及び口縁部一部炭素付着 色・橙褐色 使・胴部外面一部焼土及び炭化物付着 残・ $\frac{1}{2}$ 備・図上復原
鉢	12	口径 11.4 器高 5.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 不明 内面 ヘラケズリ 形・壺としての製作過程で鉢としたものか 胴口縁 焼・善色・橙褐色 残・口縁部一部欠損
坏	13	口径 12.9 器高 4.7	胎・白色粒子 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部先端に沈線を施す 焼・良色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
坏	14	口径(12.2)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 残・底部 口縁部一部
坏	15	口径 11.9 器高 4.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
壺	16	口径(17.8)	胎・石英 黒色粒子 整・内外面クロミズビキ 焼・善 自然釉グマリ色・器表暗灰褐色 器肉小豆色 残・ $\frac{1}{2}$
坏	17	口径(12.7)	胎・石英 黒色粒子 成・底部糸切り後周囲回転ヘラケズリ 整・内外面

器高	3.7	ロクロミズビキ 焼・著色・灰褐色 残・口縁部欠損
----	-----	--------------------------

## 社具路遺跡13号住居址出土遺物(第81~84図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(17.2) 器高 33.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 砂粒多 石英 成・底部上がり底風 底部と胴部 接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ 内面 底部ヘラオサ エ(指頭オサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・外面 橙褐 色 内面 赤褐色 残・胴部欠 口縁部欠
甕	2	口径 18.6	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・頸部接合 整・外面 胴部ナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ(稜部は丸棒状工具による) 焼・ 著色・橙褐色 出・電付近 残・胴部一部 口縁部欠
甕	3	口径 17.9 器高 27.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 胴部及び口 縁部粘土帯積み上げ 接合痕明瞭 整・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキン グ痕有り) 内面 胴部ヘラオサエ後指ナデ(横位にランダム) 口縁部 内外面ヨコナデ 焼・良色・赤褐色 使・底部内面炭化物付着 出・電 内 残・胴部欠損
甕	4	口径 17.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・焼土付着 二次的熱受ける 出・電付近 残・胴部上半 口縁部
甕	5	口径 15.8 器高 28.9	胎・白色粒子 石英 胎土粗 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ヘラオサエカ) 口縁部内外面ヨコナデ 形・歪み著しい 焼・ややあ まい(黒斑有り) 色・暗褐色 使・胴部焼土付着 残・胴部欠損
甕	6	口径 17.8	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・ 外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 橙褐色 使・口縁部内面リング状に炭化物付着 全体に二次 的熱受ける 胴部下位剝離著しい 出・床直 残・胴部欠 口縁部欠
甕	7	口径(19.8)	胎・白色粒子 褐鉄粒 砂粒多 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合 整・外面 胴部ヘラケズリ 指ナデ 内面 胴部ヘラオサエ 口縁部 内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 赤褐色 残・胴部上半 口縁部欠
甕	8	口径 16.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 成・ 外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部上半 口縁部
甕	9	口径 18.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズ リ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ややあまい 色・黄褐 色 使・胴部外面焼土付着 出・電付近 残・胴部一部 口縁部

壺	10	口径 17.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラオサエ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・胴部上半 口縁部
壺	11	口径 20.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒多 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・淡赤褐色 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
壺	12	口径 19.3	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 胎土粗 成・頸部接合 整・口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面に黒斑 色・淡橙褐色 出・龜漸 残・口縁部
壺	13		胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・底部と胴部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 胴部ヘラナデ 形・底部僅かに平底 焼・著色・赤褐色 出・床直 残・底部 胴部
壺	14	底径 9.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部接合(胴部粘土帯積み上げ) 接合に乾燥単位有り 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・著色・黄褐色 出・甕付近 残・底部 胴部
壺	15	底径 7.4	胎・白色粒子 石英 褐鉄粒 雲母 成・底部と胴部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(底部付近ヘラオサエか?) 焼・悪 黒斑有り 色・暗褐色 使・焼土付着 出・甕内 甕付近 残・底部 胴部下半
壺	16	口径 14.5	胎・白色粒子 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・赤褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
壺	17	口径 13.2 器高 11.0	胎・白色粒子 角閃石 雲母 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部下半ナデ 上半横位のナデ(丸棒状工具による) 口縁部内外面ヨコナデ 形・底部を意図的に穿孔か? 焼・著色・赤褐色 使・焼土付着 二次的熱受ける 出・甕内 残・底部欠損
壺	18	口径 11.0 器高 11.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著(底部に黒斑有り) 色・赤褐色 使・口縁部内側環状に擦痕 出・床直 残・底部 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部
瓶	19	口径 19.0 器高 19.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部丸棒状工具ミガキ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・外面 二次的熱受ける 内面胴部下半色調に変化有り 出・床直 残・ $\frac{1}{2}$
瓶	20	底径 4.6	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・底部と胴部接合 整・孔部棒状工具で穿孔 外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・著色・赤褐色 残・底部 $\frac{1}{2}$ 胴部 $\frac{1}{2}$

瓶	2 1	口径 14.7 器高 12.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・孔部ヘラ切り 底部と胴部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 底部ナデ 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ後ヘラオサエ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 使・胴部下半擦痕一周 内外面に白色粘土状物質付着 外面口縁部に二次的熱を強く受けた痕跡 残・ほぼ完形
瓶	2 2	口径 13.8 器高 10.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り(外側から) 胴部上半接合 整・胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 黒斑有り 色・橙褐色 赤褐色 使・二次的熱を受け剝離部分有り 出・床直 残・完形
鉢?	2 3	口径 11.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 赤褐色 出・竜付近 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部
鉢	2 4	口径 18.1 器高 15.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 赤褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損
鉢	2 5	口径 11.8 器高 10.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ナデ(粘土帯接合部指頸オサエ) 内面 底部ヘラオサエ 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 黒斑有り 色・赤褐色 出・床直 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部
高坏	2 6	口径 11.6	胎・白色粒子 雲母 緻密 成・脚部と坏底部接合 整・外面 脚部ナデ(ヘラナデか?) 坏底部ヘラケズリ 内面 脚部ヘラケズリ 坏底部ナデ 裾部内外面ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 残・坏縁部欠損
埴	2 7	口径 13.2 器高 8.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラオサエ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 黒斑有り 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
埴	2 8	口径 9.8 器高 5.3	胎・白色粒子 角閃石 0.1~0.4cm大褐鉄粒 成・手捏風 整・外面 底部指ナデ $\leftrightarrow$ 胴部指ナデ $\setminus$ 内面 胴部ヘラオサエか? 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
埴	2 9	器高 6.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部弧状ヘラオサエ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ややあまい 色・暗橙褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
坏	3 0	口径 16.2 器高 5.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・竜付近 残・ほぼ完形
坏	3 1	口径(15.9) 器高 5.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 石英 成・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 黒斑有り 色・橙褐色 出・

			床直 残・ㄥ
坏	3 2	口径 17.2 器高 5.7	胎・褐鉄粒 雲母 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部ㄥ 口縁部ㄥ
坏	3 3	口径 13.1 器高 4.7	胎・褐鉄粒 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ヘラオサエ (不明瞭) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・床直 残・完形
坏	3 4	口径 13.4 器高 4.9	胎・白色粒子 微砂粒多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・完形
坏	3 5	口径 15.7 器高 7.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 出・壱付近 残・ㄥ
坏	3 6	口径(12.4) 器高 5.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・底部ヘラケズリ 内面 底部ヘラナデ (指ナデ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部 口縁部ㄥ
坏	3 7	口径 13.2 器高 5.0	胎・角閃石 褐鉄粒 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ヘラオサエ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ㄥ
坏	3 8	口径 12.8 器高 5.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 赤褐色 残・ㄥ
坏	3 9	口径 12.6 器高 4.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・器面荒れ 出・貯蔵穴 残・底部 口縁部ㄥ
坏	4 0	口径(13.8) 器高 5.0	胎・角閃石 褐鉄粒 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部弧状ヘラオサエ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・外面 橙褐色 内面 黒褐色 残・底部 口縁部一部
坏	4 1	口径 12.6 器高 3.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・口縁部外面剝離著しい 残・ほぼ完形 (口唇部一部欠損)
坏	4 2	口径 14.2 器高 5.0	胎・白色粒子 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 稜直下面取り風にナデ 内面 底部ヘラオサエ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・外面 底部黒褐色 口縁部橙褐色 内面 赤褐色 残・ㄥ



社具路遺跡14号住居址出土遺物(第85図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(21.6)	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ(ヘラ止まり痕) 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部上半分
甕	2	口径(23.5)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部上半分
甕	3	口径 12.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面弧状ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 胴部外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面頸部周囲接合痕で多少剝離 出・土域内 残・胴部上半
甕	4	口径 12.2 器高 7.5	胎・白色粒子 角閃石 成・底部と胴部接合 孔は方形に近い 現存6孔 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面黒斑有り 色・橙褐色 使・胴部外面器面荒れ著しい 残・底部多少欠損
甕	5	口径(9.4) 器高(5.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 胎土細 整・外面 ヘラミガキ 内面ヘラミガキ後縦の暗文 焼・著 内面炭素付着 外面口縁部一部炭素付着 色・黄褐色 使・口唇部摩滅 残・多少
甕	6	口径 11.0 器高 4.8	胎・褐鉄粒 細砂 成・底部ヘラ切り 底部と口縁部接合か? 整・外面 底部螺旋状条痕残る 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・底部は台状またはつまみ状 焼・著 色・橙褐色 底部外面黒褐色 使・口縁部に焼け歪みヒビ割れ 残・ほぼ完形 備・底部外面ヘラケズリ工程省略のまま焼成か
甕	7	口径 10.8 器高 4.8	胎・褐鉄粒 細砂 長石 成・口縁部接合 整・外面 底ヘラケズリ 底部螺旋状条痕残る 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・底部台状またはつまみ状 焼・著 色・橙褐色 外面多少黒褐色 使・口縁部焼け歪みヒビ割れ 出・甕内 残・完形 備・底部外面ヘラケズリの工程省略のまま焼成か
甕	8	口径 10.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・土域内 残・底部一部 口縁部多少
甕	9	口径 18.8 器高 6.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部円版状粘土から製作か 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面炭素付着 色・橙褐色 使・二次的熱受け風化 残・口縁部多少欠損
甕	10	口径 17.1	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部

坏	1 1	器高 6.5	ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 外面炭素 付着 色・橙褐色 使・一部に二次の熱受ける 出・竈内 残・ $\frac{1}{2}$
		口径 14.6	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底 部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙 褐色 残・ $\frac{1}{2}$
坏	1 2	口径 13.5	胎・角閃石 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部 器高 4.4
		ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 外面底部炭素付着 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$	
坏	1 3	口径 13.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 器高 4.4
		底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・器形楕円 焼・普 外面底部炭素付着 色・赤褐色 出・竈上 残・ $\frac{1}{2}$	
坏	1 4	口径 12.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部 器高 4.4
坏	1 5	口径 12.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部 器高 3.6
坏	1 6	口径 11.5	胎・角閃石 細砂 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズ 器高 3.5
		リ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 内外面鉄 分付着 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$	
坏	1 7	口径 10.6	胎・角閃石 石英 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部 器高 3.2
坏	1 8	口径 13.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 粘土練り込み 器高 3.9
坏	1 9	口径 11.7	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 雲母 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底 器高 3.8
		部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 口縁部焼成時のヒビ割れ 色・ 橙褐色 残・ほぼ完形	
坏	2 0	口径(11.5)	胎・角閃石 褐鉄粒 胎土細 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底 器高 3.6
坏	2 1	口径 10.9	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケ 器高 3.3
坏	2 2	口径 11.9	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケ 器高 3.7
		ズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 外面底部炭素付 着 色・橙褐色 残・ほぼ完形	
坏	2 3	口径 11.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面

環	24	器高 3.8	底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・大きく重む 焼・著 内外面炭素付着 色・灰褐色 残・ㄥ
		口径 11.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部
環	25	器高 3.5	ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ㄥ
		口径 11.1	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケ
環	26	器高 3.7	ズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ㄥ
		口径 11.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 底部ヘラケズリ 内面
環	27	器高 4.0	ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・風化著しい 残・ㄥ
		口径 11.4	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラ
環	28	器高 3.6	ケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 焼成時のヒビ割れ口縁部に3ヶ所 色・橙褐色 残・ほぼ完形
		口径(11.2)	胎・角閃石 褐鉄粒大多 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘ
環	29	器高 2.8	ラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・不整 造り雑 焼・著 内外面一部鉄分付着 色・橙褐色 出・甕内 残・ㄥ
		口径 10.9	胎・褐鉄粒 細砂 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部不明瞭 口縁
		器高 3.1	部内外面ヨコナデ 焼・著 外面炭素付着 色・橙褐色 残・ㄥ

## 社具路遺跡15号住居址出土遺物(第86図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
環	1	口径(14.8)	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 石英 胎土細 成・底部と口縁部接合 整	
		器高 3.9	・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内面底部風化 出・甕裾 残・底部 口縁部一部	

## 社具路遺跡16号住居址出土遺物(第86図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	2	口径 18.3	胎・角閃石 石英 細砂 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部下半風化摩滅不明瞭 胴部上半ハケ調整 内面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 胴部一部炭素付着 色・橙褐色 使・一部風化 残・胴部ㄥ 口縁部	
高環	3	口径 18.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部差し込み 環底部と環縁部接合 整・外面 環底部ヘラケズリ後ナデ 環縁部ナデ 内面 環底部ナデ 環縁部ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・環底部 環縁部ㄥ	
高環	4	口径 17.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部筋で接合 環底部と環縁部接合 整・外面 環底部及び環縁部ヘラケズリ後ナデ 内面 環底部ヘラケズリ 環縁部下半ナデ 上半ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 使・一部炭素付着 残・環底部及び環縁部ㄥ	

埴	5	口径 12.3 器高 7.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面底部 及び胴部と口縁部一部に炭素付着 色・橙褐色 使・炭素付着部分もろい 残・ほぼ完形
埴	6	口径 14.0 器高 15.2	胎・白色粒子 角閃石 石英 雲母末 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部 内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 使・底部 外面より焼成後の穿孔 残・ほぼ完形
埴	7	口径 14.4 器高 15.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部接合（胴部粘土帯積み上 げ） 頸部接合 整・外面 底部及び胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内 面 底部及び胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ後内面のみ暗文 形・底部 径8cm程の円板状接合痕明瞭 焼・著 色・橙褐色 使・内外面部分的に 炭化物付着 残・完形
埴	8		胎・白色粒子 石英 成・底部と胴部接合（胴部上半粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 胴部上半ナデ 下半ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部 ヘラケズリ 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部炭化物付着 残・ $\frac{1}{2}$
埴	9	口径 9.4 器高 9.6	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケ ズリ後ナデ 上半ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 残・ほぼ完形
埴	10	口径 8.2 器高 7.8	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部 下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部指ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・底部径4.2cm程の円板状接合痕明瞭 焼・著 色・橙褐色 使・口縁 部内外面環状炭素付着 口縁部外面稜痕有り 残・完形
坏	11	口径(13.0) 器高 3.8	胎・白色粒子 石英 0.2~0.3cm砂礫 成・底部糸切り 整・内外面口 クロミズビキ 焼・著 色・灰褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損

社具路遺跡Ⅰ7号住居址出土遺物（第86図）

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
坏	12	口径(12.5) 器高 3.3	胎・白色粒子 角閃石 胎土精 成・底部と口縁部接合か？ 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・ 橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$	
台付 甕	13	底径 10.8	胎・角閃石 石英 細砂 胎土精 成・脚部と胴部接合 整・外面 胴部 ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 脚部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・底部外面炭素付着 残・脚部 胴部一部	
壺	14		胎・石英粒 細砂 成・ロクロ成形 整・内外面ミズビキ 焼・良(緻密 ）外面肩部の一部自然釉 色・灰褐色 接・13溝出土破片と接合 残・ 胴部上半 $\frac{1}{2}$ 備・13溝より同一個体と考えられる頸部出土 実測不可	

社具路遺跡18号住居址出土遺物(第87~93図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 17.6 器高 35.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 0.5cm砂粒 成・底部と胴部(胴部粘土帯 積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部 ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・底はヘラケズリにより尖底状 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形
甕	2	器高 35.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部下半 胴部下半と 上半 頸部接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部下半一部炭素付着 色・橙褐色 使・器表荒れる 出・竈 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	3	口径 17.0 器高 29.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と胴部下半 胴 部下半と上半 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ後 ナデ(ヘラ引き痕跡) 内面 底部及び胴部ナデ(弧状ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・底部中心より外れる 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部炭素及び焼土付着(二次的熱か?) 一部剝離 出・床直 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損
甕	4	口径 18.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 ハケ状工具によるヘラケズリ 口縁部 内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 使・外面胴部縦半分炭素付着 残 ・胴部 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	5	口径 18.4 器高 30.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・胴部下半と上半(胴部 粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 底部ヘラオサエ 胴部ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 形・底部中心 より外れる 焼・著 外面胴部一部炭素付着 胴部下半に焼土付着 残・ ほぼ完形(胴部及び口縁部一部欠損)
甕	6	口径 17.2 器高 28.8	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 口縁部二段積み上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁 部内外面ヨコナデ 形・器形重む 焼・著 色・明褐色 使・外面胴部二 次的熱受ける 焼土付着 出・竈内 残・ほぼ完形
甕	7	口径 18.5 器高 32.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部下半 胴部下半と 上半(胴部1.5~2cmの粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘ ラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・ 明褐色 使・胴部内面炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形(一部欠損)
甕	8		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半(胴部粘土帯 積み上げ 接合痕部分的に明瞭) 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著

			色・橙褐色 使・内外面胴部一部炭素付着 出・床直 残・底部 胴部下 半
甕	9	口径 18.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部 接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部幅1cm未満のヘラケズリ 内面 胴部 下半ナデ 上半ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・赤褐色 橙褐色 使・胴部外面一部炭素付着 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部
甕	10	口径 17.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・橙褐色 使・全面に二次的熱強 く受ける 残・底部欠損
甕	11	口径 15.1 器高 25.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 0.1~0.6cm砂粒 成・胴部下半と上半 (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上 半風化不明瞭 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナ デ 形・器形歪む 焼・蒼 色・橙褐色 使・二次的熱受け風化一部剝離 残・ほぼ完形(胴部一部欠損)
甕	12	口径 18.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・内外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・蒼 色・橙褐色 使 ・外面胴部一部炭素付着 二次的熱受ける 残・胴部及び口縁部一部欠損
甕	13	口径 18.7	胎・白色粒子 角閃石 石英 0.2cm程の礫多 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・ 橙褐色 使・二次的熱受ける 残・胴部上半
甕	14	口径 15.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 胎土細 成・頸部接合か? 整・内外面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 頸部内面ハケ調整状 焼・蒼 色・明褐色 使・口縁内側 $\frac{1}{2}$ 周の擦痕 器台として使用か 残・胴部上半
甕	15	口径 18.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部上半ヘラケズリ状 下半ナデ 口 縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 外面胴部炭素付着 色・橙褐色 残・縦 $\frac{1}{2}$
甕	16	口径 19.6 長径 20.6 器高 23.6	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上 げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内 外面ヨコナデ 焼・蒼 色・赤褐色 使・底部及び胴部一部炭素付着 出 ・竈内 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部
甕	17	口径 17.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形 ・器形雑 焼・蒼 色・橙褐色 使・外面胴部一部炭素付着 残・底部 欠損
甕	18	口径 18.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半(胴部粘土帯

変	19	器高 29.7 底径 10.2	積み上げ) 頸部接合 (口縁部二段積み上げか?) 整・外面 底部及び 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラケズリ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外 面ヨコナデ 焼・蒼 色・橙褐色 使・一部炭素附着 残・ほぼ完形 備 ・口唇先端より8cm程亀裂 乾燥中のヒビ割れ 粘土充填後焼成
変	20	口径 15.5 器高 20.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部木葉痕 底部と胴部 (胴 部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 底部ケズリ出し 胴部ヘラケ ズリ 内面 胴部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 蒼 色・明褐色 使・二次的熱強く受ける 残・ほぼ完形
変	21	口径(16.8) 器高(19.2)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 (胴部粘土帯積み 上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部 内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・橙褐色 使・底部炭素附着 残・縦 $\frac{1}{2}$
変	22	口径 12.8 器高 15.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 小礫 成・底部と胴部 (胴部粘土帯積み上 げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 口縁 部内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・橙褐色 使・外面胴部一部炭素附着 出 ・電付近 残・完形
変	23	口径 17.9 器高 15.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 底部及び胴部ナデ (ヘラオ サエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・橙褐色 使・外面底部 及び胴部一部炭素附着 出・貯蔵穴内 残・完形
変	24	口径 14.6 器高 13.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ (ヘラオサエ有り) 弧状ヘラか? 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・黄褐色 使・外面底部炭素附着 残・完形
変	25	口径(9.4) 器高 11.5	胎・角閃石 褐鉄粒 細砂 0.2~0.3cm礫 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部不明 内面 底部及び胴部ナデ (ヘラオサエ有 り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 色・外面 橙褐色 内面 黒褐色 残・ $\frac{1}{2}$
変	26	口径(17.4) 器高(12.5)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリか? 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・器形 大きく重む 焼・蒼 色・橙褐色 一部須恵質状灰褐色 使・風化著しい 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
変	27	口径 17.4 器高 15.6	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と胴部 (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデか? 内面 胴部ナデ 口縁 部内外面ヨコナデ 形・器形重む 焼・蒼 色・暗褐色 使・二次的熱に

瓶	2 8	口径(21.8) 器高 17.7	より脆弱 層状剥離 残・縦裂 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土緻密 成・孔は 0.2~ 0.7cm の円形~半円形12ヶ所有り 整・底部ヘラケズリ 内外面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・著 外面胴部下半一部炭素付着 色・赤褐色 残・口縁部欠損
瓶	2 9	口径 25.6 器高 30.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・孔部ヘラ切り 胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 胴部上半と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ後ヘラケズリ 内面 胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ヨコナデ 形・器形歪む 焼・著 色・赤褐色~橙褐色 残・ほぼ完形(口縁部一部欠損) 備・口縁部先端より8cm程亀裂 乾燥中にヒビ割れ 粘土充填の痕跡
瓶	3 0	口径 23.2 器高 27.0	胎・白色粒子 角閃石 石英 0.1cm大砂多 成・孔部ヘラ切り 胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 胴部上半と口縁部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面半面二次的熱強く受ける 他面炭素付着 残・ほぼ完形
瓶	3 1	口径 22.3 器高 24.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 胴部上半と口縁部接合(口縁部二段積み上げ) 整・胴部内外面ヘラケズリ後暗文状 ヘラナデ全面に施す 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部半面に炭素付着 残・孔部及び口縁部欠損
瓶	3 2	口径 23.3 器高 25.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・黄褐色 使・口唇部打ち欠き又は摩滅により歪む 孔部及び口唇部摩滅二次的熱強く受け全面荒れる 内外面一部炭素付着 残・ほぼ完形
瓶	3 3	口径 16.3 器高 11.4	胎・白色粒子 石英 0.3~ 0.8cm砂粒 成・孔部ヘラ切り 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・壺付近 残・ほぼ完形
瓶	3 4		胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内外面胴部一部炭素付着 残・胴部下半
高坏	3 5	口径 14.5 器高 10.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・坏縁部内外面ヨコナデ 内面 脚部ヘラケズリ他はヘラミガキ状 焼・著 色・黄褐色 残・裾部及び坏縁部欠損
壺	3 6	口径 15.9 器高 9.8	胎・白色粒子 角閃石 石英 0.2cm礫多 整・風化不明瞭 焼・悪 色・黄褐色 出・壺内 残・ほぼ完形
坏	3 7	口径 13.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面



環	38	器高 4.4 口径 14.0 器高 3.8	底部面的ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・器形歪む 焼・普 色・橙褐色 残・口縁部ㄥ欠損 胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合（口縁部二段積み上げか？） 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・完形
環	39	口径 12.3 器高 4.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面底部炭素付着 口唇部小さく剥離 残・口縁部ㄥ欠
環	40	口径 15.1 器高 4.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 成・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ（中心部放射状ヘラオサエ） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面底部炭素付着 出・貯蔵穴内 残・完形
環	41	口径 13.7 器高 4.3	胎・褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・黄褐色 使・器表風化 残・口縁部一部欠損
環	42	口径 13.9 器高 4.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ（ノッキング痕） 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・黄褐色 使・器表風化 出・貯蔵穴内 残・完形
環	43	口径 13.0 器高 4.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 胎土精 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・黄褐色 使・口唇部先端欠損 部分多 出・貯蔵穴内 残・ほぼ完形
環	44	口径 14.0 器高 4.4	胎・褐鉄粒 石英 胎土精 成・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・黄褐色 使・器表風化 出・貯蔵穴内 残・完形
環	45	口径(12.2) 器高 4.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 胎土細 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部部分的に直立 焼・普 色・橙褐色 使・外面底部炭素付着 出・竈内 残・口縁部ㄥ欠損
環	46	口径 14.4 器高 4.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・口縁部内外面炭素付着 内面口唇部摩滅剥離 出・貯蔵穴内 残・完形
環	47	口径 13.5 器高 4.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・黄褐色 使・外面底部炭素付着 出・貯蔵穴内 残・ㄥ
環	48	口径 14.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面

坏	4 9	器高 4.4	底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部先端に沈線を施す 焼・著色・明褐色 使・外面底部一部炭素附着 残・底部 口縁部欠
		口径(12.4)	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母細 粘土練り込み 成・底部と口縁部接合
坏	5 0	器高 4.6	整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ (ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・欠
		口径(13.0)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面
坏	5 1	器高 4.5	底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・黒褐色 使・二次的熱による風化著しい 残・底部 口縁部欠
		口径 13.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面
坏	5 2	器高 4.4	底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・明褐色 使・底部一部炭素附着 残・ほぼ完形
		口径 12.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面
坏	5 3	器高 4.2	底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ (中心部ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・ほぼ完形
		口径 13.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 粘土練り込み 成・底部と口縁部接合 整・外面
坏	5 4	器高 4.4	底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・底部外面口縁部内外面極風化著しい 残・ほぼ完形
		口径 12.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部
坏	5 5	器高 3.9	ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・口縁部欠損
		口径 12.2	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 細砂 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・
坏	5 6	器高 4.6	外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口径多少歪む 焼・著色・橙褐色 残・ほぼ完形
		口径 15.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 粘土練り込み 成・底部と口縁部接合 整
坏	5 7	短径(14.2)	・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナ
		器高 4.5	デ 形・楕円に歪む 焼・著色・橙褐色 使・器表風化 出・貯蔵穴内 残・完形 備・内面底部1×0.5cm以下の布疋痕6〜7ヶ所
坏	5 7	器高 4.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面
		口径 14.8	底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・暗褐色 使・器表若干荒 出・貯蔵穴内 残・口縁部欠損

社具路遺跡19号住居址出土遺物(第94・95図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 18.2 短径 17.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 石英 成・胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 底ケズリ出し 胴部ヘラケズリ

		器高 31.0	内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部ヘラ切り状 焼・著色・橙褐色 使・外面底部及び胴部に炭化物付着 出・貯蔵穴 残・ほぼ完形
甕	2	口径 15.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 0.2~0.5cm大礫 成・底部と胴部下半 胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・胴部上下ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 胴部内面一部炭素付着 色・橙褐色 使・風化著しい 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$ 備・底部と胴部下半図上復原
甕	3	口径 16.8 長径 18.0 器高 25.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土細 成・底部と胴部下半 胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部弧状ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部垂む 焼・良 色・外面 赤褐色~橙褐色 内面 黒褐色 使・内面胴部炭化物付着 二次的熱か? 出・壺内 残・ほぼ完形
甕	4		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・著 外面底部炭素付着 色・橙褐色 使・内面風化剥離 残・底部 胴部一部
甕	5	口径 13.2 器高 11.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 0.1~0.4cm大礫 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 胴部内外面一部炭素付着 色・赤褐色 灰褐色 使・風化著しい 細部不明 出・壺付近 残・ほぼ完形(底部 $\frac{1}{2}$ 欠損)
甕	6	口径(18.6)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・孔部ヘラ切り 胴部と口縁部接合か? 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部炭素付着 色・外面 赤褐色 内面 黒褐色 使・内面胴部炭化物付着 二次的熱か? 風化著しい 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部
甕	7	口径 27.5 器高 28.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 胴部上半と口縁部接合(口縁部二段積み上げ) 整・内外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・著 胴部内外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・孔部欠損 擬孔状 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	8	口径 24.0 器高 32.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 色・橙褐色 使・孔部内面打ち欠き状 風化著しい 残・ほぼ完形
甕	9	口径(15.2) 器高 13.4	胎・白色粒子 石英 胎土細 成・胴部と口縁部接合(接合痕外面で明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 孔部指頸調整 胴部下半ヘラケズ

鉢	10	口径 14.2 短径 13.7 器高 8.1	リ 上半ナデ (ハロオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面 胴部一部及び内面胴部炭素付着 色・暗褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$ 胎・白色粒子 褐鉄粒 0.1~0.4cm大礫 成・胴部と口縁部接合 整・外 面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ハロオサエ有り) 口縁部内外面 ヨコナデ 焼・善 内面口縁部環状に炭素付着 色・橙褐色 使・風化著 しい 出・甕内 残・ほぼ完形
坏	11	口径 13.4 器高 4.0	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズ リ 内面 底部ナデ (ハロオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 使・器壁風化 残・ $\frac{1}{2}$
坏	12	口径(14.2)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナ デ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 内外面破片の状態で炭素付着 色・ 橙褐色 残・底部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
提瓶	13	口径 8.0 器高 21.0	胎・微細な長石 砂粒 成・ミズビキ成形 体部完成後口縁部及び把手ハ リ付 整・体部一方向ヘラケズリ、他方カキメ調整 口縁部内外面ミズビ キ 焼・良 堅緻 体部及び口縁部自然釉 (口縁部は凹部に残る) 色・ 暗灰色 出・住居址中央から甕にかけて散在 残・ほぼ完形

## 社具路遺跡20号住居址出土遺物 (第95図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
坏	14	口径 12.9 器高 3.8	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズ リ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 色・橙褐色 残・ほぼ完形	

## 社具路遺跡21号住居址出土遺物 (第95・96図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	15	口径(17.0) 器高 24.1	胎・角閃石 砂粒多 0.3~0.5cm大礫 成・底部上がり底 胴部粘土帯 積み上げ 頸部接合 (口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ハロオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色 ・外面 橙褐色 内面 灰褐色 使・外面 胴部炭素及び焼土付着 内面 胴部上半炭化物付着 出・甕内 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損	
甕	16	口径 17.3 器高 33.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 0.2~0.5cm大礫 成・底部上がり底 底部と胴部 頸部接合 (口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズ リ 内面 胴部ナデ (ハロオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・器 形楕円 焼・善 色・外面 橙褐色 内面 明灰褐色 使・外面胴部上半 焼土付着 胴部内外面一部及び内面口縁部一部炭素付着 出・甕内 甕付 近 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損	
甕	17	口径 18.5 器高 32.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 砂粒 成・底部木炭痕 底部上がり底 底部と胴 部 (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 (口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ハロ痕有り) 口縁部内外面ヨコナデ	

甕	18	口径(21.5) 器高 23.9	焼・著色・橙褐色 使・外面胴部上半焼土付着 胴部中位環状炭素付着出・竈内 残・胴部下半欠損 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 雲母 0.2~0.5cm大礫 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・底部ヘラケズリ 胴部下半下方向のヘラケズリ 胴部上半ヨコ方向のヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・赤褐色 使・胴部内外面炭素付着 内面一部剝離 出・貯蔵穴内 残・ほぼ完形(口唇部欠損)
甕	19	口径 8.1 器高 22.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部木葉痕有り 底部と胴部(胴部上半一部接合痕明瞭) 頸部接合 整・外面 風化不明瞭 内面 風化剝離不明瞭 焼・著色・橙褐色 使・外面胴部及び頸部円形炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形
甕	20	口径 18.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 小礫少 成・頸部接合か? 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部歪む 焼・著色・黄褐色(一部赤褐色) 使・外面胴部一部焼土付着 内外面一部炭素付着 残・胴部上半ヨコ 口縁部
甕	21	口径 18.4	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒多 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ(内面ヘラ先痕) 焼・著色・橙褐色 使・内外面一部炭素付着 残・胴部上半及び口縁部欠
甕	22	口径 23.2 器高 30.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・孔部ヘラ切り 胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に浅い沈線をもつ 焼・著色・橙褐色 使・胴部内外面一部炭素付着 内面口縁部環状剝離 出・床直 残・ほぼ完形
鉢	23	口径 23.0 器高 13.2	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒多 0.1~0.5cm大礫 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ後ナデか? 内面 底部及び胴部弧状ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 使・外面胴部及び口縁部 内面底部及び胴部環状に炭素付着 残・完形
坏	24	口径 14.3 器高 5.3	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・底部内外面炭素付着 口縁部内外面一部剝離 出・床直 残・ほぼ完形
坏	25	口径 12.7 器高 5.1	胎・白色粒子 角閃石 石英 砂粒 成・底部と口縁部接合か? 整・底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部内側

環	26	口径 12.8 器高 5.0	におずかに折り返える 焼・良 色・橙褐色 使・内面炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデか? 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・外面 赤褐色 内面 黄褐色 使・外面底部炭素付着 内外面同位置に口縁部 $\frac{1}{2}$ 周炭素付着 外面口縁部一部剝離 出・床直 残・完形
環	27	口径 13.4 器高 5.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 外面一部黄褐色 使・外面底部一部焼土付着 残・ $\frac{1}{2}$
環	28	口径 14.7 器高 4.1	胎・白色粒子 角閃石 石英 練り込み風 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
環	29	口径 13.2 器高 5.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・外面 橙褐色 内面 黄褐色 使・外面底部円形に炭素付着 出・床直 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
埴	30		胎・白色粒子 褐鉄粒多 角閃石 石英 整・頸部接合 整・外面 摩滅不明瞭(頸部一部にヘラケズリ痕有り) 内面 底部及び胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・外面底部一部炭素付着 残・口唇部欠損
環	31	口径(13.2)	胎・石英 整・ロクロミズビキ 形・口唇部内面2本の沈線 焼・良(緻密) 色・灰褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$

## 社具跡遺跡2号住居址出土遺物(第97・98図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 17.5 器高 33.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部木葉痕後上り底 胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 出・床直 残・ほぼ完形
甕	2	口径 16.1 器高 33.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げか?) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・胴部下半炭素付着 胴部に焼土付着 出・壺内 残・ $\frac{1}{2}$
台付甕	3	底径 8.5	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と胴部接合 整・外面 脚部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ 内面 脚部ナデ(ヘラオサエ有り) 胴部ヘラケ

甕	4	口径 14.1	ズリ 焼・著色・橙褐色 胴部内面黒褐色 残・脚部 胴部一部 胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・ 外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外 面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・頸部内側底部方向よりの擦痕認め られ、器台として使用 出・床直 残・胴部一部 口縁部
鉢	5	口径 11.7 器高 9.8	胎・角閃石多 白色粒子 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・ 灰褐色 使・外面底部炭素付着 出・床直 残・口縁部欠損
鉢	6	口径 12.1 器高 12.0	胎・褐鉄粒 石英 小石多 成・底部糸切り状 胴部下半と上半（胴部粘 土帯積み上げ） 胴部上半と口縁部接合 外面胴部不整形円11ヶ所刺突 整・外面 胴部不明瞭 内面 胴部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼 ・著色 胴部内面環状に炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
鉢	7	口径 24.0 器高 13.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部木葉痕有り 底部と胴部下半 胴 部下半と上半 胴部上半と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・内面底部円形にくぼむ 焼・著 色・暗褐色 使・二次的熱によりもろい部分有 出・床直 残・ほぼ完形
甕	8	口径 22.3 器高 27.4	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 0.1~0.4cm砂粒 成・孔部ヘラ切り 胴部 粘土帯積み上げ 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・灰褐色 使・胴部外面一 部炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形
甕	9	口径 16.3 器高 15.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 胴部粘土帯積 み上げか？ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有 り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 内面 黒褐色~暗褐 色 使・孔周囲摩耗 外面胴部下半擦痕 出・床直 残・ほぼ完形
壺	10	口径 12.6 器高 6.0	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 底部から胴部面的にヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 出・床直 残・口縁部欠損
壺	11	口径 12.3 器高 6.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部と口縁部接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 底部ナデ（ヘラオサエ有り） 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・外面底部及び胴部一部 炭素付着 焼成後の割度（幅0.1~0.3cm 長さ5~6cm）10数条みられ る 残・胴部及び口縁部欠損
坏	12	口径 14.5 器高 5.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合（口縁部二段積み上 げか？） 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨ コナデ 焼・著色・橙褐色 出・床直 残・完形
坏	13	口径 15.2	胎・角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ

		器高 4.5	内面 底部ナデ後暗文状ヘラミガキ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部先端V字状沈線 焼・著 色・橙褐色 使・外面炭素附着部分の多 残・口縁部欠損
環	14	口径(14.8) 器高 4.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 出・貯蔵穴内 残・底部欠 口縁部欠
環	15	口径 16.5 器高 4.5	胎・褐鉄粒 石英 細砂粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・完形
環	16	口径 14.0 器高 4.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・内外面風化不明瞭 焼・著 色・橙褐色 残・完形
環	17	口径(13.4) 器高 4.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ヘラナデ 口縁部ヘラミガキ状 焼・著 色・橙褐色 使・内外面一部炭素附着 残・欠
環	18	口径 13.3 器高 4.7	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部先端に沈線 焼・著 色・黒褐色 橙褐色(風化部分) 使・一片を除き風化著しい 出・竈内 残・ほぼ完形
環	19	口径 15.4 器高 4.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・風化著しい 残・完形
環	20	口径 13.8 器高 5.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合(口縁部二段積みか?) 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・竈内 貯蔵穴内 残・ほぼ完形
環	21	口径 14.3 器高 5.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・貯蔵穴内 残・完形 備・板痕 穂先とともに圧痕
環	22	口径 15.7 器高 5.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英多 成・底部木葉痕有り 底部と口縁部接合(口縁部二段積み上げか?) 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部先端に沈線 焼・著 色・橙褐色 出・床直 残・完形
環	23	口径 13.4 器高 5.0	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面底部炭素附着 色・橙褐色 出・貯蔵穴内 残・ほぼ完形



社具路遺跡23号住居址出土遺物(第98図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	24	口径 20.6 器高 27.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 底部ヘラオサエ 胴部ヨコナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・外面胴部炭素及び焼土付着 色・橙褐色 出・甕内 残・ㄥ
甕	25	口径(11.8)	胎・白色粒子 細砂 整・外面 胴部ヘラミガキ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ(内面弧状ヘラ痕) 焼・普 色・外面 橙褐色 内面 黒褐色 出・甕内 残・胴部及び口縁部ㄥ

社具路遺跡24号住居址出土遺物(第98図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
坏	26	口径 13.0 器高 4.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
坏	27	口径 11.6 器高 3.4	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・底部外面炭素付着 残・ㄥ
坏	28	口径 15.2 器高 4.1	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・器形歪む 焼・普 色・橙褐色 使・内外面斑点状に炭素付着 残・ㄥ

社具路遺跡25号住居址出土遺物(第99図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 20.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・灰褐色～黄褐色 使・外面胴部焼土付着 内面炭化物付着 風化著しい 出・床直 残・底部欠損
甕	2	口径 16.5 器高 22.5	胎・白色粒子 角閃石 細砂礫 成・底部と胴部 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 頸部にヘラ調整有り 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ(ヘラオサエ有り) 焼・普 色・灰褐色 使・外面胴部及び口縁部炭素付着 内面風化剝離 出・床直 残・ほぼ完形
甕	3	口径 11.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・器表風化 残・胴部ㄥ 口縁部
甕	4	口径 10.9 器高 10.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(弧状ヘラ調整) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 外面

			胸部炭素付着 色・橙褐色 使・外面部分的剝離 出・床直 残・口縁部 欠損
鉢	5	口径 12.4 最大径13.5 最小径12.0 器高 8.4	胎・白色粒子 褐鉄粒多 石英 0.2~0.5cm大の礫 成・胸部と口縁部 接合(接合部分明瞭) 整・外面 底部ヘラケズリ 胸部及び口縁部ナデ か? 内面 胸部及び口縁部ナデ 形・口径楕円形に歪む 焼・普 色・ 茶褐色 使・一部二次的熱受ける 出・壺上 残・ほぼ完形
坏	6	口径 18.2 器高 7.0	胎・褐鉄粒 石英 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケ ズリ(ノッキング痕有り) 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼 ・普 内外面炭素付着 色・橙褐色 使・外面剝離部分多し 出・床直 残・底部欠 口縁部欠
坏	7	口径 15.8 器高 6.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底 部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコ ナデ 焼・普 色・橙褐色 残・欠
坏	8	口径 16.8 器高 6.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底 部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙 褐色 出・床直 残・ほぼ完形
坏	9	口径 11.7 器高 3.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色 ・橙褐色 残・欠
坏	10	口径 10.7 器高 3.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・灰褐色 ~暗褐色 使・一部焼土付着 出・壺上 残・口縁部欠損
坏	11	口径(12.8) 器高(3.7)	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合か? 整・外 面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・暗褐色 使・外面鉄分付着か? 出・床直 残・欠
坏	12	口径 12.5 器高 4.2	胎・褐鉄粒 石英 砂粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・欠損部分は歪む焼成中の歪みか? 残・ほぼ完形
坏	13	口径 10.6 器高 3.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底 部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・赤褐色 使・内面底部欠風化著しい 残・完形
坏	14	口径 11.7 器高 3.6	胎・褐鉄粒多 0.2~0.5cm径の礫多 成・底部と口縁部接合か? 整・ 外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・赤褐色 使・内面底部炭素付着 二次的熱か? 出・床直 残・完形
坏	15	口径 13.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? (口縁部二段積

坏	16	器高 4.1	み上げ) 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部風化不明瞭 口縁部内 外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内面底部風化著しい 残・刃
		口径 10.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面
坏	17	器高 3.4	底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 著 色・橙褐色 残・ほぼ完形
		口径 10.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底 器高 3.2 部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・床直 残・完形

## 社具路遺跡26号住居址出土遺物(第99図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	18	口径(22.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘ ラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・壺内 残・胴部一部 口縁部刃
甕	19	口径(13.0)	胎・白色粒子 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部刃
坏	20	口径 13.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・ 器高 3.2 外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面口縁部一部炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
坏	21	口径 13.5	胎・白色粒子 石英 胎土細 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底 器高 3.6 部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ほぼ完形
坏	22	口径(15.5)	胎・石英 黒色粒子 軟質白色粒子 成・外面底部回転ヘラケズリ後中心 器高 4.6 部ヘラケズリ 底部外周に小さな高台状突起 底部から上へ 2面の回転 ヘラケズリ 整・内外面ロクロミズビキ 焼・良 色・灰白色 残・刃
坏	23	口径 13.0	胎・白色粒子 石英 成・ロクロ成形 整・外面底部糸切り後静止ヘラケ 器高 3.8 ズリ 底部から上に2面の回転ヘラケズリ 形・器形歪む 焼・良 色・ 灰褐色 残・ほぼ完形

## 社具路遺跡27号住居址出土遺物(第100・101図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 20.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 小石 成・底部と胴部 頸部接合
		器高 38.1	整・外面 底部風化不明瞭 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ後直線ヘラ オサエ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部下半 焼土及び炭素付着 半面二次的熱にて風化 出・壺内 残・完形
甕	2	口径 19.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み 器高 33.0 上げ 一部接合痕明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部風化剥

甕	3	口径 15.8 器高 28.2	離 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 使・胴部下半一部炭素附着 底部摩耗 残・ほぼ完形(口縁部欠損) 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 0.1~0.3cm石 成・底部ヘラケズリによる上げ底 胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ(但し交互) 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 使・外面胴部炭素附着 残・完形
甕	4	器高 31.1	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 底部風化剝離 胴部下半ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ナデか? 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・外面 橙褐色 内面 黒色 使・外面胴部下半炭化物及び焼土附着 出・竈内 残・胴部上半及び口縁部欠損
甕	5	口径 14.3 器高 21.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・内外面 胴部器壁荒れ剝離不明瞭 口縁部ヨコナデ 器表に赤彩痕跡残る 焼・蒼色・橙褐色 使・胴部上半焼成後5本の太い創傷横に走る(小さなもの6~7本) 胴部炭素附着 残・完形(口唇部大部分摩耗)
甕	6	口径 21.3 器高 22.8	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・孔部ヘラ切り 胴部粘土帯積み上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ状 内面 胴部ヘラミガキ状ヘラケズリ 形・全体にゆがむ 焼・良 外面胴部一部炭素附着 色・赤褐色 残・完形
甕	7	口径 15.6 器高 16.5	胎・白色粒子多 角閃石多 褐鉄粒 石英 砂粒 成・孔部ヘラ切り 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色~暗褐色 使・外面底部及び口縁部一部炭素附着 破損著しい 残・欠
甕	8	口径(12.8) 器高 4.8	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 使・内面底部炭素附着 残・欠
甕	9	口径 11.6 器高 4.3	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 使・外面底部炭素附着 出・竈内 残・完形
甕	10	口径(11.8) 器高(4.1)	胎・白色粒子 角閃石 石英 砂粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 残・欠

社具路遺跡28号住居址出土遺物(第101図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	11	口径(18.6)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・胴部粘土帯積み上げか? 頸部接合か? 口縁部二段積み上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・赤褐

甕	1 2	口径(22.3)	色～灰褐色 使・胴部内外面部分的に炭素付着(二次的熱受ける) 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に沈線施す 焼・普 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	1 3	口径(17.8)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 接・第34号住出土土器と接合 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	1 4	底径 6.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部上り底 底部と胴部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・普 色・橙褐色 赤褐色 使・内面底部及び胴部一部風化剝離 出・床直 残・底部 胴部下半 $\frac{1}{2}$
甕	1 5	底径 8.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部に木葉痕有り 上がり底 底部と胴部接合か? 焼・普 色・橙褐色 使・内外面風化著しい 残・底部
坏	1 6	口径(12.2)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	1 7	口径(15.8)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 内面底部炭素付着 色・橙褐色 使・器表風化 出・竈裾 残・ $\frac{1}{2}$
坏	1 8	口径(13.8)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 底部内外面炭素付着 色・橙褐色 使・器表風化 出・床直 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	1 9	口径(13.8)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
坏	2 0	口径(14.0) 器高 3.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・赤褐色 使・外面底部炭素付着 残・ $\frac{1}{2}$
坏	2 1	口径 13.4 器高 4.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 接・第29号住フツ土と接合 残・ほぼ完

図録	22	口径(12.3)	胎・白色粒子 細砂 整・口縁部外面クシ描き波状文後端部内外面ナデ 焼・良 内面自然釉 色・暗灰色 残・口縁部欠
----	----	----------	--

## 社具路遺跡29号住居址出土遺物(第102図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
坏	1	口径(13.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・ 橙褐色 残・欠
坏	2	口径(14.2) 器高 3.8	胎・石英 黒色粒子 軟質白色粒子 整・内外面ロクロミズビキ 高台ミ ズビキ 底部回転ヘラケズリ 焼・良 色・灰褐色 残・欠

## 社具路遺跡31号住居址出土遺物(第102~104図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	3	口径 15.0 器高 31.7	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 0.1~0.3cm礫 砂粒多 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ 一部接合痕明瞭) 頸部接合 整・底部不明瞭 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・胴部扁平 焼・蒼色・橙褐色 使・胴部内外面一部炭素付着 出・甕内 残・胴部一部及び口縁部欠損
甕	4	口径 16.5 器高 31.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒多 成・底部上がり底 底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 使・外面胴部下半炭素及び焼土付着 内面底部炭素付着 出・甕内 残・ほぼ完形
甕	5	口径(15.4) 器高 31.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部(胴部下半一部接合痕明瞭) 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部下半ヘラケズリ 上半風化剝離不明瞭 内面 底部及び胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・赤褐色 使・底部内外面炭素付着 外面胴部一部炭素及び焼土付着 出・甕付近 残・胴部下半及び口縁部欠損
甕	6	口径 17.8 器高 32.6	胎・角閃石 褐鉄粒 砂粒多 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色~暗褐色 使・内外面炭素付着 残・欠
甕	7	口径 16.7 短径 14.7 器高 25.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げか?) 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ後ナデか?(ノッキング痕有り) 内面 底部及び胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部から胴部中に亀裂有り 口縁部楕円 焼・蒼色・暗褐色 使・内外面炭素付着 残・完形

甕	8	口径 11.2	胎・白色粒子 黒色粒子 角閃石 石英 雲母末 成・底部と胴部 頸部 接合 整・内外面 底部及び胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面胴部一部炭素付着 残・完形
		器高 11.5	
鉢	9	口径 19.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・ 外面 底部及び胴部下半ヘラケズリ 胴部上半風化不明瞭 内面 底部及 び胴部ナデ 胴部上半風化剝離 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙 褐色～暗褐色 使・内外面一部炭素付着 風化剝離 出・貯蔵穴内 残・ ほぼ完形
		器高 12.1	
飯	10	口径(24.2)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・孔部ヘラ切り 胴部粘土帯積み上げか ? 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ (一部ヘラミガキ状) 内面 胴部暗文状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使 ・外面胴部下半摩滅 内外面一部炭素付着 残・口縁部欠損
		器高 26.6	
飯	11	口径 23.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 胴部粘土帯積 み上げ 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・外面 橙褐色 灰褐色 内面 橙褐色 使・内外面炭素付着 残・ほぼ完形
		短径 21.4 器高 24.9	
高坏	12	口径 16.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 雲母末 成・裾部と脚部 脚部と 坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部ナデ 坏底部ヘラケズリ 内面 脚部ヘラケズリ 坏底部ナデ 内外面 裾部及び坏縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・ほぼ完形
		口径 16.5 器高 11.8	
高坏	13	口径 16.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 砂粒多 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部剝離不明瞭 坏底部ヘラケズリ 内 面 脚部及び坏底部ナデ (ヘラオサエ有り) 内外面 裾部及び坏縁部ヨ コナデ 焼・普 色・橙褐色 使・器表風化 出・竈内 残・ほぼ完形
		器高 11.8	
高坏	14	口径 12.0	胎・白色粒子 角閃石多 石英 砂粒多 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合か? 整・外面 脚部及び坏底部ヘラケズリ 内面 脚部及び坏底部ナデ (坏底部ヘラオサエ有り) 内外面 裾部及び坏縁部 ヨコナデ 焼・普 器面柔軟 色・橙褐色 使・裾部内面二次的熱受ける 残・ほぼ完形
		器高 8.6	
高坏	15	裾部径 9.5	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部接合 整・ 内外面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ 焼・普 色・橙褐色 出・貯蔵 穴上 残・裾部一部欠損 脚部
坏	16	口径 12.9 器高 6.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・ 外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 口縁部から底部に向けて ミズビキ状のナデ (同心円状ナデ) 底部から口縁部に立ち上がる 焼・ 普 色・橙褐色 使・底部及び口縁部内外面炭素付着 内面口縁部上半環

			状に剥離 出・貯蔵穴内 残・完形
坏	17	口径 13.5 器高 5.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ(光沢有り) 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部先端にわずかに沈線を施す 焼・良 色・橙褐色 使・内外面一部炭素付着 出・貯蔵穴内 残・完形
坏	18	口径 12.6 器高 5.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ナデ 内面 口縁部から底部に向けてミズビキ状のナデ(同心円状) 底部から口縁部に向けて立ち上がる 焼・良 色・外面 橙褐色 黒色 内面 黒褐色 使・外面及び内面炭素付着 残・ほぼ完形
坏	19	口径 12.2 器高 4.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ヨコナデ 内面 口縁部から底部に向けてミズビキ状ナデ(同心円状ナデ) 底部から口縁部に立ち上がる 焼・良 色・赤褐色 使・底部内外面鉄分付着 口縁部内外面炭素付着 出・貯蔵穴内 残・完形
坏	20	口径 12.0 器高 4.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 口縁部から底部へ向けてミズビキ状のナデ(同心円状) 底部から口縁部に向けて立ち上がる 形・口唇部わずかに稜をもつ 口唇部摩滅 焼・良 色・底部内外面橙褐色 口縁部内外面黒色 使・口縁部炭素沈着 残・完形
坏	21	口径 12.0 器高 4.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部から口縁部に向けてミズビキ状のナデ(同心円状) 立ち上がる 焼・良 色・橙褐色 使・外面口縁部鉄分付着 内面底部環状に炭素付着 残・完形
坏	22	口径 12.0 器高 4.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・赤褐色 使・底部及び口縁部内外面炭素付着 残・口縁部欠損
坏	23	口径 12.5 器高 4.8	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部風化摩滅(ヘラケズリか?) 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 色・橙褐色 使・全面風化 残・完形
坏	24	口径 12.2 器高 5.2	胎・白色粒子 石英多 雲母末 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・外面底部及び口縁部一部炭素付着 出・貯蔵穴内 残・完形
坏	25	口径 13.0 器高 4.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英多 成・底部と口縁部接合 整・底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部摩滅 焼・良 色・橙褐色〜暗褐色 使・底部及び口縁部内外面炭素付着 内面鉄分付着か? 出・貯蔵穴内 残・完形



高坏	26	口径(11.9)	胎・白色粒子 石英 細砂 整・口縁部ロクロナデ 外面クシ描波状文 内面坏底部ナデ 焼・良 色・暗灰色 残・坏部 $\frac{1}{2}$
----	----	----------	--

社具路遺跡32号住居址出土遺物(第104図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
高坏	27		胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と口縁部接合 整・外面 坏底部ヘラケズリ 内面 坏底部ナデ 内外面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ 環縁部ヨコナデ 焼・善 色・脚部黒褐色 坏部橙褐色 残・裾部 $\frac{1}{2}$ 脚部 $\frac{1}{2}$ 坏底部 環縁部 $\frac{1}{2}$	
坏	28	口径 13.0 器高 4.8	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・ほぼ完形	
坏	29	口径 11.2 器高 3.7	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面大部分炭素付着 色・外面 黒色 内面 橙褐色 残・ほぼ完形	
坏	30	口径 11.4 器高 3.8	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 出・甕内 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損	
坏	31	口径 10.8 器高 3.8	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 底部外面に炭素付着 色・暗褐色 出・甕内 残・ほぼ完形	
坏	32	口径 11.5 器高 3.4	胎・角閃石 石英 0.1~0.3mm大礫 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・器表風化 残・ $\frac{1}{2}$	
坏	33	口径 11.2 器高 3.7	胎・褐鉄粒 石英 0.2~0.3mm大礫 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面底部炭素付着 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$	

社具路遺跡33号住居址出土遺物(第105~107図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	1	口径 19.7 長径 21.2	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 小石 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・口径歪む 焼・善 内外面一部炭素付着 内面剝離 色・黄褐色 使・部分的に二次的熱受ける 土器片は層状に剝離している 残・胴部上半 口縁部 $\frac{1}{2}$	
甕	2	口径(24.8)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・黄褐色~黒褐色 使・外面胴部一部炭素付着 内面一部剝離	

壺	3	口径(16.6) 器高 20.1	炭素付着 残・胴部 $\times$ 口縁部 $\times$ 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・底部と胴部(胴部粘土 帯積み上げ 外面接合痕明瞭) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ(ヘ ラオサエ有り) 内面 胴部上半ヨコナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼 ・著 胴部内外面炭素付着 色・橙褐色 残・胴部上半 $\times$ 欠損
壺	4	口径 20.8 器高 24.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・ 外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 風化摩 滅不明瞭 焼・著 色・赤褐色～暗褐色 使・胴部内外面一部炭素付着 内面剝離口唇部欠損 残・胴部 $\times$ 及び口縁部 $\times$ 欠損
壺	5	口径 18.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合(内面接合痕明瞭) 整・内外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内面二次的熱による風化著しい 残・胴部上半 口縁部
壺	6		胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケ ズリ 内面 胴部ナデ 焼・著 色・外面 赤褐色～橙褐色 内面 黒色 使・内面炭素付着二次的熱か? 残・底部 胴部下半 $\times$
壺	7	口径(14.7)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・内外面 胴部 ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・著 内外面一部炭素付着 色・赤褐色 残・上半 $\times$
壺	8	底径 7.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 焼・著 色・外面 暗褐色 内面 赤褐色 残・ $\times$
壺	9		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼 ・著 内外面炭素付着 出・床直 残・口縁部大半欠損
壺	10	底径 7.0	胎・角閃石 褐鉄粒 0.1～0.3cm砂礫 成・底部木葉痕後上がり底 底 部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部下位ヘラケズリ著 しい 上位ナデ 焼・著 色・橙褐色 使・風化著しい 出・床直 残・ 胴部下半以下
瓶	11	口径 17.0 短径 16.0 器高 11.2	胎・角閃石 褐鉄粒 雲母 成・胴部粘土帯積み上げ 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部下半ナデ 上半ヨコナデ(ヘラオ サエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・孔部不整 焼・著 内外面一部 炭素付着 色・橙褐色 残・完形
高坏	12	裾部径 9.1	胎・角閃石 細砂粒 整・外面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ 内面 裾部ヨコナデ 焼・著 内外面炭素付着 色・暗褐色 残・坏部欠損
高坏	13	口径 18.3	胎・白色粒子 角閃石 細砂 褐鉄粒 胎土精 成・脚部と坏底部?

坑	14	器高 13.8	坯底部と坯縁部接合 整・外面 坯底部ヘラケズリ 内面 坯底部ナデ 内外面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ 坯縁部ヨコナデ 形・坯縁部歪 む 焼・良 色・橙褐色 脚部内面黒色 使・口縁部内外面細かく剥離 残・ほぼ完形
		口径(14.8) 器高 7.5	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部及び胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・暗褐色 使・内外面鉄分沈着 残・ $\frac{1}{2}$
環	15	口径(12.6) 器高 4.8	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケ ズリ後ナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面炭素付着 色・橙褐色 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部
環	16	口径 12.2 器高 5.0	胎・角閃石 細砂 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコ ナデ 焼・著 色・黄褐色 残・ほぼ完形 備・底部外面を除き丁寧にナ デ後赤彩 口唇部先端摩耗

社具路遺跡34号住居址出土遺物(第108~111図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(28.5) 器高 22.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部下半 下半と上半 頸部接合 整・外面 底ヘラケズリ 底部及び胴部ヘラケズリ後ナデ 内 面 底部ナデ 胴部ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 形・器形歪む 焼・著 内外面炭素付着 色・暗褐色 残・縦に $\frac{1}{2}$
甕	2	口径(13.3) 器高(18.3)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴 部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(弧状ヘラカ?) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部以下炭素付着 残・縦に $\frac{1}{2}$
甕	3	口径 16.1 器高 30.7	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と胴部 頸部接合 整・内 外面 胴部ヘラナデ後丁寧なナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 外面炭素付 着 色・赤褐色 使・外面胴部下半焼土付着 出・窻内 残・完形
甕	4	口径 19.4	胎・角閃石 褐鉄粒 0.2~0.5cm礫多 成・胴部下半と上半 頸部接合 口縁部二段積み上げ(接合痕一部明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内 面 胴部ナデ(ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐 色 使・外面胴部下半炭素付着 上半二次的熱による劣化 残・底部欠損
甕	5	口径 17.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼 ・著 色・橙褐色 使・内外面風化著しい 出・床直 接・胴部下半貯蔵 穴付近 上半南東コーナー付近 残・底部及び口唇部 $\frac{1}{2}$ 欠損
甕	6	口径(18.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合 整・内外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色

変	7	口径 23.2	使・胴部下半炭素及び焼土付着 出・床直 残・縦に $\gamma$ 胎・角閃石 褐鉄粒 白色微石 成・頸部接合(口縁部二段積み上げか?) ) 整・外面 胴部及び口縁部風化剝離不明瞭 内面 胴部ナデ 口縁部 ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内面口縁部一部炭素付着 口縁部内 面環状に擦痕 出・床直 残・口縁部 $\gamma$
変	8	口径 16.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 片岩礫 成・胴部幅2cmの粘土帯 積み上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ及びヘラケ ズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 使・胴部一部炭素付 着 出・床直 残・胴部上半
変	9	口径(17.9)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 整・外 面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部炭素付着 出・床直 残・縦に $\gamma$
変	10	底径 8.0	胎・白色粒子多 角閃石 石英 砂粒 胎土精 成・底部に木葉痕 底部 と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 下半接合部分粘土貼付のまま整 形なし 焼・著 色・黄褐色 使・風化著しい 底周囲摩滅 出・床直 残・底部 胴部一部
変	11	底径 3.9	胎・角閃石 白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・著 色・橙褐 色 使・外面底部及び胴部焼土付着 出・床直 残・胴部下半
変	12	口径 13.8 器高 13.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・ 外面 底部ヘラケズリによる上げ底 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面底部及び胴部炭素 付着 胴部に横の創痕多数 残・口縁部 $\gamma$ 欠損
変	13	底径 7.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・底部と胴部接合(胴 部粘土帯積み上げ 整・外面 胴部風化剝離不明瞭 内面 底部及び胴部 丁寧なヘラミガキ状ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・著 色・暗褐色 使・ 外面炭素付着 出・床直 残・胴部下半
変	14	底径 8.2	胎・白色粒子 石英 細砂 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケ ズリ 内面 胴部ナデ(底部ヘラオサエ有り) 焼・著 色・橙褐色 出 床直 残・底部
変	15	器高(14.1)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み 上げ) 頸部接合 整・外面 底部風化不明瞭 胴部ヘラケズリ及びナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・焼土 付着 熱による劣化 出・甕上 残・口唇部全て欠損
変	16	口径 24.3 器高 29.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土精 成・孔部ヘラ切り 胴部 と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ヘラケズリ

甌	17	口径 25.0 器高 29.2	状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 接・住居址全域に分散残存の約1/2は28号住より出土 残・1/2 備・内面口縁部靱痕有り 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 胴部と口縁部接合(口縁部三段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・内面炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形
高坏	18	口径(14.6)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・脚部と坏底部 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部ヘラミガキ 内外面 坏底部ナデ 坏縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 出・竈内 残・1/2
高坏	19	裾部径15.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部接合 整・内外面 裾部ヨコナデ(接地部分裾部ヨコナデ後整形台土の粘土付着) 脚部ヘラケズリ 焼・良 色・橙褐色 残・裾部1/2
壺	20	口径 14.4 器高 8.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・ほぼ完形
壺	21	口径 8.5 器高 7.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 出・床直 残・1/2
壺	22	口径 12.0 器高 8.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部と口縁部接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部弧状ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・外面底部に創痕鋭利な刃物によるものか? 出・床直 残・ほぼ完形
壺	23	口径 10.6 器高 6.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ナデ 内面 胴部弧状ヘラ調整か? 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・外面 橙褐色 内面 黒褐色 使・胴部外面10数本の傷(鋭利な刃物によるものか?) 残・完形
壺	24	口径(18.9) 器高(6.9)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 底部指ナデ 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 外面炭素付着 色・橙褐色 使・底部に創傷みられる 出・床直 残・1/2
坏	25	口径 12.9 器高 4.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 使・外面底部円形に炭素付着 残・ほぼ完形
坏	26	口径 14.2 器高 4.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・

坏	2 7	口径 18.3 器高 7.1	著色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$ 胎・白色粒子 角閃石 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・ 暗褐色 残・ $\frac{1}{2}$
坏	2 8	口径 12.0 器高 5.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・ 橙褐色 使・一部炭素付着 口唇部内面摩滅 出・床直 残・ほぼ完形
坏	2 9	口径(12.0) 器高 4.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部ヘラミガキ状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・暗褐色 使・口唇部摩耗 出・床直 残・ $\frac{1}{2}$
坏	3 0	口径 15.9 器高 6.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ヘラミガキ状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 使・口縁部一部二次的熱により軟化(器肉灰褐色) 出・床直 残・口縁部一部欠損
坏	3 1	口径 13.5 器高 5.5	胎・粘土練り込み 白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部 接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナ デ 焼・著色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
坏	3 2	口径 11.1 器高 3.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・ 黄褐色 使・器面荒れ風化著しい 残・ほぼ完形
坏	3 3	口径 13.9 器高 4.0	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 片岩礫 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・ 橙褐色 残・完形
坏	3 4	口径(13.2) 器高 4.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良色・ 橙褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
坏	3 5		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・赤褐色 出・床直 残・ 底部

社具路遺跡35号住居址出土遺物(第112・113図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 17.6	胎・角閃石 石英 0.1~0.2cm砂 成・胴部粘土帯積み上げ(接合痕一 部明瞭) 頸部接合 口縁部二段積み上げ(接合痕部分的に明瞭) 整・ 外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・胴部及び口縁部内外面炭素付着 出・床直 残・胴部上 半 $\frac{1}{2}$ 口縁部(一部欠損)

甕	2		胎・白色粒子 褐鉄粒 0.1~0.3cm砂粒 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・外面 橙褐色 内面 黄褐色 使・胴部内外面一部炭素付着 破片の状態で二次的熱受ける? 口縁部内面中位に擦痕認められる台として転用と考えられる 出・甕内 貯蔵穴上 残・ $\frac{1}{2}$ (口唇部欠損)
甕	3	口径 16.7 器高 35.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部下半風化不明瞭 上半ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・外面 胴部下半及び内面底部と口縁部一部炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形
甕	4	口径 18.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(弧状ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 内外面炭素付着 色・灰褐色 橙褐色 使・胴部一部炭素付着 残・底部欠損
甕	5		胎・白色粒子 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・良 色・赤褐色 使・外面底部炭素付着 出・貯蔵穴上 残・底部
坏	6	口径(13.9) 器高 4.6	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に稜をもつ 焼・良 色・橙褐色 使・外面炭素付着 出・床直 残・ $\frac{1}{2}$
坏	7	口径 13.0 器高 5.2	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 暗褐色 使・内面一部焼土付着 出・床直 残・ほぼ完形
坏	8	口径(13.7) 器高 5.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・外面底部一部炭素付着 口唇部先端外側より打ち欠かか? 出・甕内 残・ $\frac{1}{2}$
坏	9	口径(14.0) 器高 4.5	胎・白色粒子 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部わずかに稜をもつ 焼・著色・黒褐色 使・口唇部摩滅著しい 残・ $\frac{1}{2}$

社具路遺跡36号住居址出土遺物(第113図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	10	口径(20.3)	胎・角閃石 褐鉄粒 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・胴部一部口縁部 $\frac{1}{2}$	
坏	11	口径 13.0	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・底部ヘラケ	

坏	1 2	器高 3.4	ズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・ほぼ完形
		口径 13.4	胎・角閃石多 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ (ノッキング痕有り) 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	1 3	口径 13.0	胎・角閃石 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面
		器高 3.3	底部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部内面折れまがり状 焼・善 色・橙褐色 出・床直 残・完形
甕	1 4	底径 5.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・善 色・橙褐色 使・外面底部炭素付着 出・床直 残・底部一部 胴部一部
坏	1 5	口径 11.9	胎・石英 黒色粒子 成・高台貼付 整・内外面ロクロミズビキ 焼・良
		器高 4.0	色・灰褐色 残・ほぼ完形

## 社具路遺跡37号住居址出土遺物 (第113図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	1 6	口径(22.3)	胎・角閃石 褐鉄粒 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部内面中央部わずかに稜をもつ 焼・良 色・橙褐色 使・口縁部内面一部炭素付着 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$	
坏	1 7	口径 10.3 器高 3.7	胎・角閃石 褐鉄粒 黒色粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面底部炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$	

## 社具路遺跡38号住居址出土遺物 (第113図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	1 8	底径 3.8	胎・褐鉄粒 石英 成・底部木葉痕有り 底部と胴部接合か? 整・胴部内外面ナデ 焼・善 色・橙褐色 残・底部 胴部一部	
甕	1 9	底径 6.5	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合か? 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・善 外面底部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部一部	
甕	2 0		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (底部にヘラオサエ有り) 焼・善 外面底部及び胴部に炭素付着 色・暗褐色 出・壺上 残・底部	
甕	2 1	底径 6.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (底部にヘラオサエ有り) 焼・善 外面炭素付着 色・暗褐色 残・底部 $\frac{1}{2}$	



社具路遺跡39号住居址出土遺物(第113図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
高坏	22		胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部接合 整・外面 脚部ヘラケズリ(光沢有り) 坏底部弧状ヘラ痕有り 内面 脚部ヘラケズリ後ナデ 裾部内外面ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 残・裾部 脚部 坏底部各一部
坏	23	口径(11.4) 器高 3.4	胎・角閃石 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内外面鉄分沈着 出・甕付近 残・ㄥ
坏	24	口径 12.1 器高 3.5	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ほぼ完形
坏	25	口径 12.0 器高 3.0	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・外面底部に墨書 口縁部内面に稜をもつ 焼・良 色・橙褐色 残・ほぼ完形
坏	26	口径(12.7) 器高 3.2	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部及び口縁部下半ヘラケズリ 口縁部上半ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面口縁部一部炭素付着 出・甕上 残・底部ㄥ 口縁部ㄥ
坏	27	口径 12.1 器高 3.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 接合部分指頸圧痕か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・甕付近 残・ほぼ完形
坏	28	口径 11.2 器高 3.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内面鉄分沈着 出・甕上 残・底部 口縁部ㄥ

社具路遺跡40号住居址出土遺物(第114図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 16.8 器高 34.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ 一部接合痕明瞭) 頸部接合 整・外面 底部及び胴部焼土付着不明瞭(ヘラケズリ痕有り) 内面 底部炭素付着不明瞭 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・外面 橙褐色 内面 暗褐色 使・口唇部内外面風化摩滅 出・甕内 残・完形
甕	2	口径(17.5) 器高(29.7)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒多 米粒大の小石多 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半(下半接合部で分離) 頸部接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 口縁部二回のヨコナデ 内面 底部ナデ 胴部

變	3	器高 31.2	ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・胴部及び口縁部内外面炭素付着 残・底部一部 胴部及び口縁部ノ
變	4	口径 16.4 器高 29.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒多 成・底部と胴部 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 底部及び胴部風化不明瞭(胴部一部接合痕明瞭) 内面 底部剝離不明瞭 胴部ヘラケズリ後ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・口唇部風化 出・竜袖 残・底部 胴部ノ 口縁部ノ 備・復原不良
高環	5	口径(13.3) 器高 10.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・袖部と脚部 脚部と坯底部 坯底部と坯縁部接合 整・内外面 裾部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ 坯底部風化不明瞭 坯縁部ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・裾部ノ 脚部 坯底部ノ 坯縁部ノ
塊	6	口径(11.2) 器高 6.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ後ハケ状工具によるナデか? 内面 底部及び胴部ナデ(弧状ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・黄褐色 出・竜内 残・底部 胴部及び口縁部ノ
環	7	口径(11.6) 器高 5.4	胎・白色粒子多 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・外面 赤褐色 内面 黄褐色 使・内面 底部上半環状剝離 残・底部ノ 口縁部ノ
環	8	口径(13.0) 器高 4.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土細 成・底部と口縁部接合 整・底部内外面ヘラミガキ状ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ(内面ヘラ痕有り) 焼・著 色・暗褐色 残・ノ
環	9	口径 13.6 器高 4.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 内外面一部炭素付着 色・暗褐色 出・竜内 残・完形
環	10	口径 11.7 器高 3.8	胎・白色粒子 角閃石 砂粒多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形
高環	11		胎・白色粒子 石英 細砂 砂粒 成・脚部 坯底部接合 整・内外面ミズビキ 透孔は焼成前外側より3方透し 焼・著 色・灰白色 残・ノ

社具路遺跡41号住居址出土遺物(第115・116図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 17.1 器高 24.4	胎・白色粒子 小石 成・底部上がり底か? 頸部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 底部及び胴部ナデ(底部ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・外面 橙褐色 内面 灰褐色 使・外面及び内面口縁部風化剝離 残・ほぼ完形
甕	2	口径 16.5 器高 17.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 小石 成・粘土帯積み上げか? 外面 口縁部粘土折り返ししか? 内面 接合痕一部明瞭 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデか? 頸部下ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面一部炭素付着 色・外面 橙褐色 黄褐色 黒褐色 内面 黄褐色 残・ほぼ完形
甕	3		胎・白色粒子 石英 成・胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 焼・善 外面胴部一部炭素付着 出・竈内 残・底部一部 胴部ㄨ
甕	4	口径 13.5 器高 16.2	胎・白色微石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ(一部ハケメ残る) 上半ハケ調整 一部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部ハケ調整 胴部ナデ 上半ハケ調整 口縁部ハケ調整後ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面一部風化著しい 一部煤付着(二次的熱か?) 残・完形
甕	5	口径 11.7 器高 14.5	胎・褐鉄粒 小石 成・頸部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・胴部内外面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 使・胴部上半摩滅 残・ほぼ完形
甕	6	口径 17.4 器高 12.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 微石 成・頸部接合(外面接合痕明瞭) 整・胴部内外面ハケ調整後ヘラケズリ(部分的にハケメ残る 内面底部ヘラオサエ有り) 外面 口縁部ヨコナデ 内面 口縁部ハケ調整 焼・善 色・橙褐色 使・内外面一部(現状に)炭素付着 出・貯蔵穴上 残・底部 胴部ㄨ 口縁部
甕	7	口径 23.4 器高 22.1	胎・白色粒子 角閃石 成・孔部ヘラ切り 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ 内面接合痕明瞭) 頸部接合 整・外面 胴部ナデ 上半ハケメ不明瞭ながら残る 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・外面 橙褐色 黄褐色 内面 橙褐色 残・ほぼ完形
甕	8	口径 17.4 器高 10.7	胎・白色粒子 石英 成・粘土帯積み上げ 整・外面 孔部周囲ヘラケズリ後ナデ 胴部内外面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・赤褐色 黒褐色 残・ㄨ

高环	9	口径 19.7 器高 14.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・裾部下段と上段 裾部と脚部 脚部と 环底部 环底部と环縁部接合 整・裾部内外面ヨコナデ（内面ヘラオサエ 有り） 脚部内外面ナデ 外面 环底部ナデ後ハケ調整 内面 环底部ナ デ 环縁部内外面ヨコナデ 形・裾部内面に粘土層付着 焼・善 色・橙 褐色 出・貯蔵穴上 残・完形
高环	10	口径 17.4 器高 14.3	胎・白色粒子 石英 成・裾部と脚部 脚部と环底部 环底部と环縁部接 合 整・裾部内外面ヨコナデ 外面 脚部ヘラケズリ（ノッキング痕有り ） 环底部ハケ調整か？ 环縁部不明瞭 内面 脚部及び环底部ナデ 环 縁部ナデ（ヘラオサエ有り） 焼・良 色・橙褐色 出・貯蔵穴上 残・ ほぼ完形
高环	11	口径 16.1 器高 13.1	胎・白色粒子 成・裾部と脚部接合（内面接合痕明瞭） 整・裾部内外面 ヨコナデ（内面ヘラオサエ有り 裾の一部に粘土層付着） 外面 脚部ヘ ラミガキ（ヘラオサエ有り） 环底部不明瞭ながらハケメ残る 环縁部下 部ヘラケズリ 中部指頭調整 上部ヨコナデ 内面 脚部及び环底部ナデ 环縁部ナデ（ヘラオサエ有り） 焼・良 色・橙褐色 使・内面 裾部及 び环縁部一部炭素付着（焼成時か？） 出・貯蔵穴上 残・ほぼ完形
高环	12	口径 18.1 器高 13.6	胎・白色粒子 成・裾部と脚部 脚部と环底部 环底部と环縁部接合 整 ・裾部内外面ヨコナデ 脚部内外面ナデ（内面紋り状） 外面 环底部ハ ケ調整 内面 环底部ナデ 环縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 一部黒ずむ 出・貯蔵穴上 残・ほぼ完形
高环	13	口径 15.5 器高 13.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と环底部 环底部と环縁部接合 整・裾部内外面ヨコナデ 外面 脚部ナデ 内面 脚部ヘラケズリ 环底部内外面ヨコナデ 环縁部内外面ミズビキ状ヨコナ デ立ちあがる 焼・良 外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・貯蔵穴上 残・ほぼ完形
高环	14	口径 15.5 器高 13.6	胎・白色粒子 石英 成・裾部と脚部 脚部と环底部 环底部と环縁部接 合（内面一部接合痕明瞭） 整・裾部内外面ヨコナデ（内面ヘラオサエ有 り） 外面 脚部ヘラミガキか？ 环縁部ヨコナデ後ヘラケズリ 内面 脚部ヘラケズリ 环縁部ヨコナデ（ヘラ痕有り） 环底部内外面ナデ（外 面一部ハケメ残る） 焼・良 色・橙褐色 出・貯蔵穴上 残・完形
高环	15	口径 17.1 器高 14.2	胎・白色粒子 石英 成・裾部と脚部 脚部と环底部 环底部と环縁部接 合 整・外面 裾部ヨコナデ後暗文か？ 脚部ヘラケズリ後ミガキ 环底部ヘラケズリ 环縁部下半ヘラケズリ 上半ヨコナデ 内面 裾部ヨ コナデ 脚部及び环底部ナデ 环縁部ヨコナデ（ヘラオサエ有り） 焼・ 善 环縁部内外面一部炭素付着 出・貯蔵穴上 残・ほぼ完形
高环	16	口径 18.8	胎・白色粒子多 成・脚部と环底部（脚天井部粘土充填） 环底部と环縁

				部接合（環縁部二段積み上げか？ 接合部で分離） 整・外面 脚部ナデ 内面 脚部ヘラケズリ後ナデ 環底部内外面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 黄褐色 暗褐色 出・壺内 残・脚部上半 環底部 環縁部
坩	17	口径 9.5 器高 5.2	胎・白色粒子 石英 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部下半ナデ（弧状ヘラオサエ） 上半及び口縁部ヨコナデ 焼・善 色 ・橙褐色 使・内面上半炭素付着か？ 出・壺内 残・完形	
坩	18	口径 12.6 器高 7.4	胎・白色微石 石英 成・頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部下 半ヘラケズリ後ミガキ 上半ヘラケズリ後ナデ 内面 底部及び胴部ナデ （ヘラオサエ有り） 胴部中位環状にヘラ痕有り 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 出・貯蔵穴上 残・ほぼ完形	
坩	19	口径 11.7 器高 5.9	胎・白色粒子 石英 整・外面 胴部ハケ調整 内面 胴部ヘラケズリ後 暗文 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 底部及び口縁部内外面環状に炭素 付着 色・赤褐色 出・貯蔵穴上 残・完形	
坩	20	口径 12.4 器高 6.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 整・胴部内外面ナデ（内面ヘラオ サエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 内面 口縁部 一部黒ずむ 出・貯蔵穴上 残・ほぼ完形	
坏	21	口径 11.7 器高 5.3	胎・白色微石 黑色粒子 小石少 成・胴部と口縁部接合 整・外面 底 部及び胴部ヘラケズリ後ナデ（部分的に光沢有り） 内面 底部及び胴部 ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 胴部内外面環 状に黒ずむ 色・橙褐色 使・内面 胴部一部剥離 残・ほぼ完形	
坩	22	口径 13.8 器高 5.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 整・外面 胴部ヘラケズリ（ミガキか？光 沢有り） 内面 胴部ヘラケズリ後暗状 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・貯蔵穴上 残・完形	
坏	23	口径 13.2 器高 5.5	胎・白色粒子 黑色粒子 角閃石 褐鉄粒 0.1~0.2cm大微石 成・胴 部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ後ナデ 内 面 底部及び胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 良 色・外面 橙褐色 内面 黄褐色 黒褐色 使・外面 底部一部炭素 付着 内面 炭素付着 出・貯蔵穴上 残・完形	
坩	24	口径 14.0 器高 5.2	胎・白色粒子 成・胴部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部 ヘラ調整後ナデ（ハケメ残る） 口縁部ヨコナデ 内面 底部及び胴部ナ デ（ヘラオサエ有り） 口縁部ヨコナデ後ハケ調整 焼・良 色・橙褐色 残・底部 胴部 <sub>2/3</sub> 口縁部 <sub>1/3</sub>	
坏	25	口径 12.2 器高 4.6	胎・白色粒子 角閃石 石英 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部下 半ヘラケズリ 上半ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 口縁部内外面 一部炭素付着 色・赤褐色 出・貯蔵穴上 残・完形	

環	26	口径(13.2) 器高(3.2)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・ㄥ
---	----	---------------------	--

社具路遺跡42号住居址出土遺物(第117図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 22.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・甕袖 残・胴部ㄥ 口縁部(一部欠損) 備・復原不良
甕	2	口径 23.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面 胴部焼土付着 下半剝離 出・甕袖 残・胴部及び口縁部ㄥ
甕	3	口径 21.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部ㄥ
甕	4	口径(18.4)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 小石 石英 成・頸部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部風化不明瞭 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・黄褐色 出・床直 残・胴部上半ㄥ 口縁部一部
甕	5		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 0.2~0.6cm砂粒 石英 整・外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 焼・良 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部ㄥ 胴部一部
甕	6	底径 5.1	胎・角閃石 褐鉄粒 整・外面 ヘラケズリ 内面 ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・著 底部及び胴部一部炭素付着 色・灰褐色 使・外面 底部ㄥ 剝離 残・底部 胴部下半一部
台付甕	7	底径 12.3	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 整・裾部端内外面ヨコナデ 外面 ヘラケズリ 内面 ヨコナデ 焼・著 内面一部炭素付着 色・赤褐色 出・甕袖 残・台部ㄥ
台付甕	8		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と胴部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 焼・著 色・橙褐色 使・一部炭素付着 出・甕内 残・胴部下半ㄥ
甕	9	口径(13.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・口縁部内外面ヨコナデ(外面ヘラ痕有り) 焼・著 色・暗褐色 出・甕内 残・口縁部ㄥ
環	10	口径 12.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 整・外面 底部ヘラケズリ 内

環	1 1	口径 12.9	面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ほぼ完形 胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 整・口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面一部炭素付着 色・灰褐色 一部黒色 残・口縁部
環	1 2	口径 11.9 器高 3.7	胎・白色粒子 角閃石 石英 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・暗褐色 使・内面 一部鉄分付着 出・床直 残・ㄥ
環	1 3	口径(12.3)	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 出・床直 残・ㄥ
長頸壺	1 4	底径(15.2)	胎・砂粒 精選 成・高台部接合 整・タキ整形後ロクロミズビキ 底部内面に同心円状残る 焼・良 色・灰白色 残・ㄥ

社具路遺跡4 3号住居址出土遺物(第117図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
鉢	1 5	口径(15.5)	胎・白色粒子 黒色粒子 角閃石 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・外面 橙褐色 内面 黒色 残・胴部上半及び口縁部ㄥ
鉢	1 6	口径(18.3)	胎・白色粒子 角閃石多 褐鉄粒 砂粒 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・外面 暗褐色 内面 灰褐色 使・内面 胴部環状炭素付着 残・胴部上半及び口縁部ㄥ
甕	1 7	底径 7.4	胎・角閃石 褐鉄粒 砂粒 成・底部と胴部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 焼・著 色・外面 灰褐色 内面 黒色 残・底部
環	1 8	口径(12.5)	胎・褐鉄粒 石英 胎土細 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・黒褐色 残・ㄥ

社具路遺跡4 4号住居址出土遺物(第118~120図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(17.7) 器高 34.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・底部中心より外れる 焼・悪 外面胴部一部炭素付着 色・暗褐色 残・底部 胴部ㄥ 口縁部ㄥ
甕	2	器高 36.0 口径(14.6)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部下半ヘラナデ 上半ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 胴部一部炭素付着 色・暗褐色 使・胴部に焼成前の圧迫

変	3	口径 17.2 器高 33.2	有り 粘土付着 残・縦ノ 胎・白色粒子 角閃石多 砂粒 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 風化不明瞭 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・ 灰褐色 使・外面 底部ノ摩耗 胴部下半焼土付着 縦ノ炭素付着 残・ 底部 胴部 口縁部ノ
変	4	口径 17.0 器高 31.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半 (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 ヘラケズリ 内面 ヘラ ケズリ痕(ヘラオサエ有り) 焼・良色・外面 赤褐色 内面 暗褐色 使・胴部中位焼土付着 出・竈内 残・ほぼ完形
変	5	口径 17.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・頸部接合(胴部粘土帯積み上げ 接 合痕明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有 り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 使・内外面風化著し い 出・貯蔵穴内 残・胴部 口縁部ノ
変	6	口径 15.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・内 外面風化著しい(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色 ・灰褐色 下半赤褐色 使・二次的熱受ける 出・床直 残・胴部下半欠
変	7	口径(21.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土細 成・頸部接合 整・内外 面風化不明瞭 焼・蒼色・橙褐色 残・口縁部ノ
変	8	口径(18.1)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒多 石英 成・胴部下半と上半 頸 部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部及び口 縁部ヘラナデ(ヘラオサエ有り) 焼・蒼色・外面 暗褐色 内面 黒 褐色 出・床直 残・胴部及び口縁部ノ
変	9	口径 16.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・頸部接合(胴部粘土帯積み 上げ) 整・外面 ヘラケズリ 内面 ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部 内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 使・口縁部内面上方より擦痕 出 ・床直 残・胴部上半ノ 口縁部
変	10	口径(21.1)	胎・白色粒子 角閃石 胎土細 成・頸部接合 整・胴部内外面ヘラケズ リ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・暗褐色 黒褐色 使・内外面炭 素付着 出・竈内 残・胴部上半 口縁部ノ
瓶	11	口径 27.9 器高 33.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半ハケ状工具で ナデ後接合 整・外面 胴部縦にハケメ施す 内面 胴部ハケ状工具によ る縦ナデ 内面 口縁部横にハケメ施す 焼・蒼 外面ノ炭素付着 色・ 橙褐色 赤褐色 黒褐色 使・風化著しい 胴部下半擦痕 出・貯蔵穴内 残・ほぼ完形
瓶	12		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・孔は径0.2cm 6孔残存 整・内外 面ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 使・内外面孔部周



高环	13	裾部径12.1	团炭素付着 残・底部 胴部ㄥ 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部絞り痕 整・脚部内外面 ヘラケズリ 焼・著 色・橙褐色 使・風化摩滅 出・床直 残・环部欠
环	14	口径 13.3 器高 4.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面風化不明 瞭(ヘラケズリ痕有り) 内面ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨ コナデ 焼・著 色・赤褐色 口縁部一部暗褐色 使・内外面風化剝離 出・床直 残・完形
环	15	口径 13.1 器高 4.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・底部と口縁部接合か? 整 ・底部内外面ナデ(内面ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 著 色・橙褐色 使・外面 底部炭素付着 残・ㄥ
环	16	口径 15.0 器高 6.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・ 褐色 出・床直 残・ほぼ完形
环	17	口径 14.0 器高 4.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・底部 内外面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内外面風 化著しい 出・床直 残・ほぼ完形
环	18	口径 12.7 器高 4.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 外面 底 部黒褐色 出・床直 残・完形
鉢	19	口径 14.0 器高 8.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・底部と胴部接合か? 整・ 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面底 部炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
环	20	口径 12.4 器高 4.9	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内外面風化著しい 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐 色 残・ほぼ完形
环	21	口径(11.6)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・ 橙褐色 残・ㄥ
环	22	口径 12.7 器高 4.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・底部と口縁部接合 整・底 部内外面風化著しい 外面 ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・貯蔵穴上 残・ほぼ完形
环	23	口径 12.6 器高 4.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 残・底部 口縁 部ㄥ
甕	24	口径 12.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合か? 整・外面 胴 部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナ

環	25	口径 13.4 器高 4.3	ア 焼・著 外面炭素付着 色・暗褐色 出・壺内 残・胴部 口縁部ヲ胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 練り込み 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部 口縁部ヲ
環	26	口径 13.4 器高 5.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・内外面風化不明瞭 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・黄褐色 残・ほぼ完形
環	27	口径 9.7 器高 3.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・底部と口縁部接合 整・底部内外面ナデ (内面ヘラオサエ有リ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部 口縁部ヲ
環	28	口径 12.8 器高 4.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 一部練り込み 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内面炭素付着 色・橙褐色 出・貯蔵穴内 残・完形
環	29	口径 7.9 器高 3.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・底部内外面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ヲ
埴	30		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 底部練り込み風 成・底部と胴部下半 頸部接合 整・外面 摩滅不明瞭 内面 剝離不明瞭 焼・著 色・黄褐色 使・風化著しい (二次的熱か?) 出・床直 残・口縁部欠損
手捏	31	口径 (8.6)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・手捏ね 整・外面 ヘラケズリか? 内面 ナデ 焼・著 色・赤褐色 残・底部 胴部一部

社具路遺跡45号住居址出土遺物 (第121図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 20.8 器高 35.8	胎・白色粒子 角閃石極多 0.1~0.2cm砂粒多 成・底部上がり底 胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部風化摩滅不明瞭 ヘラケズリか? 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・外面 暗褐色 内面及び口縁部黄褐色 使・外面 胴部焼土付着 出・壺内 残・底部 胴部ヲ 口縁部ヲ
鉢	2	口径(12.8) 器高(12.8)	胎・角閃石 褐鉄粒多 0.1~0.2cm砂多 成・底部と胴部 (胴部粘土帯 積み上げ) 頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部風化不明瞭 (下半ヲ剝離) 内面 底部ヘラケズリ (ヘラオサエ有リ) 胴部ナデ (接合痕不明瞭) 口縁部内外面ヨコナデ (外面ヘラ痕) 焼・著 外面底部炭素付着 色・灰褐色 使・胴部下半一部剝離 残・口唇部欠損
甕	3	口径 26.9 器高 33.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 0.1~0.2cm砂粒 石英 成・孔部ヘラ切り 頸部接合 (胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 孔部周囲ヘラケズリ 胴部暗文状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・胴部内外面及び口縁部一部炭素付着 出・貯蔵穴上 残・ほぼ完形

瓶	4		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・孔部焼成後ミガキ仕上 擬孔状 頸部接合 整・外面 胴部風化剝離不明瞭 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・外面 暗褐色 内面 黒褐色 残・ㄥ
高環	5		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・脚部と坯底部接合（脚部粘土紐巻き上げ後紋り） 整・外面 脚部ヘラケズリ後ナデ 内面 脚部ナデ 焼・著 色・橙褐色 使・内面 脚部炭素付着 残・脚部 坯底部一部
環	6	口径 14.4 器高 4.6	胎・白色粒子 角閃石 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面二回のヨコナデ 焼・著 色・外面 黄褐色 灰褐色 内面 橙褐色 黒褐色 使・外面 底部炭素付着 残・ほぼ完形
環	7	口径 12.8 器高 4.6	胎・角閃石 褐鉄粒 砂粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部ナデ（ヘラ痕有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・黄褐色 残・完形
環	8	口径 13.7 器高 4.3	胎・白色粒子 角閃石多 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・底部内外面ナデ（内面ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・暗褐色 使・内外面一部炭素付着 出・壺内 残・ㄥ
環	9	口径 13.0 器高 (4.8)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面底部炭素付着 色・橙褐色 残・底部ㄥ 口縁部
環	10	口径 12.0 器高 3.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面 底部一部剝離 残・ほぼ完形
環	11	器高(12.8) 口径 4.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部ㄥ 口縁部ㄥ
環	12	口径 12.1 器高 6.8	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・外面 底部中央ヘラ痕有り 焼・著 色・黄褐色 使・内外面鉄分付着 残・完形
環	13	口径 11.9 器高 4.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ほぼ完形
環	14	口径(13.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ナデ 内面 底部風化不明瞭（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ㄥ

社具路遺跡4 6号住居址出土遺物(第1 2 2図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 23.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土細 成・頸部接合か? 整・外面 胴部上半ヘラケズリ 内面 胴部上半ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・貯蔵穴内 残・口縁部欠
環	2	口径(12.0) 器高(3.3)	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリか? 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・風化著しい 出・竈内 残・欠
環	3	口径 13.0 器高 3.4	胎・石英 細砂 整・外面底部糸切り後回転ヘラケズリ 内面底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 色・灰褐色 出・貯蔵穴 残・ほぼ完形
環	4	口径 13.1 器高 3.2	胎・石英 細砂 整・口縁部整形 底部糸切り 内面底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 色・灰褐色 使・風化著しい 出・貯蔵穴内 残・口縁部一部欠損

社具路遺跡4 7号住居址出土遺物(第1 2 3~1 2 6図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 18.0 器高 35.0	胎・白色粒子 砂粒 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 底部及び胴部下半ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデか? 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部二次的熱による風化著しい 炭素及び粘土附着 出・床直 残・ほぼ完形
甕	2	口径 18.2 器高 35.0	胎・白色粒子 砂粒 石英 成・底部木葉痕 上がり底 底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面 胴部炭素附着 下半焼土附着 縦半分二次的熱強く受け風化 出・床直 残・ほぼ完形
甕	3	口径 17.7 器高 31.1	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面 胴部一部炭素附着(二次的熱受ける) 残・ほぼ完形
甕	4	口径 15.2 器高 31.6	胎・褐鉄粒 砂粒 石英 成・底部上がり底状 底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・縦半分二次的熱による風化著しい 出・床直 残・ほぼ完形(口縁部一部欠損)
甕	5	口径 17.5 器高 33.0	胎・褐鉄粒 砂粒 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 接合痕明瞭) 頸部接合 整・外面 風化不明瞭 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面 底部焼

壺	6	口径 18.3 器高 36.0	土及び炭素付着 内面 炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形 胎・白色粒子 角閃石 砂粒 石英 成・底部と胴部（胴部粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・灰褐色 使・外面 胴部及び口縁部一部炭素付着 出・床直 残・底部 胴部 $\times$ 口縁部 $\times$
壺	7	口径 17.7 器高 33.4	胎・白色粒子 砂粒 石英 成・底部木葉痕 底部と胴部（胴部粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・外面 胴部焼土付着 出・床直 残・ほぼ完形
壺	8	口径 16.5 器高 33.8	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部木葉痕 底部と胴部（胴部粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ハケ調整 口縁部細かいハケ調整 形・器形大きく歪む 焼・著色・橙褐色 使・外面 炭素及び焼土付着 出・床直 残・ほぼ完形
壺	9	口径(16.2) 器高 35.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部木葉痕 底部と胴部（胴部粘土帯積み上げ） 頸部接合か？ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ヘラケズリ後ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・外面 炭素及び焼土付着 二次的熱による風化著しい 出・室内 残・口縁部 $\times$ 欠損
壺	10	口径 14.2 器高 22.9	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部木葉痕 上がり底 底部と胴部（胴部粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・外面 底部及び胴部炭素付着 器表風化 出・床直 残・ほぼ完形
壺	11	口径 15.0	胎・白色粒子 砂粒 石英 成・頸部接合か？（胴部粘土帯積み上げ 接合部で分離） 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部歪む 色・橙褐色 使・外面 胴部一部炭素付着 二次的熱による赤色化みられる 出・床直 残・胴部上半 口縁部
壺	12	口径 17.5	胎・角閃石 褐鉄粒 砂粒 石英 成・頸部接合（胴部粘土帯積み上げ） 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・暗褐色 橙褐色 使・内外面風化著しい 残・胴部上半 口縁部
壺	13		胎・白色粒子多 角閃石 石英 胎土精 成・頸部接合 整・外面 口縁部下半ハケ調整 上半ヨコナデ 内面 口縁部ヨコナデ 焼・著色 内面炭素付着 色・暗褐色 使・内面 頸部1.5～3.0cm 口唇部環状に摩滅 出・床直 残・口縁部
壺	14	口径 16.8 最大径17.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合（胴部粘土帯積み上げ） 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部内外面ヨ

甕	1 5	口径 10.6 器高 12.5	コナテ 焼・善色・橙褐色 使・外面 胴部一部炭素付着 口縁部内外面環状炭素付着 出・床直 残・胴部上半 口縁部 胎・白色粒子 砂粒 石英 成・頸部接合か? (口縁部二段積み上げ) 整・内外面風化不明瞭 口縁部ヨコナテ 焼・悪色・暗褐色 黒褐色 使・二次的熱受ける 出・床直 残・完形
甕	1 6	底径 8.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部上がり底(円板状粘土から積み上げか?) 整・外面 ヘラケズリ及びヘラミガキ 内面 ナテ 焼・善色・外面 暗褐色 内面 黄褐色 使・外面 底部摩滅 胴部炭素付着 出・床直 残・底部 胴部下半
甕	1 7	口径 21.8 最大径25.7 器高 28.4	胎・白色粒子 砂粒 石英 成・胴部と口縁部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナテ 中位ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナテ 形・口縁部楕円形に歪む 焼・善色・橙褐色 使・外面 胴部炭素付着 二次的熱による風化 出・床直 残・ほぼ完形
甕	1 8	口径 26.2 器高 28.9	胎・白色粒子 石英 0.5~0.8cm大礫多 成・頸部接合(胴部粘土帯積み上げ 口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナテ 口縁部内外面ヨコナテ 焼・善色・橙褐色 使・外面 口縁部一部炭素付着 残・ほぼ完形
甕	1 9	口径 18.2	胎・石英 砂礫多 成・粘土帯積み上げ(接合痕不明瞭) 瓶口縁 整・外面 積み上げのまま手を加えず 内面 ナテ 形・長妻の仕掛けか? 焼・悪色・暗褐色 使・剝離風化著しい 出・床直 残・底部欠損
甕	2 0	口径 14.1 器高 6.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナテ(下半ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナテ 形・口縁部楕円形に歪む 色・赤褐色 暗褐色 使・底部及び胴部内外面一部摩滅剝離 出・床直 残・ほぼ完形
高環	2 1	口径 17.5 器高 10.6	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 胎土細 成・脚部と環底部接合 整・内外面風化不明瞭 外面 脚部ヘラケズリか? 焼・善色・橙褐色 使・器表風化 残・環縁部欠損
環	2 2	口径 13.8 器高 5.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナテ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ナテ 焼・善色・橙褐色 使・外面 底部一部炭素付着 摩滅 出・床直 残・ほぼ完形
環	2 3	口径 14.2 器高 4.8	胎・白色粒子 石英 練り込み 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナテ 口縁部内外面ヨコナテ 赤彩又は化粧土の痕跡 形・口唇部先端に沈線 焼・善色・橙褐色 使・外面底部一部炭素付着 出・床直 残・完形
環	2 4	口径 13.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底

環	25	器高 5.1	部ヘラケズリ 内面 底部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 外面 口縁部ハケ状工具オサエ ヨコナデによりはみ出した粘土がヘラケズリの底部に僅かにかぶる 焼・著色・橙褐色 使・内面 底部風化剝離 残・ほぼ完形
		口径 12.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・内外面 風化
		器高 4.5	不明瞭 口縁部内外面ヨコナデか? 一部赤彩痕残る 焼・著色・橙褐色 使・外面 底部一部炭素付着 口唇部内面環状に擦痕 残・底部 口縁部欠
環	26	口径 12.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・
		器高 4.3	外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ ヘラケズリによる削りすぎのため中心部内外面から粘土貼付痕跡残る 焼・著色・橙褐色 残・完形
環	27	口径(13.6)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 練り込み 成・底部と口縁部接合か? 整
		器高 5.1	・外面 底部ヘラケズリ (ノッキング痕有り) 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 出・床直 残・欠
環	28	口径 13.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・風化 残・底部 口縁部欠
		器高 4.8	
環	29	口径 13.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 練り込み 成・底部と口縁部接合か? 整
		器高 4.8	・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ (中心部ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 出・床直 残・完形
環	30	口径 12.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・内外面風化 出・床直 残・ほぼ完形
		器高 4.6	
環	31	口径 12.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・風化摩滅著しい 出・床直 残・ほぼ完形
		器高 4.5	
蓋	32	鉦径 6.3	胎・石英 黑色粒子 成・つまみ貼付 整・内外面クロミズビキ 焼・良色・灰褐色 残・つまみ部のみ
環	33	口径 13.4	胎・石英 白色粒子 成・底部糸切後周囲回転ヘラケズリ 整・内外面口
		器高 3.7	クロミズビキ 焼・良色・灰白色 残・口縁部欠損

社具路遺跡48号住居址出土遺物 (第127図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 20.8 器高 29.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部木葉痕後上がり底 底部と胴部 (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部下ナデ 中部環状に指ナデ状痕残る 上部ナデ 口縁部内外

甕	2	底径 6.7	面ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部焼 土付着不明瞭 内面 胴部下半ナデ 上半ヘラケズリ及びナデ（ヘラオサ エ有り） 焼・著 外面焼土付着著しい 色・橙褐色 使・二次的熱受け 部分的に赤褐色 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$
甕	3	口径(15.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部 頸部接合 整・胴部ヘ ラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 焼・著 内外面炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	4	底径 6.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部下半接合（接合部 で分離 接合部内外面粘土補強） 整・内外面ヘラケズリ 焼・著 内面 底部炭素付着 色・赤褐色 使・内面 底部炭化物付着 残・底部 胴部 下半 備・上半56号住居址から検出されている（No.3）
甕	5	口径 23.7 器高 27.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 小石少 石英 成・孔部ヘラ切り 頸部 接合か？ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ（暗文状） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面胴部下半一部炭素付着 色・橙褐 色 使・縦断面二次的熱受け赤褐色 残・ほぼ完形
環	6	口径(13.9) 器高(3.7)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 胎土細 成・底部と口縁部接合 整・外 面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面炭素付着 色・黒褐色 使・口唇部打ち欠きか？ 残・底 部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
環	7	口径(14.9) 器高(4.0)	胎・白色粒子 角閃石 石英 胎土細 成・底部と口縁部接合か？ 整・ 外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面炭素付着 色・外面 暗褐色 内面 黒褐色 残・ $\frac{1}{2}$

社具路遺跡49号住居址出土遺物（第128～130図）

器種	番号	量目 (cm)	特 徴
甕	1	口径 16.9 器高 33.8	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・底部上がり底 底部と胴部下半 下半と上半（胴部粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズ リ 内面 胴部ナデ（接合部分ヘラケズリ） 口縁部内外面ヨコナデ 焼 ・著 色・橙褐色 使・外面風化 底から胴部下半内外面炭素付着 残・ ほぼ完形
甕	2	器高 29.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 成・底部上がり底 底部と胴部 頸部 接合 整・内外面風化摩滅不明瞭 焼・著 色・赤褐色 使・風化著しい （二次的熱か？） 残・ $\frac{1}{2}$
甕	3	口径 12.3 器高 20.2	胎・角閃石 褐鉄粒 細砂 成・底部と胴部下半 下半と上半（胴部粘土 帯積み上げ） 頸部接合（口縁部粘土帯積み上げ） 整・外面 胴部ヘラ ケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼



変	4	口径 19.7	・著 外面底部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部及び口縁部欠損 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・内外面 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 形・口縁部大きく歪む 焼・著 色・橙褐色 使・風化著しい 残・胴部上半 口縁部
変	5	器高(21.0)	胎・角閃石 石英 砂礫 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 胴部内外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部 口縁部一部
変	6	口径 19.7	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・口縁部
変	7	口径 17.5	胎・角閃石 褐鉄粒 砂粒 成・頸部接合(口縁部粘土帯積み上げ) 整・内外面風化不明瞭 焼・著 色・橙褐色 灰褐色 残・口縁部
変	8	口径 20.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 口縁部二段積み上げ 整・内外面風化不明瞭 焼・良 口唇部一部炭素付着 色・橙褐色 使・風化著しく器表劣化 残・口縁部
変	9	口径 14.0	胎・白色粒子 細砂 成・頸部接合 整・内外面風化不明瞭 焼・著 色・赤褐色 使・風化著しく器表劣化 残・口縁部
変	10	口径 13.2	胎・角閃石 褐鉄粒 黑色粒子 成・頸部接合か? 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部 口縁部
変	11	口径 7.8 器高 8.8	胎・白色粒子 細砂 (いざれも微細) 形・器形歪む 焼・著 色・赤褐色 使・器表風化著しく劣化 赤化 残・完形
変	12	底径 7.9	胎・角閃石 褐鉄粒多 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合(接合痕明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリか? 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面底部~胴部一部に炭素付着 色・橙褐色 残・口唇部全欠損
変	13	底径 5.8	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・著 外面底部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部下半
鉢	14	口径 12.8 器高 10.5	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・頸部接合 整・内外面風化不明瞭 器面柔軟 焼・著 色・橙褐色 使・風化著しい 残・
変	15	底径 6.8	胎・角閃石 白色粒子 胎土細 成・底部と胴部接合 胴部粘土帯積み上げ 整・外面 底部摩滅不明瞭 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ 焼・著 底部及び胴部一部炭素付着 色・暗赤褐色 出・住居址西壁外 残・底部

甕	1 6	底径 4.8	胎・砂粒多 整・内外面風化不明瞭 焼・著 底部外面炭素付着 色・橙褐色 使・内外面風化 残・底部 胴部一部
鉢	1 7	口径 11.8 器高 10.8	胎・白色粒子 石英 細砂 整・内外面風化不明瞭 形・器形全体垂む 焼・著 外面一部炭素付着 色・赤褐色 使・二次的熱により器表劣化 赤化 残・ㄥ
甕	1 8	口径 13.0 器高 10.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 片岩礫 0.2~0.4 cm砂粒多 成・底部と胴部 頸部接合 胴部上半粘土帯積み上げ(外面接合痕部分的に明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面 ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・完形
瓶	1 9	口径(18.6) 器高 15.2	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部と口縁部接合か? 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 胴部内外面一部に炭素付着 色・橙褐色 残・胴部ㄥ 口縁部ㄥ
鉢	2 0	器高(8.9)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部風化不明瞭 内面 底部及び胴部ナデ 焼・悪 内外面底部及び胴部一部に炭素付着 色・赤褐色~黒褐色 使・一部二次的熱による赤化 残・底部 胴部ㄥ
鉢	2 1	口径 11.4 器高 8.5	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 砂礫 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 底ヘラケズリ 胴部ヘラケズリ後ミガキ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面 ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・完形
高坏	2 2	口径(20.0)	胎・白色粒子 石英 細砂 成・坏底部と口縁部接合 整・内外面 坏底部ナデ 坏縁部ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・坏底部 坏縁部ㄥ
高坏	2 3	底径 14.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・裾部と脚部接合 整・外面 脚部ヘラケズリ 内面脚部及び裾部内外面風化不明瞭 焼・著 色・橙褐色 使・内外面風化著しい 残・裾部 脚部
环	2 4	口径 13.9 器高 5.4	胎・白色粒子 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部弧状ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・部分的に風化 残・ほぼ完形
环	2 5	口径 14.3 器高 3.5	胎・褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後 ナデ 内面 底部ナデ後ヘラミガキ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・器表風化 残・ほぼ完形
环	2 6	口径(13.0) 器高(4.6)	胎・褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・黄褐色 残・ㄥ
环	2 7	口径 13.9 器高 4.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面炭素付着 色・暗褐色 使・部分的に層状剥離 残・ほぼ

			完形
环	2 8	口径 15.8 器高 4.2	胎・褐鉄粒 石英 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に沈線を施す 焼・良 色・赤褐色 残・ほぼ完形（一部欠損）
环	2 9	口径(13.0) 器高(4.2)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部暗文 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に沈線を施す 焼・普 内外面部分的に炭素付着 色・橙褐色 残・底部及口縁部欠
环	3 0	口径 13.0 器高 4.2	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部内面に浅い沈線を施す 焼・普 色・橙褐色 残・ほぼ完形
环	3 1	口径(13.5) 器高(4.0)	胎・白色粒子 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ後暗文 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・器表及び口唇部風化 残・底部欠 口縁部欠
环	3 2	口径(15.1) 器高(3.7)	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良(堅韌) 色・赤褐色 残・欠
环	3 3	口径 12.7 器高 4.0	胎・褐鉄粒 石英 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部下半ナデ 上半同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・底部 口縁部欠
环	3 4	口径(12.6) 器高(4.0)	胎・角閃石 褐鉄粒多 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・口唇部内側環状に擦痕 残・底部欠 口縁部欠
环	3 5	口径 12.7 器高 3.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 内面 底部及び口縁部風化不明瞭 焼・良 色・橙褐色 使・器表風化 残・完形
环	3 6	口径(13.0) 器高(3.7)	胎・褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・黄褐色 使・器表風化著しい 残・欠
环	3 7	口径 12.6 器高 3.9	胎・褐鉄粒 石英 細砂 成・底部と口縁部接合 整・底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・欠
环	3 8	口径(13.0) 器高(4.7)	胎・石英 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・器表風化著しい 残・欠
环	3 9	口径(16.2)	胎・褐鉄粒 細砂 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラ

坏	4 0	口径 13.6 器高 (4.3)	ケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に沈線を施す 焼・普 底部外面炭素付着 色・黄褐色 残・ㄥ 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 内面 底部ナデ (剝離風化) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・風化著しく器表劣化 残・底部ㄥ 口縁部
埴	4 1		胎・角閃石 長石 雲母末 細砂 成・胴部粘土帯積み上げ 整・外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部弧状ヘラ整形 焼・普 色・橙褐色 残・ 胴部
埴	4 2		胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 整・内外面風化不明瞭 焼・普 色・橙褐色 残・胴部ㄥ
高坏 蓋	4 3	口径(11.4)	胎・石英 整・ロクロミズビキ 焼・良 自然釉 色・器表青灰褐色 器 肉小豆色 使・口唇部自然釉剝離 残・ㄥ

社具路遺跡50号住居址出土遺物(第131図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1		胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部上がり底 底部と胴部 胴部下半と 上半接合(粘土帯積み上げ) 整・外面 ヘラケズリ 内面 ナデ(底部 弧状ヘラオサエ有り) 焼・普 外面底部及び胴部一部炭素付着 色・灰 褐色 使・外面胴部一部焼土付着 残・底部ㄥ 胴部下半ㄥ
甕	2	口径 19.7 器高 21.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 口縁部と胴部の胎土の相違が明白 である 成・胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコ ナデ 焼・普 外面孔部周囲及び内面炭素付着 色・外面 胴部橙褐色 内面 胴部及び口縁部一部黒色 口縁部内外面赤褐色 使・孔部摩滅 出 ・蓋袖 残・ほぼ完形
甕	3	口径(13.8)	胎・角閃石 褐鉄粒 砂粒多 石英 成・頸部接合(胴部粘土帯積み上げ 口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(直 線ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・ 胴部上半ㄥ 口縁部ㄥ
鉢	4	口径 18.2 器高 10.8	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 形・胴 部に数ヶ所粘土塊貼付 焼・普 内面一部炭素付着 色・橙褐色 残・底 部ㄥ 胴部 口縁部
甕	5	底径 5.6	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 底部と胴部 ヘラケズリ後ナデ 内面 底部及び胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・普 外面胴部一部焼土付着 色・橙褐色 出・蓋内 残・底部・胴部下半ㄥ
高坏	6		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・脚部と坏底部接合 整・外面 脚部

高環	7		ヘラケズリ後ナデ 内面 脚部ナデ 焼・善 色・橙褐色 出・貯蔵穴内 残・脚部 環底部
塊	8	口径 14.3 器高 10.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・脚部と環底部接合 整・脚部内外面ナデ 焼・善 色・橙褐色 出・貯蔵穴内 残・脚部 環底部一部
環	9	口径(14.8) 器高(4.2)	胎・砂粒多 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部下半摩滅 上半ヘラケズリ後ミガキ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・外面 暗褐色 内面 橙褐色 出・貯蔵穴内 残・ $\frac{1}{2}$
環	10	口径(14.4) 器高(5.2)	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
手捏	11		胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・手捏 整・内外面ナデ 焼・善 色・橙褐色 残・下半一部

## 社具路遺跡51号住居址出土遺物(第132図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 13.4 器高 11.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・胴部内外面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 内面一部炭素付着 色・橙褐色 使・内面 一部炭素付着 出・窻内 残・ $\frac{1}{2}$
高環	2	口径(15.4)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・脚部と環底部 環底部と環縁部接合 整・内外面風化剝離不明瞭 内面 脚部ナデ 焼・善 内面脚部炭素付着 色・橙褐色 使・口唇部打ち欠き状 出・窻内 残・裾部及び口唇部欠損
高環	3	口径(11.9)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・脚部と環底部 環底部と環縁部接合 整・脚部及び環底部内外面ナデ(内面ヘラオサエ有り) 環縁部内外面ヨコナデ 焼・善 内面脚部炭素付着 色・黒褐色 使・外面 脚部及び環底部炭素付着 残・脚部 環底部 $\frac{1}{2}$ 環縁部 $\frac{1}{2}$
環	4		胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に沈線を施す 焼・善 外面口縁部一部炭素付着 色・橙褐色 出・貯蔵穴内 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部

## 社具路遺跡52号住居址出土遺物(第132図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	5	口径 19.2	胎・黒色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 0.1~0.3cm大微石 成・頸部接合か? 整・胴部内外面ヘラケズリ(外面頸部ヘラオサエ有り) 口縁部

甕	6		内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・器表風化(二次の熱受ける) 出・貯蔵穴上 床直 残・胴部上半 口縁部 胎・白色粒子 黒色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ 焼・著 外面底部及び胴部一部炭素付着 色・橙褐色 使・層状に破損 出・床直 残・胴部一部 底部
環	7	口径 12.5 器高 4.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 胎土細 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 使・器表風化 出・床直 残・完形
環	8	口径 12.1 器高 4.4	胎・褐鉄粒多 練り込み 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・黄褐色 出・貯蔵穴上 床直 残・完形
環	9	口径 12.3 器高 4.4	胎・黒色粒子 角閃石 褐鉄粒多 胎土精 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・灰褐色 出・貯蔵穴上 床直 残・欠 備・復原不良
環	10	口径 12.3 器高 4.7	胎・黒色粒子 角閃石 褐鉄粒多 練り込み 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面指頭調整後ヨコナデ 焼・良 色・黄褐色 出・貯蔵穴上 床直 残・ほぼ完形
環	11	口径 12.5 器高 4.7	胎・黒色粒子 角閃石 褐鉄粒多 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面 底部炭素付着 色・灰褐色 使・器表風化 出・床直 残・ほぼ完形
環	12	口径 12.1 器高 4.1	胎・黒色粒子 角閃石 褐鉄粒多 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面 底部及び内面口縁部一部炭素付着 色・橙褐色 出・貯蔵穴上 残・欠
環	13		胎・黒色粒子 褐鉄粒多 角閃石 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(弧状ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・床直 残・底部 口縁部一部(口唇部全面欠損)

社具路遺跡53号住居址出土遺物(第133~135図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 17.8 器高 33.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・胴部下半と上半(接合痕明瞭) 頸部接合 胴部粘土帯積み上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部縦半分及び内面下部炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形(胴部及び口縁部一部欠損)
甕	2	口径 17.2 器高 30.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部木葉痕 底部と胴部 胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 胴部ナデ(上半ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼

変	3	口径 17.4 器高 32.9	・著色・暗褐色 使・外面 底部焼土付着 内外面鉄分付着か? 残・ほぼ完形 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 胴部ナデ(上半ヘラオサエ有り) 口縁部内外面風化不明瞭 焼・著内 外面一部炭素付着 色・暗褐色 使・外面 焼土付着 二次的熱受ける 胴部下半と上半接合部分剥離 出・壺内 残・ほぼ完形
変	4	口径 16.0 器高 27.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒多 石英 成・胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・外面 橙褐色 内面 灰褐色 使・外面 胴部下半一部炭素付着 出・貯蔵穴内 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$ 備・復原不良
変	5	口径 16.4	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・頸部接合(胴部粘土帯積み上げ 口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・口縁部
変	6	口径 19.0	胎・白色粒子 角閃石 石英 砂礫 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・灰褐色 使・胴部及び口縁部内外面一部炭素付着 残・胴部上半 口縁部
変	7	口径 14.3 器高 25.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 0.2cm大砂粒極多 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・外面 橙褐色 内面 灰褐色 出・壺内 残・底部 胴部(一部欠損) 口縁部 $\frac{1}{2}$
変	8		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・著 外面底部及び内面炭素付着 色・外面 赤褐色 内面 黒褐色 残・底部 胴部下半 $\frac{1}{2}$
変	9	底径 7.1	胎・白色粒子 角閃石 砂礫 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 焼・著色・茶褐色 使・外面 胴部炭素及び焼土付着 残・底部 胴部下半一部
変	10		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・内外面 風化不明瞭 焼・良 外面底部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$
変	11		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部下半接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ・焼・著色・橙褐色 使・器表風化 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損

甌	1 2	口径(15.9)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甌	1 3	器高(24.1)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部及び口縁部風化不明瞭 内面 孔部周囲ヘラケズリ(ヘラオサエ有り) 口縁部ヨコナデ 焼・善 胴部内外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・貯蔵穴内 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部
甌	1 4	底径 5.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒多 雲母 成・底部と胴部接合(胴部粘土帯積み上げ) 孔は不整形 19孔 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 焼・善 色・暗褐色 残・底部 胴部一部
甌	1 5	口径 21.8 器高 27.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 胴部と口縁部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 孔部内外面炭素付着 色・赤褐色 使・内外面部分的に鉄分付着か? 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損
甌	1 6	口径 23.0 器高 30.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 頸部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 孔部周囲ヘラケズリ後ナデ 胴部ナデ後ミガキ状調整か? 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 胴部一部炭素付着 色・外面 灰褐色 内面 橙褐色 出・貯蔵穴内 残・完形
甌	1 7	口径 16.8 器高 12.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒多 雲母 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 胴部と口縁部接合 孔は小さく不整形 66孔(未貫通4孔) 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部一部波状 焼・善 色・赤褐色 使・外面 胴部摩滅著しい 残・ほぼ完形
台付甕	1 8	口径 14.1 器高(17.5)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と胴部 胴部と口縁部接合 整・裾部内外面ヨコナデ 外面 脚部風化不明瞭 胴部ヘラケズリ 内面 脚部及び胴部ナデ(ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 内面裾部及び胴部炭素付着 色・暗褐色 残・裾部 $\frac{1}{2}$ 欠損
台付甕	1 9	口径 12.0 器高 15.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 胴部と口縁部接合 整・裾部内外面ヨコナデ 脚部内外面ヘラケズリ 外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・赤褐色 残・裾部及び口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
台付	2 0	口径 9.5	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・裾部と脚部 脚部と胴部(胴部粘土帯



甕		器高(11.8)	積み上げ) 胴部と口縁部接合 整・裾部内外面ヨコナデ 外面 脚部ヘラケズリ後ナデ 胴部風化不明瞭 内面 脚部及び胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 出・龜内 残・裾部欠損
高環	2 1	口径(17.4)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と環底部 環底部と口縁部接合(口縁部粘土帯積み上げ) 整・内外面風化不明瞭 焼・蒼色・橙褐色 残・脚部一部 環底部欠 環底部欠
鉢	2 2	口径 17.2 器高 9.0	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合(口縁部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ(底部暗文) 口縁部ヨコナデ 形・内面 底部窪む 焼・良 外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・内面 鉄分付着 残・完形
環	2 3	口径 12.8 器高 4.7	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 底部及び口縁部一部炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形 備・口唇部内側擦痕みられる
環	2 4	口径 13.2 器高 4.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・内外面風化不明瞭 焼・蒼色・橙褐色 出・龜袖 残・底部 口縁部欠
環	2 5	口径 15.0 器高 6.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 使・内面剝離 残・ほぼ完形 備・内面底部切藪痕
環	2 6	口径 14.1 器高 4.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部欠 口縁部欠
環	2 7	口径 13.1 器高 5.0	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 残・完形
環	2 8	口径(13.0) 器高 5.3	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ(内面指頭調整か?) 焼・蒼色・橙褐色 残・欠
環	2 9	口径 13.0 器高 3.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形
環	3 0	口径 15.2 器高 5.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 練り込み 成・底部と口縁部接合(口縁部二段積み上げか?) 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 残・底部 口縁部欠
環	3 1	口径 13.3 器高 5.4	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 出・貯蔵

坏	3 2	口径 11.8 器高 4.2	穴内 残・口縁部欠損 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部 ヘラケズリ 内面 底部及び口縁部ヘラミガキ 口縁部内外面風化不明瞭 焼・著 外面底部一部炭素付着 色・暗褐色 使・口唇部打ち欠き 残・ ほぼ完形
坏	3 3	口径 13.0 器高 5.2	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色 ・橙褐色 残・底部 口縁部欠
坏	3 4	口径 13.5 器高 5.0	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合(口縁部二段積み上 げ) 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外 面ヨコナデ(内面ヘラオサエ) 焼・良 色・橙褐色 残・ほぼ完形
坏	3 5	口径 11.2 器高 4.5	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 後ミガキか? 内面 底部方向不定のヘラミガキ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面底部炭素付着 色・暗褐色 使・外面 口縁部剝離 口唇部 先端摩滅 残・ほぼ完形
坏	3 6	口径 13.2 器高 4.8	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色 ・橙褐色 使・内外面 風化不明瞭 残・完形
坏	3 7		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部欠 口縁部欠
坏	3 8	口径 12.2 器高 4.4	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 後ナデか? 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・暗褐 色 残・底部 口縁部欠
坏	3 9	口径 13.7 器高 5.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 色・橙褐色 使・外面 底部一部炭素付着 内面 口縁部先端環状炭素付着 出・電極 残・底部欠 口縁部欠
坏	4 0		胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 風化不 明瞭 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙 褐色 残・欠

社具路遺跡5 4号住居址出土遺物(第136図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 20.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・頸部接合 整・口縁部内外面ヨコナ デ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部
甕	2	底径 4.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面

甕	3	底径 5.2	底部及び胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ (ヘラオサエ有り) 焼・著 外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面 炭素及び焼土一部付着 残・底部 胴部下半部
甕	4	底径 5.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・著 外面底部及び胴部下半一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部又
埴	5	口径(11.9) 器高(5.5)	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内面 口縁部一部炭素付着 色・橙褐色 残・又
杯	6	口径 11.4 器高 3.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 整・外面 底部ヘラケズリ 上半ナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・ほぼ完形
杯	7	口径(13.3) 器高(4.1)	胎・褐鉄粒 石英少 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・又
杯	8	口径 16.7 器高 2.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・完形

## 社具路遺跡55号住居址出土遺物(第137・138図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 17.9 器高 32.3	胎・白色粒子 角閃石 砂粒多 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部焼土付着 色・橙褐色 残・胴部及び口縁部又欠損
甕	2	口径 17.8 器高 28.1	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と胴部接合 (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・二次的熱受け風化 胴部下半焼土付着 出・壺内 残・ほぼ完形
甕	3	口径(18.4)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・胴部灰褐色 口縁部橙褐色 使・口縁部内面及び胴部欠損部先端擦痕 残・胴部上半一部 口縁部又
甕	4	口径 17.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接

甕	5		合 整・内外面風化不明瞭 焼・著 色・橙褐色 使・内外面風化著しい 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部
甕	6	口径(16.5)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合(胴部及び口縁部粘土帯積み上げ) 整・胴部内外面ナデ 外面 ヘラによるタテ引き痕 焼・著 色・赤褐色 使・口縁部内面擦痕か 炭素付着 残・胴部上半 口縁部下半
高坏	7	口径 17.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と坏底部 坏底部と 坏縁部接合 整・裾部内外面ヨコナデ 脚部内外面ヘラケズリ後ナデ 外面 坏底部ヘラケズリ 内面 坏底部ナデ 坏縁部内外面ヨコナデ 焼・ 著 色・橙褐色 使・残存する裾部先端擦痕認められる 出・甕内 残・ 裾部及び口唇部 $\frac{1}{2}$ 欠損
甕	8		胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半接合 整 ・外面 風化不明瞭 内面 ナデ 焼・著 外面底部炭素付着 色・外面 橙褐色 内面 灰褐色 使・底部及び胴部下半割痕10数本 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$
环	9	口径(13.2) 器高(4.5)	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後 ナデ 内面 底部同心円状ナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
环	10	口径(13.2) 器高(4.3)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
环	11	口径(12.2) 器高(4.9)	胎・白色粒子 角閃石 石英 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ後ミガキ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 著 色・暗褐色 出・甕裾 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部

社具路遺跡56号住居址出土遺物(第139図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	1	口径(22.6)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部幅1.5cmの粘土帯積み上げ	頸部接合 整・外面 風化不明瞭(ヘラケズリ後ナデか?) 内面 ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・著 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	2	口径 17.2	胎・褐鉄粒 0.1~0.3cm大砂粒少 成・胴部粘土帯積み上げ	頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼 ・著 色・橙褐色 使・外面 胴部下半焼土付着 上半一部炭素付着 残 ・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部
甕	3	口径 16.8	胎・白色粒子 角閃石 0.1~0.3cm大砂粒 成・胴部粘土帯積み上げ	頸部接合 整・外面 胴部上半ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外

甕	4	口径 12.3 器高 12.4	面ヨコナテ 焼・良 胴部上半一部炭素付着 色・黄褐色 使・外面 胴部一部煤付着 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 備・下半48号住居址から検出 胎・白色粒子 角閃石 0.1~0.6cm砂粒 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 風化不明瞭 内面 ナテ 口縁部内外面ナテ 焼・著 色・橙褐色 使・外面風化著しい 内面底部炭素付着 出・貯蔵穴上 残・ $\frac{1}{2}$
甕	5	口径 12.8 器高 13.2	胎・白色粒子 0.1~0.5cm大砂粒多 石英 成・粘土帯積み上げか? 整・外面 風化不明瞭 内面 ナテ 焼・著 色・橙褐色 使・外面一部及び内面炭素付着 風化著しい 残・ほぼ完形
甕	6	口径(21.0)	胎・褐鉄粒 細砂粒 成・頸部接合(粘土帯積み上げか?) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナテ 口縁部内外面ヨコナテ 焼・良 色・橙褐色 使・口縁部内面擦痕認められる 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
高坏	7		胎・白色粒子少 角閃石 石英少 成・裾部と脚部 脚部と坏底部接合 整・裾部内外面ヨコナテ 外面 脚部ナテ 内面 脚部ヘラケズリ後ナテ 焼・良 色・橙褐色 残・脚部
坏	8	口径 13.9 器高 4.4	胎・褐鉄粒 細砂粒 胎土細 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナテ 口縁部内外面ヨコナテ 焼・良 色・灰褐色 使・底部炭素付着 残・底部 口縁部一部
手捏	9		胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・手捏 整・内外面ナテ 焼・著 色・外面 橙褐色 内面 黒褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口唇部欠損

社具路遺跡58号住居址出土遺物(第140・141図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	1	口径 20.6 器高 35.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 0.1~0.5cm砂粒多 成・胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナテ(ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナテ 焼・著 色・橙褐色 使・外面胴部一部に焼土及び炭素付着 残・ほぼ完形(胴部一部欠損)	
甕	2	口径 18.2 器高 35.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 0.1~0.4cm砂粒 成・底部木葉痕 胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナテ(ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナテ 焼・著 色・橙褐色 使・器表荒れ砂粒露出 出・竜軸 残・完形	
甕	3	口径 18.2 器高 32.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 成・頸部接合 胴部粘土帯積み上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナテ 口縁部内外面ヨコナテ 焼・著 色・橙褐色 使・胴部下半二次的熱受け劣化 出・床直 残・ほぼ完形(一部欠損)	
甕	4	口径 19.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 砂粒 成・頸部接合 整・内外面 胴部ヘ	

変	5	口径 17.1	ラケズリ 口縁部ヨコナデ 焼・著色・黄褐色 使・頸部内面擦痕逆転して器台に使用と思われる 出・床直 残・胴部上半以上
変	6	口径 12.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒多 成・胴部と口縁部接合か？ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 口縁部内面一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部欠損
変	7	口径(16.6) 器高(9.8)	胎・角閃石 褐鉄粒 0.1~0.4cm砂粒 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・底部一部炭素付着 残・1/2
変	8	口径(18.1) 器高(10.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面胴部及び口縁部内外面不明瞭 焼・著色・橙褐色 使・風化著しく器表劣化 出・竜裾 残・1/2
変	9	口径 12.0 器高 9.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 細砂 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・暗褐色 使・胴部及び口縁部一部炭素付着 口唇部内側擦痕 出・床直 残・胴部1/2欠損
高坏	10	底径 15.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 0.1~0.4cm砂粒 成・裾部と脚部接合 脚部粘土帯積み上げか？ 整・外面 脚部ヘラケズリ 内面 脚部ヘラケズリ後ナデ 裾部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 出・龍内 残・裾部1/2 脚部
坏	11	口径 13.8 器高 6.5	胎・褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・黄褐色 使・器表風化 出・床直 残・口縁部1/2欠損
坏	12	口径 12.7 器高 4.1	胎・角閃石 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 使・風化著しい 残・完形
坏	13	口径 12.8 器高 4.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 粘土練り込み 成・底部と口縁部接合 整・内外面風化不明瞭 焼・著色・黄褐色 使・風化著しく表面劣化 残・完形
坏	14	口径 11.8 器高 4.5	胎・角閃石 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・黄褐色 残・口唇部1/2欠損
坏	15	口径 12.5 器高 4.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部風化不明瞭 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・黄褐色 使・破片の状態での風化著しい 残・口縁部1/2欠損

坏	16	口径 12.9 器高 4.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面底部及び口縁部内外面不明瞭 焼・著 底部一部炭素付着 色・橙褐色 使・風化著しい 残・完形
坏	17	口径 12.8 器高 4.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 焼・著 色・黄褐 色 使・風化著しく器表劣化 出・床直 残・完形
坏	18	口径 13.3 器高 4.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ ノッキング痕 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 著 色・黄褐色 使・風化著しく表面劣化 出・床直 残・完形
坏	19	口径 14.0 器高 4.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 良 色・橙褐色 残・完形
坏	20	口径 12.5 器高 3.8	胎・褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・黄褐色 使・風化 著しい 出・床直 残・口縁部一部欠損
坏	21	口径 12.4 器高 4.8	胎・角閃石 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラ ケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・黄褐色 出・床直 残・口縁部一部欠損
坏	22	口径 12.5 器高 4.2	胎・褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面底部及び口縁部内外面不明瞭 焼・著 色・褐色 使・風化著しく器 表劣化 出・床直 残・口縁部一部欠損
坏	23	口径 12.5 器高 4.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 著 色・黄褐色 出・床直 残・完形
坏	24	口径 12.1 器高 3.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・底部及び口 縁部内外面風化不明瞭 焼・著 色・黄褐色 使・風化著しく劣化 出・ 床直 残・完形
坏	25	口径 12.5 器高 4.1	胎・褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・黄褐色 使・風化 著しく器表劣化 出・床直 残・口縁部欠損
坏	26	口径 12.2 器高 4.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコ ナデ 焼・著 色・橙褐色 出・床直 残・口縁部欠損
坏	27	口径 14.0 器高 3.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 成・底部と口縁部接合 口縁部二 段積み上げか? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・床直 残・底部及び口 縁部一部欠損

坏	28	口径 13.1 器高 4.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・底部及び口縁部内外面風化不明瞭 焼・著色・黄褐色 使・風化著しく表面劣化 出・床直 残・完形
坏	29	口径 12.7 短径 12.1 器高 4.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・風化不明瞭 焼・著色・橙褐色 使・底部一部炭素付着 出・床直 残・完形
坏	30	口径 12.2 器高 4.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 出・床直 残・ㄥ
坏	31	口径 14.0 器高 3.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 砂粒 成・底部と口縁部接合 整・外面底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 出・床直 残・口縁部一部欠損
坏	32	口径 12.2 器高 4.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
坏	33	口径 12.6 器高 4.3	胎・白色粒子 褐鉄粒 0.1~0.2cm砂粒 成・底部と口縁部接合 整・風化不明瞭 焼・著色・黄褐色 使・風化著しく器表劣化 出・竜裾 残・完形
坏	34	口径 13.1 器高 4.5	胎・白色粒子 褐鉄粒多 細砂 成・底部と口縁部接合 整・風化不明瞭 焼・著色・黄褐色 使・風化著しく器表劣化 出・床直 残・ほぼ完形
坏	35	口径 13.1 器高 4.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・風化不明瞭 焼・著色・黄褐色 使・風化著しく器表劣化 残・完形
坏	36	口径 12.2 器高 4.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 出・竜付近 残・ㄥ
坏	37	口径 12.8 器高 3.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・口縁部一部欠損
坏	38	口径 13.2 器高 4.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・風化不明瞭 焼・著色・黄褐色 使・風化著しく器表劣化 出・竜付近 残・完形
坏	39	口径(11.8) 器高 4.0	胎・石英 黒色粒子少 軟質白色粒子 成・糸切り底 整・内外面クロミズビキ 焼・著色・灰褐色 残・ㄥ

社具路遺跡61号住居址出土遺物(第142図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(21.7)	胎・角閃石 石英 整・内外面ヨコナデ 焼・著色 外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・住居址東壁外 残・口縁部ㄥ



甕	2		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半接合（粘土帯積み上げ） 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 焼・著色 色・橙褐色 使・外面 炭素及び焼土付着 出・住居址東壁外 残・底部 胴部下半 $\frac{1}{2}$
甕	3	口径 14.5	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・頸部接合（口縁部三段積み上げか？） 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部内面数ヶ所に粘土のかたまり付着 色・橙褐色 出・住居址東壁外 残・胴部上半 口縁部 備 No.4と接合
台付甕	4		胎・白色粒子 角閃石 石英 整・外面 ヘラケズリ 内面 ナデ（ヘラオサエ有り） 焼・著色 色・橙褐色 出・住居址東壁外 残・胴部下半
坏	5	口径 11.7	胎・角閃石 石英 整・外面 底部ヘラケズリ 上半ナデ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色 色・橙褐色 出・南東ピット内 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	6	口径 12.1 器高 3.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部及び口縁部下半ヘラケズリ 口縁部上半ヨコナデ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 内外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・南東ピット内 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$

社具路遺跡6号住居址出土遺物（第143図）

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 16.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色 色・橙褐色 使・内外面胴部下半二次的熱受ける 残・底部及び胴部下半一部欠損
甕	2	口径(16.3)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 成・頸部接合か？ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に沈線を施す 焼・著色 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	3		胎・角閃石 褐鉄粒 石英 整・外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 焼・著色 色・橙褐色 使・外面 底部及び胴部炭素付着（二次的熱か？） 残・底部 $\frac{1}{2}$ 胴部一部
坏	4	口径 12.7 器高 3.5	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色 色・橙褐色 残・ほぼ完形
坏	5		胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合か？ 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面炭素付着 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$

社具路遺跡63号住居址出土遺物(第144図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甌	1		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部外面よりヘラ切り 胴部粘土帯積み上げ 整・胴部内外面ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 使・底部剥離 焼成前のヒビ割れ粘土充填後に焼成 残・縦片
環	2	口径 13.0 器高 5.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ミズビキ状ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 使・内外面炭素付着(二次的熱か?) 出・竈内 残・完形
環	3	口径(14.1) 器高 4.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に沈線を施す 焼・著 色・橙褐色 残・底部片 口縁部片
環	4	口径 12.1 器高 3.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部指頭調整後ヘラケズリ 内面 底部指頭調整後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・内面 口唇部にわずかに稜をもつ 焼・著 色・橙褐色 残・底部 口縁部片

社具路遺跡64号住居址出土遺物(第145図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ(風化不明瞭) 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面炭素付着 色・橙褐色 残・胴部片 口縁部一部
甕	2	底径 6.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部
高環	3	底径 10.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・裾部と脚部 脚部と環底部 環底部と環縁部接合(環縁部粘土帯積み上げ) 整・裾部及び脚部内外面ヘラケズリ後ナデ(内面ヘラオサエ有り) 外面 環底部ヘラケズリ後ナデ 内面 環底部ナデ 環縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・環底部片及び口唇部欠損

社具路遺跡65号住居址出土遺物(第146図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(22.2)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合(口縁部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部片

甕	2	口径 20.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部
台付甕	3	口径(10.0) 器高(13.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と胴部(粘土帯積み上げ) 頸部接合(粘土帯積み上げ) 整・脚部内外面ヨコナデ(内面ヘラオサエ有り) 外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内面胴部炭素付着 色・外面 橙褐色 内面 黒色 使・外面 炭素付着 残・脚部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	4	底径 5.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 底部及び胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴部ナデ 焼・著 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部一部
環	5	口径 14.8 器高 4.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
環	6	口径 12.3 器高 3.4	胎・白色粒子 角閃石 砂礫少 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
環	7	口径(13.3)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$

社具路遺跡66号住居址出土遺物(第147・148図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(口縁部三段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部上半一部及び内面炭素付着 色・橙褐色 残・胴部上半 口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
甕	2	口径 9.2 器高 16.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合(内面接合痕明瞭) 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 胴部上半ヘラケズリ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・黄褐色 残・底部 胴部 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	3	口径 16.2 器高 15.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 成・底部と胴部 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・赤褐色 残・完形
甕	4	口径 16.7	胎・白色粒子 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 使・外面 焼土付着 残・胴部上半 口縁部

壺	5	口径 15.2 器高 34.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と胴部 胴部下半と上半(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 風化不明瞭 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・善 外面胴部下半炭素付着 色・橙褐色 使・風化著しい 出・甕内 残・ほぼ完形
壺	6	器高 12.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部下半ナデ 上半ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・外面 橙褐色 内面 暗褐色 残・上半 $\frac{1}{2}$ 欠損
壺	7	口径 11.8 器高 16.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面 一部焼土付着 出・甕内 残・完形
壺	8	口径 14.2	胎・白色粒子多 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半(粘土帯積み上げ接合部で分離) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 内外面炭素付着 色・暗褐色 残・胴部上半 口縁部
壺	9	底径 6.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒多 成・外面 底部木葉痕 整・外面 ナデ 内面 風化不明瞭 焼・良 外面一部炭素付着 色・黄褐色 残・底部
坏	10	口径 12.1 器高 4.8	胎・角閃石 長石 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
坏	11	口径(11.8)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・外面 底部一部及び口縁部炭素付着 残・ $\frac{1}{2}$
坏	12	口径(12.5)	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ(弧状ヘラ痕有り) 口縁部内外面ヨコナデ 色・橙褐色 使・内面 環状に炭素付着 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	13	口径(12.3)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 内面底部一部炭素付着 色・暗褐色 使・内面 底部一部炭素付着 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部
坏	14	口径 10.9 器高 5.3	胎・白色粒子 石英少 成・底部と口縁部接合 整・底部内外面風化不明瞭 口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 色・橙褐色 出・甕袖 残・ $\frac{1}{2}$
埴	15		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・頸部接合 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部ナデ(弧状ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面胴部一部及び内面底部炭素付着 色・外面 橙

罎	16	口径 10.2 器高 16.1	褐色 内面 黒色 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合(口縁部三段積み上げ) 整・胴部内外面風化不明瞭 焼・普 外面底 部及び胴部一部炭素付着 残・ほぼ完形
壺	17	口径 (9.2)	胎・石英 整・内外面ロクロミズビキ 口唇直下棒状工具2回のナデ 焼 ・良 色・暗灰褐色 接・11号住出土と接合 残・口縁部 $\frac{1}{2}$

## 社具路遺跡68号住居址出土遺物(第148図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	18		胎・白色粒子 角閃石 砂粒 石英 整・内外面風化不明瞭 焼・普 色 ・灰褐色 使・内外面一部風化剝離 残・底部 $\frac{1}{2}$
環	19	口径(14.3)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・ 口縁先端沈線 焼・普 外面底部一部炭素付着 色・暗褐色 残・ $\frac{1}{2}$

## 社具路遺跡69号住居址出土遺物(第148図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	20		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合(口縁部三段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ(ヘラオサエ有り) 焼・普 色・橙褐色 出・竜袖 残・胴部上半及び口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	21	底径 6.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 砂粒 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半接 合(接合部で分離) 整・内外面風化剝離不明瞭 焼・悪 色・灰褐色 使・内外面風化剝離 残・底部 胴部下半
甕	22	口径(17.8)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合 整・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 胴部ナデ( ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ(ミズビキか?) 焼・普 胴 部内外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部上半及び口縁部 $\frac{1}{2}$
高環	23	口径 18.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部(脚部下半二段積 み上げ) 脚部と環底部 環底部と環縁部接合(環縁部三段積み上げ) 整・内外面 脚部及び環底部ナデ 環縁部ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 残・脚部 環底部 $\frac{1}{2}$ 環縁部 $\frac{1}{2}$
高環	24	口径 15.2 器高 11.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と環底部( 内面脚部天井部粘土充填) 環底部と環縁部接合(環縁部三段積み上げか ?) 整・外面 環底部ヘラケズリ 内面 環底部風化不明瞭 裾部内外 面ヨコナデ(内面ヘラオサエ有り) 脚部内外面ナデ(外面上部ヘラオサ エ有り) 環縁部内外面ヨコナデ 焼・普 色・橙褐色 使・外面 炭素 付着(二次的熱か?) 内面 環底部及び環縁部風化剝離 出・竜袖 残

高環	25		・裾部及び環縁部欠損 胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・脚部と環底部 環底部と環縁部接合 整・外面 環底部ヘラケズリ 内面 環底部ナデ 環縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・内面 風化剝離 残・環 底部 環縁部欠(口唇部一部)
鉢	26	底径 6.3 器高 (6.4)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部接合 整・擬口縁 外面 風化不明瞭 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 形・雙下半の形態だが 製作途中で焼成 鉢として使用したものと思われる 焼・良 外面一部炭素 付着 色・橙褐色 使・内面 口縁部環状炭素付着 出・電袖 残・底部 胴部及び口縁部欠

## 社具路遺跡70号住居址出土遺物(第149図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 16.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(口縁 部二段積み上げか?) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘ ラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内面一部炭素付着 色 ・赤褐色 使・内面 風化剝離部分的に著しい 出・床直 甕内 換・住 居址南西コーナー 甕内 残・胴部上半 口縁部欠
甕	2	口径 12.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 小石 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴 部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内面炭素付 着 色・橙褐色 出・床直 甕内 残・胴部上半 口縁部(一部欠損)
甕	3	口径(10.9)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部風化不明瞭 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 使・外面 炭素付着(二次的熱か?) 残・胴部上半一部 口縁部欠
甕	4	口径(17.5)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(口縁 部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部 内外面ヨコナデ 焼・著 色・暗褐色 使・外面風化摩滅 胴部外面一部 焼土付着 残・胴部上半一部 口縁部欠
甕	5	底径 6.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 風化不明瞭 内面 底部及び胴部ナデ(底部ヘラオサエ有り) 焼・著 内面炭素付着 色・橙褐色 使・外面 一部炭素付着 残・底部 胴部欠
高環	6	口径 12.4 器高 9.7	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・裾部と脚部 脚部と環底部 環底部と 環縁部接合 整・裾部内外面ヨコナデ 外面 脚部及び環底部ヘラケズリ 内面 脚部ヘラケズリ後ナデ 環底部ナデ 環縁部内外面ヨコナデ 形・ 器形歪む 焼・著 色・橙褐色 出・床直 甕裾 残・ほぼ完形
環	7	口径 12.4	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部下半と上半 口縁部接合 整・外

環	8	器高 4.8 口径 12.9 器高 4.6	面 底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 口縁部ミガキ 内面 底部及び口縁部ヘラミガキ 焼・著 色・橙褐色 残・底部ヲ 口縁部ヲ 胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部 口縁部ヲ 備・内面 底部靱直有り
環	9	口径 14.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部 整・外面 底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 底部ナデ後暗文(ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・暗褐色 使・一部炭素付着 残・ヲ
環	10	口径 13.6 器高 5.0	胎・褐鉄粒 砂粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 赤彩か 残・ヲ
環	11	口径 14.1 器高 4.8	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 底部方向不定の暗文状ヘラミガキ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面底部炭素付着 色・暗褐色 出・竈堀 接・住居址中央 竈堀 残・ほぼ完形
環	12	口径(12.4)	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ヲ

## 社具路遺跡72号住居址出土遺物(第150図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1		胎・白色粒子 褐鉄粒 0.2~0.3砂粒多 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 風化不明瞭 内面 底部及び胴部ナデ(弧状ヘラオサエ) 焼・著 内面底部炭素付着 色・橙褐色 残・底部ヲ 胴部及び口縁部ヲ
甕	2		胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 残・胴部下半 口縁部一部 備・復原不良
甕	3		胎・白色粒子 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・底部ヲ 胴部ヲ 口縁部ヲ
甕	4		胎・0.2~0.3砂粒多 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ) 焼・著 色・橙褐色 使・内面底部炭素付着 残・底部
甕	5	口径 16.2 器高 15.2	胎・白色粒子 石英 成・胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面 縦ヲ強い火熱受ける 残・胴部ヲ 口縁部ヲ
高環	6		胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・外面 脚部ヘラケズリ 内面 脚部ナデ 焼・著 色・橙褐色 残・脚部

高環	7		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と環底部 環底部と環縁部接合 整・外面 脚部及び環底部ヘラケズリ 内面 環底部ナデ 環縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ㄨ
環	8	口径 14.0 器高 3.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部下半ナデ 上半同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面一部炭素付着 色・赤褐色 残・ほぼ完形
環	9	口径 14.4 器高 3.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内外面一部炭素付着 色・赤褐色 残・完形
環	10	口径 13.7 器高 4.8	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・暗褐色 使・内外面炭素付着 残・底部ㄨ 口縁部ㄨ
環	11	口径 14.0 器高 4.4	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完形
環	12	口径 13.5 器高 4.2	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部浅い沈線 焼・良 外面底部炭素付着 色・橙褐色 残・ㄨ
環	13	口径 15.4 器高 4.5	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 底部内外面一部炭素付着 色・赤褐色 残・ほぼ完形
環	14	口径 14.3 器高 4.2	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ(ノッキング痕) 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ㄨ
環	15		胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・ㄨ

社具路遺跡73号住居址出土遺物(第150図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	16	口径 17.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部風化剥離 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 強い加熱を受けた部分有り 色・橙褐色 出・床直 残・胴部上半 口縁部
鉢	17		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部上がり底後木業痕 胴部と口縁部接合 整・外面 胴部風化不明瞭(下半ヘラオサエ有り) 内面 底部及び胴部下半ナデ 上半ミズビキ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内面胴部一部 および口縁部帯状炭素付着 色・橙褐色 使・外面 胴部及



環	18	口径(14.6)	び口縁部一部炭素付着 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$ 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ(内面ヘラオサ エ有り) 焼・良色・黄褐色 使・内外面一部炭素付着 出・貯蔵穴上 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
環	19	口径(13.5)	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコ ナデ 焼・善 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
手捏	20	口径 4.1 器高 2.9	胎・白色粒子 石英 成・手捏 整・底部及び胴部内外面ナデ(胴部上半 指頭調整) 焼・善 内外面炭素付着 色・黒褐色 残・完形

社具路遺跡74号住居址出土遺物(第151図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 17.6	胎・褐鉄粒 砂粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ(肩部接合痕明瞭) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 内外面炭素付着 色・橙褐色 残・ 胴部上半 口縁部
甕	2		胎・角閃石 褐鉄粒 砂粒 石英 成・胴部下半と上半接合(粘土帯積み 上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 接合部ヘラケズリ 焼・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・壺内 残・胴部下半
甕	3	底径 7.4	胎・白色粒子 褐鉄粒 砂粒 整・外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 焼・ 良色・橙褐色 出・壺付近 接・74号住居址壺付近 83号住居址貯 蔵穴付近 残・底部
高環	4	口径 15.7	胎・白色粒子 石英 成・脚部と環底部 環底部と環縁部接合(環縁部二 段積み上げ) 整・外面 環底部ヘラケズリ 内面 環底部ナデ(ヘラオ サエ有り) 環縁部内外面ヨコナデ(内面ヘラオサエ有り) 焼・善 内 外面一部炭素付着 色・暗褐色 出・貯蔵穴内 残・環底部 環縁部 $\frac{1}{2}$
高環	5		胎・白色粒子 成・裾部と脚部接合 整・脚部内外面ヘラケズリ 裾部内 外面ヨコナデ 焼・良色・暗褐色 出・壺内 残・裾部 脚部
高環	6	裾径 10.2	胎・褐鉄粒 砂粒 成・裾部と脚部 脚部と環底部接合 焼・善 色・橙 褐色 使・風化摩滅著しい 出・壺内 残・裾部 脚部 環底部一部
環	7	口径 11.6 器高 4.2	胎・白色粒子 成・底部と口縁部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面二回のミズビキ 状ナデ 焼・善 色・橙褐色 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
環	8	口径(10.0)	胎・白色粒子 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$

坏	9		胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・内外面風化不明瞭 焼・ 善色・橙褐色 出・竈内 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
---	---	--	---

## 社具路遺跡75号住居址出土遺物(第152・153図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 17.0 器高 34.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 砂粒多 成・底部木葉復後上がり底 胴 部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 内面底部及び胴部下半煤付着 出・竈内 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
甕	2	口径 16.0 器高 17.2	胎・褐鉄粒 角閃石 砂粒多 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半(粘 土帯積み上げ) 頸部接合 整・内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 胴部内外面ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 形・器形扁平 焼・善 胴部内面炭素付着 使・内面 胴部中位環状に炭素付着 出・床直 残・ 胴部 $\frac{1}{2}$ 欠損
鉢	3		胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 成・底部と胴部 胴部と口縁部接 合 整・外面 胴部ヘラケズリ(下半部分的にナデ) 内面 胴部下半ヘ ラケズリ(底部ヘラオサエ) 上半ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・器 形扁平 焼・悪 内外面部分的に鉄分付着 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
甕	4		胎・褐鉄粒 角閃石 石英 成・頸部接合 整・外面 口縁部ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 使・内面 口縁部上半及び肩部破損部先端環状に擦 痕有り 出・床直 残・胴部一部 口縁部(口唇部欠損)
鉢	5	器高 9.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 砂粒多 成・底部と胴部 胴部と 口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部 内外面ヨコナデ 形・口唇部沈線 焼・善 外面胴部下半一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
鉢	6		胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整 ・底部及び胴部内外面ヘラナデ(底部ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨ コナデ 焼・善 内面炭素付着 色・橙褐色 使・外面 底部炭素付着 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部
鉢	7	口径 11.4 器高 6.8	胎・角閃石 石英 成・底部外面に第一段の縄文痕(RL)五節 底部と 胴部 口縁部接合 整・胴部内外面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・黄褐色 使・内外面鉄分付着 残・完形
小型 甕	8	口径 9.5 器高 5.5 孔径 2.6	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・手捏ね風 孔部ヘラ切り 頸 部接合 整・胴部内外面ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色 ・橙褐色 残・完形
短頸 壺	9	器高 7.5	胎・白色粒子 角閃石 石英 胎土精 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み 上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラミガキ 内面 胴部ナデ 口縁部

埴	10	口径 9.8 器高 4.7	内外面ヨコナデ 焼・善色・外面 暗褐色 内面 橙褐色 残・口縁部 欠損 胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部 ヘラケズリ 内面 底部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 使・外面 底部及び口縁部焼土付着 出・壺内 残 ・口縁部欠損
高環	11		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・裾部と脚部接合 整・裾部内外面ヨ コナデ 脚部内外面ヘラケズリ 焼・善色・橙褐色 残・欠
環	12	口径 15.4 器高 5.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部 ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 出・No18の環と重なった状態で出土 残・ほぼ完形
環	13	器高 (6.1)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 残・口縁部欠損
環	14	口径(14.8) 器高 (4.8)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部 ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐 色 出・床直 残・底部欠 口縁部欠
埴	15	口径 11.3 器高 5.2	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 成・外面 底部下 半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 底部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内 外面ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・壺内 残・ 口縁部欠損
環	16	器高 (5.9)	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ナ デ 内面 底部上半同心円状ナデ 下半ナデ後放射状6本のヘラ描き 焼 ・善 外面底部炭素付着 色・暗褐色 残・口縁部欠損
環	17	口径(12.9) 器高 4.8	胎・白色粒子 角閃石 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズ リ 内面 底部ナデ (ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 出・床直 残・底部欠 口縁部欠
環	18	口径(13.8) 器高 5.7	胎・角閃石 細砂 成・底部と口縁部接合 底部内外面粘土練りあるいは 水分不十分のため反時計回りの亀裂有り 整・外面 底部ヘラケズリ後ナ デ 内面 底部ナデ 焼・善色・橙褐色 出・No12の環と重なった状態 で出土 残・口縁部欠損

社具路遺跡76号住居址出土遺物 (第153図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	19	底径 (6.6)	胎・褐鉄粒 成・底部と胴部接合か? 整・外面 底部及び胴部ヘラケズ リ後ナデ 内面 底部及び胴部ナデ 焼・善 内面炭素付着 色・橙褐色 使・外面 底部炭素付着 残・底部欠

環	20	口径 13.0 器高 4.3	胎・白色粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
環	21	口径(13.2)	胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 使・外面 口縁部発泡焼成中か後か不明 出・南東コーナー周溝内 残・ㄥ

社具路遺跡77号住居址出土遺物(第153図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	22		胎・褐鉄粒 角閃石 砂粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色 内外面一部炭素付着 色・暗褐色 出・甕内 残・ㄥ
高環	23	口径 12.7 器高(10.8)	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・裾部と脚部 脚部と環底部 環底部と環縁部接合 整・外面 脚部及び環底部ヘラケズリ後ナデ 内面 脚部及び環底部ナデ 裾部及び環縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 出・甕内 残・ほぼ完形(裾部ㄥ欠損)
環	24		胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部先端に沈線を施す 焼・良色・橙褐色 出・床直 残・ㄥ
環	25		胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・底部内外面風化不明瞭 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 使・内外面剝離及び炭素付着(二次的熱) 出・甕内 残・底部一部 口縁部ㄥ

社具路遺跡78号住居址出土遺物(第154図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径 15.9 器高 30.8	胎・褐鉄粒 角閃石 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 ヘラケズリ(器面軟弱) 内面 胴部ナデ(弧状ヘラオサエ) 接合部分ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 使・外面胴部一部炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形
甕	2	口径 17.6 器高 30.1	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色・橙褐色 使・胴部下半内外面一部炭素付着 出・床直 残・口縁部ㄥ欠損
甕	3	口径 15.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・蒼色 内外面一部炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・胴部上半 口縁部ㄥ

甕	4	底径 7.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半 接合(粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 底部及び胴 部ナデ(底部ヘラオサエ有り) 焼・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部下半
甕	5	底径 6.5	胎・褐鉄粒 角閃石 砂粒多 成・底部と胴部 胴部下半と上半接合(粘 土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・善 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・底部 胴部下半
甕	6	底径 6.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 胴部下半と上半接合(粘 土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・善 外面胴部一部炭素付着 色・暗褐色 使・外面 胴部一部炭素及び焼土付 着 出・床直 残・底部 胴部下半
甕	7	底径 8.4	胎・褐鉄粒 石英 成・底部木葉痕 底部と胴部接合(胴部粘土帯積み上 げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ及び弧状ヘラケズリ 焼・善 外面一部炭素付着 出・床直 残・底部 胴部下半
坏	8	口径 13.3 器高(4.3)	胎・白色粒子 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 器高(4.3) 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・ㄥ
坏	9	口径 14.6 器高 5.5	胎・褐鉄粒 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合(口縁部二段積み上げ ) 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 出・床直 残・ほぼ完形
坏	10	口径 14.8 器高(4.9)	胎・白色粒子 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ (ヘラオサエ有り) 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 内外面部分的に炭素付着 色・暗褐色 残・ほぼ完形
坏	11		胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・ 善 底部炭素付着 出・床直 接・カマド内 貯蔵穴付近 残・ㄥ
坏	12	口径(17.7)	胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 成・底部と口縁部接合(口縁部二 段積み上げ) 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外 面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 残・ㄥ

社具路遺跡80号住居址出土遺物(第155・156図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	1	口径 16.8 器高 32.7	胎・白色粒子 角閃石 0.3~0.5cm礫多 成・底部 胴部下半と上半(粘 土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部三段積み上げ) 整・外面 胴部ヘ ラケズリ 内面 胴部ナデ(弧状ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナ デ 焼・善 胴部外面一部炭素付着 色・黄褐色 使・胴部一部炭素付着 出・床直 残・ほぼ完形	
甕	2	口径 16.8	胎・褐鉄粒 角閃石 砂粒多 石英 成・胴部下半と上半(粘土帯積み上	

甕	3	器高 28.5	げ) 頸部接合 整・外面 風化不明瞭 内面 底部及び胴部ナデ(底部 弧状ヘラオサエ有り) 口縁部ヨコナデ 焼・著 外面一部及び内面炭素 付着 色・外面 暗褐色 内面 黒色 使・風化著しい 出・貯蔵穴上 床直 残・口縁部ㄥ欠損
		器高 33.0	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部 胴部下半と上半(粘土帯積み上げ ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・灰褐 色 残・口縁部ㄥ欠損
甕	4	口径 15.7	胎・白色粒子 成・頸部接合(胴部及び口縁部粘土帯積み上げ) 整・外 面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ(頸部ヘラオサエ有り) 内面 胴 部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 外面胴部一部炭素付着 色・黒 褐色 残・胴部上半一部 口縁部
甕	5		胎・褐鉄粒 礫 成・頸部接合(胴部粘土帯積み上げ 口縁部三段積み上 げ) 整・外面 風化不明瞭 内面 胴部ナデ(弧状ヘラオサエ有り) 口縁部ヨコナデ(ヘラオサエ有り) 焼・著 色・橙褐色 残・ㄥ
甕	6	口径 16.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 小石 成・胴部下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合(口縁部四段積み上げか?) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 胴部及び口縁部外面一部炭素 付着 残・胴部ㄥ 口縁部
甕	7	口径 13.8 器高 11.2	胎・角閃石 褐鉄粒 小石 石英 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外 面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 残・胴部及び口縁部ㄥ欠損
甕	8	底径 5.8	胎・角閃石 褐鉄粒 小礫 石英 成・不明 整・外面 ヘラケズリ 内 面 弧状ヘラオサエ 焼・著 色・灰褐色 残・底部
甕	9	底径 6.0	胎・褐鉄粒 石英 成・不明 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナ デ(ヘラオサエ有り) 焼・良 色・暗褐色 使・外面 一部焼土付着 出・床直 残・胴部下半一部
小型 短頸 壺	1 0	口径 5.9 器高 5.9	胎・褐鉄粒 砂粒 石英 片岩礫 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(底部爪痕) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 出・床直 残・口縁部ㄥ欠損
壺	1 1	口径 13.8 器高 5.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 小礫 成・不明(口縁部一部接合痕明瞭) 整・ 胴部内外面ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・床直 No.16の壺と重なった状態で出土 残・ほぼ完形
壺	1 2	口径(12.8)	胎・褐鉄粒 胎土精 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 残・ㄥ

環	13	口径 17.9 器高 6.1	胎・褐鉄粒 成・底部と口縁部接合（口縁部二段積み上げ） 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内 外面ヨコナデ 焼・普 外面底部一部炭素付着 色・暗褐色 使・内面 底部稜痕有り 残・ほぼ完形
環	14	口径 15.3 器高 4.7	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合（口縁部二段積み上げか？） 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面 ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 残・完形
環	15	口径(12.1)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 外面底部炭素付着 色・外面 灰褐色 内面 赤褐色 残・底部 欠 口縁部欠
環	16	口径 15.3 器高 4.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘ ラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 出・床直 No11の環と重なった状態で出土 残・底部欠 口縁部欠
環	17	口径(14.7)	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズ リ 内面 底部同心円状ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 残・底部欠 口縁部欠
高環	18	底径(11.8)	胎・白色粒子多 細砂 整・内外面ミズビキ 焼成前刀子状工具による3 孔の透孔 焼・良 色・暗灰色 残・欠

社具路遺跡81号住居址出土遺物（第157・158図）

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	1	口径 16.3 器高 21.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 石英 片岩礫 成・胴部下半と上 半（粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・胴部内外面ヘラケズリ後ナデ（外 面ヘラナアか？） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 外面胴部一部炭素付 着 色・橙褐色 出・甕付近 No10の甕と重なった状態で出土 残・口縁 部欠損	
甕	2		胎・白色粒子 石英 0.1~0.3cm砂粒 成・底部上がり底 胴部下半と 上半（粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 中部ヘラケズリ 焼・普 色・赤褐色 暗 褐色 使・外面 底部及び胴部炭素付着 胴部焼土付着（二次的熱） 出・甕内 No12の甕と重なった状態で出土 残・口縁部欠損	
甕	3		胎・白色粒子 褐鉄粒 0.1~0.3cm大砂粒 成・底部 胴部下半と上半 （粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部 ナデ（ヘラオサエ有り） 中部ヘラケズリ 焼・普 色・橙褐色 灰褐色 使・底部及び胴部内外面炭素付着（二次的熱か？） 外面 胴部焼土付着 出・甕内 残・底部 胴部（一部欠損）	

甕	4	口径 16.9	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面胴部一部炭素付着 色・橙褐色 出・床直 残・胴部上半一部 口縁部ノ
甕	5		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合(口縁部粘土帯積み上げ) 整・胴部内外面ナデ(内面ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・口縁部残存先端円形に擦痕 器台転用 出・床直 残・口唇部欠損
甕	6		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 0.2~0.5cm大砂礫 成・頸部接合(内面接合痕一部明瞭 口縁部粘土帯積み上げか?) 整・口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面一部炭素付着 色・黄褐色 使・残存先端円形に擦痕 器台転用 残・口唇部大半欠損
甕	7	口径 19.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・内外面胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 使・口縁部内側擦痕 器台転用 出・床直 残・口縁部
甕	8		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合(内面接合痕明瞭 口縁部三段積み上げ) 整・内外面風化不明瞭 焼・善 色・橙褐色 出・床直 残・口縁部(口唇部一部)
甕	9		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・頸部接合(胴部粘土帯積み上げ 口縁部二段積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・暗褐色 出・床直 残・胴部一部 口縁部ノ
小型 壺 (甕)	10	器高 11.1	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・孔部外面から打ち欠き 胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 外面孔部周囲炭素付着 色・赤褐色 使・甕に転用 下半擦痕 出・No.6の甕と重なった状態で出土 残・胴部ノ 口縁部ノ
甕	11		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・外面 胴部ヘラケズリ(ノッキング痕有り) 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・善 外面底部炭素付着 色・橙褐色 出・甕内 残・底部 胴部一部
甕	12	口径 12.7 器高 10.0	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(底部ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・暗褐色 使・外面 胴部炭素付着 内面 口縁部剥離及び炭素付着(二次的熱か?) 出・No.2の甕と重なった状態で出土 残・ほぼ完形
甕	13	口径(19.8)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・頸部接合(胴部及び口縁部粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に沈線を施す 焼・良 色・橙褐色



小型 壺	14		使・胴部及び口唇部風化剝離 出・床直 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$ 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・粘土帯積み上げ 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半風化不明瞭 内面 胴部ナデ（ヘラオサエ有り） 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・赤褐色 使・内外面炭素付着（ 二次的熱受ける） 出・土域内 残・胴部上半 $\frac{1}{2}$ 口縁部一部
高環	15	口径 20.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・環底部と環縁部接合（環縁部二段積み 上げ） 整・外面 環底部ヘラケズリ 内面 環底部ナデ（ヘラオサエ有 り） 環縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 使・内面 環底部風 化剝離 環縁部から環底部にかけて亀裂が入る 残・環底部 環縁部
環	16	口径 12.5 器高 5.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・ 橙褐色 出・壺内 残・完形
環	17	口径 13.0 器高 5.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ミガキ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ（内面 ヘラオサエ有り） 焼・善 色・茶褐色 使・外面底部及び内面口縁部炭 素付着（二次的熱か？） 内面 底部鉄分付着 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
環	18		胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合（口縁部二段積み上 げ） 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外 面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 出・床直 残・ $\frac{1}{2}$
環	19		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合（底部粘土 流水状練り込み） 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 外面底部一部炭素付着 色・橙褐色 出 ・床直 残・底部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$

社具路遺跡82号住居址出土遺物（第159・160図）

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	1	口径 19.2 器高 34.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部木葉痕後上がり底 胴部下半と上 半（粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴 部ナデ 下半ヘラケズリ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 一部炭素付着 色・橙褐色 灰褐色 接・壺裾 貯蔵穴内 残・ほぼ完形	
甕	2	口径 17.3 器高 32.4	胎・白色粒子 角閃石多 褐鉄粒 石英 成・底部上がり底後周囲ヘラケ ズリ 胴部下半と上半（粘土帯積み上げ） 頸部接合 整・外面 底部周 囲及び胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 下半ヘラケズリ後ナデ 口縁部 内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・外面胴部全面焼土付着 下半 一部炭素付着 上半風化著しい（二次的熱受ける） 出・壺内 残・ほぼ 完形	
甕	3		胎・白色粒子 褐鉄粒 0.5cm大砂粒多 石英 成・胴部下半接合（上半	

甕	4	口径(17.9)	1.5～2.0cmの粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 焼・悪 内面胴部下炭素付着 残・底部 胴部下半 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 胎土細 成・頸部接合 整・外面 胴部及び口縁部風化不明瞭 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 使・内面 頸部1.0～1.5cm幅の擦痕が現状にみられる No. 6 甕の擦痕部分と一致 甕の台として転用 出・貯蔵穴内 残・口縁部
甕	5	底径(7.9)	胎・角閃石 褐鉄粒 成・底部と胴部接合(胴部粘土帯積み上げ) 整・胴部内外面ナデ(内面ヘラオサエ有り) 焼・善色・橙褐色 使・内面 底部一部炭化物及び焼土付着 残・底部 胴部下半
甕	6	口径 24.5 器高 31.5	胎・白色粒子 角閃石 石英 成・孔部ヘラ切り(粘土練り込み) 胴部 下半と上半(粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 胴部外面一部炭素付着 色・橙褐色 使・外面 胴部下半(高さ約10cm) 擦痕著しい No.4 甕の内面頸部擦痕部分と一致 出・貯蔵穴中段 残・ほぼ完形
甕	7	口径 17.3 器高 13.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り (胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面あらいヨコナデ 焼・善色・橙褐色 使・孔部周囲擦痕 内面 胴部及び口縁部一部炭素付着 出・甕付近 残・ほぼ完形
高環	8		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部と脚部 脚部と環底部 環底部と環縁部接合 整・外面 脚部及び環底部ヘラケズリ 内面 脚部及び環底部ナデ 裾部及び環縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 残・裾部一部 脚部 環底部
環	9	口径 12.9 器高 4.5	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部から底部にかけて弧状ヘラ状オサエ 焼・良色・橙褐色 残・完形
環	10	口径 13.6 器高 4.9	胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ(中心部ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 使・外面 口縁部風化剝離 出・貯蔵穴内 残・完形
環	11	口径 13.4 器高 4.8	胎・褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ(中心部ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善色・橙褐色 使・外面 底部全面及び口縁部一部炭素付着 内面 立ち上がり部環状炭素付着 口唇部先端摩耗 出・甕内 残・底部(一部欠損)
環	12	口径 14.1 器高 4.9	胎・褐鉄粒 細砂 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部先端に

環	13	口径 14.1 器高 4.9	沈線を施す 焼・善 色・赤褐色 残・完形 胎・白色粒子 褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズ リ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部先端に 沈線を施す 焼・善 色・橙褐色 残・ほぼ完形
環	14	口径 12.6 器高 4.2	胎・精 白色粒子少 褐鉄粒 石英少 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 底部ヘラミガキ 口縁部内外面ヘラ ミガキ 内外面赤彩 焼・良 外面底部及び口縁部一部炭素付着 色・橙 褐色 使・口唇部摩滅 赤彩残存せず 出・No18の環と重なった状態で出 土 残・完形
環	15	口径 13.3 器高 4.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ (中心部にヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・橙褐色 出・竈裾 残・完形
環	16	口径 13.2 器高 4.6	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合か? 整・外面 底部 ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・内面 底部以外炭素付着 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
環	17	口径 13.2 器高 4.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ (中心部ヘラオサエ有り) 口縁部内外 面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 使・一部炭素付着 残・ほぼ完形
環	18	口径 15.6 器高 5.5	胎・褐鉄粒 細砂 石英少 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラ ケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・ 外面 黒色 底部一部橙褐色 内面 暗褐色 使・外面 底部を円形に除 き煤付着 ひび割れ歪む 二次的熱による割れ及び煤付着と考えられる 出・No14の環と重なった状態で出土 残・ほぼ完形
手捏	19	口径 (6.4)	胎・白色粒子 角閃石 成・口縁部内面へ折り返し 焼・善 色・暗褐色 残・ $\frac{1}{2}$

社具路遺跡83号住居址出土遺物(第161・162図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(14.4)	胎・褐鉄粒 角閃石 石英 砂粒 胎土軟弱 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口 縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 内外面炭素付着 色・暗褐色 出・貯蔵穴 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$ 備・復原不良
甕	2	口径 16.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・外面 胴部ヘ ラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 内外面炭素 付着 色・橙褐色 残・胴部上半 口縁部
甕	3	口径 11.7 長径 12.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接 合(接合痕明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ 口

甌	4	器高 12.4	縁部内外面ヨコナデ 焼・菩 内外面炭素付着 色・橙褐色 残・ほぼ完胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・孔部ヘラ切 胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部歪む 焼・菩 色・橙褐色 使・全面二次的熱強く受ける 縦に $\gamma$ は最も強く周囲から赤化→黒化→灰褐色化 残・ほぼ完形
		口径 26.7	
		短径 25.3	
		器高 28.3	
甌	5	口径(16.4)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合(内面接合痕明瞭) 整・外面 胴部ヘラケズリ後ヨコナデ 内面 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・菩 内外面炭素付着 色・赤褐色 出・床直 残・胴部一部 口縁部 $\gamma$
甌	6	口径 15.2 器高 12.0	胎・白色粒子 石英 雲母 褐鉄粒多 砂粒 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ミガキ 内面 底部ヘラケズリ 胴部ナデ(ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 残・完形
環	7	口径(12.3) 器高 5.6	胎・角閃石 褐鉄粒 長石 細砂 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部同心円状ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・菩 色・橙褐色 残・口縁部 $\gamma$ 欠損
高環	8		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 成・脚部と環底部 環底部と環縁部下半 環縁部下半と上半(?)接合 整・外面 脚部ナデ 環底部ヘラケズリ 内面 脚部ヘラケズリ後指ナデ 環底部不明 裾部及び環縁部内外面ヨコナデ 焼・菩 色・橙褐色 使・脚部内面炭素付着 残・裾部一部 脚部 環底部 環縁部一部
高環	9	口径 16.3 器高 11.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 長石 成・裾部と脚部 脚部と環底部 環底部と環縁部接合 整・外面 脚部ナデ 内面 脚部ヘラケズリ 内外面 裾部ヨコナデ 環部不明瞭 焼・菩 色・橙褐色 残・裾部 $\gamma$ 欠損

杜具踏遺跡84号住居址出土遺物(第163・164図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甌	1	口径 18.0 器高 31.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 小礫多 雲母 成・底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・最大径胴部中位 焼・菩 胴部黒斑色・赤褐色 出・壺内 残・ $\gamma$ 欠損
甌	2	口径 17.3	胎・角閃石 褐鉄粒 砂粒多 雲母 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・菩 色・赤褐色 使・内面 口縁部摩滅著しい 残・胴部 $\gamma$ 口縁部
甌	3	口径 19.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 0.3cm大砂粒多 雲母 石英 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 成・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオ

甕	4	口径(16.0)	サエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・赤褐色 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 欠胎・白色粒子 褐鉄粒 砂粒多 雲母 成・胴部粘土帯積み上げ 頸部接合 整・外面 胴部ナデ(ヘラケズリ後か?) 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・赤褐色 使・胴部下半風化著しい 出・窠内 残・胴部及び口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	5	口径 18.7	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒多 雲母 石英 成・胴部粘土帯積み上げ(接合痕明瞭) 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・最大径胴部中位 焼・良色・赤褐色 使・内面口縁部環状擦痕 器台転用 残・胴部上半 口縁部
甕	6	底径 8.2	胎・白色粒子 褐鉄粒 砂粒多 雲母 石英 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・著色 胴部黒斑 色・赤褐色 残・底部 胴部一部
高環	7	口径 18.2	胎・褐鉄粒 砂粒 雲母 石英 成・環底部と環縁部接合 整・外面 環底部ヘラケズリ 内面 環底部ナデ 環縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 残・環部 $\frac{1}{2}$
高環	8		胎・褐鉄粒 砂粒多 雲母 石英 成・裾部と脚部接合(脚部粘土帯積み上げ) 整・裾部内外面ヨコナデ 外面 脚部ミガキ 内面 脚部ヘラケズリ 焼・良色・橙褐色 残・裾部 $\frac{1}{2}$ 欠損
環	9	口径 11.2 器高 4.3	胎・褐鉄粒 砂粒多 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損
環	10	口径 12.2 器高 5.0	胎・白色粒子 褐鉄粒 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
環	11	口径(14.5)	胎・白色粒子 褐鉄粒 砂粒多 雲母 成・底部と胴部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・外面 茶褐色 内面 黒褐色 残・ $\frac{1}{2}$
環	12	口径 11.9 器高 5.0	胎・褐鉄粒 砂粒多 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ヘラナデ(工具痕明瞭) 焼・良色・橙褐色 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
環	13	口径 12.3 器高 4.8	胎・白色粒子 褐鉄粒少 砂粒多 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部中位にわずかに稜をもつ 焼・著色・赤褐色 使・風化摩滅著しく胴部一部層状剝離 残・ほぼ完形
環	14	口径 12.9 器高 4.4	胎・褐鉄粒多 砂粒多 雲母少 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良色・橙褐

環	15	口径 12.0 器高 4.5	色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損 胎・白色粒子 角閃石 砂粒多 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部 ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐 色 使・稜部摩滅著しい 残・底部 口縁部 $\frac{1}{2}$
環	16	口径 12.3 器高 4.6	胎・白色粒子 角閃石少 褐鉄粒 砂粒多 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部 内外面ヨコナデ 焼・良 黒斑有り 色・橙褐色 使・口唇部 $\frac{1}{2}$ 摩滅平坦 化 残・ほぼ完形(口縁部一部欠損)
環	17	口径(12.6) 器高(4.0)	胎・角閃石 砂粒 雲母 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケ ズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 残 ・ $\frac{1}{2}$
環	18	口径(14.8) 器高 3.2	胎・白色粒子 石英 整・底部糸切り後回転ヘラケズリ 内外面ミズビキ 焼・良 色・灰褐色 残・ $\frac{1}{2}$
蓋	19		胎・白色粒子 石英 細砂 整・内外面ロクロミズビキ 焼・良 色・暗 灰色 残・ $\frac{1}{2}$

社具路遺跡85号住居址出土遺物(第165図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	1	口径(22.4)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 整・内外面風化不 明瞭 焼・著 外面胴部炭素付着 色・明褐色 使・内面胴部風化摩滅著 しい 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口唇部 $\frac{1}{2}$ 欠損
鉢	2	口径(13.4)	胎・褐鉄粒 石英 成・胴部と口縁部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 内面胴部及び口縁部鉄 分沈着 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
甕	3	口径 13.7 器高 23.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半(胴部粘土帯 積み上げ) 頸部接合(口縁部二段積み上げ) 胴部接合部分化粧土貼付 か? 整・外面 胴部下半ヘラミガキ 胴部上半及び口縁部風化不明瞭 内面 胴部風化不明瞭(一部にヘラナデ有り) 口縁部ヨコナデ 焼・著 外面 底部と胴部一部に炭素付着 色・橙褐色 使・内面胴部風化摩滅 残・ほぼ完形
鉢	4	口径 23.4 器高 20.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 成・底部と胴部 胴部と口 縁部接合 胴部1~2cmの粘土帯積み上げ 整・外面 胴部ヘラケズリか ? 内面 胴部ヘラナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・短径21.0cmの楕円 口径粗雑な作り 焼・著 色・灰褐色 橙褐色 使・内外面胴部炭素付着 二次的熱か? 内面底部剝離著しい 残・ほぼ完形
甌	5	口径 23.0 器高(25.1)	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・孔部ヘラ切り 胴部と口縁部接合(胴部 粘土帯積み上げ) 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部

環	6	口径 12.9 器高 5.2	内外面ヨコナデ 焼・善 外面胴部炭素付着 色・赤褐色 使・内外面鉄分沈着 残・孔部欠損 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と胴部 胴部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ(弧状ヘラオサエ) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・ぼぼ完形
---	---	-------------------	---

社具路遺跡1号土坑出土遺物(第166図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
高環	1	口径 17.6 器高 15.8	胎・白色粒子 石英 成・裾部と脚部(脚部粘土紐巻き上げ後紋り) 脚部と坯底部(筋状粘土で接合) 坯底部と環縁部接合 整・裾部及び脚部内外面ヘラケズリ(外面裾部弧状ヘラオサエ) 外面 坯底部ヘラケズリ 環縁部ヨコナデ後ヘラケズリ 内面 坯底部及び環縁部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・善 外面一部炭素付着 色・橙褐色 残・裾部 環部一部欠損
埴	2	口径 15.4 器高 16.8	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ 頸部にハケ調整有り 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ後暗文 焼・良 色・外面 黒褐色 内面 赤褐色 使・外面炭素付着 残・胴部一部及び口縁部欠損

社具路遺跡1・2・15号土坑出土遺物(第166図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
器台	3	底径 11.9	胎・白色粒子 角閃石 細砂粒 整・外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 下半ヨコナデ 上半ハケ調整 形・台部孔は3ヶ所 焼・良 色・橙褐色 残・台部 (12土坑)
手捏	4		成・手捏 整・ハケ調整みられる 焼・良 色・橙褐色 残・同部上半及び口唇部欠損 (15土坑)

社具路遺跡4号土坑出土遺物(第167～170図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
台付 甕	1	口径 17.1 器高 30.2	胎・0.1～0.3cm砂粒多 精 整・外面 台部下半ナデ 台部上半及び胴部ハケ調整 内面 台部下半ヨコナデ 上半指ナデ 胴部下位ヘラケズリ 中位及び上位ヘラケズリ後タテ指ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部下段大きく外反 上段垂直に立ち上がり上半で外反 端部内面に弱い沈線 台端部内折り返し 焼・良 色・外面 灰茶褐色 内面 黄褐色 使・胴部下半煤付着 残・ぼぼ完形
台付 甕	2	口径 17.9 器高 28.9	胎・白色粒子 成・台部端部折り返し 整・外面 台部ハケ調整後指ナデ 胴部ハケ調整(ハケに1本太い線が入る) 内面 台部指ナデ 胴部ナデ 肩部指ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・外面 灰黄褐色 内面 淡黄褐色 使・外面胴部煤付着 残・欠

台付 甕	3	口径 14.1 器高 22.7	胎・黒色微砂粒 精 整・外面 胴部ハケ調整 内面 胴部ナデ 内外面 台部指ナデ 口縁部ヨコナデ 形・口縁部外面稜を有する 端部は折り返 しである 焼・良 色・外面 黒褐色 黄褐色 内面 灰黄褐色 使・外 面胴部煤附着 内面胴部下半炭化物附着 残・胴部一部及び口縁部欠損
台付 甕	4	口径(16.8) 最大径25.8	胎・白色粒子 成・胴部粘土帯積み上げ 整・外面 胴部ハケ調整 内面 胴部中位指ナデ 上位ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部は尖りぎ みで丸みをもつ 焼・良 色・黄褐色 使・外面胴部煤附着 内面胴部炭 化物附着 残・胴部 口縁部一部
台付 甕	5	口径 15.3 最大径22.1	胎・微砂粒多 整・外面 胴部ハケ調整 内面 胴部ナデ 口縁部内外面 ヨコナデ 形・口縁部の稜はややシャープである 焼・良 色・黄褐色 使・外面胴部煤附着 内面胴部下位炭化物附着 残・胴部 口縁部
台付 甕	6	口径 14.4 最大径20.1	胎・黒色微石多 整・外面 胴部ハケ調整 内面 胴部下半ナデ 上半指 ナデあげ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 色・黒灰色 淡黄褐色 使・ 外面胴部煤附着 内面胴部炭化物附着 外面胴部下半剥離二次的熱を受け る 残・台部欠損
台付 甕	7	口径(16.2)	胎・白色微石多 成・胴部粘土帯積み上げ 整・外面 胴部ハケ調整 内 面 胴部ナデ 頸部ハケ調整 口縁部内外面ヨコナデ 形・口縁部の稜や や角張る 焼・良 色・外面 黒黄褐色 内面 灰褐色 使・外面胴部煤 附着 残・胴部一部 口縁部 欠
台付 甕	8	口径(19.2)	胎・白色微石 精 整・外面 胴部ハケ調整 内面 胴部指ナデあげ 口 縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・外面 黄褐色 内面 淡黄褐色 使・ 外面胴部煤附着 内面胴部炭化物附着 残・胴部一部 口縁部 欠
台付 甕	9	口径 14.7 最大径19.6	胎・白色微石 精 整・外面 脚部上位及び胴部ハケ調整 頸部ハケ調整 後指ナデ 内面 脚部上位指ナデ 胴部下位指によるナデあげ 中位指オ サエ及びナデあげ 上位ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・黄褐 色 使・外面下半から肩部にかけて煤附着 内面胴部炭化物附着 残・台 部欠損
台付 甕	10	口径 17.1 器高 25.8	胎・0.1～0.7cm砂粒多 整・台部ヘラケズリ後下半ヨコナデ 胴部ヘラ ケズリ後ハケ調整 内面 台部荒いハケ調整後指ナデ 胴部下位ナデ 中 位ヨコハケ後タテヘラケズリ 上位ヨコヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 形 ・口唇部下に浅い沈線を施す 焼・良 色・淡赤褐色 使・外面胴部中位 以下及び口縁部煤附着 内面胴部下位炭化物附着か? 残・ほぼ完形 (口 縁部一部欠損)
甕	11	口径 17.5 器高 23.2	胎・微砂粒 0.1cm砂粒 整・胴部及び口縁部内外面ハケ調整 内面頸部 ハケ調整後ヨコナデ 形・突出しぎみの底部 焼・良 色・明赤褐色 使 ・肩部以下及び口縁部煤附着 胴部下半二次的熱によって器面あれる 残



台付 妻	1 2	口径 14.9 器高 21.3	・ほぼ完形 胎・白色粒子 精 整・外面 台部下半ヨコナデ 上半ハケ調整後ナデ 胴部ハケ調整 口縁部ヨコナデ 内面 台部下半ヨコナデ 上半ハケ調整 底部ヘラ調整 胴部ナデ 頸部下に指頭圧痕 頸部ナデ 口縁部ハケ調整 焼・良 色・暗赤褐色 使・外面煤附着 残・ほぼ完形 備・胴部下半は 表面が火を受けたため剝離しているが脚はわずかに煤がつく程度で火を受 けた痕跡は認められない
妻	1 3	口径 19.3 器高 21.1	胎・砂粒多 成・底部上げ底 胴部粘土帯積み上げ 整・外面 胴部下位 ナデ 中位及び上位ハケ調整 口縁部ヨコナデ 内面 胴部下位ハケ調整 中位及び上位ヘラズリ後ナデ 口縁部ハケ調整後ヨコナデ 焼・良 色 ・赤褐色 使・外面胴部煤附着 内面胴部炭化物附着 残・ほぼ完形
妻	1 4	口径 17.9 器高 22.5	胎・白色粒子多 黑色粒子多 精 成・底部と胴部下半 下半と上半 頸 部接合 胴部粘土帯積み上げ 整・外面 胴部ハケ調整 口縁部ヨコナデ 内面 底部ハケ調整後ナデ 胴部ナデあげ 口縁部ハケ調整後ヨコナデ 形・底部は突出しやや上げ底を呈する 焼・良 色・外面 赤褐色 内面 淡赤褐色 使・外面胴部煤附着 残・胴部及び口縁部欠損
妻	1 5	口径 14.4 器高 18.3	胎・白色粒子 石英 砂粒多 成・底部上がり底 整・外面 底部ヘラケ ズリ 胴部ハケ調整 内面 底部ハケ調整 胴部ヘラケズリ 口縁部内外 面ハケ調整後ヨコナデ 焼・蒼 色・暗橙褐色～黒褐色 使・胴部最大径 付近に炭化物附着 残・ほぼ完形
妻	1 6	口径 13.4 器高 14.8	胎・白色粒子 砂粒 整・外面 底部木口状工具ケズリ 胴部木口状工具 ケズリか? 胴部ハケ調整 口縁部ハケ調整後ナデ 内面 胴部木口状工 具調整後ナデ 口縁部ハケ調整後ナデ 焼・良 色・外面 赤褐色 内面 淡褐色 使・外面胴部煤附着 残・完形
妻	1 7	口径 14.3 器高 12.8	胎・白色微石 成・胴部粘土帯積み上げか? 整・外面 胴部ハケ調整 内面 底部ハケ調整後ナデ 胴部ヘラケズリ後ナデ 口縁部ハケ調整後ヨ コナデ 焼・良 色・外面 赤褐色 内面 暗赤褐色 使・外面全体煤付 着 内面胴部下半煤(炭化物) 附着 残・欠
妻	1 8	口径(13.0) 器高 12.8	胎・白色微石 成・底部は平底 底部と胴部 頸部接合 整・外面 胴部 下半ヘラケズリ 上半ハケ調整 内面 胴部ナデあげ 口縁部内外面ハケ 調整後ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色(内面一部灰褐色) 使・外面全体 煤附着 残・欠
妻	1 9	口径 15.5 最大径18.3	胎・砂粒 成・胴部粘土帯積み上げか? 胴部下位と中位接合 整・外面 胴部ハケ調整 内面 胴部ハケ調整後ナデ 口縁部内外面ハケ調整後ヨコ ナデ 焼・蒼 色・赤褐色 使・外面全体煤附着 内面全体炭化物附着 残・底部及び胴部一部欠損

壺	2 0	口径 15.4 器高 17.3	胎・白色粒子 精 成・胴部粘土帯積み上げ 整・外面 胴部及び口縁部 下位と中位ハケ調整 口縁部上位ヨコナデ 内面 胴部ナデ 頸部ハケ調 整 口縁部ハケ調整後ヨコナデ 形・器形扁平 焼・良 色・外面 黒褐 色 内面 灰褐色 使・外面全面に煤付着 底部摩滅 残・完形
壺	2 1	口径 17.6 最大径20.5	胎・0.1～0.3cm砂粒多 成・胴部下半と上半接合 整・外面 胴部ヘラ ミガキ 内面 胴部ハケ調整後ヘラミガキ 部分的にナデ後ヘラミガキ 口縁部内外面ハケ調整後ヘラミガキ 焼・良 堅緻 色・橙褐色 使・外 面胴部中位煤付着 下位は二次的熱受けて器面ある 残・胴部下位欠損
壺	2 2	口径(16.8)	胎・微砂粒 成・粘土紐の巻き上げ 頸部接合(接合部分にハケメ有り) 整・外面 胴部ハケ調整 頸部ヨコナデ 内面 胴部ハケ調整後指ナデあ げ 口縁部内外面ハケ調整後ヨコナデ 焼・良 色・淡赤褐色 使・胴部 剝離著しい 口縁部摩滅著しい 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
壺	2 3	口径 21.9	胎・白色粒子 精 整・外面 頸部ヨコナデ ハケ調整 ヨコナデ 口縁 部ハケ調整 口唇部ヨコナデ 内面 頸部ハケ調整 ヨコナデ 口縁部ヘ ラミガキ 形・頸部に稜をめぐらす 焼・良 色・外面 淡褐色 内面 赤褐色 使・頸部のわれ口は摩滅す 残・口縁部
壺	2 4	口径 13.7	胎・白色微石 成・頸部接合 整・外面 胴部ハケ調整 口縁部ヨコナデ 内面 胴部ナデ 口縁部ハケ調整後ヨコナデ 焼・良 色・黄褐色 使・ 外面全体煤付着 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
小型 壺	2 5	口径 11.4 器高 9.2	胎・角閃石多 0.1～0.5cm石英多 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部及 び口縁部ヘラミガキ 内面 胴部下半指ナデ 上半ヘラケズリ 口縁部ハ ケ調整後ヘラナデ 形・口縁部端部内側に面をもつ 焼・良 色・赤褐色 残・ほぼ完形
埴	2 6	底径 4.6	胎・白色微石 整・外面 底部ハケ調整 胴部ヘラミガキか? 内面 胴 部ハケ調整後ナデ 形・底部は平底だがわずかに上る 焼・良 色・赤褐 色 残・底部
台付 壺	2 7	底径 7.3	胎・白色微石 成・底部端折り返し 整・外面 台部ハケ調整(指ナデ有 り) 内面 台部端部指頭圧痕 台部指ナデ 焼・悪 色・淡黄褐色 残 ・台部
器台	2 8	口径 7.1 器高 8.4	胎・白色微石 黒色微石 精 成・脚部下半と上半接合 整・外面 脚部 及び受皿部ヘラミガキ 内面 脚部下半ハケ調整 上半ヘラケズリ後ナデ 受皿部不明瞭 口唇部内外面ヨコナデ 形・孔は3ヶ所 焼・良 色・橙 褐色 残・脚部 $\frac{1}{2}$ 欠損
器台	2 9	口径(7.8) 器高 8.0	胎・白色粒子 精 整・外面 脚部及び受皿部ヘラミガキ 内面 脚部下 半ハケ調整 上半ナデ 受皿部ヘラミガキ 口唇部内外面ヨコナデ 全体 的に磨かれて光沢をもつ 形・孔は3ヶ所 焼・良 色・暗赤褐色 残・

			脚部端部 $\frac{1}{2}$ 及び受皿部 $\frac{1}{2}$ 欠損
器台	3 0	口径 7.3 器高 8.1	胎・白色微石 雲母 成・脚部の孔は外側から内側に向けて穿つ 整・外面 脚部及び受皿部ヘラミガキ 内面 脚部ハケ調整後ナデ 受皿部不明瞭 口唇部内外面ヨコナデ 形・孔は3ヶ所 焼・良 色・赤褐色 使・受皿部の内面及び口唇部が摩滅 脚部端部摩滅著しい 残・完形
器台	3 1	口径 8.1 器高 5.9	胎・白色粒子 精 成・脚部と受皿部接合 脚の孔は外側から穿つ 中央の孔は上から下へ穿つ 整・外面 脚部先端ナデ 脚部及び受皿部ヘラミガキ 口唇部ヨコナデ 内面 脚部下半ハケ調整 上半ヘラケズリ後ナデ 受皿部ヘラミガキ 形・脚の孔は3ヶ所 焼・良 色・外面 赤褐色 内面 淡赤褐色 使・受皿部内面一部摩滅 残・完形
器台	3 2	口径 8.2 器高 6.6	胎・白色粒子 微砂粒 整・外面 脚部ヘラケズリ後ヘラミガキ 受皿部ヘラミガキ 内面 脚部ヘラケズリ 受皿部ヘラミガキ 脚部先端及び口唇部内外面ヨコナデ 形・孔は3ヶ所 焼・良 色・赤褐色 使・受皿部中央部が摩滅し口唇部がところどころ欠けて受けた部分が摩滅する 残・ほぼ完形
器台	3 3	底径 11.2	胎・やや精 整・外面 脚部不明瞭 内面 脚部ハケ調整後ナデ 形・孔は3ヶ所 焼・著 色・赤褐色 使・二次的熱受ける 残・脚部
器台	3 4	底径 (9.4)	胎・微砂粒 整・外面 脚部ヘラミガキ 内面 脚部不明瞭 形・孔は4ヶ所(それぞれ2孔が一对になっている) 焼・悪 色・外面 黒褐色 内面 赤褐色 使・受皿部内面摩滅著しい 残・脚部 $\frac{1}{2}$ 受皿部 $\frac{1}{2}$
高环	3 5	口径(13.0)	胎・石英 微砂粒多 整・环底部及び环縁部内外面ヘラミガキ 焼・良 色・暗赤褐色 残・环部
高环	3 6	口径 12.5	胎・黑色微石 白色粒子 成・円形の底部に口縁部を接合 整・外面 环底部及び环縁部ハケ調整後ヘラミガキ 口唇部ヨコナデ 内面 环底部及び环縁部ヘラミガキ 形・环縁部端浅い沈線を施す 焼・良 色・赤褐色 使・口唇部わずかに摩滅 残・环部
高环	3 7	口径 22.6	胎・石英 微砂粒多 整・外面 环底部及び环縁部ヘラミガキ 内面 环底部剝離不明瞭 环縁部ハケ調整後細かいヘラミガキ 焼・良 色・暗橙褐色 使・内面环底部の剝離は使用の結果か 残・环部 $\frac{1}{2}$
高环	3 8	口径 23.7 短径 21.8 器高 14.7	胎・白色微石 精 整・外面 裾部ヨコナデ 环縁部ヘラミガキ 内面 裾部ハケ調整後ナデ 环底部ヘラミガキ 环縁部ナデ 他は不明瞭 形・脚部の孔は3ヶ所と思われる 环底部と环縁部接合部にわずかな稜を有する 焼・著 色・灰褐色 使・全体器面荒れ 残・脚部
环	3 9	口径 12.4 器高 4.5	胎・白色粒子 整・外面 脚部下半ヘラミガキ 上半ハケ調整 内面 脚部ヘラケズリ後ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・赤褐色 使・表面荒れ 残・ほぼ完形

埴	4 0	口径 15.8 器高 14.1	胎・0.3cm大砂粒 精 成・底部上げ底 胴部粘土帯積み上げ 整・外面 底部ヘラケズリ 胴部及び口縁部ヘラミガキ 内面 底部ハケ調整 胴部 ヘラナデ 口縁部ヘラミガキ 焼・良 色・外面 橙褐色 内面 黒色 残・胴部欠損
埴	4 1		胎・角閃石多 0.5cm大石英 成・胴部下半と上半接合 整・外面 胴部 ヘラミガキ 頸部ヨコナデ 内面 胴部指ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・良 色・淡赤褐色 口縁部内外面黒斑有り 残・口唇部欠損
埴	4 2	口径(13.0)	胎・白色粒子多 整・外面 頸部ヘラミガキ 内面 肩部指頸圧痕 口縁 部内外面ハケ調整後ヘラミガキ(荒れて不明瞭) 焼・悪 色・赤褐色 使・器面荒れ口唇部摩滅著しい 残・口縁部欠
埴	4 3	口径(13.0)	胎・白色微石 黒色微石 成・胴部粘土紐積み上げ(内面接合痕明瞭) 整・外面 胴部ヘラミガキ 頸部ナデ 内面 胴部指頸圧痕 内外面 口 縁部ヘラミガキ 口唇部ヨコナデ 焼・良 色・赤褐色 使・口唇部摩滅 残・胴部一部 口縁部欠

社具路遺跡3号溝出土遺物(第171図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
高環	1	口径 21.8	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・環底部と環縁部接合 整・ 外面 環縁部ハケ調整後二回ヨコナデか? 内面 環縁部ヨコナデ 環底 部内外面ナデ 焼・善 色・橙褐色 使・内面環縁部下半風化剝離著しい 残・環底部 環縁部欠
埴	2	口径(10.0) 器高 6.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒多 石英 成・底部と胴部 頸部接合 整 ・内外面 底部ヘラケズリ 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 内面頸部ヘラケ ズリ 焼・善 外面底部及び胴部一部炭素付着 色・暗褐色 使・内面胴 部切溝痕有り 残・口縁部欠損
埴	3	口径 9.4 器高 9.3	胎・白色粒子 石英 成・底部と胴部 頸部接合 口縁部三段積み上げか (外面上段の接合痕明瞭) 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 上半ナデ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・黒褐色 残・口縁 部欠損
埴	4	口径 8.6 器高 11.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・胴部下半と上半 頸部接合 口縁部二段積み上げか? 整・外面 胴部下半ヘラケズリ 口縁部ヨコナ デ後ヘラミガキ 内面 胴部ナデ(弧状ヘラオサエ有り) 口縁部暗文状 ミガキ 焼・良 色・橙褐色 残・口縁部欠損
高環	5		胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・裾部下半と上半 裾部上半と 脚部接合 脚部粘土紐巻き上げ 整・外面 脚部ナデ後ミガキ 内面 脚 部ナデ 裾部内外面ヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・裾部欠 脚部

社具路遺跡4号溝出土遺物(第171図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
高坏	6	口径(21.0)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・	脚部と坏部接合(接合部分で分離) 坏部粘土紐巻き上げ 整・坏部内外面ナデ 焼・著色・赤褐色 使・内外面風化著しい 残・坏部 $\frac{1}{2}$
器台	7	脚径13.4	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・	脚部と受皿部接合(接合部分で分離) 脚の孔は外側から穿つ 整・外面 脚部ハケ調整 内面 脚部ハケ調整後ナデか? 形・孔は4ヶ所 焼・著色・橙褐色 残・脚部 $\frac{1}{2}$
甕	8	口径 11.5 器高 13.2	胎・白色粉子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・	底部と胴部(胴部粘土帯積み上げ) 頸部接合 整・内外面 胴部ナデ 口縁部ヨコナデ 内面頸部指頭調整 焼・悪 内外面胴部一部炭素附着 色・赤褐色~橙褐色 残・ほぼ完形(一部欠損)

社具路遺跡13号溝出土遺物(第171図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	9	口径(21.9)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・	頸部接合 口縁部二段積み上げ 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	10	底径(4.0)	胎・白色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 整・	外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ(ヘラオサエ有り) 焼・著 外面炭素附着 色・橙褐色 残・底部 $\frac{1}{2}$
甕	11	底径 7.5	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂礫 整・	外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 焼・良 内面炭素附着 色・橙褐色 残・底部
坏	12	口径 13.4 器高 3.6	胎・0.1~0.6cm石英 整・	底部糸切り 内外面クロロミズビキ 焼・著色・灰褐色 残・口縁部欠損
坏	13		胎・石英 白色粒子 成・	底部糸切り後上り底 整・内外面クロロミズビキ 形・底部周囲ワラ状圧痕 焼・良 色・灰褐色 残・口唇部欠損

社具路遺跡土器焼成址出土遺物(第171図)

器種	番号	法量 (cm)	特	徴
甕	14	口径 21.1	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・	頸部接合 整・外面 肩部ヘラケズリ(ノッキング痕明瞭) 内面 肩部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	15	口径(19.5)	胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 成・	頸部接合 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著色・橙褐色 残・胴部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$
坏	16	口径(12.2) 器高(3.1)	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 整・	外面 底部ヘラケズリ 口縁部下半ヘラケズリ 上半ヨコナデ 内面 底部ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・著色・

環	17	器高 3.5	橙褐色 残・底部一部 口縁部 $\frac{1}{2}$ 胎・白色粒子 細砂 成・手捏 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部 ナデ 口縁部内外面ハケ調整か? 焼・善 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
---	----	--------	---

社具路遺跡河川跡出土遺物 (第171図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
甕	18	器高(27.1)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒多 成・胴部下半と上半 頸 部接合 整・外面 胴部風化不明瞭 口縁部ヨコナデ 内面 底部ヘラオ サエ有り 胴部及び口縁部風化不明瞭 焼・善 外面底部及び胴部下半一 部炭素付着 色・橙褐色 残・底部 胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
甕	19	口径(20.7)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・頸部接合 口縁部三段積み上 げか? 整・外面 胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ 口縁部内外面ミズ ビキヨコナデ 焼・善 色・橙褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$
環	20	口径(14.8) 器高(4.5)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・善 色・ 橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
高環	21		胎・白色粒子 石英 整・脚部内外面ナデ 焼・善 色・橙褐色 残・脚 部
環	22	口径 12.4 器高 3.5	胎・白色粒子 石英 整・底部ヘラ切り 形・口縁部直む 焼・良 (堅緻 ) 色・灰褐色 残・口縁部一部欠損

社具路遺跡(南部集落) 覆土出土遺物 (172図)

器種	番号	法量 (cm)	特 徴
鉢	1	口径(18.5)	胎・白色粒子 角閃石 長石 細砂 成・口縁部折り返し 整・外面ハケ 調整 内面ナデ 焼・良 色・橙褐色 残・ $\frac{1}{2}$
甕	2	口径(18.5)	胎・角閃石 褐鉄粒 長石 細砂 成・口縁部先端折り返し複合口縁 整 ・口縁部内外面ヨコナデ 形・口唇部に沈線を施す 口縁部下半に棒状装 飾施す 焼・良 色・赤褐色 残・口縁部 $\frac{1}{2}$
埴	3	口径 12.6 器高 7.6	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 細砂 成・頸部接合 整・内外面全面丁寧な ヘラミガキにより覆われる 焼・良 色・赤褐色 使・内外面風化剝離部 分多 残・胴部 $\frac{1}{2}$ 口縁部 $\frac{1}{2}$
台付 甕	4	台径 9.8	胎・白色粒子 角閃石 細砂 成・接地部折り返し 整・外面 台部下半 ヨコナデ 上半ハケ調整 内面 台部ナデ 焼・良 色・灰褐色 残・台 部 $\frac{1}{2}$
器台	5	受部 径 (8.1) 器高 9.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 整・外面 台部及び受部ヘラミガキ 内 面 台部ハケ調整 焼・善 色・橙褐色 使・受部内面風化 残・縦 $\frac{1}{2}$
台付	6	底径 6.3	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 成・台部内外面ヨコナデ 焼・善 内外面一

甕	7		部炭素付着 色・橙褐色 残・台部 胎・褐鉄粒 細砂 成・胴部下指ナデアゲ 整・胴部内外面ナデ 焼・ 善 色・橙褐色 残・底部 胴部欠
甕	8		胎・白色粒子 角閃石 細砂 成・頸部接合 整・外面 底部ヘラケズリ 内面 底部指ナデアゲ 胴部内外面ナデ 焼・善 色・橙褐色 残・口縁 部欠損
高坏	9	口径 22.2	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 成・脚部と坏底部(臍状粘土) 坏底部と坏縁部接合 整・外面 脚部ヘラケズリ後ナデ 坏底部及び坏縁 部ヨコナデ後暗文 内面 脚部ヘラケズリ 坏底部ナデ後暗文 坏縁部ヨ コナデ 形・器形歪む 焼・良 色・赤褐色 残・裾部及び坏縁部欠損

社具路遺跡土器以外の出土遺物(第173~180図)

番号	種類	特 徴	出 土 地
1	棒状土製品	長さ18.5cm 白色粒子 褐鉄粒 石英 細砂含む 粘土棒を手 でにぎって形を整える 指頭痕明瞭 暗褐色 両端は黒みがかり二 次的熱を受けて器表亀裂 完形	8号住
2	土製支脚	高さ15.8cm 最大径は下部にあり 7.2cm 筒形中空で、一 方に3×3.5cmの円窓 胎土は通常の土器と同様 底部木葉痕 手びねりで埵状に製作後巻きあげ 内面に接合痕そのまま残る。 外面は簡単なヘラケズリを加え器表は凸凹 部分的に接合痕残る。 上端開口 橙褐色 焼土炭化物付着	34号住
3	土製支脚	現存高9.5cm 白色粒子 角閃石含む 全体ユビナデ 二次的熱 受け器表風化 橙褐色 下半欠損	44号住
4	土製支脚	高さ15.1cm 白色粒子 石英を含む 下半ヘラケズリ 上半ユ ビナデ及び指頭オサエ 橙褐色 ほぼ完形	49号住
5	土製支脚	高さ13.5cm 底部はくぼむ 細砂 白色粒子 黒色粒子を含む 器表小さな剝離 底部棒状圧痕 橙褐色 先端粘土寄せて平坦に する	72号住
6	土製支脚	現存高8cm 白色粒子 細砂を含む ユビナデ整形指頭痕残る 橙 褐色 焼土付着 下半欠損 破損面は発泡おこす	72号住
7	土製支脚	現存高6.9cm ユビナデ整形 指頭痕残る 石英 細砂を含み下 部欠損部分は二次的熱を強く受ける	72号住
8	土製支脚	高さ15.8cm 底部は瓦ほどの高さまで孔がけられる 白色粒 子 石英を含み ナデによる整形 底部は指頭による折り曲げ 赤 褐色 外面に焼土付着 柱状部 底部一部欠損	80号住
9	土製支脚	高さ15.2cm 白色粒子 石英 細砂を含む 全体をユビナデ 先端を押しつぶし平坦にする 橙褐色 底部欠損部あるがほぼ完形	13号溝

10	土製支脚	高さ15.3cm 白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒を含み 粘土を手で握り棒状に成形した後ナデる 先端部一部押圧 橙褐色～黒褐色 二次的熱受け先端黒色	13号溝
11	紡錘車	凝灰岩質 長径5cm 短径4.5cm 厚さ1.9～2.1cmの楕円形 中央に径9mmの孔 上面 下面良好に研磨 側面は磨面残る	54号住
12	紡錘車	土製 長径4.6cm 短径4.1cmの楕円形 厚さ2.1cm 成形は良好とは言えずゴツゴツし 凸部分はヘラ磨き 凹部分はヘラケズリ痕跡残る 完形	76号住
13	紡錘車	土製 直径5.2cm 厚さ2.2cm 孔径1cm 整った形態 胎土に細砂粒を多く含む 丁寧なヘラミガキが施されているようだが風化著しく剝離部分多い 一部欠損	13号溝
14	鎌	長さ15.5cmの鉄製 錆化膨張著しい。切先は丸く折り返し不明瞭 棟は4mmで直線的 刃部は折り返し部から弧をえがく。その部分に木質付着 錆コブに竹状繊維付着	9号住
15	刀子	残存長10.2cmの鉄製 茎先端を欠失する 錆化膨張著しく不明瞭 身幅は最大1.3cm 棟幅3.5mmの平棟平造 鉄製	18号住
16	刀子	残存長9.4cm 切先を欠失 更に折れ曲っているため実測長9.2cm 茎先端も欠失する 錆化著しく細部不明 棟幅は関の部分で2mm 切先に従い薄くなる 茎断面は長方形 茎から刀身にかけて弧を描く刃をもっている 鉄製	24号住
17	鎌	残存長6.7cm 基部の折り返しの状態から鎌と考えられる 切先を欠失 棟は直線であるが刃部は丸くなる 棟幅2mm前後 錆化膨張が目立つ 鉄製	42号住
18	鎌	残存長5.2cm 基部の折り返しから鎌と考えられる 切先を欠失し棟は直線的で刃部は丸くなる 棟幅3mm前後 錆化膨張著しい	42号住
19	鉄製品	残存長4.4cm 幅2.1cm 厚さ1mmの鉄製 用途不明	54号住
20	鉄鎌	復原実測し得ない断片で刃部と棘部分のみ図示 刃部は両丸造三角形式 最大幅12mm 棘庇被をもち茎先端は欠失する 錆化膨張著しく細部は不明瞭	82号住
21	鉄製品	直径2.3cm 厚さ1mmの円板状 一方に反り返り凸面部は平坦で錆化していない 凹面部は錆化膨張著しく不明瞭 凹面部からの観察では中央部に穿孔がなされる 現状実測 鉄製	58号住
22	火打鎌?	二等辺三角形に近い形態 頂部を欠失する 左石の両角は丸みをもつ 下端は厚さ2mm前後 頂部に従い厚さを増すようだ 錆化著しく細部不明瞭 火打鎌と考えられる	80号住
23	鉄鎌	残存長14.1cm 錆化膨張著しく細部不明 基部断面は長方形	76号住



24	有孔円版	先端が丸くなることから鉄鏝と考えられる 直径2cm 厚さ現存2mmであるが裏面は剝離 中心にV字状穿孔 周囲に稜をもつ	13号住北 確認面
25	有孔円版	直径2.5cm 厚さ4mm 表裏平滑であるが側面は磨面残る 中央 に径2mmの穿孔	13号溝
26	白玉	直径9.5mm 厚さ3mm 穿孔は楕円形	13号住
27	白玉	直径10.5mm 厚さ5mm 孔径2mm	
28	白玉	直径8.5mm 厚さ5.5mm 孔径2mm	
29	白玉	直径8mm 厚さ4mm 孔径2mm	
30	白玉	直径6mm 厚さ4mmの小型 孔径1.5mm	28号住
31	白玉	直径8mm 厚さ3.5mm 孔径2.5mm	38号住
32	白玉	直径10mm 厚さ6mm 孔径2mm	62号住
33	土玉	直径7mmの球形 細い穿孔	44号住
34	土玉	直径8mmの球形 若干ゆがむ 孔径1mm	66号住
35	砥石	残存長6.1cm 断面四角形 磨面は一面のみ 中央が厚く両端薄 い 他面は部分的に磨かれているがノミのハツリ痕跡残る	1号住
36	砥石	残存長6.7mm ほぼ直方体 磨面は一面のみで使用は少ない 他 の3面はハツリ痕跡残る	1号住
37	砥石	残存長6.9cm 4面とも良く磨かれ いずれも凹面となる 一面 に創痕認められ 全面鉄分沈着	22号住
38	砥石	残存長13.6cm 4面とも磨面 各面とも凹状にすり減る 一面 に条痕状傷が残る 一部砥石製作時と考えられるノミのハツリ痕残 る。一端は割れ 一端は表面剝離	10号住
39	砥石	残存長6.1cm 4面とも良く磨かれ 凹面を形成するのは一面の み 他面は平坦	26号住
40	砥石	長さ6.2cm 角閃石安山岩製 溝は太細さまざま 断片V字状 鉄器の刃こぼれ部分を揃えるために使用と考えられる。溝の長軸が 凸状のものと凹状の二種あり前者は鎌等刃が凹状の場合 後者は刃 が反り返る刀子等凸状のものと考えられる	34号住
41	砥石	残存長9.4cm 4面とも磨かれるが凹面となるのは1面のみ 他 はハツリ痕や部分的に自然面を残す 一端は欠損しているようである が凹面の状況から完存品と考えられる。	54号住
42	砥石	残存長19.2cm 自然石利用 4面に使用痕 両端および面により 欠損著しい	21号住
43	砥石	残存長6.3cm 4面とも磨かれ分銅型となる。二次的破損部分有	84号住
44	砥石	残存長7.6cm 自然石の破片を利用したような砥石 磨面は表裏	4号土坑

		2面で側面は自然面残る	
--	--	-------------	--

## 土鍾

番号	現存長	太さ	備 考	1 4	5.5	1.4	4 9号住	両端一部欠損
1	3.1	1.4	1 3号住 欠損	1 5	5.7	1.4	4 9号住	ほぼ完
2	8.2	2.9	2 8号住 完	1 6	6.2	1.8	5 2号住	一部欠損
3	7.6	2.7	2 8号住 一部欠損	1 7	4.1	1.6	5 2号住	ほぼ完
4	6.9	2.9	2 8号住 欠損	1 8	5.5	1.4	5 3号住	両端一部欠損
5	8.3	3.1	3 1号住 一部欠損	1 9	4.1	1.3	5 3号住	ほぼ完
6	8.3	2.6	3 4号住 一部欠損	2 0	5.7	2.0	5 5号住	両端欠損
7	5.1	2.0	3 7号住 両端欠損	2 1	3.6	1.9	5 6号住	欠損
8	9.2	2.8	3 9号住 一部欠損	2 2	7.8	2.5	5 6号住	一部欠損
9	6.1	1.6	4 2号住 一部欠損	2 3	4.5	1.6	7 2号住	両端一部欠損
1 0	5.4	2.0	4 7号住 両端欠損	2 4	3.6	1.3	7 2号住	欠損
1 1	8.6	2.7	4 9号住 完	2 5	6.2	1.3	7 8号住	ほぼ完
1 2	3.9	1.2	4 9号住 完	2 6	5.6	1.4	8 4号住	両端一部欠損
1 3	4.5	1.2	4 9号住 ほぼ完	2 7	5.7	1.5	8 4号住	完形

## 社具路遺跡中世遺物(第181~183図)

器種	番号	遺構	法量 (cm)	特 徴
無頭 壺	1	40号 土坑	口径 13.9 器高 21.2 底径 24.6	胎・白色粒子 黒色粒子 褐鉄粒 角閃石 石英 砂粒 雲母 成 ・粘土層積み上げか? 整・外面 底部ヘラケズリ?後ナデ 体部 下位ヘラケズリ 中位及び上位指ナデ 内面 体部指ナデ 口縁部 ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 出・土坑東寄 残・ほぼ完形 備 ・蔵骨器として使用 火葬骨内蔵 在地系製品
片口 鉢	2	40号 土坑	口径(28.6)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 雲母 成・粘土層積 み上げ 整・外面 体部ナデ 内面 体部指ナデ 口縁部ヨコナデ 焼・良 色・淡褐色 出・土坑覆土 残・1/2 備・在地系製品
片口 鉢	3	2号 溝	口径(30.6)	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 雲母 整・外面 体部帯目 後ナデ 内面 体部指ナデ 口縁部ヨコナデ 形・外面 体部と口 縁部の間に沈線を施す 焼・著 色・灰褐色 出・溝覆土 残・1/2 備・在地系製品
かわ らけ	4	77住	口径(7.4) 器高 1.6	胎・褐鉄粒 石英 長石 細砂 成・ロクロ 整・外面 底部回転 糸切り 体部ロクロ調整後ナデ 焼・著 色・明褐色 残・1/2
かわ らけ	5	30号 土坑	口径 11.0 器高 2.7	胎・褐鉄粒 成・底部と口縁部接合 整・外面 底部糸切り 内面 底部ナデ 口縁部内外面ヨコナデ 焼・著 色・橙褐色 残・完形
鉄釘	6	22号		先端で「く」の字状に曲がる釘 遺存は良好 幅0.5×0.4 cm

鉄釘	7	土城 22号	直釘で頭が大きい 遺存は良くない 幅0.7×0.4cm。
鉄釘	8	土城 22号	先端で「く」の字状に曲がる釘 遺存は普通 幅0.5×0.4cm
鉄釘	9	土城 22号	先端を欠失するが遺存は良好である。はがねの様な形態を有し、各面は内側に若干凹む。幅1.0×0.7cm。全体にゆるい弧状を成す
鉄釘	10	土城 22号	先端と頸部分を欠失 全体的に弧状を成す 断面は六角形に近い
鉄釘	11	土城 22号	遺存不良 幅0.5×0.5cm
鉄釘	12	土城 22号	先端を欠失 遺存不良 ほぼ直釘 幅0.7×0.4cm
鉄釘	12	土城 22号	先端から中央部まで欠失 遺存は不良 直釘と考えられる 幅0.7×0.7cm
火鉢	13	4住	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 雲母 成・粘土板貼り合わせ? 整・外面 底部ヘラケズリ後ナデ 内外面指ナデ 形・底部に脚状の痕跡有り 焼・良 色・明灰色 出・住居址覆土 残・片
露盤	14	21号 土城 25号 土城	1面の長さ 33.0 推奨径37.0 高さ 16.5 胎・角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 長石 成・粘土板貼り合わせか? 整・外面 ヘラケズリ後一部ナデ 内面 指ナデ 宝珠文ヘラによる削り出し 稜は接合後ヘラケズリ 形・天井部は差し込み孔が存在 焼・良 色・外面 暗灰色 内面 黄灰色 出・21号土城 25号土城集石内 備・3片のうち2片は接合できるが角度から六角形になると考えられる 残・片
軒丸瓦	15	41号 土城	全長 29.3 厚さ 2.2 幅 10.0 直径 10.2 瓦当厚 1.8 胎・白色粒子 褐鉄粒 石英 砂粒 小石 雲母 成・瓦当と接合 瓦当周縁は貼り付け 整・凸部指ナデ 凹部中央に布紋り 痕有り 周辺指ナデ 形・1ヶ所凸面より凹面へ焼成前に穿孔 焼・良 色・黄灰色 残・完形 備・瓦当文様 陽刻の尾長巴文
丸瓦	16	22号 土城	全長 33.5 幅 12.9 突出部 4.6 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 雲母 整・凸面ヘラケズリ及び指ナデ 凹面中央部布圧痕及び紋り痕 周辺及び端部ケズリによる面取り後ナデ 凹面差し込み口刀子状工具によるケズリ 焼・良 色・橙褐色 出・土城集石内 残・完形
軒平瓦	17	22号 土城	残長 7.5 残幅 11.8 厚さ 1.6 胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 砂粒 石英 成・砂造り 瓦当接合 整・内外面指ナデ 端部ケズリによる面取り 焼・良 色・淡褐色 出・土城集石内 残・片 備・瓦当文様 剣尖文
平瓦	18	25号 土城	全長 30.9 幅 22.0 胎・褐鉄粒 石英 砂粒 小石 雲母 成・砂造り 整・凸面指ナデ (一部木口状工具使用) 凹面木口状工具後指ナデ 端部ケズリ

平瓦	19	22号 土壇	厚さ 2.3	による面取り 焼・良色・淡褐色 出・土壇集石内 残・ $\frac{1}{2}$
			残長 18.7	胎・角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 小石 雲母 成・砂造り 整・
			残幅 12.6	凸面指ナデ 凹面木口状工具後指ナデ 端部ケズリによる面取り
平瓦	20	25号 土壇	厚さ 1.8	焼・良色・黄褐色 出・土壇集石内 残・ $\frac{1}{2}$
			残長 11.3	胎・白色粒子 角閃石 褐鉄粒 石英 砂粒 小石 雲母 成・砂
			残幅 15.4	造り 整・凸面指ナデ 凹面木口状工具後指ナデ 端部ケズリによる面取り 焼・良色・黄灰色 出・土壇集石内 残・ $\frac{1}{2}$

## 追 補 (第184図)

## 1 甕 (社具路遺跡4号住居址)

口縁部を欠失する甕で、最大径を胴部中位にもつ。外面は縦位のハケ調整であるが、底部はヘラケズリを残し、内面は乱雑なヘラナデである。底部・胴部接合、胴部粘土帯積み上げて胴下半に乾燥単位をおき、上り底である。胎土には褐鉄粒や砂粒をよく含み、焼成は普通で赤褐色を呈す。

## 2 ナイフ形石器 (社具路遺跡61号住居址)

横長の剝片を素材とするナイフ形石器で、対向剝離による調整をなし、背面には横長状剝離面を残している。長さ3.5cm、最大幅1.3cm、竜左横の覆土中より出土。

## 3 打製石斧 (二本松遺跡11号住居址)

住居址の覆土中より出土したもので混入したものであろう。長さ11.2cm、最大幅5.3cm、厚さ1.8cmを計る。中央部でやや括れ分銅形を呈し、表裏に調整剝離がみられるが、一部に自然面を残す。

## 4 鈍尾 (夏目遺跡54号住居址)

残存長3.1cm、厚さ1.8mm、幅2.5cmを計り、先端は稜が形成され2ヶ所に鋸をもつ。基部に屈曲したツメ状の突起が付くようであるが基部の細部は破損のため不明。ツメ状突起は2本になるものと考えられる。銅製

## 4 小結

社具路遺跡は、昭和55・56年度にわたって実施された県道本庄・鬼石線道路改良事業に伴う3遺跡の発掘調査のなかでも、最も規模も大きく、また日数をも費した遺跡でもある。二本松遺跡は9軒、夏目遺跡では57軒の住居址をそれぞれ検出したが、夏目遺跡では発掘区に縦断する形で生活道路である市道が通っていたため、後に工事に先立つ立会調査を実施したとはいえ、完掘し得た住居址は17軒にすぎなかった。それに比べると社具路遺跡は83軒、完掘住居址60軒に及び、さらに当事業により派生した社具路遺跡Ⅱの調査で16軒（完掘11軒）の住居址を調査した。

今回社具路遺跡とした範囲は厳密には2遺跡に分割すべき性格をもっているものの、概に社具路遺跡として発表された資料もあり、整理の混乱などを避ける意味で、あえて1遺跡として扱い、北部集落と南部集落とに分けて調査や整理の段階で気付いた点を簡単に概観しておく。

南部集落は9軒の住居址と土壇や溝が検出されたが、一部の住居址もあり充分な把握はできないものの五領期から和泉期にかけての集落址である。この付近は確認面も浅く、近現代の土壇や溝、部分的な擾乱が多い場所でもある。9号住居址からは、おびただしい量の高坏や埴が検出され、器形や製作技法などの差は必ずしも時間差としてあらわれないことを示し、さらに4号土壇出土土物も同様なことがうかがえる点が注目されよう。

南北集落間の約150mの地域には幾筋もの溝や、井戸、土壇が検出されたが、覆土、基盤であるローム層は粘質が強く、遺物の検出もみられなかったことから中世以降の所産であろうと考えておく。

北部集落では73軒の住居址が検出され、和泉期の16・41号 真間期の10・23・36・38・39・42・54・61・65号を除くと62軒が鬼高期に属している。和泉期の住居址は甕、甔、高坏、埴、埴などを出土しているが、これらの土器は比較的新しい時期に属する様相を示し、この時期に限定される集落である二本松遺跡や笠ヶ谷戸遺跡とは、住居の在り方、土器の組成など多少異なっている。鬼高期の62軒は南北幅約150mの微高地上の全域に密集した状況を示し、出土した土器も古い様相を示すもの、新しい様相を示すものなど、時期による多寡は認められるものの、ほぼ該期をカバーし得ると考えられる。これらの住居址のなかでの土器のあり方は廃棄後投入あるいは混入したと考えられる例もあり、一住居ごと、一全体ごとに細検討することが必要である。土師器の出土量に比べると須恵器の検出は非常に少なく19号住居址から提瓶がみられる程度で、それ以外は破片のみである。カマド構築土内に滑石製石製模造品が含まれる例があること、同一個性をもつ土器がみられることなど当遺跡の主時期として多くの成果が得られている。

真間期とした9軒の住居址は遺構の分布する範囲の南端に散在し、特に10号住居址は若干離れて所在していることから集落の中心は社具路遺跡Ⅱの在り方と共に南に移ったものである。また河川跡の蛇行した部分礫層上端の確認面から該期の甕が検出されていることから、この頃には蛇行をやめて主流路は北に移ったものである。また土器焼成址もこの時期のものである。

また特筆すべきは河川跡に接した土壇墓群であろう。年代を与えられる積極的根拠に欠けるものがあるとは言え、密集した状況から東方に延びて分布すると考えられ、六角形の露盤や蔵骨器、瓦類など中世遺構の調査例が少ないなかにおいて重要な位置を占めると考えられる。

## VI 結 語

### 1 はじめに

昭和55年7月下旬から発掘調査事務所の仮設等実質の準備に着手、翌9日から作業員による現場事務所の整備、周辺整備、発掘調査区の下刈りや桑切り、抜根などを経て県道本庄鬼石線道路改良事業（通称金鑽線）に伴う発掘調査の第一歩、耕作土除去が開始されたのは8月25日であった。

その日から昭和57年1月までの19ヶ月にわたって現地作業を実施、引き続き整理作業は昭和57年2月から昭和62年3月までの62ヶ月、5年余にわたって実施したことになる。

発掘調査及び整理、報告書作成の作業は、埼玉県の委託を受けた本庄市教育委員会が実施、本格的整理作業に入った昭和57年度には、本庄市埋蔵文化財センターを本庄市大字牧西1137番地（元藤田村役場 前藤田公民館）に開設して整理作業の拠点とした。実に7ヶ年を経過したことになる。

もとより、本庄市教育委員会では、この一連の事業のみならず、多くの発掘調査や整理作業を実施してきたが、日々たえず試行錯誤の連続であり、調査の組織や方法、内容、整理の段階での方法や内容は必ずしも一貫したのではなく、結果的に不統一が目立っている。

本事業に於いても例外ではなく、現地作業に於ける調査方法や記録内容、整理作業に於ける遺構や遺物に対する説明、遺構や遺物実測図に対する表現方法の変更など列挙にいとまないほどである。

ともあれ、昭和57年度に本事業の最初の調査報告書を第一分冊として二本松遺跡、同59年度には第二分冊として夏目遺跡の調査報告書を刊行することができた。行政事務の一環という、日限と予算というさまざまな種のなかでは、報告書刊行事業は発掘調査順の逆をとらざるを得なかった。これらの制約から本報告書は、当事業のうちでも最初に着手した遺跡の調査報告書であり、記憶の薄れも多く、また当事業対応の変換期でもあった反省を含めて本論を進めたい。

### 2 結語の対象とする範囲について

本報告書は主として社具路遺跡の発掘調査報告書であるが、一連の事業、既刊の2冊の報告書を含めた結まとめでもある。さらに当事業に間接的に関連して2件の発掘調査が実施されている。それらについては既に『本庄市埋蔵文化財調査報告第6集 本庄遺跡群発掘調査報告書 夏目遺跡・三笠山古墳・三笠山7号墳』『同8集 本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 社具路遺跡Ⅱ・三笠山1～6号墳』として刊行した報告書のなかで報告した。この夏目遺跡、社具路遺跡の2件の報告は、小規模な調査であったことや、時間的制約、また当事業によって派生した調査であったことから、これらのなかで最も大規模な当事業の全容が不明確なまま考察することは危険と考え、結語を敢て避け、本報告書で一括して考察する予定で記述しておいた。従って本結語では、それらの占める割合は決して多くはないが、金鑽線関係報告書の総まとめとしての態度をとって、それらをも含めて記述の先を進めたい。

依って当報告書結語に含める遺構や遺物の範囲は古墳時代～奈良時代の住居址167軒、出土遺物2212個体であり、その概要は次のとおりである。

遺跡名	調査住居址	発掘住居址	報告土器個数	
二本松遺跡	9軒	6軒	166個体	第5集1分冊
夏目遺跡	57軒	17軒	675個体	第5集2分冊
社具路遺跡	83軒	60軒	1112個体	本書
夏目遺跡Ⅱ	2軒	1軒	21個体	第6集
社具路遺跡Ⅱ	16軒	11軒	238個体	第8集

### 3 土器編年とカマドの問題についての考え方と今後の課題

二本松遺跡を中心とした西富田遺跡群は、今でこそ重要遺跡として埼玉県教育委員会によって選定されているが、本市域での最初の学術調査が実施されたのは二本松遺跡であり、昭和30年であった。この年の発掘調査件数は『日本考古学年報8』によると、全国で実施された37件のうち古墳関係遺跡28件に対して、集落関係遺跡7件という状況であった。調査対象遺跡イコール古墳という時流のなかでは生活址という地味な分野の調査であった。その後の「カマドの発生」について多くの問題提起がなされた一連の調査の対象となった地域でもある。

このような学史的意義や考え方は、既に第一分冊に於いて「本庄発掘調査略史」として簡単に紹介しておいた。この「略史」は当事業が西富田地区に対して実施された調査であり、また多くの貴重な資料が得られたことにより、それらを総括すべく、カマドの発生問題と、土器の編年観の確立について核心に迫るための序論として掲載したものであった。

そして整理の進捗に従い、当地方の調査例や土器編年観、カマドの発生に関する考え方など、広く漁り、内容を逐一検討した結果、当初『二本松遺跡発掘調査報告書』編集時に目論んだ、カマドの追求や土器編年の確立については、私共が地域を中心として考えて来た内容と余りにも差があり、今なお時期早尚であるとの結論に達したのである。その理由は以下のとおりである。

まず第一に、3遺跡150軒近くの住居址の調査であるとは言え、言わばトレンチに近い調査区であったことによる。社具路遺跡Ⅱや、夏目遺跡、昭和30年代以降の調査例を加えて180軒余、さらに西富田新田遺跡を加えると200軒にもおよびる膨大な資料の蓄積がある。しかしそれらは集落単位ではなく、幾つもの集落を虫喰い状に調査したにすぎない部分調査の集合である。ある一定のまとまりをもたない集落の、それも一部分の土器を取り上げて土器編年作業を行なおうとすることには多くの問題をはらんでいると考える。常日頃、ある一器種を抽出し、汎関東的に編年を組み立てることに疑問をもって来た。それは限定できる一地域ごとの体系を確立したうえで行うべきであり、またその対象とする土器は作画的に抽出すべきではないと考えるからである。

調査区域内のみという限定された土器を取り上げることも、一応の成果といえよう。しかし細かく見るならば出土状況の把握について若干の問題が残ると考えられる。かつて雄湊遺跡で住居址覆土に凹レンズ状に堆積したローム状の薄い層を観察したことがある。その層を境にして、下層は住居に伴う土器が、上層からは、明らかに古い時期の土器が検出されたことがある。強い粘質をもった覆土で後半は洪水等により、一気に埋没したと考えられる遺跡の状況であったとは言え、他の遺構や遺跡でも本来の土器と、ある時期を置いて投入され、あるいは混入した土器などを、まず分離したうえで考

えるべきである。

遺構のなかで遺物が現在に残された状況を土器を中心として細かく見るならば、①住居とともに使用中の状況のまま埋没、②土器は使用可能であるものの住居の廃棄に伴って廃棄され埋没、③住居廃棄後、完全埋没の間に投入、混入して埋没などの場合が考えられる。①についての使用中の土器には一定の目的を達した後に、他の目的に転用されたものもある。床面あるいは床面近くからの土器と、覆土中の土器、このことは住居に伴う土器とある時間を経過した後の土器と言え、同じカマド内からの出土でありながら支脚転用の高坏や、器台転用の甕を土器としてみるのか、みないのか等多少の時間差でも考慮しておく必要がある。そのような考え方にたった場合、各住居址のあり方や廃棄の状況、埋没の状況、出土遺物の量や器種など、集落ごと、いや住居ごとに千差万別であることが看取される。加えて住居址の複合関係の明確にし得ない例や遺構の面と遺物の面との新旧関係の見解のくいちがいが以外に多い。

第二には、当地域で昭和40年代後半から50年代にかけて実施された大規模調査の報告書の刊行がほぼ終り、まとめとしての研究成果が発表され、それとともに当地域を対象にし、また検討材料の一部とした論文も十指を余るようになった。土器編年に関しても一応の成果と言えるものが発表され大きな役割をはたしてきた。

しかしその内容を見ると、それまでの当地域での考古学的成果に立脚したのではなく、調査対象遺跡以外に目を向けていない傾向がみられる。報告書によって表現方法や記述内容の相違はあるが、実測図や文章記述、写真図版など利用しても表現し得ない部分も以外と多い。また土器が図化されると、形態のみにとらわれてしまう傾向もある。それが土器編年イコール形の変化の追求として終わってしまう場合が多い。さらに一たび発表された成果は、調査者の本意（文章、実測図、写真等では表現し得ない部分、感覚的になってしまう恐れもあるが。）とは別なところで、一人歩きを始めてしまう。それらにさらに年代観が加えられて、大きくなってまた歩き出す。多少の問題点を残してはいても、定着化したあとは、それらが出発点となり、次々と多少づつ問題点を積みかさねながら、結果的に大きなズレを生じる。当地域に与えられている土器編年も多分にもれず形のみにとらわれてきている。製作技法の検討や遺構とのかかわりを重視して、それらの裏付けをもたせうえて土器編年という土俵上にあげる必要がある。

第三には、本事業で実施した調査や、その後の調査によって得られた資料が、多くの研究者によって位置づけられている成果とずれるか、あるいは理解に苦むような例が少なくないことによる。西高田遺跡群内では二本松遺跡が当初東国におけるカマドの発生地域と考えられ、関東各地に波及したとみなされていた。その後多源的に発生し、周辺地域が一定の社会段階に達した時に受容されるとの考え方が示され、さらに畿内発生、全国伝播の斉一性を考える説もある。これらカマドの発生論は別にしても、今まで二本松遺跡出土土器に与えられた編年観は、鬼高式土器直前の最も新しい和泉式土器ではないかという、昭和30年代当初のカマド観に引きずられたまま今日に至っている背景がある。

数次にわたる調査でカマドが確認されると、カマドの存在、即ち6世紀前半代、鬼高期であると即断されていた。昭和37年、当時和泉式土器を新旧に2区分する潮流のなかで「西高田遺跡」の概要を発表した玉口時雄氏は、I期の土器に位置づけ、カマドの発生もI期に確認できるとの見解を示し



た。しかし、その後は土器を除いて、カマドを追求し、カマドを除いて土器を追求する方法がとられている。しかも調査時点や報告書刊行当時の考古学的水準を考慮せず引用して論を進める風潮が目立っている。

二本松遺跡17号住居址は壁から離れた馬蹄形平面のカマドをもち、布留式の甕が検出されている。また夏目遺跡6号住居址からも肩部以上の同様な甕が見出されている。両者に決定的なことは住居址内からの出土とは言え、住居に伴うという確証が得られなかったことである。ところが昭和60年の離濤遺跡2号住居址の調査で、カマド内部の支脚である逆位の高環に乗ったままの状態では1個体、右袖先端から1個体、計2個体の布留式の甕が検出され、住居とカマドと他の伴出土器が、多少の時間差を認めざるを得ないものの、ほぼ伴うものである確証が得られた。器形や技法は布留式土器そのものであるが、胎土は在地産であろうとの坂野和信氏の観察を得ている。

また本書に報告した社具路遺跡4号土壇は2・5m×3・4m、深さ80cmの土壇であるが、この覆土上位から所謂S字状口縁台付甕や単口縁台付甕、甕、器台、高環、増など多数の土器が検出されている。その数40個体を越え、出土の状況に時間差は認められず、一時に転落したと考えられる。

これらの土器のなかから編年研究の進んでいるS字状口縁台付甕のみを取りあげてみると、頸部内面にハケメを施すもの、肩部に横線をもつもの、もたないものなど大きな時間差を認めなければならない状況である。

市域及び周辺地域を含め、いろいろな組織によって行なわれた発掘調査により得られた資料は膨大なものになる。二本松遺跡や西富田新田遺跡などの西富田遺跡群の土器やカマドは、たしかに検討すべき時にきている。しかし長々と述べてきたような状況下にあっては、まだまだ先学の築いた成果とは格差がありすぎる。

常々掘立柱である竪穴住居の居住可能年数、カマド内で熱を加えて使用される土器や、盛り付けなどに供される土器の耐用などの問題、一住居単位が不可能ならば集落単位に於ける年令構成と、同一時点での土器製作に係る保守的あるいは、革新的な技術差と形態、カマドの効果と耐用を考えてきた。何一つ結論じみたことが判明するわけではないが、それらの問題もカマドや土器とともに考えねばならない重要な事項であると思われる。

多くの先学がカマド論に、土器論に費した労苦は大きなものであったろう。しかしまた多くの問題点も残してきた。今後も、この地域に居住し、この地域に視点をすえて行動をとりおねばならない我々にとっては、現状のまま議論の場に参入することよりも遺構とのかかわりや、遺物の基礎的点検作業を行い、再検討したうえで考察すべきであるとする。そしてまた行政処理、あるいは行政事務の一つとして調査や整理を行わなければならない立場にある者にとって、日程や予算という問題が大きすぎるし、多すぎる。このような考え方のもとに、本事業の総まとめである本論は、いくつかの細かな問題点に絞って以下に述べることにする。土器編年やカマドについては調査の反省を含め、基礎資料を整備したうえで改めて検討することを今後の課題としておきたい。

## 4 土器細見

### 1) 転用器台と擦痕のある土器について(写真図版49)

社具路遺跡82号住居址の貯蔵穴内の東寄りから大型甕と甕形土器の口縁部が検出された。相方の土器は破片の状態であったが、甕の下に甕の口縁部が位置し、重ねられた状況を示していた。甕(社具路82号住一土器番号6 本論図1を社82-6 図1と略す 以下同じ)は単孔の大型のもので外面下端から9cm前後の範囲に擦痕(二つの土器がすり合うことにより出張った部分がすり減り平滑化する状況)がめぐり、部分的にヘラケズリ痕も消えて、土器表面はなめらかになっている。重ねられて一緒に検出された甕の口縁部のみの土器(社82-4 図3)は頸部内側に擦痕がめぐっている。口唇部を下にした時の上方から、すなわち土器の内側からの擦痕で全周の殆どに認められる。この二つの土器の擦痕の傾斜は出土状況の示すとおり一致し、設置復原予想図は図2のようになり、甕の口縁部を甕の器台として転用していたことが判明する。

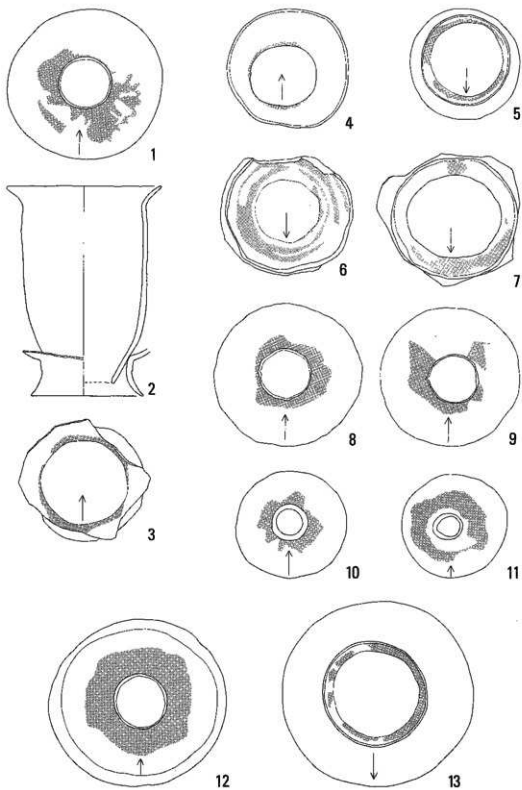
夏目28号住居址の貯蔵穴のなかからも頸部内側に擦痕をもつ甕の口縁部(夏28-2)の上に乗った状態で、胴部下半に擦痕をもつ大型甕(夏28-5 図8)が検出されている。また重ねられて一緒に検出されたものではないが、社具路44号住居址出土の胴部下半を欠失する甕形土器(社44-13 図13)と大型甕(社44-11 図12)もそれぞれ擦痕をもち、甕の器台として甕の口縁部を転用していたことがうかがえるのである。同じように内側に擦痕をもち、甕形土器の口縁部のみ残存する例は上述したほかに次に示すとおりである。

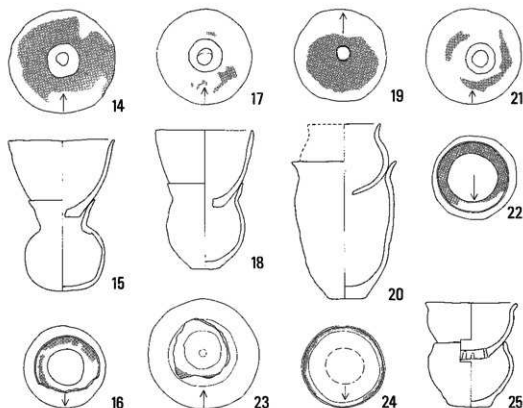
社18-14	社22-4 図4	社34-7
社35-2	社47-13	社56-6
社58-4	社66-8 図5	社75-4
社81-5	社81-6	社81-7 図7
社84-5	夏69-12 図6	

重ねられて出土、あるいはセットであった可能性のある例を含めると17例を確認することができる。これらの擦痕は土器として使用されていた際の正位、すなわち口縁部上端から重ねられたことによって生じる場合と口唇部を下にした状態で重ねられて生じた場合とがみられる。社47-13の例は相方からの擦痕を残しているが、その摩耗の程度も著しく長期にわたって使い込まれた様子がうかがえる。この例を除く16例のうち口縁部上方からの擦痕をもつ土器(図では↓印で示し、上からの見下げを表現)は12例、土器の内面からの擦痕をもつ土器(図では↑印、前者の逆)は4例である。

同じように外面胴部の下端に擦痕をもつ甕は、セットで検出されたもの以外で、大型の土器は社40-13、社II101-41(図9)、小型の土器では社22-9(図11)、社82-7(図10)などに認められる。小型の甕の場合は後述するように小型の甕や甗と重ねられて検出されることもあり、必ずしも器台に乗せることによって生じた擦痕とは言えないものがある。

擦痕をもつ甕の口縁部が甕と重ねられたもの、単独のものとの区別をせずに出土位置をみると、17例のうち12例までがカマド周辺から検出されている。カマドの袖の上や外側、手前、貯蔵穴内部などからであり、少なくともカマド周囲の1m前後の範囲内に集中している。カマド周辺以外から検出





番号	遺跡名	住居址名	遺物番号	器種	番号	遺跡名	住居址名	遺物番号	器種
1	社具路	82号住	6	甌	13	社具路	44号住	9	甌
3	社具路	82号住	4	甌	14	夏目	64号住	2	甌
4	社具路	22号住	4	甌	16	夏目	64号住	9	埴
5	社具路	66号住	8	甌	17	社具路Ⅱ	102号住	11	甌
6	夏目	69号住	12	甌	19	社具路	81号住	10	甌
7	社具路	81号住	7	甌	21	社具路	13号住	21	甌
8	夏目	28号住	5	甌	22	社具路	13号住	18	甌
9	社具路Ⅱ	101号住	41	甌	23	社具路	55号住	7	高坏
10	社具路	82号住	7	甌	24	社具路	53号住	23	坏
11	社具路	22号住	9	甌	25	夏目	71号住	6・7	甌・甌
12	社具路	44号住	11	甌					

された5例は住居址中央部からの出土例が多く、埋没の段階で投入されたと考えられるものである。

甌の口縁部を器台に転用したものの他に、小型甌と小型甌等が重ねられた状態で検出され、相方の土器に擦痕がみられる例もある。夏64号住の例(図15)は甌(夏64-2 図14)の下に埴(夏64-9 図16)をセットしている。甌の外表面は風化が著しいものの擦痕が認められ、埴の口縁部内面の上半部と口唇部にも著しい擦痕が確認できる。社Ⅱ102号住の例(図18)も甌(社Ⅱ

02-11 図17)と甕(社II02-7)が重ねられて検出されたものである。甕の擦痕は破損部分もあって明瞭ではないが、小さなものが点在し、甕の口唇部内側にはほぼ一周する擦痕が確認できる。

社81号住例(図20)は甕(社81-10 図19)が破片となって甕(社81-1)の内部に落ち込んでいたものであるが、本来は重ねられていたもので、甕はすずまりの甕を焼成後に外面から穿孔した転用甕で、孔周囲を磨いているものの内面に剝離痕を残している。胎土を精選したうえへラミガキ状のへラケズリを丹念に行なっているため不明瞭であるが、底部に擦痕を認めることができる。甕は口唇部内側の一部分に擦痕が認められる程度で、これは焼成が堅緻なために残りにくかったものと考えられる。また重ねられた状態で検出されたものではないが社13-21(図21)の甕と社13-18(図22)の甕の擦痕も一致し、甕は胴部下半にほぼ一周する擦痕が認められ、表面はなめらかとなり、甕は埴に近いような形態で口唇部内側の刃ほどを除く全面に擦痕が認められる。更に擦痕こそ確認できないが、甕と甕が重ねられた状態で検出されたものとして夏71号住の例(図25)があり、両者とも鉢状の形態で胎土や製作技法に類似点が多く同時に製作されたと考えられ、甕は多孔である。住居址北西コーナーに接して検出されている。

この他に甕、甕以外で擦痕をもつ土器も確認できる。社55-7(図23)は高坏であるが、カマド内部で逆位に設置し転用支脚として利用されたもので、裾部の欠損部先端にわずかな擦痕が認められ、この上に乗っていた甕(社55-2)には認めることができない。社53-23(図24)は南壁に接した壁中央部から検出された坏である。口唇部内側にほぼ一周する擦痕が認められる。

以上のように擦痕をもつ土器は全出土量に比べて、その占める割合は決して多くなく、甕の口唇部に擦痕をもつ土器は17例と少ない。しかしこれらの土器がカマド周辺から多く検出されること、土器本来の用途である容器として使用されていた時点の内側からの擦痕もあることなど、容器としての用途を終えて、不用部分を打ち欠き甕の台として再利用したものであろう。

通常甕の上に甕を重ねて蒸したとされる甕と甕の関係からみて、甕として本来の用途に供されている時点の甕にこれらの擦痕を認めることはできなかった。大型甕の胴部下半に擦痕がある以上、甕の口唇部内側にも確認できるはずである。直接火熱を受ける甕と、そうでない甕の耐用の違いによって擦痕を残さない程に甕を取り変えざるを得なかったのかとも考えられるが、擦痕の跡さえみられないということは煮沸行為に際して甕と甕の接する部分に布等をはさんでいた可能性も考えられよう。甕の擦痕は煮沸終了後、カマド内の甕から外して転用器台に乗せる段階でついたものと考えておきたい。

小型の甕と甕の場合は前者とは異なる状況を示すようである。重ねられたままのセットの状態で検出された4例(擦痕をもつかもたないかを考えずに)、セットとして使用された可能性のある例を含めると5例となる。夏64-2 社102-7のように二次的な熱を受けた例もみられるが、社81-1や10、社71-6や7の2つのセット関係にある土器には熱を受けた痕跡がまったくみられない。またセットで検出された夏64-9(図16)もその痕跡はない。社75-8の甕は口径9・5cm、器高5・5cmの小型の土器である。これら小さな甕が、はたして蒸器として使用し得るのか疑問である。

炊飯実験の際、甕と甕をセットしたすきまから出る蒸気の量は多かった。甕の口唇部や甕の胴部を

観察しても器表に小さな凹凸や同心円状とならない場合が多く、壺のなかで発生した蒸気を瓶の孔に集中するよう密着させることはむずかしいと考えられる。セット関係にある小型の瓶と甕で、それぞれ擦痕をもったものでも蒸気の漏れを防ぐまでに密着させ得ないものがある。そしてこれらのセットで火熱を受けた痕跡のないものもあり、これらは蒸す道具としての瓶と甕というより、漉し器としての用途もあったと考えたい。大型の甕と瓶は本来の蒸器として使用し、その間に布等をはさむことによって蒸気の拡散を防いだものであろう。それがまた甕の口縁部内側に擦痕を残さなかった原因でもあると考えられないであろう。

## 2) 土器の創痕について

住居址出土の砥石で磨面のほかに、端部などで細長い傷を見受けることがある。幅1mm前後の浅いものであるが、乱れた刃先を整えるために砥石に直交して磨いたものでないかと考えられる。社具路遺跡10号住居址出土砥石の一面には1mm前後の浅い傷と深い傷が認められ、縦断面は凹状を示している。これらの創痕と同じ傷を器表につけた土器が見受けられる。

社具路遺跡34号住居址は30個体余の土器を出土したが、4個体の土器に創痕が認められ、そのほか砥石というより創痕のみをもつ角閃石安山岩礫(第117図)も検出されている。この礫は6・3×4・7cmの円礫を半載した形状を示し、半載された面には縦断面が凹状の創痕、その反面には凸状の創痕がみられ、横断面はV字状を成し、幅はまちまちであるが、凹状の創痕は最長6cm、凸状創痕は最長5cm付けられている。

社具路遺跡34号住居址出土No.12(第110図)の土器は小型の甕であるが、胴部に2群の創痕がみられる。いずれも胴部に横方向に付けられ1mm前後の幅、最長5cmであり、それぞれの横断面はまちまちであるものの縦断面は凸状を示している。No.22(第111図)の土器は埴であるが、底部と胴部下位に2群の創痕が認められて、底部の創痕は1~2mm幅で円形いっぱい付きされている。わずかではあるが縦断面は凹状を呈し、胴部下位の1群は細い創痕がまとまって最大幅3mm、長さ5cmの太い傷となっている。No.23(第111図)は内黒の埴で胴部に1群15条ほどの創痕がみられ、いずれも浅く細い傷が接し、繰り返し使用されたようで、最大幅2mm、長さは最長4cm程で口縁に対して斜めに付けられている。No.24(第111図)は前二者より大ききな埴で残存量は底部1/4、口縁部1/4ほどであるが、1条の深く深い創痕がみられる。細い傷が集合した状況を示し、幅3mm、長さは6mmにわたっている。同遺跡27号住居址No.5の土器(第101図)は口唇部を全て欠失した甕形土器で、深く深い5条の創痕が胴部に認められ、周囲に浅く細い傷が認められるが、器表風化が著しいため不明瞭であるものの創痕が集合したものとみられる。縦断面は平坦のようであるが両端はわずかに窪んでいる。同遺跡55号住居址No.8(第138図)の土器の器表は風化しているが、底部と胴部下半の2ヶ所に創痕が認められる。胴部上半を欠損する小型の甕で底部に6条認められ、最大幅2mm、最長4cm、縦断面は平坦である。胴部の創痕は数が多く、縦断面は凸状を示している。

このほかに、創刀とみられる傷を有する土器もある。社具路遺跡4号住居址出土の口縁部を欠失する埴は、胴部上半に3×17mmの貫通孔を残し、外面から強い力で突き刺したようで内面は径2.5mmほどに剝離している。また雄湊遺跡1号住居址出土の埴も同じような貫通孔を残し、長さ37mm、上端幅6mm、ちょうど大刀の断面状を示し、貫通孔周囲の内面は剝離している。

以上のように土器に残る創痕や創刃の痕跡は決して多くはないが散見することができる。市域では和泉期で、しかもカマドをもたない住居からの鉄器出土例が確認できる。東五十子城跡遺跡10号住居址では鉄斧2、鉄鎌4、鉄鎌3点のほか鉄鑿や鉋と考えられる断片が、砥石とともに検出され、同じように社具路遺跡でもカマドをもたない9号住居址で鉄鎌が検出されている。集落以外では前山2号墳主体部から刀子、鎌、錐、鏃、剣などの鉄製品が検出され、5世紀前葉には当地域には既にもたされていることが知られている。鉄斧や鉋など、その使用に対して強い力を必要とする鉄器は別にしても、鋭利さを要求される剣や大刀、鉄鎌などの武器、生産に必要な鎌や生活上必要な刀子など種類は多く、これらを保守する意味で砥石が必要とされたものである。しかし発見される砥石は、荒砥的な粗いものはほとんどなく、きめのこまかなもののみで、歯こぼれなど大きな欠損によって刃先を揃えるのには不適当なはずである。

土器に創痕のある例は量的には少ないが、これらの土器を荒砥代りに使用したのではないかと考えられる。これらの土器を出土した住居からは鉄器や砥石の検出はなかったが、荒砥として土器表面を使用し、仕上げとしてきめのこまかな砥石を使用したと考えたい。

創痕の横断面は何度も往復して使用したため一様ではなく、縦断面は両端でわずかでもくぼむ凸状と、逆にあがる凹状と平坦なものとの三者に分類できる。縦断面も複数回の往復で一様ではないと考えられるが、凸状の創痕は鎌など内弯する刃をもつものに使用し、そして凹状の創痕は刀子や鉄鎌先端のように反りのある刃をもつものに限られないであろうか。凸状の創痕は小さな土器の外面に限られ凹状の創痕は底部など平断面に残されている。

また創刃が認められる2例は、ともに埴であり脚に転用のために貫通させたとも考えられるが、それ以降手を加えず突きさしたままの状況であり、円形にするなどの痕がみられず、祭祀的目的にしては例がなく、突発的出来ごとによって突きさされたと考えられる。鎌跡遺跡例は大刀の断面そのものであり、社具路遺跡例は長楕円形はしているものの刀子状のものによる創刃と思われる。

### 3) 土器製作の一端

1個の土器を作るには、その素材となる胎土と、成形、整形、焼成の工程上の技術と道具が必要となり、胎土については近年胎土分析など科学的方法による研究も進められ、大きな成果が得られている。成形、整形、焼成などの技術についても巻きあげ、輪積み、型おこし、あるいは回転台やロクロの使用の是非、ナゲやケズリ、叩き、ハケ調整、または焼成の方法など、一技術を、一器種を取りあげ、いろいろな視点から、さまざまな方法で多くの先学が研究を行ってきたところである。今回の調査でも土器製作についていろいろな資料を得ることができた。高杯の製作技法については別に掲げたが、ここでは整理の段階で気付いた何点かの問題にしばって、土器製作に係る技法の一端を垣間見ることにする。

#### 上がり底と木葉痕(写真図版50)

和泉期から鬼高期の変形土器は、通常5～8cm前後の直径の底をもつ場合が多く、基本的には平底で、台を有するのは皆無と言っても良い。最終的に底そのものを削り、あるいは底を削り出す例もみられるが、なかには底の周囲が高まり、中央部分が上る一見上げ底風の土器をみることもある。

底の周囲に粘土を貼付したものと解釈し「上げ底」と呼称されている。しかし何の目的で底をあげ

なければならぬのか理解に苦しむところがあった。一度成形された底に粘土を貼付したとしても、図では表現し得ない1mm以下の場合も多く、その上り方も少ないのがみられる。

土器の製作についてある疑問をもち、実際に土器づくりを体験したことがあった。甕形土器を製作する時、下にベニヤ板を台として置き、その上で土器自体を回転させながら粘土紐を捲きあげたところ、ベニヤ板に密着していた粘土や、付着していた粘土クズが底の周囲にのみ付着し、土器の底部は上げ底状になることを確認した。

二本松遺跡11号住5の甕形土器は器高33・7cmの胴の張る大きな土器であるが、この底の中心部は周囲より4mmほどあがっている。底径約9cmと多少大きめであるが、周囲の高まりは2cm前後の幅をもち、少なくとも3段の盛りあがりを確認することができる。このような底が明瞭に確認できる例は以下の通りである。

二16-3	夏28-3	夏61-8
夏65-2	夏71-3	社21-15
社21-16	社31-4	社49-1

これらの甕に認められるほか、夏目64-7の鉢、夏目65-29の埴にも確認することができる。夏目65-29や社具路21-16の甕は周囲の高まりの部分に数回の削りを加えている。底部全面を削る場合や、削りによって上げ底状とする場合もあり、明瞭でないものもあるが、意識的に上げ底としたものではないので便宜的に「上がり底」と呼称して観察表に表現しておいたものである。

それでは土器製作という一連の工程のなかで、どの段階で上り底となるのか注意してみると、木葉痕と一緒に土器が確認される。

夏19-1	社21-17	社22-1
社28-15	社33-10	社47-2
社47-10	社75-1	

これらの8例の甕に明確なものが見受けられ、木葉痕の付いた後に上り底を形成することが判明する。1例のみであるが、上り底形成後に木葉痕の付いた社73-17の鉢の場合もある。

社21-17の場合は、底径7cm前後、周囲は2-2・5cmの高まりの幅をもち、中央部分の直径2cm前後のくぼみの中のみ木葉痕が認められる。底部は横に突出し、周囲の高まりも付着時点では土器本体よりも柔らかい粘土であったことが観察され、底部周囲もシャープではなく不安定な状態で粘土が付着したとみられる。他の7例も同じような状況を示し、この前後関係が土器製作工程の手がかりとなる可能性がある。

木葉痕の付いた後に上り底を形成するということから次のような工程が考えられる。まず第一に成形の段階では底に木葉をあて、木葉ごと回転しながら粘土を積みあげ、成形を終え、若干の乾燥を経た後、整形の段階、すなわちヘラケズリの工程で木葉は離れ、台の上で回転させながら削る際に形成されたとの考え方、甕形土器の胴部外面のヘラケズリは、その大半が底部から口縁部方向へ削りあげられていることから、土器を正位に立てて、回転しながら削り、その時に粘土が付着したとの考え方であり、第二には大きな甕形土器などは胴部下半に接合痕を必ずもっている。一気に口縁部まで製作できるはずはなく、何回かに分けて、乾燥を待ちながら上へ積みあげていったと考えられることから、胴



部下半まで成形する際に木葉をあて、若干の乾燥の後上半を積みあげる段階で木葉が離れ、上り底を形成するとも考えられる。いずれにしても木葉痕が付いて、木葉が離れた後に正位に回転させる工程があることだけは事実である。

上り底の後に木葉痕の付く例は1例のみであった。この土器は底径6cm前後の鉢形土器で、周囲は2cm幅の高まりがあり、中央部は径2cm、2mm程のくぼみとなっている。木葉はこのくぼみ部分を除いて確認される。木葉痕後上り底をもつ土器が大型であるのに比べて、器高約11cmと小さく、一気に成形することのできる大きさでもある。ともあれ、ここでは土器自体を回転させると底部の周囲があがること、甕などの大きな土器では木葉痕のついた後に上り底が形成される例があることのみを指摘しておく。

#### 製作途中の手直し(写真図版51・52)

土器の成形とヨコナデなどの、ある程度の調整が終わった後、つまり乾燥中にヒビ割れをおこし、亀裂の部分に粘土を充填しその後に焼成した土器が見受けられる。

社具路18住一29は器高30cm余の大型甕である。口縁部先端から胴部にかけて長さ8cm程度の亀裂と、口縁部内外面のヨコナデを覆う状態の粘土充填痕が内外面にみられる。充填部分の表面はこまかな亀裂が現われ、土器自体と充填した粘土との乾燥度のちがいをうかがうことができる。口縁部内面は亀裂に沿って、ヨコナデを覆う幅3cm前後の充填がみられ、上下方向へのヘラミギキ状の痕跡を残している。外面はヨコナデを覆う状況を示すが、充填部分の下半は本体とともにヘラケズリが加えられているようである。同住居一18は器高29・7cmの甕形土器である。この口縁部から胴部にかけても、全く同じような長さ8cm程度の亀裂と粘土充填痕が確認できる。口縁部のヨコナデされた部分ではヨコナデ後の充填で、充填した後にその部分のみ外面は横に、内面は縦にナデが施されている。外面胴部では充填部分にかかわらず、全面ヘラケズリが行なわれている。社具路63住一1は小型の鉢状の甕であるが、この土器は亀裂が著しく、しかも歪んでいるため厚く充填している。この土器も内外面のヨコナデ後に粘土を充填、その後に胴部外面のヘラケズリを行なっている。

以上の3点の土器をみる限り、整形の工程は胴部内面ヘラケズリ→口縁部内外面ヨコナデ→ある程度の乾燥→胴部外面ヘラケズリの手順であったことが判明する。(ある程度の乾燥とは歪みとしての亀裂が生じる程度であるが、完全乾燥してはヘラケズリはむずかしいと考えられる。)

この工程の手順が他の土器製作過程にも及ぶものであるかは現在のところ明確にできない。

このほか製作途中の技術的失敗を手直した例もみられる。社具路47号住一26は口径12cm、器高4・3cmの甕高期の環としては通有のものである。口縁部内外面はヨコナデ、底部内面は同心円状ナデ、外面はヘラケズリを施している。この土器の底部内面には1・5×3・5cmの方形状に、外面には径4・5cmの範囲内に粘土を貼付した痕跡がみられる。内面は同心円状ナデの上に貼付、外面は貼付後にヘラケズリを行っている。これはヘラケズリを行なった時に削りすぎて穴があいてしまい内外面から粘土を貼付してふさいだものと考えられる。以上土器の外面を削るという工程は甕や甎の大きなもの、環のように小さなものにかかわらず調整の最終段階に行なったものである。

#### 未完成の土器(写真図版52)

社具路14号住の6と7は、口径約11cm、器高は4・8cmの小ぶりの環である。このような小さ

めの坏は、この住居址から比較的多く検出され、25号住居址でも数点みとめられており、ある1時期に限って出土すると考えられる一群である。この2個体の坏が他の坏と異なる点は底部にツمامミ状の突出部をもつことにある。出土遺物の項で底部からの見上げ図を示したとおり、突出部はツمامミとしての何らの手も加えず、粘土塊から切り離したままの状況を示している。6の坏は突出部に4～5回のヘラ切りを行い、反時計まわりの螺旋状の条痕を残している。7の坏は突出部先端を平坦にしているものと同じような螺旋状の条痕を残している。これらの条痕は粘土のシワで突出部に向けて寄せられ、土器自体を粘土塊からねじめるようにしたものであろうと看取され、底部を構成する粘土は若干回転させ粘土塊からねじめるような方法で製作されたものとも考えられる。このような状況は夏61ー31の塊にも認められる。粘土の練りが不十分なため、底部外面をヘラケズリはしているものの反時計まわりの練り込み状となっている。これらの例から、製作台上の粘土塊から口縁部と体部をつくり出し、底部内面をナデ、口縁部内外面をヨコナデした後に粘土塊からねじ切るような状態で切り離す工程が考えられないであろうか。現状の底部は異常なほど厚いが底部外面を削れば他の土器と全く同じである。そしてこのヘラケズリのみを残して坏の製作の調整も全て終了していることになり次のような工程が考えられる。底部外面を除く調整→ある程度の乾燥→底部外面ヘラケズリの手順である。またこの2個体の坏は完成の姿として意図、製作されたものではなく、ヘラケズリの工程を経ないまま焼成されてしまったと考えられる。

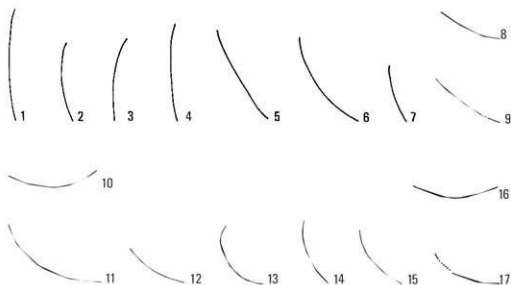
#### 製作中の器種変更

土器の製作中に当初の意図に反し器種変更したと考えられる土器がある。社具路69号住一6は、器高6・4cm、推定口径14cm前後の鉢形である。底径は6・5cmと大きく口縁部は剥離した痕跡はみられず大型の長胴甕の胴部下半以下と同じ形態、同じ作りである。甕形土器は胴部下半に製作単位である接合痕を必ずもっており、その部分で分離する場合、あるいは破損する場合が多い。この場合は甕を意図して底部を製作したが、何らかの理由で、それ以上粘土を積みあげることをせず、上端をナデで鉢として焼成したものであろう。このような例は越前遺跡15号住居址出土遺物にも認められる。和泉期の土器を出土した住居址であるが、胴の張る甕形土器の胴部下半以下の部分をつくり終えたのみで底部外面から穿孔して甕に変更したものである。焼成後に器種変更あるいは転用する例は時折見かけるが、焼成前に変更する例は比較的少ない。

#### 土器の整形に使用する弧状ヘラについて（写真図版52）

土器の内面を観察すると弧を描くヘラ痕が確認されることがある。長胴甕などでは、胴部内面に直線状のヘラ痕を認めることもあるが、底部や坏、塊、埴など弯曲の著しい部分に弧状のヘラ痕が観察される。すでに『本庄市史 資料編』（本庄市 昭51）では、東五十城跡遺跡8号住居址や小島本伝遺跡1号住居址出土の坏や塊の断面内側が同一曲線を描くものがあることから「弧状罫」の存在を予測していたものであった。今回の調査資料のなかで、これらのヘラ痕をもつ土器が散見されたので、例を掲げて観察してみたい。

弧状ヘラ（仮に呼ぶ）とは内面を整形、あるいは削る際に使用されたと考えられるヘラで土器への圧痕としては凹状に残り、器壁の砂粒が削り状に動く場合と、数mm程度の動きは伴うが、むしろヘラ押えの痕として残る場合とがある。砂粒が動く場合は器壁を横または斜めに削り、あるいは整形の際



番号	遺跡名	住居址名	遺物番号	器種	圧痕部位	半径 (cm)	備考
1	夏目	11	3	甗 (小型)	胸部上半	12・0	
2	社具路	18	3	甗	胸部上半	5・7	
3	社具路	18	24	甗 (小型)	胸部上半	8・1	
4	社具路	18	20	甗 (小型)	胸部上半	13・2	
5	夏目	61	17	甗	胸部下半	11・2	
6	夏目	39	4	甗 (小型)	胸部下半	5・6	
7	夏目	65	18	甗 (小型)	胸部下半	5・6	
8	社具路	18		甗	底部	4・8	
9	社具路	78		甗	底部	6・1	
10	社具路	80	8	甗	底部	4・2	
11	社具路	40	6	埴	胸部下半	4・7	
12	社具路	13	29	埴	胸部下半	4・4	
13	夏目	69	19	埴	胸部	1・9	
14	夏目	22	19	埴	胸部	3・6	木口状
15	社具路	49	41	埴	胸部	3・3	
16	社具路	66	15	埴	底部	4・4	
17	社具路	94	21	坏	胴~口縁	3・7	

時々ヘラを止めることによって残された圧痕であり、甕の底部や環の底部には砂粒の動きを伴わないものが多いようである。弧状のヘラは器壁に対して直角、斜め、あるいは当てる角度をひねるといろいろな弧をえがく状況を示し、器種や内湾の状況による使いわけもあったと考えられる。

これら土器に残された弧状のヘラ圧痕を石膏で型取りし、器壁に対して当てられた方向や角度を判別し、その方向から削り出してヘラのカーブをあらわしたのが前の図である。土器の内面に圧痕として残った部分のみのカーブであることから、弧状ヘラの全体をうかがうことはできないが、土器内面の整形に使用するヘラでも、いろいろな弧をもつことが判明する。(図は土器におけるヘラ痕の付けられたおおよその部位をあらわすが、ひねりを加える場合もあり、実測図内面の断面とは必ずしも一致しない)

社18-24は器高13・2cmの完存する小型の甕である。底は丸底で胴部外面は下から上へのヘラケズリ、口縁部内外面はヨコナデを施し、内面底部はナデ、胴部は横のヘラケズリを加えている。胴部上半の周囲に12条の、ヘラケズリを止めた縦の圧痕が確認できる。そのうちの最も顕著な圧痕を図示したものであるが、胴部上半を一周して $R=8\cdot1\text{cm}$ のヘラ(弧のカーブは必ずしも均等ではなく、土器の収縮も考慮していない。便宜的に現状を表記)で削ったものである。

夏39-4は胴部下半のみの小型の甕で、カマドのなかで支脚に転用された土器である。この内面に $R=5\cdot6\text{cm}$ の弧状の圧痕が10数条認められ、これも一周してヘラケズリを施す際に時々ヘラを止めることにより付いたものである。

夏61-17はカマド内部から出土した変形の底部のみの土器である。底から胴部への立ちあがり部分に8条の圧痕が認められ、 $R=11\cdot2\text{cm}$ のゆるやかなカーブを示している。圧痕と圧痕の間は砂粒の動きが著しく、一周して削ったことが判明する。

社18-無番(実測図なし)は底部のみの変形土器である。残存部分が少ないため明確に示得ないが、内面上部には一周して削った痕跡があり、底部に若干の砂粒移動を伴う $R=4\cdot8\text{cm}$ の圧痕が2条確認できる。図に示した圧痕はヘラ押しとしての性格をもったものと考えられる。

社66-15は口縁部の全てと胴部の $\frac{1}{2}$ を欠失した埴形土器である。胴部外面下半はヘラケズリ、上半はナデを施し、内面上半は紋りが認められ、下半はヘラケズリとヘラ圧痕が確認される。底部の圧痕であることから、ヘラの中心を軸に回転させて削ったと考えられるが、その痕跡は認められず、図示した圧痕は $R=4\cdot4\text{cm}$ で、むしろヘラオサエの状況である。

夏69-19は完存する埴で胴部外面下半はヘラケズリ、上半はナデ、口縁部内外面はヨコナデを施している。胴部内面はヘラケズリを横方向に行ない、18条前後のヘラケズリを止めたヘラ圧痕が確認できる。このヘラ痕とヘラ痕の間隔は長いもので4cm、短いもので1cm前後とまばらであるが、 $R=1\cdot9\text{cm}$ のカーブの強いものである。

社94-21は完存する環である。外面底部はヘラケズリ、口縁部内外面ヨコナデ、底部内面は同心円状ナデが施されている。底部中央部に1~2cm前後のヘラオサエと底部から口縁部下半にかけて、ヘラ痕が認められる。底部のヘラ痕は同心円状ナデ後にヘラオサエとして付されたものであるが、底部から口縁部下半にかかるヘラ痕は、同心円状ナデ、口縁部ヨコナデ以前に付いたものである。このヘラ痕はヨコナデによって明瞭さを欠いているためヘラケズリ痕跡は認められず、口縁部と底部の接

する凹部分には付いていない。このヘラは $R = 3 \cdot 7 \text{ cm}$ と比較的強いカーブをもっている。

夏22-19は残存量ほどの外面が若干風化した埴形土器である。外面はヘラケズリ、口縁部は内外面ヨコナデを施すが、胴部内面に $R = 3 \cdot 6 \text{ cm}$ のヘラ痕が不規則に付けられている。胎土が微細なためヘラナデ状ではあるが、ハケ状の目を残し、唯一例の木口状のヘラによる削り圧痕である。ヘラ痕が不規則なのは、内面の弯曲の度合も部位により少しづつ異なるところにあり、角度やひねり具合を調整して削ったものであろう。

以上見てきたように夏69-19の埴にみられるように $R = 1 \cdot 9 \text{ cm}$ と弯曲の強いもの、社18-20の甕のようにゆるやかなものなど、さまざまである。これらの圧痕からみる限り、現在の陶芸家が使用する「ウシペロ」と呼ぶヘラと同じものであろうと考えられる。甕の底部や坏、埴など、弯曲の強い部分にはより円形に近いもの、甕の胴部などには直線に近いものなど、さまざまのカーブをもつヘラが見受けられる。ヘラそのものが使用によって摩擦して弧を描くような形状になってしまう場合もあろうかと思われる。図に示した17例のうちRが10cm以上のもの、極端に小さな夏69-19の例を除くと平均半径は5cm前後となる。以上のことから土器の整形には意識した弧状のヘラを使用していたことは充分うかがえるのである。

#### 4) 布留式土器の特徴をもつ変形土器について

今の一連の調査によって布留式の特徴をもつ変形土器が2個体出土している。二本松遺跡17号住居址No.1(註1)と夏目遺跡66号住居址No.1(註2)の2個体である。この2個体については、現地作業時点では特異な土器であることの認識はなく、整理の段階で始めて確認されたものであった。

その後、雌湊遺跡2号住居址から2個体の同様な変形土器が出土している(註3)。現時点で、本庄市域での検出例は4個体である。夏目遺跡66号住居址出土の変形土器は口縁部と肩部のみで、胴部以下を欠失するが、他の3個体は完形または完形に近い残存である。

布留式土器は畿内を中心に分布する土器であるが、住居址内からの出土であることを考慮して再観察しておく。ここでは4個体を取りあげ、特徴を示す口縁部を図示した。二本松遺跡、夏目遺跡の2例については再度実測したものであり、雌湊遺跡の2例については坂野和信氏の実測図を使用させていただいた。

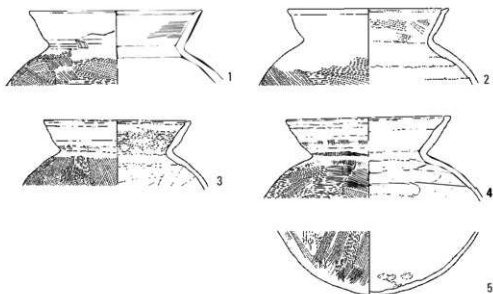
##### 二本松遺跡17号住居址出土土器(図-1)

口径 $18 \cdot 2 \text{ cm}$ 、器高 $29 \cdot 5 \text{ cm}$ の変形土器で頸部より口縁部が内寄ぎみに立ちあがり、上半に至り外反する。口縁部中位よりやや下に最大肥厚部をもち、口唇部は外側につまみ出すような形をなし、内側に丸みのある面をもつ。この面は擦れた部分が多いが明瞭な稜をもっている。口縁部外面はヨコナデ、内面は横のハケ調整後ヨコナデを施している。胴部はやや縦長の球形で、外面上半分にハケ調整が施されている。下位は縦、中位は斜めで上位を横方向に施す。内面は剝離が著しいが、胴部下位は斜めのヘラケズリ、上位は横のヘラミガキ状ヘラケズリで粘土帯積みあげ痕を明瞭に残している。

胎土に $0 \cdot 5 \sim 1 \cdot 2 \text{ cm}$ の片岩礫を含む礫を多く混入させている。口縁部は多少のゆがみがみられるが底部は丸底である。カマドに接した南東柱穴の南側の床面直上からの出土である。

##### 夏目遺跡66号住居址出土土器(図-2)

口径 $16 \cdot 9 \text{ cm}$ の肩部以下を欠失する変形土器である。口縁部はゆるやかに内弯しながら立ちあが



り、頸部に比べて器壁が厚くなる。口唇部は一旦屈曲して外側に張り出し端部は丸みをもつ。内側に傾く平坦な面をつくり、内側の端部がわずかに張り出し明瞭な稜をもつ。口縁部外面はミズビキ、内面はハケ調整後ミズビキを施している。肩部外面は横、あるいは斜めのハケ調整、内面はヘラミガキ状のヘラケズリが加えられ、粘土帯積みあげの痕跡を明瞭に残している。胎土は二本松例と異り精製され雲母末を含んでいる。出土状況はフク土扱いで取りあげられたものである。

#### 雄滝遺跡2号住居址出土土器（図-3）

口径15・3cm、器高22・3cmで他の3例に比べて小さめである。口縁部はわずかに内弯しながら立ちあがり、中位に至って外反する。内弯から外反に移る部分の器壁が最も厚いが、外面は凹凸が目立つ。口唇部は内弯し、上端部は内傾する面を有し、内側はわずかに窪む。口縁部外面はヨコナデが施され、頸部の一部はハケによる調整が行なわれている。内面は弱い横のハケメが残り、頸部内面は指頭による調整が認められる。胴部は球形で外面全体にハケによる調整が施され、最大径部分より上は斜め、肩部及び下半は縦に調整する。内面底部及び胴部下半に指圧痕が残り、上へむけてヘラケズリ、上半ではほぼ横にヘラケズリを加えている。ヘラケズリの痕跡は弧状で、ケズリ方向に直交して波をうつ。胎土は精選され暗褐色、縦半分は二次的熱を受け赤化、内面に炭火物が付着している。

カマドの向って右側の軸、先端部からまともって検出されている。

#### 雄滝遺跡2号住居址出土土器（図-4・5）

口径17・5cm器高29・8cmの梨形土器である。口縁部はわずかに内弯しながら立ちあがり、上半部は外反ぎみである。徐々に器壁が薄くなり口唇部は肥厚する。口唇部は丸みもち、内側に張り出している。口縁部は内外面とも凹凸が目立ち、外面はヨコナデによる調整であるが一部にハケ目を残している。内面は横のハケ調整後ヨコナデを施している。胴部は縦長の球形で、外面にハケ調整を施す。最大径部分より下半は縦、上半は横あるいは斜めに施している。内面はヘラケズリを行い、最大径部分より下半では斜め、上半では横にケズる。底部は丸底で外面のハケメはナデで消され、内面

は指頭圧痕が認められる。全体に器壁は荒れ、炭化物や焼土が付着し、胎土は前者とほぼ同様である。

カマドの内部に倒立させた高坏を支脚として、その上に乗る形で検出されている。

以上、口縁部の観察を中心に記述した。口縁部の形態及び胴部の形、内外面の整形技法、底部が丸底であり、内面を指頭による調整を加えていることなどから、布留式土器としての特徴をもっている。器形の判明する3例は胴部下半が非常に薄手であり、上半から口縁部は厚く、二本松遺跡例を除くと胎土もこまかく、含まれる礫も小さめである。伴出した同じようなサイズの土器と異り、小型の塊や坏などの胎土と同様である。それを除けば伴出した土器のものと大差はなく、在地の粘土を使用していると考えられる。技法的には他の土器群とは著しく異っていることから畿内の布留式土器の技法を用いて在地で製作されたものであると考えられる(註4)。

これらの土器を出した住居址は全てカマドを伴っており、フク土扱いで取りあげた夏目遺跡例を除いた2住居の土器は和泉式土器として把握されるものである。集落では須恵器の使用された痕跡が認められない時期でもある。現在のところ、明らかに布留式土器の特徴をもつ土器の検出は当地域では管見にふれていない。

畿内地方で、古墳時代前期のある一定時期に属する土器を呼称する(註5)布留式土器は、現在なお多様な説明や解釈が行なわれており不確定要素が多いようである。さらに布留式の変形土器と伴出した土器をとってみても、当地域の編年観があいまいなままとなっている。須恵器の出現の問題もあり、ここでは畿内の技術をもって製作された土器と伴出する在地の土器のあることの事実のみを注意しておきたい。

(石橋桂一)

註1 「二本松遺跡発掘調査報告書」 昭58 本庄市教育委員会

註2 「夏目遺跡発掘調査報告書」 昭60 本庄市教育委員会

註3 本庄市教育委員会によって昭和60年に調査が行なわれ、住居址実測図 遺物写真は「本庄市史 本文編I」(昭61 本庄市)に掲載されている。

註4 坂野和信氏の御教示による。

註5 井上和人「布留式の再検討」 『奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集・文化財論叢』 昭58

### 5) 高坏の製作技法について (写真図版53・54・55)

社具路遺跡9号住居址からは、甕・埴・塊・高坏・器台・手捏の土器が多量に検出された。特に高坏・埴の出土量は群を抜いて多かったが、これらの土器は一部の床に接して出土した土器を除き、出土状況を考えると9号住居址に伴うものではなく、住居廃絶後に何らかの理由で投入されたものと考えられる。投入の理由については、必ずしも投棄とは限らないが、このような土器のあり方は本庄市古川端遺跡8号住居址(註1)等においても確認されており、該期の土器投入のあり方として注目される。これらの土器には大きな時間差を求めることはできず、短期間に投入されたものであろう。

さて、ここでは出土量の多かった高坏を取り上げ、その製作技法についてみていくこととする。高坏は形態が複雑であるが故に比較的製作工程がとらえられやすく、多くの論考(註2)がある。これらは主に脚部と坏部との接合技法を中心に述べられており、本稿ではそれらの成果を踏まえううえで9号住居址出土高坏の製作技法についてみていくこととする。

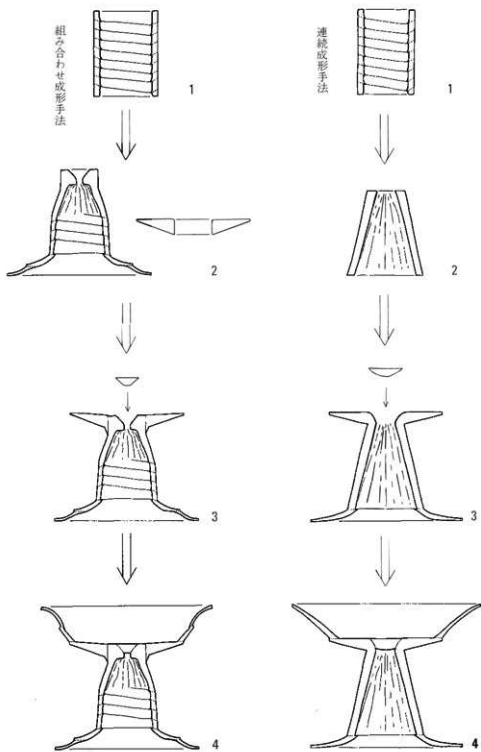
#### 高坏の製作工程

高坏の成形手法は「組み合わせ成形手法」と「連続成形手法」の2手法に分類されるが、9号住居址出土高坏ではその両手法を確認することができた。ここでは、両者の代表的なものをモデルに製作工程をみていく。

##### 組み合わせ成形手法 (図右側)

- ① 脚部を製作するために中空の円筒を製作する。円筒の高さ、径は作ろうとする高坏によって異なる。円筒の成形は幅1～1.5cmの粘土紐を輪積みにしたものである。この円筒は限りも円柱形ではなく、脚部の形状に合せ若干つばめたり、絞る部分の器内を薄く仕上げたりする可能性がある。
  - ② ①で成形した円筒を目的とする形状に絞り込む。絞り込んだ箇所は内面に縦に無数のしわが寄る。絞り込み際には円筒を倒立させて行う。したがって完成した脚の粘土紐接合痕は逆位であり、このことはすべての高坏に共通している。脚部は中空になるように絞り込まれるが、脚を細くしようとした結果、絞り込みすぎて先端部分が塞がってしまったものも存在する。脚部の成形が終了と大まかな調整を行う。内面は横位・縦位のナデあるいは斜位のナデを行った後、脛を受けるための脛穴を指頭、若しくは工具によって整え、外面は大まかなケズリを行うようである。脚部が完成すると裾部の製作に入る。裾部は粘土紐を脚部同様に巻き上げて作るものもあるが、多くが板状の粘土を接合させて作るものと推定される。脚と裾部との接合は、脚を倒立させて行うため、その接合痕は逆位となる。また、有段高坏の場合稜は裾部の途中で粘土板の接合をずらすことによって形成される。
- 更に坏底部の成形を行うが、粘土紐の巻き上げや輪積みによって作るのではなく、円形の粘土板を作り、その中央部に脚や脛を挿入するための孔を穿つようである。
- ③ ②までの工程で、坏底部と脚部とが概ね完成したが、③の工程に進む前に若干乾燥期間をおく(乾燥単位)。乾燥単位は特に高坏のような複雑な形態の場合は、それぞれの工程の途中においても適宜行なわれたものと推定されるが、完全に乾燥させるのではなく、せいぜい一旦程度生乾きさせる程のものであったと推定される。





高環の製作工程模式図

一定の乾燥単位をおくと坯底部と脚部との接合を行う。この部分の接合形態については後述するが、坯底部内面より脚部へ脛を挿入するのが一般的である。

坯底部と脚部とが接合されると坯底部以下の調整を行い、この部分はすべて完成された状態になる。調整の手順は、坯底部→脚部→裾部の順で、脚部内面をヘラケズリするものは裾部のヨコナデの後に行う。坯底部と脚部とが接合された段階で最終調整を行うとした根拠となるものに裾部底面に付着した粘土クズがある。この粘土クズの付着は多くの高坏に認めることができるが、甕形土器における上り底と同様に解釈することができよう。粘土クズは裾部ヨコナデの上に付着しており、坯底部以下の調整がすべて終了した後に、製作台上において高坏を回転させるような動作を行った結果と考えることができる。このような動作が高坏が完成された以後に行なわれるとは考えにくく、④の工程において坯縁部を作る段階で行なわれたものと考えたい。このような前提にたてば、坯縁部を作る段階には既に裾部のヨコナデ即ち坯底部以下の調整がすべて終了していたことになる(註3)。

- ④ 坯底部に坯縁部を接合する。接合は坯底部上に坯縁部を載せ、接合面で稜を形成する。有段高坏の場合は裾部と同様に稜を形成する。成形が終ると坯縁部をヨコナデする。暗文状ミガキのあるものは坯縁部ヨコナデの後行う。すべての調整が終了すると乾燥させて焼成される。

#### 連続成形手法 (図左側)

- ①・② 円筒の製作から絞り込むまでの工程は組み合わせ成形手法とまったく変わらないが、基本的には竅穴は開けない。
- ③ 脚部に坯底部を接合する。組み合わせ成形手法と異なり、別個に作った坯底部を接合するのではなく脚部上に粘土を継ぎ足すことによって成形する。そのため脚部と坯底部との接合は強く、組み合わせ成形手法のものに比べ、坯底部と脚部の接合部分で破損するものは少ない。坯底部を成形し終えると中央に孔が残るが、これを円板状にした粘土で塞ぐ。その後脚内面の調整を行い倒立させて裾部を接合し乾燥単位をおく。
- ④ 乾燥単位をおいた坯底部以下の部分の最終調整を行う。調整の工程は坯底部→脚部→裾部の順である。

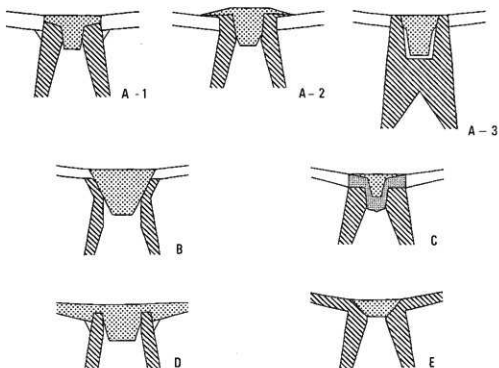
最終調整が終了すると坯底部に坯縁部を接合する。成形し終ると坯縁部はヨコナデされ暗文状ミガキを施すものはその後に行う。すべての調整が終了すると乾燥させ焼成される。

#### 脚部と坯底部の接合形態

9号住居址出土高坏は製作上の工程から「組み合わせ成形手法」と「連続成形手法」とに大別されるが、脚部と坯底部との接合形態からさらに細分が可能である。A～C類は組み合わせ成形手法、E類は連続成形手法、そしてD類は組み合わせ成形手法でありながら連続成形手法に近いものと考えられる。(カッコ内の数字は土器図版番号を示す)

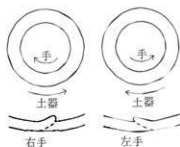
A類 坯底部中央に穿たれた孔の中に脚部を挿入するもの。脛の挿入の形態から、更に3つに分類が可能である。

- 1、脚部および脛が坯底部の孔に完全に収まってしまうもの。(第75図20、25、26、76図42)

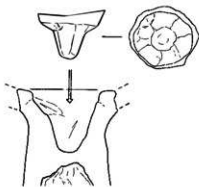


高环脚部・环底部接合形態模式図

- 2、环底部の孔に挿入した脚部先端を环底部内面に折り曲げ、その上より筋を挿入するもの。环底部中央部が周周よりやや盛り上がる。(第76図37)
- 3、脚部を細く仕上げようとしたため絞り込みすぎ、先端部が塞ってしまったもので、上側より筋穴を穿って筋を挿入する。脚内側からは筋を見ることはできない。(実測外)
- B類 脚部先端上に环底部を載せ筋を挿入する。(第75図22、23、76図46)
- C類 脚部先端を粘土で一旦塞ぎ、その上側より新たに筋穴を穿って筋を挿入するもの。脚部先端を塞ぐ粘土は脚部内面よりみると一筋状に見えるが(擬似筋と呼称する)、その先端は筋のように整えられていない。擬似筋は筋より軟質のようである。(第75図21、76図27、28、29、35+39、40)
- D類 环底部外面中央を筋状に突出させ脚部に挿入したもの。脚部先端は环底部に若干くい込む形となる。したがって、环底部と脚部との接合は环底部が比較的軟かいうちに行なわれたと考えられ、組み合わせ成形手法でありながら、連続成形手法に近いものと考えられる。(第75図24)
- E類 連続成形手法によるものであり、脚部と环底部の間には明瞭な接合痕を見出すことはできない。环底部中央の孔は円形粘土板によって塞がれるが、第76図44のように筋を挿入するものもあるが例外的である。(第76図44、他は実測外)



手の動きと絞り痕



### 高環製作技法に係わる諸問題

以上のように高環の製作工程や技法についてみてきたが、最後にそれらの問題点を簡単に列記してまとめたい。

高環脚部内面を観察すると縦に無数のしわを見ることができ、これは絞り目あるいは絞り痕などといわれ、増や比較的小型の壺等の頸部内側にも確認することができる。大型の甕や甔、壺等には確認することができないから、比較的小型の器種のもので器形を察めるのに有効な手段であったと考えられる。絞りは対称物の上側より内側に入指し指、外側に拇指をあて粘土を寄せ合せながら行うが、右手と左手とでは絞り痕は異って表われる(図)。即ち、右手で絞り込んだ場合手の動きは時計回りに、絞る対称物の動きは反時計回りとなり絞り痕は図のようになる。左手で絞り込んだ場合は全くその逆になる。9号住居址出土高環の絞り痕の大多数は前者である。ここで、使用する手を利き腕とするならば、前者は右利き、後者は左利きの人物によるものと考えられる(註4)。

脚部、坏底部の接合形態による分類のA～D類のものは、筋を用いることに代表されるが、筋は若干の形態差や大きさの違いこそあれ図に示したようなものが一般的である(図)。図示したものはA～3類に分類されるもので、円筒の器肉が厚かったうえに細く絞り込みすぎたために、本来中空に仕上げるべきはずの脚部の上部が塞がってしまい、上側より新たに筋穴を穿ったものである。そのために筋と筋穴の関係をよく理解することができる。筋は指頭によってやや不整の断面凸状に整形され、筋穴は指頭によって強いナアが施され断面台形状に仕上げられている。この場合、筋と筋穴が接するのは、筋の上側の最も幅の広い部分のみで大部分は接しておらず、筋は筋穴の内部で浮いている状態になる。この場合には筋による脚部と坏底部との接着効果はあまり期待できないものであったと推定される。

坏底部と脚部の接合形態からA～E類に細分することができたが、大きくは筋を用いるもの(組み合わせ成形手法、A～D類)、円形粘土板を充填するもの(連続成形手法、E類)とに2分されるものである。E類とした「連続成形手法」によるものは、9号住居址出土高環の中では客体的なあり方を呈している。9号住居址出土高環は所謂和泉式の範疇で捉えることが可能であるが、土器路遺跡内のそれ以前の高環を観察するとE類に分類されるものが多い。又、器台形土器もE類の連続成形手法によるものと考えられる。したがって土器路遺跡においては「組み合わせ成形手法」より「連続成形手法」の方が先行する技法であると考えられる。但し、「連続成形手法」はその後も残るよ

うであり、完全に「組み合わせ成形手法」に取って替るものではない。また「組み合わせ成形手法」によるものは、脚部と坏底部との接合形態から細分ができるものの、それらは必ずしも縦軸の序列として捉えられるのではなく、同一手法における横軸の違い（それが集団差なのか個人差なのかは明らかにし得ない）として捉えておきたい。

9号住居址出土高環以降の高環については触れることを避けたが、脚部についてみると中空のものから比較的充実したものへと変化していくようであり、脚部の製作手法や、脚部と坏底部との製作手法に何らかの変化がもたらされたものと考えられる。これらについては、今後改めて機会を待って検討することにした。

(佐藤好可)

註1 「東谷・前山2号墳・古川端」 『埼玉県遺跡発掘調査報告書第16集』 埼玉県教育委員会 昭和53年

註2 紫雲出遺跡、外原遺跡、羅向遺跡、大師山遺跡、市道遺跡、東山遺跡、東京良遺跡等の報告において論考されている。本稿では部位や技法の名称は主に紫雲出遺跡、外原遺跡の報告によった。小林行雄・佐原真 『紫雲出』 総務省文化財保護委員会 昭和39年、八幡一郎・岡崎文喜・松浦有一郎 『外原』 船橋市教育委員会 昭和47年

註3 暗文状ミガキはすべての調整が終わった後に施されるため、その段階において裾部に粘土クズが付着したと解釈することも可能であるが粘土クズの付着する高環は暗文状ミガキのものに限られるわけではなく、暗文状ミガキを施す際に付着したとは考えにくい。ただし、一部の暗文状ミガキの施された高環には、坏縁部内面に粘土クズが付着したものがあがるが、これは倒立して暗文状ミガキを施した結果と考えられる。

註4 この場合、本来右利きの人物が左手によって絞り込んだ場合も左利きとして扱う。右利き、左利きの区別は製作者本来の利き腕に関係なく、土器制作時に主体的に使用する手にある。したがって、本来左利きの人物が右手を主として使用すれば、土器に残る痕跡は右利きのもとなる。それらの使い分けによる誤差は充分考慮しなければならないが、土器製作の癖と合せて土器製作者の特定の有効な手段である。

## 5 土器製作の個性についての一私案 (写真図版55・56)

長い間発掘調査や遺物の整理作業に従事して、特に水洗、注記、復原、実測などの整理作業を通じて土器を観察していると非常によく似た土器でありながら別個体に接合される場合がある。常々土器を手にし、どんな人が作ったのか、男性か女性か、年齢はと製作者の息づかいを感じ、粘土に砂を混入させヘラケズリして砂の動きを観察もしてみた。そんななかで非常に良く似た土器、同一特徴をもつ土器は同一人物によって作られたものではないかと密かに考えていた。

整理作業中の埋蔵文化財センターを訪れた人達が1個の土器を前にして激論を交している姿と言葉を見聞きしても、同一人物製作土器の有無などの疑問は取り付く島もなかった。機会があつて数時間とは言え、焼きものづくりを体験した時、陶芸家大沢常夫氏はいとも簡単に器形を修正して1個に仕上げ上げていった。技術のある人は要領を知っているだけに結果的に粗相に、下手な人はみかけ上からも丁寧につくること、そして焼きものにも個性があらわれることなどを知らされた。そしてはからずも

大沢常夫氏に製作者の立場からの技術やくせ、見込みなどについて土器を前にいろいろと話を聞く機会が得られ、同一人物製作の土器のあることの確認を受けた。

理論的な証明を行なうのが学問としての考古学であって感は学問の範囲ではないことも承知しているが、「考古学資料の生起には常に其処に人間が介入していることを忘れてはならない」（杉原莊介『原始学序論』昭28 4版）との考え方もあり、大沢氏の観察にもとづいて土器のもつ個性から同一人物製作の問題について幾つかのグループを抽出し、可能性を考えてみたい。

社具路31号住居址は24個体の土器を出土し、その内訳は大型甕4、甕3、甌2、高坏4、坏10、須恵坏1である。住居廃棄後に投入あるいは混入したと考えられる土器はみられず、標準的な組合せである。このなかから特徴的な調整をもつ坏を細観察してみたいと思う。これらの土器の出土位置は貯蔵穴の内部から16、17、18、19、20、24、25の7個体、住居址南寄りから21カマド左軸基部外側から22、カマド左軸先端外側から23などである。23の土器は二次的な熱を受け器表が著しく荒れているものの、他の9個体は良好な残存状態である。このなかで16～22の7個体と23と25の2個体がそれぞれ同一個性をもった土器のグループである。

16～22の7個体（A群とする）は底部の外面向外へラケズリ、内面は同心円状ナデ、口縁部内外面はミズビキ状ヨコナデであることは同様な坏と大差はないが、顕著な違いは同心円状ナデの中心部から口縁部方向へ45度程度の角度で反時計まわりのナデ痕跡が立ちあがるところにある。口縁部のヨコナデの上を覆っていることから口唇部から底部へミズビキ状のヨコナデを施し、中心部から器表に触れながらもどすことによって付けられたものと考えられる。但し17、22の2個体は若干ならかに立ちあがっている。これらの立ちあがり部分に対応する外面には、同様の立ちあがりを確認できないことから、口縁部の内外面は別々にミズビキ状ヨコナデを施したものと考えられる。

底部外面のへラケズリは中心部分を先に削り、その後周囲を削る17の例、規則性のない20の例などがあり、また18のようにほぼ一方づいて削る例もみられる。成形は口縁部の中位より上に肥厚部をもち、口唇先端には幅1mm程度の浅い沈線をめぐらせ、口縁部と底部の接する部分の外側は鋭く突出するもの、底部のへラケズリによってその鋭さを失ったものがある。内面のカーブも近似するものが多く、胎土は精選され、こまかな白色粒子や角閃石を含んで同一胎土であることが判明する。焼成も赤褐色を示し良好であり、全ての土器に炭素が付着し、同一焼成をうかがわせる。

これらA群の土器の器形や口径などの法量には、多少のバラツキはあるものの、成形や調整に相似点が多い。但し土器製作の最終段階の工程である底部外面へラケズリの手法は異なるものがあり、この工程のみは複数人による可能性がある。

また23と25のB群の土器は、A群と若干異なる特徴をもっている。23は器表が風化しているが2個体とも口縁部中位に最大肥厚部をもち、口唇部先端は内面、外面ともにわずかではあるがT字状に張り出している。底部と口縁部の接する部分の稜は小さく、口縁部外面のカーブは内弯するような状況を示し、底部は幾分平坦に、非常に丁寧なへラケズリを加えている。そして23は不明瞭であるものの25はA群の土器と胎土や焼成、炭素付着の状況等は同一である。

これらのことからA群の土器は底部のへラケズリを除いて同一人物による成形、調整を、B群の土器も別の人物によって製作されたと考えられる。さらに胎土や焼成など共通点を持つことから製作者

個人を超えて、共同で調整の一部や焼成を行なった可能性が考えられる。

土器細見の項で未完成の土器として述べられた社具路14号住居址の6と7の2個体の土器は口径11cmの小ぶりな坏であり、底部外面のヘラケズリの工程を経ないまま焼成されたと考えられるものである。この2個体の土器は同一人物によって同一時に製作されたと考えられるもので、これと同じような土器が認められる。29の坏は口径10・9cm、器高3・1cmと若干浅めであるが、底部内面、口縁部内外面の成形や調整、口縁部と底部の接する稜も近似している。底部外面は中心部を一方づけてヘラケズリしその後周囲を削っている。6や7の底部のツマミ状の突出部を削れば29のような坏になると考えられ、同一人物による製作であろう。同住居址からは、同じような小ぶりの坏が他に11個体検出され、非常に良く似た成形や調整をもつものが多い。同様な坏を出土した社具路25号住居址の土器は底部の口縁に近い部分が円形に肥厚部をもつなどの相違点がみられ、このような小さな土器は住居址間における同一人物製作のものはないと考えられる。

社具路58号住居址は57号住居址と壁を共有し57号から58号に増築されたと考えられるものであるが、検出された土器39個体のうち28個体が坏であるという状況を示し、住居廃棄後の投入あるいは混入は考えられず、全て58号住居址に伴うものである。

坏の大半は二次的な熱を受けて風化し器表が軟化しているが、このなかで7個体の坏は風化を免がれている。これらの坏はカマド周囲や住居址内、あるいはカマド左手の坏の密集する部分などから、他の坏とともに検出され、出土状況に特異性はみられない。7個体のうち3個体は口縁の開く坏であり、4個体は須恵器の模倣坏とであり、坏としては大きめの砂礫を含み、白色粒子や褐鉄粒を混じり、胎土は同一と考えられる一群である。

19、27、31の3個体は、底部外面ヘラケズリ、内面は同心円状ナデ、口縁部内外面ヨコナデと調整は他の坏と基本的には同じである。口縁部全体は開くが、中位はゆるやかなS字状をなし、S字状の外側、突き出した部分と口縁部と底部の接する稜のそれぞれ上に、木口状の工具によると考えられる条痕が一周している。底部外面のヘラケズリは、大まかには中心部を一方に削り、後に周囲をこまかく削る様子を示し、坏としては底を内外面ともに平らに仕上げている。口径は14cm、器高は3・7～4cmとほぼ一定し、同一人物の製作によるものと考えられる。

26・32・36・30は所謂模倣坏と呼ばれる土器で、他にみられる模倣坏のように内外面を丁寧なヘラミガキを加えることをせず底部外面ヘラケズリ、内面同心円状ナデ、口縁部内外面ヨコナデと土師器の坏の調整と全く同じ手法で製作されている。底部外面のヘラケズリは最初中心部を行い、後に周囲を削るようであるが規則性は認められない。36の土器の底部が若干平坦であること、30の土器の口縁部が他の3個体に比べて多少薄手であることなどを除けば、口径12・2cm、器高は4・1～4・5cmとほぼ一定し、同一人物によって製作された土器であろうと考えられる。

さらに先述した3個体の坏とも共通点が多く、坏と模倣坏という器形の違いという制約のなかにおいても技法上の問題は、同一人物製作と推定しても許される範囲内であるという。また、これら2器形7個体の土器が同一製作者によって同時に製作されたとするならば、坏と蓋を意識して製作したものであると考えられないであろうか。

社具路41号住居址は、甕6、瓶2、高坏8、埴や坏10の26個体の土器を出土し、これらの土

器の出土位置はカマド内やカマド周辺、貯蔵穴内に集中し、住居廃棄後に投入あるいは混入したとは考えられない状況を示している。

これらの土器のなかでカマド内で逆位に設置された転用支脚の高環16を除く7個体の高環は、全て貯蔵穴のなかから検出されたものである。このなかの5個体の高環、10、11、12、14、15は口径16・1～18・1cm、器高は13・1～15・8cmとまちまちであるが、成形や調整に共通点の多い、同一人物による製作と考えられるものである。

成形は調整により明確にはできないが、調整は手法など共通点が多。脚部内面は正位置で時計まわりのゆるやかなユビナデを裾方向に向け、外面は上から下へのヘラケズリを施している。裾部は内外面ヨコナデ（外面は時計まわり方向）を加えるものの、外面は胎土が乾燥気味であったことによるヒビ割れを覆うことができないままとなっている。裾の下先端には回転すると付着する粘土層もみられ、脚部との接合部で脚内にはみ出した粘土を時計まわり方向へ削る14や15の土器の例もある。なお裾部のヨコナデは裾先端に引き出される位置が内外面とも一致することから一緒にナデたことが判明する。坏底部内面は平坦で、外面の脚部との接合部分以外は外側方向へ放射状のヘラケズリ、環縁部との接合部分外面は右まわりのヘラケズリを行なっている。環縁部は内外面ともヨコナデであるが方向の判明する11・12の例では上方からみて反時計まわりである。ただし内外面とも一緒にナデたものではないようである。14のみ部分的に下から上へのヘラケズリを加えている。

以上のように5個体の高環は器形や法量、ナデやヘラケズリの範囲など多少のバラツキはみられるが技法的には全く同じ手法をとっている。同じ住居址から同じ在り方で出土した9や13の高環とは明らかに異なるものがある。13の高環は脚部内面のヘラケズリ、外面のナデ、裾部、環縁部は内外面一緒にミズビキ状ヨコナデを行なっている。9は環縁部と裾部に稜を有するという形態上の違いのみならず、ヨコナデなどの調整は全く異り、丁寧な製作を行なっている。

以上4住居址出土の坏や高環について、土器のもつ個性から同一製作者による同時期製作の可能性を掲げてみた。直感にたよった面や観察や表現不足もあろうかと考えられるが、一つの試として、あえて細観察したものである。（関根典子）

## 6 カマド構築土内出土石製模造品について

社具路遺跡では昭和55年度調査分で54軒の住居址を検出したが、それらのうちカマドを確認することができたのは37軒である。これらのカマドは実測、写真撮影が終了すると取り壊して構築土すべてを一旦細かい篩にかけて、さらに篩にかけて水洗し抽出した。その結果、一部の住居址のカマド構築土から白玉（土玉）が検出された。白玉（土玉）が検出された住居址は以下の通りである。（個数の前の左、右はカマド軸を指す。）

13号住居址（左2個、右2個）	44号住居址（左1個、土玉）
28号住居址（右1個）	66号住居址（右1個、土玉）
62号住居址（左1個）	51号住居址（左破片、土玉）

尚、38号住居址からも白玉が出土しているが、出土位置から考えても本来37号住居址に伴うものと推定される。



白玉はすべて滑石製であり、古式古墳に副葬されるようなシャープな稜をもったものは存在しない。また、土玉は径6～8mm程の球形を呈し中央に孔をもつ。

さて、これらの白玉(土玉)はすべてカマド袖の構築土中より出土したものであり、その出土位置や、出土する個数には規則性をうかがうことはできない。また、滑石製白玉と土玉とを出土する住居址との間には住居構造や出土遺物には明瞭な差異を認め得なかった。但し石製模造品がある階層より分与されるものであるという前提にたてば(註1)、石製模造品はある特定の集団(玉作り集団)の手によって製作されることとなるが、土製模造品は、素材の入手や作り易さからも比較的容易に作ることができ、その差異を認めざるを得ない。したがって土製模造品を滑石製模造品の簡略化とおきかえて、両者を同一視することに躊躇せざるを得ないが、現状では集落内で両者が共存していることや、両者において住居構造や出土遺物に差異を認めることができないから、少なくとも使用者側においては同格的なものとして捉えておきたい。

これらの性格については、カマド構築土中から出土することと考え合わせ祭祀的な色彩の強いものであったと推定される。カマドというカマド神、即ち火の神が想起されるが、現在においてもカマド神は家の神、祖霊などと結びついて生活の中に深い関わりをもっている。古事記によれば、オキツヒコ・オキツヒメの二神が、「こは諸人の拝きまつる竈なり」とあり当時の民間信仰におけるカマド神であったと推定されている(註2)。また、中国においてもカマド神、即ち火の神の信仰は存在しており、カマドが大陸より伝播したものであるという立場に立てば、これらの思想も共に入ってきた可能性もある。もっとも、火の神そのものの信仰は広くユーラシア大陸全般に認めることができるといわれ(註3)、日本においても古くより自生的に火に対する信仰はあったと考えられるから、それがカマド神に変容したとしても何ら不思議はない。

滑石製、土製模造品の祭祀的性格を考えるならば、カマド構築土中より白玉や土玉が出土するということは、火を取り扱う場所としてのカマドがある種神聖視されていたものと考えられる。夏目遺跡51号住居址からはカマド内に転落した状態で子持ち壺が出土しており、本来カマド上に据え置かれたと推定され、祭祀的な用途が考えられる。また、本庄市宥勝寺北裏植輪窯址では滑石製白玉が(註4)、鴻巣市生田塚窯址16号窯からは滑石製勾玉が(註5)それぞれ出土しており、植輪そのものの祭祀的機能などと合わせ、火あるいは火を扱う場所に対する祭祀的な行為が取り行なわれた可能性がある。

今回取り上げた石製、土製模造品はカマド構築土中より出土したことに特殊性を認め、住居址の覆土中より出土したものは扱わず、それらとは区別して取り扱うべきものとする。尚、社具路遺跡以外で周辺地域よりカマド内から石製、土製模造品が出土した例をあげると、本庄市久下東遺跡2号住居址(滑石製白玉、カマド構築土中)、薬師遺跡B号住居址(土玉、カマド火床中)(註6)、神川村中道遺跡7号住居址(滑石製玉、カマド内支脚直下)(註7)などで見られる。

さて、社具路遺跡内の白玉(土玉)を出土した住居址は、カマドはすべて煙道は壁外に延びず、出土する土器も鬼高式土器の中でも比較的古相のものであるという傾向にある。高橋一夫氏によれば住居址より出土する石製模造品は鬼高Ⅰ式期の段階にピークをむかえるときとされており、それと符合する。

今回行ったカマド構築土の洗い出しは、如何に細心の注意を払って調査を行っても、尚且見落しの

あることを痛感させられた。我々はよく安易に「ない」という言葉を使う。しかし、それが本当に「ない」ということと「見つけられない」ということとは意味が全く異なる。今後、集落の調査にあたり、日程と予算の許される限りこの作業は欠くべきではないと考える。(佐藤好司)

註1 東松山市香清水遺跡47号住居址のカマド左側に置かれた甕の内より338個の滑石製白土が出土しているが、これは石製模造品製作者集団より一手に入手し家父長制の世帯共同体に分配するものだとしている。高橋一夫「石製模造品出土の住居址とその性格」『考古学研究』第18巻第3号 昭和51年

註2 松前健「文献にあらわれた火の儀礼」『日本古代文化の探究 火』昭和49年

註3 清水昭俊「火の民俗学」『日本古代文化の探究 火』昭和49年

註4 「本庄市史 資料編」本庄市 昭和51年

註5 山崎武氏御教示による

註6 前掲註4

註7 菅谷浩之他「中道・西北原遺跡発掘調査報告書」埼玉県遺跡調査会 昭和53年

## 7 社具路遺跡の中世墓壇

### 1) 遺構について

社具路遺跡で検出された墓壇は、馬の埋葬壇を含めて24基である。このうち、40号土壇は土葬と考えられる人骨片の検出と、蔵骨器が出土した位置からみて、土葬墓と火葬墓が重複した可能性もあり、総数は25基となるかも知れない。確実に墓壇として把握できる遺構は、1・2号墓壇の他、人骨を検出した22・27・28・30・36・39・40号と、集石・銅銭などが見られた21・24・25・33・34・35・40・41号の17基のみである。そして、これらは棺釘と考えられる鉄製品や人骨の状態からみて、火葬墓(40号)と集石土葬墓(21・22・25・40・41号)、土葬墓(その他の墓壇)分けられる。

40号土壇において、出土状況から火葬墓を土葬墓が破壊して構築されたとも考えられ、火葬墓と集石土葬墓に前後の可能性がある。また、集石土葬墓が北半に集中するに対し、その他の土葬墓壇が南半に集中しながらも、北半にも分布するため、両者にも時期差が充分考えられる。重複関係がないために明確な前後関係は不明ながら、分布の状態を以て集石土葬墓を先行するものとし、大まかに火葬墓→集石土葬墓→土葬墓の変遷が考えられる。

また、北部集落の南から検出された火葬土壇は、従来火葬墓として報告されてきた土壇と同じものと考えられ、小川町一ノ入遺跡(註1)や和光市午王山遺跡(註2)、所沢市野竹遺跡(註3)の例で推定されたように、遺体を茶臼にした「火葬址」であると考えられる。

火葬土壇の北西で検出される人骨と馬骨をそれぞれ検出した土葬墓は、土層からみて時期差があまりないと考えられる。集落址の中で検出された墓壇群との時期差は不明であるが、人獣が同じ場所に埋葬されていることからみて、2号墓壇の被葬者が馬と特別な関係(愛馬、または馬を使う職業についていた)にあったか、獣畜と同じ場所に葬られる身分の者であったかのいずれかであると推定される。しかし、具体的な根拠に欠けるため、今後の類例を待ちたい。

## 2) 遺物について

社具路遺跡の墓域群では蔵骨器・片口鉢・露盤・瓦・磁石・銅銭・棺釘と思われる鉄製品を出土した。このうち、露盤・瓦・磁石は集石への転用であり、直接墓域群との時期とは結びつかないものである。しかし、転用していた集石土葬墓群が、社具路遺跡での中世においては40号火葬墓に後出するため、それらの遺物が40号火葬墓以前もしくは同時と考えられる。

40号火葬墓の蔵骨器は、焼き締めもあまい軟質陶器で、地方須恵器窯の技術的系統をひく<sup>2</sup>在地系製品である。そして口縁部が肩部から内傾したままの状態に成形され、所謂<sup>3</sup>無頭壺の器形をなしている。この<sup>3</sup>無頭壺については、図示できない程の口縁部破片が40号土葬墓覆土中より出土しているため、本遺跡で複数存在したと見られる。しかも、この器形は日常雑器とは考え難く、40号火葬墓の例と似た器形を示す東谷中世墓址出土の無頭壺(註4)が胴部外面に阿弥陀三尊種子を彫刻しており、蔵骨器であったと推定できるため(蓋であったと伝える片口鉢も、その体部外面に光明真言様(註5)の墨書が認められる)蔵骨器専用器種の可能性が高い。しかしながら、この種の在地系無頭壺は類例が少なく、本遺跡北に近接する夏目遺跡1号溝出土例(註6)の他は、埼玉県内では川越市名細堂山遺跡出土例(註7)のみである。さらに県外については、寡聞にして1例も聞かないため、破片を含め5例(武蔵国)のみとなり、うち4例が本庄市(児玉荘)に集中することになる。そこで、現段階では在地系製品であることと、分布範囲が特定地方に集中することを以って、生産者と消費者の距離が近い地域的特徴として、この無頭壺の一群を捉えておきたい。また、年代については、前述したように類例が極端に少ないため明確にできない。しかし、40号火葬墓例では蓋の検出はなかったが、40号土葬墓で出土した片口鉢片が蓋であった可能性があり、重複関係が生まれた時に破壊され、混入したとも推定できる。この片口鉢は、畠山重忠墓2号墓出土例(註8)に類似しており、そこでは13世紀後半から14世紀前半の年代が与えられていることから、ほぼ同じ時期と考えられる。そのため、伴う可能性がある本遺跡の無頭壺も、同じ年代を考えておきたい。

集石内より出土した露盤・瓦は、その形態からみて古代の遺物には例を見ないものである。特に、21・25号土壇に分けて使用されていた露盤は、復原すれば六角形の平面を成し、六角堂(塔?)の存在を推定させる。現存する中世の建築でも六角堂的建物はあまり例を見ず、発掘調査においても検出例は聞かない。六角形に限らず、露盤としての遺物が少ないため、年代は決め難いが、格状間内に施された宝珠文レリーフの形状から時期が考えられないであろうか。類似資料の増加を待ちたい。

瓦は、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦と各種出土している。いずれも東谷中世墓址出土瓦と酷似しており、本庄市周辺にみられる中世瓦と同じものである。ここでも一部を除き、砂造りの一枚製法によるもので、軒丸瓦・軒平瓦に施された剣尖文・尾長巴文と共に鎌倉期の特徴を示すため、ほぼその頃と見ておきたい。

これらの瓦と露盤は、本庄市周辺の中世瓦土地(註9)と同じく、本遺跡の場合にも近くに、神社・生産遺跡が所在することを示すと思われるが、六角堂用の露盤は多量に生産するとは考えられないので寺社等の可能性が高い。そして、露盤の必要性から見て、火葬墓とも何らかの関係をもつ寺院であったと推定できる。また、40号火葬墓より南へ約300m、南部集落に隣接して存在する有宝寺が、中世において児玉党富田三郎親家の開基と伝えるため、何らかの関係をもつと考えられる。

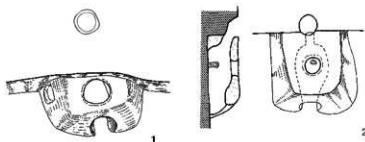
(平田重之)

- 註1 諸岡勝他 「一ノ入遺跡」 埼玉県遺跡発掘調査報告書第32集 昭和55年 埼玉県教育委員会
- 註2 鈴木敏弘・有元修一他 「新倉午王山遺跡」 昭和56年 和光市午王山遺跡調査会
- 註3 並木隆・金井浩雄他 「椿峰遺跡群」 所沢市文化財調査報告書第12集 昭和59年 所沢市教育委員会
- 註4 高橋一彦・長谷川勇 「東谷中世墳墓址」 『本庄市史 資料編』 昭和51年 本庄市
- 註5 註4に同じ
- 註6 体部から底部にかけての破片であるが、焼成・調整・器形等において40号火葬墓無頭壺に類似する。 長谷川勇 「夏目遺跡発掘調査報告書」 昭和60年 本庄市教育委員会
- 註7 本庄市出土の4例が下ぶくれの器形であるのに対し、堂山出土例はソロバン玉のような折れをもち、やや上部で最大径を測る。 浅野晴樹 「埼玉県出土の中世陶器(1)」 『埼玉県立歴史資料館研究紀要3号』 昭和56年
- 註8 浅野晴樹他 「畠山重忠墓」 昭和59年 川本町教育委員会
- 註9 註4に同じ。尚、ここでは美里町2、児玉町1、岡部町5の計8ヶ所を挙げている。

## 8 竈を使用した炊飯実験

1 社具路遺跡においては、古墳時代以降の竈が大量に検出された。本庄・児玉地方は関東でも早く住居内に造り付けの竈が導入された地域として著名である。したがって、竈にかかる諸研究も多く提示されているが、炊飯実験等の実験的研究はさほど見られない。このことは、発掘調査本来の作業が多忙で、担当者に時間的余裕がない現状を反映しているためとも解される。

社具路遺跡で検出された竈の内、24号住居址においてはほぼ完存に近い状態で検出されたのでこれを実験に供試した。また、本調査期間中に啓蒙・啓発事業の一環として体験学習を行い、古代の飯づくり教室を実施した。本節ではこれらの実験について紹介する。



2 竈の実験は2種に大別し、都合4回実施した。最初の実験は24号住居址で検出した竈を供試した。本竈は前節でも報告されているように、両袖と煙道が遺存しており、竈口上部を復原すれば、使用可能な状態であった。これを復原したのが1図にあたる。第1回目の実験は復原された竈に、現代の鉄釜に水とアカザ草を入れた初歩的な煮沸実験を行った。焚木は桑1束分で、約30分で煮えた。竈内の状態は内壁が完全に焼けたが、火床面は全く焼けず、むしろ湿っていた。焼けた壁面は非常にもろく、バサバサした状態であるが、外面は湿ったままであった。なお、炎はなめるように煙道へぬけた。

第2回目は横造長胴甕を用いて水の煮沸実験をした。約11分まで水が沸騰し、甕は外面全体が油煙で黒ずみ、洗浄では落とすことが出来なかった。水は底部付近でにじみ出しており、特にその部分はススが目立った。

第3回目では煙道の効果を確認するため、竈穴全体を竹材と木の骨組に葦で覆った仮屋根をもうけた。横造土器は鬼高式を意図した長胴甕と大形単孔甕をセットとして、甕には白米と里イモを直接布に入れた。しかし、1時間をへても蒸せないため、里イモのみ甕に入れ直した所、10分で煮えた。その後も白米は蒸しつづけたが、4時間をへて一部が蒸せたのみであった。竈の火力は強く、支脚に使用した横造高環は脚部が欠損した。炎と煙は当時風がさほど吹いていなかったにもかかわらず室内に逆流し、たえずあおいでなければならぬ状態であった。なお、屋根が竈に接していたが、意外と焦げたり焼えることはなかった。また、竈の焚き口上面のアーチ部は1時間ほどでは熱くならず、湿った状態であったが、4時間後に湯気が出はじめた。

第4回目は新たに竈を築造し、体験学習と並行して実施した。横造竈は遺構がない部分に一辺4m、壁高30cmの竈穴を掘り、本遺跡で通常配置されている東壁部に築造した。構造はローム削り出しの袖を造り、その上にスサ(稲ワラ)、松葉を箕に各1杯分まぜた粘土(100kg)を使用した。ローム削り出し部と基底部(ローム面)は凹凸にして水でぬらしこねた粘土を叩きつけ、2段に構築した。なお、天井部の構築には内部に土を入れたポリ袋を充填して、粘土がかわいた時点で抜き取った。各部数値は長さ75cm、幅80cm、高さ34cmのやや小型品とした。以上は1日5名で行った(2図)。

横造竈による実験においては、第3回目と同様に横造土器(甕)を用い、支脚は石製とした。甕内には水、白米2合、ジャガイモ(小)1個を入れ、環を布でくるみ蓋とした。実験8分(以下0分よりの経過時間)をへても火のつきが悪く、急換煙道を壁外に掘削する。12分後に炎のなめかたと煙道への煙の流れも良好となる。23分で炎が消え、炭火のみとなる。26分で甕の中は沸騰し、26分で口縁よりアワがふくようになる。35分でおかゆ状となり、40分で御飯が炊ける。48分後にすべて終了、この間桑のマキは2束使用した。

上記実験と並行して五領式台付甕の模造品による炊飯実験も行ったが、25分でおかゆ状となり、29分でおかゆよりアワが出、39分後に炊き上がった。マキ1束のみで効率がよかった。

3 以上の結果から竈の構造で煙道の機能について再検討が必要なこと。甕使用による炊飯は、その後餅米を使用した実験では約35分で完全に上面まで蒸せたこと。したがって、米の種類、竈自体の設計構造も今後考慮する必要がある。

(増田一裕)

## あとがき

7ヶ年に及んだ本事業も本年度をもって終了することになった。市独自で調査が実施できるようになってから9年、その大半を経過したことになる。

その間、県土木部道路建設課、県教育局指導部文化財保護課の皆様方には、ほんとうに御世話になった。そして直接作業に当たられた皆様方、特に夜遅くまで共に御苦勞いただいた本庄市埋蔵文化財センターの諸氏など、多くの方々の御協力で全事業を終了することができたことを感謝申し上げたい。

そしてまた県教育局の早川智明、栗原文蔵、小川良祐、早稲田大学の藤川繁彦氏等先学諸兄には方法論や臨むべき姿勢など、行政上、考古学上、いろいろと御指導を賜わってきた。改めて御礼申し上げたい。しかし多くの方々の御協力や御指導にもかかわらず多くの反省点を残してしまった。今後はこれらの反省を糧として一層邁進することを課題とした。

最後に厳しい条件のなかで印刷にあたられた本庄孔版社に対して感謝の意を捧げたい。

埼玉県本庄市

### 社具路遺跡発掘調査報告書

— 本文編 —

昭和62年 3月15日 印刷

昭和62年 3月25日 発行

発行 本庄市教育委員会

印刷 本庄孔版社



第3圖 社具路遺跡全測圖